

視力或ハ聽力障害ヲ詐病スルモノ往々之レアルハ既ニ前述スル所ナルガ、一般ニ云ヘバ精神健全ナルモノガ詐病ヲナスコトハ極メテ少ク、精神界ノ何レカニ缺陷アルモノハ種々ノ目的ノ爲メニ詐病ヲナスコトアリ、殊ニ精神病ハ一見詐病シ易ク見ユルモノナルヲ以テ罪ヲ免レン爲メ、或ハ民法上ノ能力ヲ制限セラレ、ヲ恐レ、伴狂或ハ匿狂ヲナスモノ屢アリ、故ニ訴訟事件ニ關係アル人ノ精神状態ヲ鑑定スル場合ニハ、常ニ此點ニ留意セザルベカラズ。

伴狂者

伴狂ハ精神健全者ニテモ、精神病患者ニテモ見ルコトナルガ、後者ニ於テハ實際既ニ存在スル精神障礙ト伴狂トハ注意シテ鑑別セザルベカラズ、伴狂ハ精神病學ヲ知ラザルモノ、或ハ精神病患者ヲ見タルコトナキモノニハツノ目的ヲ達スルコト甚ダ困難ニシテ殆ンド不可能ナリト云フベシ、例ヘバ躁狂ヲ詐病セント企ツルモ躁狂ナレバトテ無暗ニ騒ギ廻リ、遂ニソノ度ヲ越エテ伴狂ナルコト發見セラル、ガ如キ之レナリ。伴狂者ハ先ヅ精神病ノ症候ヲ精密ニ模擬セザルベカラズ、而シテ此模擬症狀ハ眞ノ精神病症候ノ如ク、徹底的及相關的ニ非ラズ、發作或ハ再發ニ關シ合理的ナラザルヲ以テ遂ニ鑑定者ヲシテ疑ヲ抱カシムルモノナリ、更ニ伴狂者ノ既往歴發病ノ状態、其動機等ヲ探究スレバ益々ソガ疑ヲ深カラシム、次デ檢者ハ彼ガ詐病セルノ疑ヲ抱ケルコトヲ患者ニ悟ラシメズシテ、注意シテ且再三、或ハ不意ニ、時トシテハ夜半之ヲ檢診スベシ、此目的ニハ患者ヲ精神病院ニ入院セシムルヲ便利トス。

詐病者ガ常ニ大業ニ模擬スル精神病症狀ノ外ニ、他ノ客觀的身體的症状ヲモ檢者ハ注意シテ檢セザルベカラズ、コハ決シテ伴狂者ノ模擬スルコト能ハザル所ナレバナリ、此ノ如クスル時ハ伴狂ヲ觀破スルコト

極メテ容易ナリ、例ヘバ躁狂詐病者ハ實際ノソレノ如ク晝夜ヲ通ジテノ運動促進ヲ模スルコト能ハズ、憂鬱狂詐病者ハ實際ノソレノ如ク抑鬱性氣分ヲ生ズルコトヲ得ザルガ如キ之レナリ。

記憶缺損ヲ詐ルモノアレバ、鑑定人ハ患者ガ實際之ヲ惹起スベキ疾病即意識濁濁ニ陥リシコトアルヤ否ヤヲ研究スベシ、若シ患者ニ此ノ如キ疾病ノ既往歴ナキニ於テハ、注意シテ記憶缺陷ノ範圍ヲ檢査スベシ。然ル時ハ詐病者ニハ實際記憶缺損ノ存在シタルモノ、如ク決シテ正確ニ之ニ返答スルコト能ハザルモノナリ。

匿狂者

匿狂ハ伴狂ヨリモ尙甚ダ屢來ルモノニシテ、精神病院ヲ退院セントスルモノ、或ハ處分能力ヲ制限セラレントスルモノニ特ニ多シ、此際ニハ患者ノ既往歴、匿狂ノ原因疾病ノ經過及狀態病識等ヲ注意シテ檢スベシ、治癒者ハ無造作ニ疾病ノ状態ヲ告白スルモノナレドモ、匿狂ハ尙身體的障害ヲ訴ヘ、而モ之ヲ再三視察スレバ、ソノ行爲及舉動ニ依リテ、ソガ匿狂ナルコトヲ觀破スルコトヲ得ルモノナリ。從來用キラレタル詐病看破法ニ次ノ四種アリ。

第一、威嚇法、患者ヲ種々ノ方法ニ依リ威嚇シ、詐病ナラバソヲ看破セントスルモノニシテ、コハ多クハ歴史の意味ヲ有スルモノナリ、何トナレバ、吾人醫師ハ患者ヲ診察スルコトヲ得ルモ、之ヲ拷問シ或ハ威嚇スルコトヲ得ザレバナリ。例ヘバ、出鱈目ヲ云フト食物ヲ與ヘヌトカ、馬鹿ナ眞似ヲナセバ暗室ヘ入レルゾ、除リ騒グト裸體ニシテ放置スルゾ等ノ言ヲ以テ患者ヲ威嚇スルモノニシテ、モシ患者ガ眞ノ精神病者ナラバカ、ル威嚇ニヨリテ病勢ノ増進スルコトアレバ、此ノ如キ方法ハ謹ンデ避ケザルベカラズ。

第二、看破法、詐病ノ疑アルモノハ麻醉劑ヲ與ヘ、ソノ意志ノ統御能力ヲ失ハシメ、以テ尙以前同様ニ

病的行為ヲナスヤ否ヤヲ検査シ、詐病ナルヤ否ヤヲ發見スル法ニシテ此方法ニハ依リて、くろゝほるむ等應用セラレタリ、然レドモ是等ノ麻醉法ハ患者ノ生命ニ危險ヲ及ボスコトアレバ、尙未ダ實用サル、ニ至ラズ。

酒精含有ノ飲料ヲ患者ニ與ヘテ、意志ノ抑制作用ヲ降下セシメ、詐病ヲ發見セント企テラレタルコトアリト雖、其成功セルモノ極メテ少シ。

第三、心理學的方法、此方法ハ精神病者ノ精神界ニモ一定ノ規則存在シ、彼ノ精神動搖ハ此規約ニ從テ起ルモノナリト云フ原理ニ基クモノニシテ、即チ精神病者ニハ一定ノ病型ニ從テ一定ノ精神界ノ變動ヲ見レドモ、詐病者ニハ必ズシモ之ニ一致セザル行動アルニヨリ看破セントスルモノナリ、即チ患者ノ身體的症狀、表情、歩行狀態、姿勢、身振、手眞似、話振、字體、食慾、睡眠狀態、氣分等ニ注意シ思考ノ方途、精神の作業ヲ等詳細ニ觀察スレバ、ソガ詐病ナルヤ否ヤヲ多クハ發見スルコトヲ得ルモノナリ。

第四、實驗的方法、コハ前者ト截然區別スルコト能ハザル方法ニシテ、患者ノ疾病ノ症候及經過ガ今回ノ學問ノ程度ニ於テ得タル經驗、即チ精神病學上ノ一病型ト相一致スルヤ否ヤヲ探究シ、吾人ノ經驗ト何等撞着アラザルニ於テハ、詐病者ニ非ラズトスルノ方法ナリ、昔時ハ詐病者ト鑑定サレタルモノ往々アリシト雖、精神病學ノ發達スルニ從ツテ詐病ナル鑑定例ハ次第ニ減少シ來レリ。即チ前述ノ如ク全然精神健全ナルモノガ詐病ナスコトハ甚ダ稀ナルモノナレバ、精神病學發達ノ惠澤ハ、實ニ是等似非詐病者ニ及ビタルモノト云フベシ。

各論

乙、各

論

本論ニ於テハ精神病ノ各病型ト法律的關係トノ相互連關スル所ヲ述ベントス、故ニ各病症ノ臨床的症狀ニ就テハ敢テ詳説セズ、即チコハ精神病學書記載ノ範圍ニ屬スレバナリ。

一般ニ精神病者ハ犯罪シ易キモノナルコトハ既述ノ如クナルガ、今巢鴨精神病院ニ於ケル患者ニ就テ見ルモ、入院患者四百十五人中、二百〇九名ハ常ニ一定ノ監督ノ下ニ在リテモ、種々反社會的の行為ヲナスモノナリト云フヲ見テモソノ大體ヲ察知スルコトヲ得ン。

一、生來性精神發育不良

コハ吾人ノ想像スルヨリモ多ク社會ニ散布シ居リ、ソノ道德的概念ノ構成不十分ナル上ニ判斷力又圓熟セズ、且感動ニ驅ラレ易ク、衝動性動作ニ陥ルコト多ク、假令、他ヨリソガ惡事ナルコトヲ教エラル、モ、之ヲ抑制スルノ意志少ク、加之、意志ノ被影響性大ニシテ、教唆暗示ニ依リ犯罪ニ傾キ易シ、即些少ノ動機ニ由リ、彼ハ猛然トシテ暴行脅迫等ヲナシ、且一度犯行ニ慣レ常習トナルニ至レバ、ソノ批判力ノ乏シキト、意志薄弱ナル爲メ、遷善改悟スルコト能ハズ、遂ニ社會ノ罪惡者トシテ、其安寧ト秩序トヲ蝕毒シテ已マザルモノナリ。

夫レ痴呆者ノ智力ヲ検査シテ、ソガ凡ソ何歳位ノ兒童ノ智力發育程度ニ達セシカヲ知ルハ、法醫學上甚ダ大切ナルコトニシテ、之ニ依リテソノ人ノ責任能力者ナルヤ、將タ輕減責任能力者乃至責任無能力者ナルヤ否ヤヲ決定セラルベキモノニシテ、精神狀態鑑定上極メテ大切ナル事項ナリ、然ルニ智力検査法ニハ甚ダ多種アリト雖、心理學或ハ醫學ノ智識少ナキモノニ、ソノ智力程度ヲ直截簡明ニ表示スルモノ少シ、千九百十四年米國ノヤーキス、ぶりつじ氏ハ所謂點數式智力検査法ナルモノヲ案出シ、之ヲ數多ノ兒童ニ試

生來性精神發育不良

智力検査

ミテソノ用ユルニ足ルヲ示シタリ。本法ハびねーじもん氏智力検査法ニ一定ノ考案ヲ加ヘテ、種々ノ質問乃至検査ヲ爲シ、各應答ヲ點數ニテ示シ、且數多ノ實驗ニヨリテ各年齢ノ兒童ノ大約平均點數ヲ確定シタルモノナリ。

智力検査得點表

1) 一般平均得點數表

年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	大人
検査數	5	39	71	73	61	74	76	79	60	60	52	25	76
平均得點數	14	22	29	34	39	52	59	64	74	74	78	77	91

2) 男女別平均得點數表

年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
得點數	男	15	20	25	32	41	52	62	64	71	73	80	78
	女	9	24	30	33	36	54	58	63	75	76	77	76

3) 階級別平均得點數表

年齢	4	5	6	7	8	
得點數	上流	15	27	42	49	56
	下流	17	22	29	35	41

故ニ同氏法ヲ用キテ總得點ヲ計算シ、前表ニ適用スレバ、被検査ガ略何歳位ノ兒童ノ智力ニ相當スル智

やくすぶりつち氏智力検査表

カラ有スルカラ想定スルニ足ル、勿論此方法ニテ其ノ一般智力ヲ直ニ斷定スルコト能ハザルベシト雖、ソヲ決定スル目安トナス事ヲ得ルモノナリ。

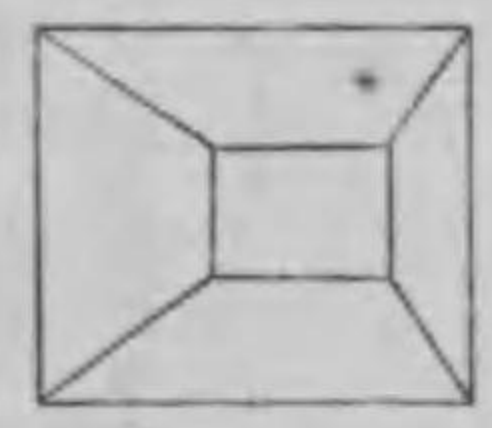
予ハ左記ノ如キ記入用紙ヲ豫メ印刷シ置キ、一方びねーじもん氏ノ智力検査函(三田谷氏ノ讀案セルモノ)ヲ以テ發問シツ、直ニソノ應答ヲ記入シ置キ、後ニ至リテソノ下部ニ各應答ニ對スル得點ヲ記載シ、之ヲ總計シテ總得點ヲ得、之ヲ鑑定書ニ添附スル事アリ、之レ司法官ヲシテ被検査者ノ智力程度ヲ察知セシムルニ極メテ了解シ易カラシメ、從テ責任能力ノ程度決定スル有力ナル材料トナレバナリ。

智力検査(やくすぶりつち氏點數式智力検査法ニヨル)

- 一、此ノ繪ヲ見テ何ウ思フカ(美醜ニ女繪三枚ニツキテ) 奇麗ナ方ヲ指シテ御覽(各一點)
- 二、此ノ繪ノ中ニ足ヲモトコロヲ捜スノデスヨ(各一點)
 - (イ) (腕ナキ女ノ立テル繪)
 - (ロ) (鼻ナキ女ノ顔)
 - (ハ) (眼ナキ女ノ顔)
 - (ニ) (口ナキ女ノ顔)
- 三、コレヲ比較シテ御覽(三度各一點)
 - (イ) コレハドツチガ長イカ(五及六種ノ線)
 - (ロ) ドツチガ重イカ(三及十二五ノ重サ)
 - (ハ) 今一度ドツチガ重イカ(六及十五五ノ重サ)
- 四、私ガ今二、五、八トカ數ヲ云ヒマスカラソレヲ讀イテ云フノデス(各一點)
 - (イ) 三、七、一四
 - (ロ) 五、八、一
 - (ハ) 二、九、三、四、七
 - (ニ) 六、一、三、五

- (イ) (盲目鬼ゴッコヲシテ人ヲ間違ヘテ車子掛ノ布ヲ引キ上ニアリシ茶道具ヲ落シタ繪)
- (ロ) (丁稚ガ零落ヲ硝子窓ニ當テ硝子ヲ破リタル所主人出デ來レル故ニ物陰ニ隠レキタルニ折柄小學生ノ通りカ、レルアリ主人硝子ヲ破リシハコノ小學生ナリト思ヒテコレヲ叱レル繪)
- (ハ) (若キ紳士若キ婦人ノ窓ニアルニ挨拶セントテ急ギテ窓下ニ近ツカントセルニ折柄中年ノ女ニ連レラレタル幼童其途上ニアリ幼童ハ先ニ歩メルヲコレニ紳士ツキ當リテ轉倒セシメ驚ケル繪)
- 八、コレハ大サハ同ジデスカ各重サガ違キマス重サノ順ニ並ベテ御覽(二十五五五)(二點)
- 九、比較試驗相異ナル點ノ叙述(一ツナル時ハ一點二ツ以上二點)
- (イ) 林檎トバナナノ違ヒヲ言ツテ御覽
- (ロ) 木ト硝子トノ違ツタ點ハ
- (ハ) 紙ト布トノ違ツタ點ヲ言ツテ御覽
- 十、用途ニヨリテ定義セヨ(各一點)用途以上ノトキ(各二點)
- (イ) 匙ハ何ニ用ヒマスカ
- (ロ) 椅子ハ
- (ハ) 馬ハ
- (ニ) 赤ン坊ハ
- 十一、暗示抵抗試驗(三回ノ抵抗ニ各一點)
- (初メ四種ト五種トノ距離一極幅一耗ノ兩線ニツキテハツノ長短ヲ言ハシメ次ニ五種ト六種次ニ六種七種、次ニ同長同太ノ七種ノ平行線ヲ引ケル圖三枚ニツキテ抵抗試驗ヲナス)
- 十二、コノ紙ニ正方形ト變形トヲ畫イテ下サイ(形正シキ時ハ各二點)
- 十三、三分間ニ可及的言葉ヲ多ク言ツテ下サイ、假令ハバ月花雪

- 雨雲霧ノ如ク云フノデス(三〇—四四)(一點)四五—五九(二點)
- 六〇—七四(三點)七五—(四點)
- 十四、今コ、ニ東京、おかれ、川、ノ三語ガアリマスコレヲ使ツテ一ツノ纏マツタ文章ニシテ御覽(三語ヲ一文ニ收メタルモノ(二點)一文ニ收メタルモノ(四點))
- 十五、私ハ次ノヤウナ問ヲ出シマスソレニヨク考ヘテ答ヘテ下サイ(正シキ時ハ二點)
- (イ) 旅行ニ出カケテ汽車ニ乗り遅レタ時ハドウシマス、カ
- (ロ) 誰カガアナタニ不親切ナコトヲシテアヤマツタ時ハ何ウシマス、カ
- (ハ) 人ハ言フコトヨリ爲ルコトニヨツテ判斷セヨトハ何ウ云フ譯デスカ
- (ニ) 平氣デシタ不親切ヨリ怒ツテシタ不親切ノ方ヲ容易ク許スノハ何ウ云フ譯デスカ
- 十六、二ツノ圓形ヲ十五秒間見セテ記憶ニヨリテ畫カシム



- 十七、理窟ノ合ハヌ言ヒ方ノ批評(各一點)
- 次ノ文章ノ内ニ可笑ナ點ガアリマスソレヲ言ツテ下サイ
- (イ) 立派ナ着物ヲ着タ紳士ニ會ヒマシタ、兩手ヲポケットニ入レテ杖ヲフリナガラ町ヲ歩イテキマシタ

- (ロ) 自轉車ニ乗ツタ人が不幸ニモ頭ヲ打ツテ死ニマシタスグ病院ニツレテ行キマシタガヨクナルマイルト思ヒマス
- (ハ) 小サナ男ノ兄ガ「私ハ三人ノ兄弟ヲ持ツテキマス太郎ト次郎ト私」トイヒマシタ
- (ニ) 四ツ角ノ立テ札ニ「京都マデハ三里半コレガ讀メナケレバ鍛冶屋ノ店ヲ御尋子ナサイ」
- (ホ) 事故ヲ調べテ見ルト列車ノ最後ノ車ガ大低ハ破壊サレテキル故ニ最後ノ車ハ除イテシマツタ方ガヨカラウ
- 十八、次ノヤウナ三組ノ言葉ガアリマスコレヲ並ベカヘテ文ヲ作ルノデスヨロシイカ分ツタデセウ丁度カウ云フヤウニスルノデス
- 「朝、起キマシタ、私ハ、早ク」ト云フ一組ノ言葉ガアリマスコレヲ並ベカヘテ「私ハ朝早く起キマシタ」ト云フヤウニスルノデス(各二點)
- (イ) 私ハ、休暇、旅行ヲ、田舎、中ニ、致シマシタ、ハ、
- (ロ) 私ハ、私ノ、頼ミマシタ、ト、作文、私ノ、ヲ、先生、直シテ下サイ

- (ハ) 守ル、ナ、ソノ、犬、主人、ハ、利口、ヲ、男マシク
- 十九、次ニ私ハアル言葉ヲ言ヒマス、アナタハソノ意味ヲ可成、分リ易イ言葉ニ直シテ下サイ(各二點)
- (イ) 慈善
- (ロ) 服従
- (ハ) 正義
- 二十、類比試驗(材料トシテ左ノ六ツノ類比ヲ用ユ、前半ヨリ推シテ括弧内ノ語ヲ言ハシメルヲ目的トス(各一點))
- (イ) 牡蠣ニ對シテ介殼ハばなニ對シテ(皮)デアリマス
- (ロ) 腕ニ對シテ骨ハ脚ニ對シテ(膝)デアリマス
- (ハ) 頭ニ對シテ帽子ハ手ニ對シテ(手袋)デアリマス
- (ニ) 眞ニ對シテ偽ハ直線ニ對シテ(曲線)デアリマス
- (ホ) 知ツテ居ルコトニ對シテ知らヌコトハ今ニ對シテ(未來)デアリマス
- (イ) 嵐ニ對シテ好天氣ハ戰爭ニ對シテ(平和)デアリマス

尙一般ニハ次ノ如キ標準ヲ以テソノ智力程度ヲ表示シツ、アリ。

三歳、請ハルレバ眼鼻口ヲ指シ、姓ヲ云ヒ、二個ノ一位ノ數及ビ六ケノ綴字ヨリ成ル一文ヲ後誦シ、繪畫ニ就テ別々ニ物品ヲ云フ。

四歳、見知レル物品ヲ示セバソノ名ヲ云ヒ、三個ノ數ヲ後誦シ、自己ノ姓ヲ云フ、相並ベル二本ノ線ノ内長キ方ヲ撰出ス。

五歳、二個ノ同大ニシテ重量ノ差大ナル紙箱ノ内重キ方ヲ撰出シ、十綴字ノ文章ヲ後誦シ、四ツノ貨幣ヲ數エ得、べんニテ正方形ヲ畫キ、二ツニ切割シタル直角ノ對角線ヲ正シク接合ス。

六歳、午前午後ノ區別ヲ知り、繪畫中ノ美醜ヲ區別シ、日用品ノ用途ヲ説明シ、十三個ノ同様ノ貨幣ヲ數ヘ、菱形ヲ畫キ得。

七歳、左右ヲ區別シ三ツノ同時ニ與ヘラレタル命令ヲ實行ス繪畫ニ顯ハレタル出來事ヲ示説シ九個ノ異ナレル貨幣ヲ合計ス四種ノ色ノ名ヲ知ル。

八歳、繪畫ノ缺陷ニ注意シ、五ケノ數ヲ後誦シ、二十ヨリ零迄ヲ逆ニ數フ、見知レル物體ヲ考慮中ニテ比較シ、完全ニ年月日ヲ知ル。

九歳、個體觀念ニ對シ、上位概念ヲ知り、釣錢ヲ出シ、凡ベテノ貨幣及月ノ名ヲ云フ、生活上ノ簡單ナル場合ニ處スル決心アリ。

十歳、五ケノ差等アリ同様ニ見エル重量ヲ順序ニ并べ、生活上ノ稍困難ナル場合ニ對スル判斷力アリ、三ツノ與ヘラレタル言語ヲ二ツノ文章ニ挿ミ、不合理ナル話ノ矛盾ヲ發見ス。

十一歳、及十二歳、三語ヲ一文中ニ挿入シ三分間ニ六十語以上ヲ云ヒ、概念ノ内容ヲ説明シ、文章中ノ轉倒混亂シタル言語ヲ正シク排列ス、又絶エズノ長サノ差ヲ減ズル二條ノ線ニテ、同ジ長サノ所ニ在ル點ヲ正シク認ム。

白痴

イ、白痴

多クハ身體的ニ特徴著ク、成年ニ達スルモ、其智能ハ僅ニ三、四歳ノ兒童ノ程度ニ止マルモノヲ云フ、言語ノ發育モ不全ニシテ、僅ニ飲食ニ關係アル一、二ノ片言ヲ發スルニ過ギズ、構音亦不明ナリ、感覺及痛覺ノ鈍麻著シク、運動モ不完全ニシテ、目的アル運動ヲナスコト能ハズ、口ハ開キタル儘ニシテ舌ヲ出

痴愚者

シ、時ニ拍手歪面等ヲナスモノアリ、顔面ノ表情ハ茫乎タリ、了解記憶等ノ作用全クナシ、白痴ハ智力障礙餘リニ甚シキヲ以テ、刑法上ノ犯罪ヲナスコト少ナケレドモ、時トシテ弄火放火等ヲナスコトアリ、多クハ監視ニ附セラレ、或ハ一定ノ場所ニ收容セラル、ヲ以テ、法醫學的ニハ民法上廢嫡、禁治産等ノ問題トナルコトアリ、白痴ハ勿論責任無能力ニシテ且禁治産ナルコトハ云フマデモナキコトナリ。

ロ、痴愚者

痴愚者ハ感覺、運動、言語ニ於テハ多少ノ缺陷アルノミナルモ、智能ニ於テ稍著明ナル缺陷アリ、凡ソ五六歳乃至十二、三歳ノ尋常兒ノ智識程度ニテソノ發育ヲ停止セルモノナリ、即チ注意缺乏、觀念貧弱、記憶不良、判斷不完全、意志薄弱ニシテ、概念ノ構成不十分、數及因果ノ觀念ヲ缺キ、怒リ易ク、復讐ノ念ニ富ミ、利己心盛ニシテ他ノ利害ヲ顧ルコトナシ。

通常痴愚者ヲ興奮性ノモノト、及遲鈍性ノモノトニ分ツ、遲鈍性ノモノハ無爲怠惰ニシテ非社會的ナレドモ、反社會的行爲ヲナスコト少キガ、興奮性ノモノニ至リテハ、舉止不安ニシテ爭ヲ好ミ、判斷不良ノ爲メ犯罪ニ陥ルコト少ナカラズ、又衝動性ニ放火、竊盜、殺人等ヲナシ、又他ニ使役セラレテ犯罪ニ陥ルモノ少ナカラズ、痴愚者ハソノ程度ニヨリ刑法上ノ心神喪失者或ハ耗弱者ナルガ、民法上ニテハ多クハ心神喪失ノ常況ニアルモノトスベキモ、之トテモ一概ニ論ズベカラズ。

ハ、魯鈍者

魯鈍者ハ常人ヨリ少シク智力劣レルモノニシテ、判斷力及概念構成等ニ於ケル缺陷アリ、道德心不充分、行爲放肆、怠慢輕躁浮薄ニシテ、附和雷同シ易ク、流浪漂泊シテ所謂不良少年等ノ群ニ入ルモノ多シ

魯鈍者

（イ）
もんとカ何トカ云フダロウ
知リマセヌ
次ハ
男デ死ニマシタ
次ハ
男デ三代吉デス
今ノ兄サンカ
（イ）
三代吉サンハ幾クツ
幾ツ位ヒカ知リマセン
次ハ
〇〇まきート云ヒ兵隊ニ行キ死ニマシタ
牧太郎トカ何トカ云フダロウ
知リマセン
次ハ
女デミリデス泉田ニ縁付キテオル半道バカリ隔ツテオル
次ハ
女デしんデス大字半城土ニオル私ヨリ四ツ上デス
同胞ノ年ヲ上カラ願番ニ云フテ御覽
（答ヘナシ）
知ランカ
（イ）
一人位ヒハ知ツテオルダロウ
知リマセン
次ハ
私デ御座リマス
オ前ハ九人目ト云ヤ未ダ足ランゼ

私ヨリ先キニ生レタ序ニ死ンダ子ガアリマス
今度ノ母ニハ子ハナイカ
ナイ
同胞ハ皆片付キテオルカ
皆縁付キテオリマス
三代吉サンニハ子供ハ何人アルカ
三人アリマス皆丈夫デス
ソノ子供等ノ學校ノ出来ハ
知ラン
おきりサンニ子ハアルカ
四人アリマス
ソノ四人ノ名ハ
（答ヘナシ）
知ランカ
（イ）一人死ニマシタ生レテツイデニ死ニマシタ
おしんサンニ子ガアルカ
三人アリマス皆丈夫デス
三人ノ子供ノ名ハ
頭ガおふみ次ハおあき末ハ茂一
きり、しんノ夫ハ皆ヨイ人カ
（イ）
（註）被告ノ血統ニハ幼死者多ク亦彼女ノ父ハ彼女ノ受胎當時大
酒家ナリシガ如シ
（ロ）生活史及既往歴ニ關スル問答
オ前ハ自分ノ子供ノ時ノコトヲ能ク知ツテオルカ
子供ノ時ハ弱ク御座リマシタ連レモナク一人空遊ビニ遊ンデ
オリマシタ
朋友ハナカウツタカ

大抵ハ家ニスクンデ居マシタ
朋友ガオ前ヲ仲間ニシナカウツタカ
イエ連レガナカウツタノデス
學校ハドノ位ヒ行ツタカ
尋常三年迄行キマシタ
何デ止メタ
身體ノ工合ガ悪ク母ガ死シテカヲ落シテ氣違ヒ見タ様ニナツ
テ止メタ
氣違ヒトハドウナツタカ
自分ハ知ランケレド皆ガ氣違ノ様ニナツタト云ハレマシタ
皆ガドウナツタト云ハレタ
知リマセン
九ツ位デ氣違ニナルト云フコトハナイカラ嘘ダロウ
自分ハ覺エハナイカラ知リマセン
學校ヲ止メテ後ドウシテ居タ
何モセンデ毎日ニ居タ針事モヤランデ
百姓ノ手傳ハセナカウツタカ
（イ）
幾ツ迄ソウシテ居タカ
刈谷町ヘ針事ニ行ク迄
幾ツノ年カラ針事ニ行ツタカ
十三ノ時カラ三年間毎日内カラ通ヒマシタ
針事ヲ止メタノハイツ
十五ノ時
其後ハ
夫レカラ内ニ居テ百姓一手ニヤツテ居リマシタ
兄嫁ハオ前ヲ可愛ガルカ
（イ）（曖昧ナル返事ヲナス）

嫂トノ仲ハヨイカ
惡ウ御座リマス
ドウシテ
（答ヘナシ）
嫂ハ意地惡カ
（答ヘナシ）
三代吉サンハソノコトヲ知ランカ
（イ）ヨウ知リマセン
嫂ノ名ハ
かくわ
兄ノ子供ノ名ハ
つれ、きぬ、しげかつデス
ソノ年ハ
十六ト十三トトデス
ソノ三人ノ子ハオ前ヲ意地メルカ
一所ニ居ランカラ知ラン私トオ父サントオ母ト別ノ所ニ居マ
ス
夫レデ嫂ガ意地メルトハオカシイジヤナイカ
私ガ子供ノ折ニ兄サンノ子ノ守ヲシタ時分ニ意地メラレマシ
タ
ドウシテ
私ガ我儘ヲシタカラデムイマス
何時カラ家ヲ分レタカ
ズート前カラデス
今度ノ母ハオ前ヲ可愛ガルカ
（イ）可愛ガリマス
十六七ノ時ニ變ツタコトハナイカ
（イ）アリマセヌ

初メテ月經ノ來タノハ

十五ノ時デス

ソノ外病氣ニナツタコトハナイカ

一昨年めんちうト云フ中氣ニカ、リ口ガ曲ツタコトガアリマ

スソレカラ一年位シテ片一方ノ手足ガ一寸動カヌ様ニナツタ

其後手足ハ未ダニ惡ルイ

初メテ嫁入ツタノハドコ

二十一才ノ時中村ト云フ所ノ正吉ト云フ内へ行キマシタ

正吉サンハ何ト云フ姓ジヤ

知リマセン

亭主ノ苗字モ知ラントオカシイジヤナイカ

ヘイ(平然トシテヘイト云フノミ)

正吉サントコノ家内ハ何人

正吉一人身デス

其處ニハ何ヶ月居タ

三月デス

ドウシテ分レタノカ

思フ様ニシテクレンモノダカラ

ソレハ何ノコトダ

ドウモ氣ガ合ハナカッタカラ分レタ

正吉サンノ職業ハ

ボツコ買ヒ

ボツコ買ヒトハ何ヲスルノカ

ボロヤ紙屑ヲ買フノデムイマス

分レテ歸リテカラハ何ヲシテ居タ

始終出商買デスカラ

(註)被告ハ往々質問ニ相當セザル答ヲナシ時トシテ出鱈目ヲ云

フガ如ク見ユルコトアリ

夫レデハ内ハ百姓デナイノカ

ヘイアノ内ハヤハリ層買デスモトハ百姓ヲシテ居ツタケレド

モ

二度目ハドコヘ嫁入ツタカ

其後一ヶ月シテカラ依佐美村大字八尾ノ〇〇安五郎ノ家へ行

キマシタソコハ刈谷カラ近イ所デス

安五郎ノ仕事ハ

百姓デムイマス

安五郎サンノ年ハ

私ヨリ五ツ若イ十八デゴザリマス

安五郎サンノ所へ行ツタノハイツカ

今年ノ正月

安五郎サンノ内デ何カアツタカ

(答ヘナシ)

安五郎ノ父ノ名ハ

駒吉

其處デ何カイヤナコトガアツタカ

亭主ガ餘リ若カツタカラ止メテ歸ツタ

其外ニアツタロー

(答ヘナシ)

安五郎ハ今何ヲシテオル

名古屋ヘ小僧ニ行ツテオル安五郎ハ年ニリノ婚ヲ買フタト云

フテ人ニ意地目ラレテヨク遊ビニ行ク様ニナツタカラ止メテ

歸ツタ

駒吉ハヨイ人カ

(答ヘナシ)

オ前ノ處ヘ夜來タト云フヂヤナイカ

ヘイ

安五郎ノトコカラ歸ツタ後ハ

正月ガスンデカラ直ケ歸ツテソレカラ十五日ガスンデカラ又

嫁入ツタ

今度ハ何處ヘ

〇〇健治郎ノ所ヘ

健治郎ノ年ハイクツ

知ラン

(註)被告ハ檢者ガ發問シテヨリ餘程時間ヲ經過セザレバ返答セ

ズ

其内ノ家内ハ何人

姑ガ機屋へ行ツテオツタカラ私モツイテ行ツタ

ドウシテ機屋ヲ止メタ

ドウツテ云フコトハナイガソレカラ健サンノ所ヲ盆頃止メテ

里ヘ歸ツタ

健治郎ハ耳ガ遠イカ

ヘイ耳ガ遠イ様デ御座イマス

健治郎ノ仕事ハ何ニカ

大工ノ職ニ出カケル

安五郎サンノ子ヲ生ダノハイツ

舊盆ガ過ギテ四日前ニ男ノ子ガ生レタソレデ安市ト名ヲツケ

マシタ

安市ハ丈夫カ

弱ウ御座イマシタ

ソレカライツ健治郎サンノ處ヘ亦行ツタカ

ヘイ水ガ汲メル様ニナツテカラ又行キマシタ

健治郎サンノ所デ何カアツタロウ

ヘイ一夜寝テ又里ヘ歸ツタ

(ハ) 犯罪事歴

夫レハ何日ジヤ

知リマセヌ

何故直ニ里ヘ歸ツタ

安市ガ死ダカラ

安市ノ死ダ有様ヲ詳シク述ベテ御覽

其晩ノ夜明ニ安市ガ泣イタカラ乳ヲ舂マセテ疑セテオイト

ロムトシテ起キテ見タラ安市ノ頭ガ冷メタカツタソノマ

ニシテオイト御飯焚キニ起キタラ安市ガ死ンデオルト云ハレ

マシタ

警察デハ切齒マツテ乳ヲ押イ殺シタト云フテオルデナイカア

ノ申立ハ嘘カ

書イタモノノ通りデス死ンデカラ里へ行ツテ葬式ヲセヨト云

ハレタノ内ヘ連レテ行キ知立ノオ醫者サンノ處デ診斷書ヲ

買フテ來マシタ

オ醫者サンハ診斷書ヲ直グクレタカ

知リマセン兄ガ取リニ行ツテクレタカラ

ドウモ警察デオ前ガ云フテオルノト合ハンガキ

安市ハ死ヌ二三日前カラクシヤミヲシ又生立カラ弱イ子デシ

タ死ダ晩モ乳ヲ舂マセタラ鼻カラト口カラト出シマシタソ

レデ工合ガ惡ク乳モヨク舂マズニ死ダト云フタケレドモソ

ウデナカロウト云ハレルカラソナラ乳ヲ押ヘテ殺シタニシ

テオイトオクレヤスト云フテオキマシタソレカラドウ云フ譯

カ知ラン一寸來イト云フテ監獄ニ行キマシタ

××監獄ニハ何日程居タカ

知リマセン

此處ニハ何日居ルカ

五日前ニ來マシタ

此處ハドコヤ

私ハ知りマセヌ
岡崎カラ此處ヘ來ルニドノ位ヒカ、ツタ
大分長クカ、リマシタ
名古屋ヲ通ツタカ
通りマシタ
岐阜ハ
通りマシタ 巡査ガ致ヘテ下サツタコ、ハ岐阜ジヤト云フテ
彦根ヤ大津ハ
ソナ所ハ皆目知りマセヌ
今日ハ何日カ
何日カ知りマセン
月ハ
知ラシテ御座リマス
安市ハ死ヌ前カラ咳ヲシテオツタト云フタ子
死ヌ三日前カラ鼻ヤ口カラ乳ヲ出シ又下痢モシテ居リマシタ
元氣モアリマセンデシタ
ソノ日四時頃乳ハヨク呑ダカ
ドタイ呑ミマセンデシテ夫レカラトロトロスルト頭ガ冷クナ
ツテオリマシテオ母サンガ頭ガ冷イカラ内ノ方ヘ連レテ行ツ
テクレト云ハレマシタ
健治郎ハ安市ガ死シタコトヲイッ知ツタカ
私ガ起シテカラ冷イト云フコトヲ知ツテオツタ
月經ノ止ツタノハイッ
安五郎サンノトコカラカヘル前三月ナカツタ
歸ツテカライツ時分子供ハ動キ出シタカ
知りマセン
産ハ重カツカカ輕カツタカ
あかんばハチイサカツタカラ輕カツタ

健治郎トノ仲ハ
(答ヘナシ)
岡崎ヘ歸リタイカ
ヘイ岡崎ニ行ケバ年ガキマルガ年ヲ早クキメテ貰ハヌト困ル
金デユルシテ貰ヘレバソレ程結構ナコトハナイ
(註)被告ハ子ヲ殺シタコトニナツテオノカラ早クキメテ貰
マ付ケテ貰イタイ實ハ殺シタノデナイガソウナツテオレバド
チラデモヨロシイ監獄ニ居ルコトモ大シタ苦痛ニ非ラズト所
謂不關性ニシテドウデモヨイト云フ風ナリ
茲ニ於テ第一回身體的検査ヲ行フ身體的検査ノ結果ハ前後四回共
略相等シキヲ以テ本章最後ニ一括シテ之ヲ記載スルコトトセリ
(地) 第二回検査(大正六年十月二十日)
被告ガ検査ニ對スル態度ハ前回ニ同ジ
私ヲ何ト思フカ
オ上ノオ役人
アノ人ハ(看守)
知りマセヌ
今ハ何時頃カ
(答ヘナシ)
何時頃カ時計ヲ見テゴラン
短イ針ハ二時ト二時ノ間ニ長イ針ハ七時ノ所ニアリマス
ソレハ何時カ
知りマセン
西ハドチラニ當ルカ
知ラン
右手ハドチラカ
(右手ヲ示シ)コチラ
東ニ向イテオノ時右手ハドチラノ方ニアルカ

知りマセン
此前私ガ來タノハ何時
ヨッポドアイガアルデシヨウナア
幾日位アイガアルノカ
(答ヘナシ)
四日カ五日カ
七日位ニナリマスカイナア
今日ハ幾日ヤ
ケツコーニ忘レタ
ソナナ何月ヤ
ツレモ忘レタ(苦笑ス)
春カ夏カ秋カ冬カ
秋デシヨナモ
ドウシテ秋ト云フコトガ分ルカ
コツチヘ來ル時秋ト云フタカラ
其處邊ヲ見テ秋ト思ハナイカ
(答ヘナシ)
(註)被告ハ此所マデ間ヒツメラル、モ敢テ考ヘテ答ヘントセズ
單ニ俯向キ居ルノミ
東ハドツチャマダ分ラヌカ
ヘイ
方角ハ一寸モ分ラヌカ
ヘイ
ソレナラ此所ハドコヤ
知りマセヌ
此所ハドウ云フモノ、來ル所ヤ
(答ヘナシ)
名古屋カ大阪カ
分リマセヌ

誰カニキカヌカ
聞キマセヌ
嚴談ジヤナイゼ
ヘイ
此所ハ何スル所カ
(答ヘナシ)
今オノ前ノ部屋ハドウ云フ風ニナツテオノルカ
牢屋見タ機ナ所デス
此所ハ監獄ジヤロウ
ヘイ
誰モソウ云ハヌカ
誰トモ話ヲシマセヌ
私ハ何カ分ツタカ
知りマセヌ
オイ出鱈目云フナ此前何カシタローソレデ分ランカ
ヘイオ醫者サンデス
(註)被告ノ返答ハ其真言ニシテ止ムヲ得ズ應答シ居ルモノ、如
ク時々突発的ノ返答ヲナシ間ニ對シテ容易ニ口ヲ開カズト雖
言誰ハ大體明瞭ニシテ短ク一氣ニ云ヒ放ツ尙上記ノ問答ニ依
リテ見レバ被告ハ時及所、人ニ對スル指南力ニ缺クル所アリ
今聞エル音ハ何カ(大工ノ槌音)
カンカント云フ音デス擧テ作ツテオイデマス
其外ニハ(靴音ヲサセナガラ)
知りマセヌ
今鳴ク鳥ハナニ(百舌ノ聲聞ユ)
雀ノ聲
オ前ノ方ノ雀ハキキイト鳴クカ
ヘイ
(註)被告ハ椅子ニ腰ヲ掛ケ俯向キタルマ、身動キモセズ自己ノ

周圍ニ起レル事ニ對シ何等ノ注意ヲ向クルコトナシ即注意力ハ甚ダ不充分ナリト云フベシ

此頃身體ノ工合ハドウデス

大シタコトハアリマセンガ少シク腹ニタヨリガアリマセンソノ外ニハ

ドウモアリマセン

毎日ドウシテオルノカ

室ニ座ツテオルギリ

退屈ジヤナイカ

ヘエ

何かシタイコトハナイカ

外(出タイ内へ歸リタイバカリ(此時甚ダ愉快ナルガ如キ微笑ヲ漏ラス)

(註)被告ハ何等ノ病識ナク監房中ニ端座シテ何事ヲナスコトモ

ナク其日ヲ暮ラシ別ニ退屈トモ思ハザルガ如シ

ソナナラ昨日一日何ヲシテ暮シタカ

昨日ハヤツバリ座ツテバカリ居マシタ

昨朝ノ飯ノ菜ハ

なこーデムイマス

晝飯ノ菜ハ

オ晝ハアテシ十一時ニ一度ト朝晩ト御飯ヲ戴ク丈ケデス

十一時ノ晝飯ジヤナイノカ

ヘイ

十一時ノ御飯ノ菜ハ

ヘイサキニ申シタおこころ

ソナナラ朝ハ

なつくとをこころ

夕飯ニハ

菜ノ煮タノデムイマス

オ前ノ所デハ何邊飯ヲ食フ

十時ニ朝めし二時ニ晝めしソレカラ晩飯ヲタベマス

朝早ク喰ベナイカ

朝ハ茶漬デムイマス

此所デ三度デハ腹ガスカナイカ

ヘイ(看守ノ方ヲ見テ)

モツト御飯ハ欲イカ

ヘイ

此所ノ御飯ハヨイカ

今ノ所デハヨイ様デス

今度ノ天皇陛下ノ御位ニオツキニナツタノハイツ

知リマセヌ

明治天皇陛下ヲ知ツテオルカ

知リマセヌ

ソナナラ日本デ一番エライ人ハ誰カ

巡查サンデムイマス

(註)前記既往歴ニ於ケル内容及此間答ニ依リテ考フルニ被告ノ

記憶力及記銘力ハ甚ダ貧弱ナリト云ハザルベカラズ

此間オ前ノオ父サンノ年ハ卅位ジヤト云フタ子アレハホンマカ

マアソノ位ヒト思フテ居マヌ

ソナナラオ前ハイタク

二十三デムイマス

ソリスルトオ前ハオ父サンノイタクソノ時ノ子ヤ

……三十ト思ツテ居マシタガ

三十カラ二十三ヲ引クト幾ラ

(答ナシ)

分ラナイノカ

ヘイ

デハ教エテヤルガ子ソノ勘定デ行クトオ前ハオ父サンノ八ツ

ノ時ノ子一アルガソレゾ ヨイカ

(答ナシ)不思議ソウナル顔付ヲナス)

ソナナ時ニ子ガ出来ルカ

ヘイ……

ソナナラオ前ハ九人目ノ子ト云フカラニヤオ父サンハ一年ニ一人子ガ出来ルトシテモオ前ノオ父サンハ一ツノ時カラ子ヲ作ツ

テモ勘定ガ合ハンヤ

(答ナシ)但シ初メテ自己ガ父ノ年齢ヲ知ラザルコトヲ會得シ

タルガ如ク尙キナガラ微笑ヲ漏ラス)

ソナナラ二ツト三ツデイクツ

六ツ

コレハイイクラ(五十錢銀貨二枚)

壹圓

コレハ(同三枚)

壹圓五拾錢

合セテイクラ

貳圓デ御座リマス

考ヘ直シテゴラン

(答ナシ)

數ニシタライノツ

五ツアリマス

ソナナラ二ツト三ツデイクツ

五ツ

四圓ノ金ヲ二人ニ分ケルト一人イクラ

(答ナシ)

貳圓ヲ二人ニ分ケルト一人イクラ

壹圓

ソナナラ四圓ノ二人ニ分ケルト

貳圓五拾錢

一寸工合ガ悪イナア

壹圓五拾錢

出鱈目ヲ云フナ

(答ナシ)

オ前ガ拾貳錢ノ下駄一足、三代吉サンガ十參錢ノ下駄一足ヲ買

フタラ合セテイクラ拂ツテヨイカ

(答ナシ)

貳錢ノ筆一本ト參錢ノ鉛筆ヲ買フタラ何程拂フベキヤ

參錢ノ切手二枚デ

六錢(直ニ)

三ト三トヲ加ヘルト

六ツ(直チニ)

貳錢ト八錢ノ買物ヲスルト

九錢(直チニ)

モウ一度考ヘ直シテ御覽

拾錢(暫時ノ後)

貳錢ト參錢ト五錢ノ買物ヲシタラ合計何程

拾壹錢(二分ノ後)

少シ違フナ

(答ナシ)

二ト八トノ和ハ

四デス

八ト四トドチラガ多イカ

(答ナシ)

八錢ト四錢トドチラガ多イ

八錢ノ方ガ多イ(直チニ)

八錢カラ四錢トイトイクラニナルカ

六錢ニナル

八錢カラ貳錢トルト

(答ナシ)

(註)被告ハ十以下ノ數ノ計算スラモ困難ニシテ具體的ノ數ナレバ勘定比較的容易ナルモ抽象的ノ數ニ至リテハ殆ンド爲ス所ヲ知ラズソノ計算力凡ソ八九歳ノ小兒ノソレニモ及バズコレハ何カ(爪切)

釘抜キ

ソウ形ハ似テオルガドコカ違フ所ハナイカ

小サイ丈ケデス

コレハ(小鉄)

木鉄ミ

コンナ小サイモノガ何ノ木ヲ切ルニ用ユルカ

木鉄ノ様ニナツテオルガ一寸先キボノ方違フ

コレハ(耳掻キ)

耳掻燗リ

コレハ(鉛筆)

鉛筆

何ヲスルモノカ

字ヲ書クモノデス

コレハ(ペン)

知リマセヌ

何ニスルモノカ

字ヲ書クモノデス

(註)被告ハ質問ノ意ヲ領解スルニ困難ナルガ如ク又此ノ如キ簡

單ナル物品ヲ示シテソノ名及使用法ヲ問フモ満足ナル答ヲ得ルコト少シ思フニ被告ノ領解力ハ甚ダ低位ニアルモノナルベシ

なをツサンオ日サンハドナラカラ出ルカ

知ラヌ

オイ馬鹿ナコトヲ云フオ日サンノ出ル方ヲ知ラヌ奴ガアルモノカ

西ノ方カラ出ルダロウト思ヒマス

オ月サンハドナラカラ出ルカ

東カラ

オ月サントオ日サント出ル方違フカ阿呆云フナ

フ、フ、フ(笑ヒナガラ答ヘナシ)

馬ト牛トドウ違フ

牛ニハ角ガアリマス鳴ク聲ガ違イマス尾ツボモ違ヒマス

モウナイカ

ヘイ

(エ蹄モ違フ牛ノヤツハワレテオルガ馬ノハ割レテオラヌ

大ト猫トハドウ違フカ

顔ガ違ヒ又啼キ聲ガ違フ猫ノ方ハ一寸圓イシ犬ノ方ハ長イ

茶碗トコップトハドウ違フカ

コップハ條ガアツテ圓イ茶碗ハ圓クテ平タイ底ガ少シ淺イ

(註)被告ノ智力ハ甚ダ低位ニアリ言語ノ使用亦拙ニシテ自己ノ

足ラザル智能ヲスラ充分ニ發表スルコト能ハズルガ如シ

一寸話ハ變ルガ先日中氣ニカ、ツタト云フタツソノ時ハドウナ

ツタノカ

片一方ノ手ト足トガキカナカツタソシテ泣ケテ仕方ガナカツ

ツレハ何時ジャツタイナア

去年デムイマス

ドナ風デシタ

草履ヲ穿イテオルコトハ分ラント云フ程デハナカツタケレド

モヨクハ分ラズ御飯モ左手ト喫ベテオツタ様ナコトデシタ去

年ノ寒イ時一桑木ヲ縛ル時分一身體モ手モ足モ顔モ右半分シ

ビレタ時モ悪クテ血ガ出マス丁度之レガ安市ノ腹ニ居ル時デ

シタカラ安市ハ藥テ弱メラレタト思ヒマス

藥代モ大分イッタク

金モエライコト入ツテ居リマス私ノ身體ハ金デ固マツタ様ナ

モノデ御座イマス

オ前ノ方ノ藥代ハ一日ドノ位カ

三廻り分ノ中氣ノ藥ハ四圓位カ、リマス

藥代ハ誰ガ出スノカ

父ガ自分デ出シテクレマスソシテ父ハ今中氣デコロコロデス

女親一人デ百性シテ居マス

オ前ノ中氣ハ何廻起ツタ

今迄三廻起キマシタ一昨年二十歳ノ時一十九ノ時カイナア

ナンセー三廻起リマシタ

コ、ヘドウシテ來タカモウ一度話シテ御覽

初メハ中村ヘ嫁入ツタガ中村ハ見込ガナイカラ離縁シテ貰フ

テ歸ツタ中村ニハ初秋カラ晩秋迄オソタソレカラ駒吉ノ子ノ

安五郎サンノ所ヘ嫁入ツテ行ツタ一夜サハ安五郎ハオトナシ

カツタガ二夜サ目カラ安五郎ハ内ニ泊ラヌ様ニナツタ安五郎

ノ留守ノ晩ニ駒吉ガなつ寒カロウト云フテ遣入ツテ來タガ

私ハ寒イコトハナイシ此夜ハ月經ガアルカラ駄目ト云フテ云

フコトヲ聞カナカツタソノ内ニ安五郎ハ青年會ノ人ヲチカラ

アンナ自分ヨリ年上ノ女房ヲ貰フタト云フテ嫌ガラセラレタ

カラヨケーニ内ニチトマリヲセン様ニナツタ仲人ニ行ツテ話

シテ貰フタラ安五郎ノ泊ル所モ分リ世話ヲ焼イテ貰フタラ内

ニ泊ル様ニナリマシタガ夜學ニ行クト云フテ夜一時二時ニナ

ルコトガ多イソウスル中ニ又駒吉ガ私ノ寢床ヘ來テオル時安

五郎ガ戻ツテ來タモノダカラコンナ風デハ逆モ仕方ガナイト

云フテ仲人ニ話シテ貰ヒ自分ハ縁ガナイカラ嫌ニナツテ歸ル

コトニナリマシタ

安五郎トハ仲ガヨカツタカ

月經ノ止マツタノハイツカ

正月ノ二ヶ月計リ前ジャツタ月經ガナイデ子ジャツタラ受取

ツテ貰イタイト云フテ里ヘ歸リマシタ歸ツテ四五日目ニ岡崎

ノ車大工ヲシテオル人ノ所ヘ出シカト云フ人ガアツタモノダ

カラ月經ガナイカラ子カモ分ラン子ダツタラ金ガツクカ受取

ツテ貰フ答ヂヤツレドモヨイカト云フトヨイト云フトコト行

ツテオツタガソノ人モ耳ガ遠イシ話モロクニセンデ仕事ヨリ

歸ルト御飯ヲタベテ直ニオ母サンノ所ヘ話シニ行ケルカ

話ハナシ又話ヲセヨウトシテモ隣ヘ聞エルカラ餘リシマセン

デシタソレデ亭主デモ私ト關係ハナイ位ノモノデシタソノ上

其オ母トハ私ハ好クナイシ仕事ガ一所ダモノダテ子

ソレカラ里ニ歸ツテオツテ今年ノ盆ニ子ガ生レタカラ安五郎

ニシラセルト安五郎ハ顔ヲ見タクモナイシ金モ出シトモナイ

カラグツグツ云フテオトリ〇〇三代吉ガ親モ子モ受取ツテクレ

ト云フテ行クト金ヲヤルカラ子ヲソナラデ育テ、クレヨ親モ

子モイラント云フテ來タカラ此度ハ岡崎ノ方ヘカケ合フト健治郎ノオ母ノ所カラ親モ子モイラント云フテ來タカラ荷物ヲ取リニヤルト健治郎サンハ子モイラントケレドモ親ハイラント云ハント云フテオ母ニ何ト云フテ手紙ヲ出シタト云フテ大變ニ怒ツテ朝迎ニ御出タカラ私ハ子ニハ離レトモナイ金ガツクカラト云フト健サンハ子モ育テヨウト云フテ安市ヲ連レテ又岡崎ヘ行キマシタ安市ハ生レタテカラ小サイ子デ月早ノ子デムリマシタソレヲソノ二三日前蒲團カケズニ寝セテオイタラ鼻ヲクシクシ云ハセテ風ヲ引イテオリマシタ乳モヨク吞マズ又吐イテオリマシタ夜明ニナツテ私ガ起キマストキ頭ヲ觸ツテ見ルト冷カツタソレデ亭主ヲ起シテ頭ガ冷イト云フテオイテ御飯ヲ焚キニ行キマシタストソノ中ニ亭主モオカシイナアト云フテ母ヲ呼ビニ行キマシタスト母ガ來テ見テコレハ死ンデ居ルコソナデハ葬式ガ出來ント云フノデ早速知立ヘ歸リ醫者ノ診斷書ヲ貰ヒ葬式ヲセヨウトシテ居ル所ヘ巡查サシガ來ラレテ一寸來イト云フノデ警察ヘ行キマストドウシテ殺シタト云ハレルカラ知ラン内ニ乳モヨウ吞マズニ死ニマシタト云ヒマシタラ醫者ニ見テ貰ウタラ何モ病氣ハナイト云フコトダ何カシタロウト云ハレルカラコウ云フ風デスト云ヒマストソウジヤナイ乳デ抑ヘテ殺シタニ相違ナイト云ハレルカラ殘念デシタガ云譯カハ立チマセンソレデドウカ書イタモノ、通りニシテオイトオクレヤスト云フトソノ通りニナツタノナゼホントノコトヲ云ヒ通サナカッタカ

一 アナタモ色々云ハズト書イタモノ、通りニシテオクレヤス
(面倒ナリトノ顔付ヲナシ)

(註)被告ノ談話ハ自己ノ問題ニ觸ル、ヤ今迄ノ態度ヲ異ニシ酒々トシテ談ズト雖談話ハ支離滅裂ニシテ殆んど其要旨ヲ知ルニ苦シミ所ト時ニ關スル序列錯綜シ被告ノ談ズルマ、ヲ速記

スルコトヲ得バ左記ノモノヨリモ尙談話不明ナルモ常人ノ頭腦ヲ通シテ筆記セルモノナレバ談話ノ精明瞭トナリシ嫌ナキニアラズ即チソノ眞ヲ寫ス能ハザルヲ遺憾トス

茲ニ於テ第二回身體的検査ヲ行フ

(支) 第三回検査(大正六年十月二十七日)

被告ガ検査室ニ入り來リ着座シ且談話中ノ態度ハ前回ト異ナラズドウデスオホツサン毎日何ヲシテ居マスカ

ヘイ毎日座ツテ居マス

(註)受持看守曰ク被告ハ毎日監房中ニ座シ何ノ爲スコトモナク戶外運動ヲ勤ムルモ敢テ運動セントハセズ又書物ヲ貸シテヤロウカト云フモ字ヲ知ランカラ宜シトテ受付ケズヤリトテ退屈ナルガ如クニモ見エズ又騒擾スルニモアラズ別ニ憂エニ沈メルガ如クニモアラズ只茫然トシテ日ヲ送りツ、アリト

退屈ジヤナイカ

(答ナシ)

私ノ此前來タノハ何日前カ

七日前デス

コレハ何形状(短冊形)

知リマセン

馬鹿ナコトヲ云フナツ子デモ知ツテオトルヨ

四角形

コレハ(正四角形)

四角形

前ノトコレトドウ違フカ

先ノハ長ク御座イマス

コレハ(菱形)

三角

ヨウ見テゴラン

四角デフチノ方ガ違フ

コレハドナラガ長イカ(長短ノ二平行線)

コナラ(正)

次ニ赤、黄、綠青等ノ色紙ヲ示スニ赤及黄ハ正シク答フルコトヲ得ルモノ、他ノ色ニ付テハ應答明カナラズ例ヘバ綠色ヲ青ト云ヒ紫色ヲ知ラザルガ如キ之レナリ次デ重量ノ異ナル小箱數個ヲ與ヘ外見ヒ其重サノ不明ナルモノヲ手ニテ秤價セシムルニ大體ニ於テ正當ナル答ヲ得進ンデ耳鼻手足等ヲ缺ケル數枚ノ繪畫ヲ示シソノ缺クル所ヲ指示セシムルニ大過ナシ但シ口ノ不足セル繪ヲ見テ之ヲ觀破シ能ハザリシコト一回アリキ尙婦人ノ畫數個ヲ示シソノ美醜及年齡等ヲ云ハシムルニ略正當ナル答ヲ得タリ

問、コレハ何ノ畫カ(子供ガ眼隱シヲナシ鬼ゴツコノ如キ遊戯中人ト誤リテテール掛ヲ引キタル爲メ茶碗ノ轉倒シ水ノコボレ居ル圖)

答、盲目ゴツコヲシテオトルソウシテツラマヒ合ヒヲシテオトルニゲヨウト思フテ手ヲ廣ゲテオトル戲ツマツイテ茶碗ノ水ヲコボシテオトル

問、コノ畫ハ(小僧ガ窓硝子ヲ破壊シ垣後ニ隠レ居ルヲ老人出テ來リ偶々通行セル學校ノ生徒ヲ捕ヘテ叱責シ居ル圖)

答、シカラレテオトル

問、ナゼカ

答、知リマセン

問、コレハ何ノ畫(青年ガ乙女ノ顔ヲ見テ居ル間ニ小供ニ跳キ小兒ヲ轉倒セシメタル畫)

答、小供ノ轉倒ノヲ見テ居ル子供ノコトヲ開イテオトル

被告ノ讀書力ヲ檢スルニ尋常小學讀本卷一中ノ「ハタ」、「カサ」、「アメ」等ハ讀ミ得タルモ「ハカマ」、「マツ」、「モノサシ」等ハ讀ムコト能ハザリキ又被告ノ云フ所ニヨルモ實際ニヨルモ彼女ハ片假名及平假名スラモ完全ニ讀過シ能ハザルガ如シ尙讀本中ニ在ル種々ノ

畫ヲ示シ其畫意ヲ問フニ簡單ナルモノ例ヘバ寺、動物、人物等ハ個々ニ之ヲ解スルコトヲ得ルモ複雑ナルモノ例ヘバ牛若丸ガ五條橋上辨慶ニ切リカケラレシ圖井ニ桃太郎ノ畫等ハ「何ダカ知リマセン」ト答フルノミ次ニ三正ノ子猿ガ親猿ノ傷口ヲ手ニテ温メ居ル圖ヲ示シソノ何ノ意ナルカラ問フニ子猿ガいたづら事ヲシテ居マスト答フルニヨリ其大意ヲ丁寧ニ説明シ直ニ今私ノ話シタコトヲ同ジ様ニ大體話シテ御覽ト云ヘバ「鐵砲デ打タレタ親猿ヲ子猿ガ可愛想ナト思フテ助ケタ」ト極メテ言葉少ナニサモ五月蠅クテ叶ハント云フ調子ニテ答フ

問、親ヲ誹イテ米ニスル迄ノ道行ヲ話シテ御覽

答、親ヲ誹イテ田ヲ掘ツテ田ノ草取ツテ一イキ過ギルト穢ガ出ルソノ穢ヲ干カシテ曰デ挽イテ米ニスル(ト吐キ出ス様ニ談ズ)

問、馬鹿ニ早ク出來ルチ

答、ハッハッハッ(ト大笑ス)

問、數ハドノ位ヒ迄上手ニ數ヘルカ

答、四十迄ハ知ツテオトル

問、數ヘテ御覽

答、(五十一迄正シク數フ)

問、ソレソソナニ上手ダソソナラ四ト二デイクツ

答、知リマセン

問、ソソナコトガアルモノカソレナラ四拾錢ト貳拾錢デハ

答、五拾錢

問、違フ(ト云ヒツ、銀貨ヲ一方ニ四拾錢他方ニ貳拾錢オキテ)之ヲ加ヘルト幾何

答、六拾錢

問、拾五錢ニツデハ

答、ナシ

問、(現金ニテ拾五錢二組ヲ示シ)之ヲ加フレバ

答、參拾錢

問、四ト三デイクラ

答、五デムイマス

問、四本ト三本デ

答、七本

問、貳拾錢デ一丁五錢ノ豆腐何丁ヲ買フコトヲ得ルヤ

答、四丁

問、拾錢持テ行ツテ六錢ヲ使用スレバ殘ハ何程

答、四錢

問、オ前ノ所ニ山ヤ川ガアルカ

答、アリマス

問、山ト川トドウ違ウカ

答、ナシ

問、池ト川トハドウ違フカ

答、池ハ始終水ガタマツテアル川ハ水ガ代ル

問、オ前ノ所ハ町カ

答、在デス

問、何軒位家ガアルカ

答、知りマセン一五百軒位

問、何ト云フ村カ

答、上重原

問、村長サンノ名ハ

答、知りマセン

問、村長サント巡査トドチラガエライカ

答、知りマセン

(註)、前記ノ問答或ハ検査ニヨリテ見レバ被告ハ假名サヘモ讀ム

コト能ハズ又十以下ノ數ノ勘定サヘモ充分出來ズ恰モ就學兒

童程度ノ智能アルノミナルガ自己ガ經驗シタルコトハ比較的

詳細ニ知悉シ居レルガ如シ

問、おふつさん何カ不思議ナコトハナイカ

答、アリマセン

問、奇妙ナモノデモ見エンカ

答、ナニモ見エマセン

問、オカシナ音デモ聞エンカ

答、キコエマセン

問、今迄ニ何かソウ云フコトハナカウタカ

答、アリマセン

問、安市ハ夜監房ヘ來ンカ

答、來マセン

問、ソレデモ殺サレタシテ居ランカラ出テ來マセン

答、私ハ怨マレル様ノコトヲシテ居ランカラ出テ來マセン

問、人玉デモ見エンカ

答、見エマセン

問、狐ニ化カサレタコトハナイカ

答、アリマセン

問、狸ガトツイタコトハナイカ

答、アリマセン

問、何かコワイモノハナイカ

答、アリマセン

註、被告ハ何等妄覺及妄想ヲ有セザルコトハ此等ノ問答ニ依リ

テ見ルモ亦彼ノ態度ニヨリテ推考スルモ明白ナリ

茲ニ於テ第三回身體的検査ヲ行フ

(黃) 第四回検査(大正六年十一月六日)

被告ノ態度ハ前回検査時ニ同ジ

ドウデスおふつサン

ハイ

岡崎(歸リタウナイカ

早ウ歸リタウ御座リマス私ヨリアトニ來タ人ガ皆モウ出テシ

マヒマシタ

コ、ハ大阪カ名古屋カ

名古屋ジャナイガ所ハ知りマセン

誰ニモ聞カンカ

話ヲスルトシカラレマスカラ聞キマセン

身體ノ工合ハ

逆上セル丈ケデス岡崎ヘ歸リタイト思フトボトツトシテ來マ

ス

私ハ何ノ爲メニ來テオルト思フカ

私ノコトヲシラベテ罪ヲ重クスル爲メデス

オ前ハオ父サンノ年ヲホンマニ知ランカ

ハイ

此前三十位ジャト云フタナア

ハイソレヨリ八年ヨリデス

オ前ハ耳ガ遠イカ

ハイ亭主ヲ追カケテカラ耳ガ遠クナリマシタ

亭主ヲ追カケタトハ

ハイ

ソノ譯ヲ話シテゴラン

(答ヘナシ)

註、被告ハ是等ノ問答ノ間常ニ俯向キ勝チニシテ特別ニ出鱈目

ヲ云フガ如キ様子見エズ

岡崎ヘ歸ツタラドウスル

警察デアンナコトヲ云フタカラドウデ年ガアリマシヨウ年ガ

アイタラ知立ヘ歸ツテ百姓ヲシマス

モウ〇〇健治郎サンノ所ヘハ行カヌカ

モウ男ニハコリマシタ始メ安市ヲ隱居屋ノ相續者ニスルコト

ヲ親類ガキメテ吳レタガアレモ死ンダシ一人身デクラシマス

養子ハ實ハヌカ

男ノ兄弟ノアル所ヘハ養子ハ來テクレマセヨ

オ前三河ノ人ダカラ家康公ヲ知ツテオトルカ

知りマセヌ

太田様ハ

知りマセン

大星由良之介ハ

知りマセン

桃太郎ノ昔話ハ

知りマセン昔聞イタコトハアリマス

日本中デ一番エライ人ハ

天皇陛下

此前ハ巡査ト云フタジヤナイカ

監獄デ聞キマシタカラ

本日ノ検査ニ於テモソノ他計算力、智力等ヲ檢セシモ前回ニ於ケ

ルモノト大同小異ナレバ煩ヲ避ケテコレヲ省略スルコト、セリ

茲ニ於テ第四回身體的検査ヲ行フ

前後四回ニ於ケル身體的検査ノ所見ハ略同一ナルヲ以テ一括スレ

バ左ノ如シ

(宇) 身體的徴候

體格中等、身體各部ノ發育略年齢ニ適シ皮色蒼白、皮下脂肪層及

筋肉ノ發育モ亦稍少シ身體ノ外表ニ於テハ特記スベキ異常ヲ認メ

ズ

頭形ハ尋常ニシテ髮根ナク輕打スルニ左顳頂部ニ疼痛ヲ訴フ顔面

ハ左右少シク不均等ニシテ左半ハ稍小ナリ筋調亦弱シ前額ニ皺襞

ヲ作ラシムルニ左ハ淺ク右ハ尋常鼻唇溝モ左ハ淺クジテ低ク頰部

ニ於ケル吹張力モ亦左ニ於テ弱シト雖顔面神經ノ諸枝ニ特記スベ

キ麻痺及痙攣等ナシ但シソノ出現點ニ於テ左側ニハ皆疼痛アリ右

側ニハ之ヲ認メズ
眼裂ハ左稍狭シト雖眼動ニ異常ナク調節機能尋常結膜ハ稍引赤
シ結膜反射尋常瞳孔ハ左右同大ニシテ中等大圓形對光反應ハ稍鈍
ニシテ十分ナラズ舌ハ濕潤シ之ヲ挺出セシムルニ少シク左ニ曲リ
稍振顫ス軟口蓋及咽頭ニ於ケル反射ハ銳ナリ耳形ニ異常ナシ聽力
ハ弱ク懷中時計ノ秒音ハ二十種迄漸ク聞クコトヲ得ウエベルハ右
ニ偏シリンチハ兩耳共陰性ナリ
頸腺及肘腋ヲ觸レズ胸廓ハ左右均等ニシテ呼吸運動尋常脈搏一分
時七十至整ニシテ力アリ心尖ハ第五肋間ノ乳線ノ内方二極ニ見且
觸ルコトヲ得心臟濁音界ニ異常ナシト雖心音ハ大動脈口ニ於テ第
二音稍昂進シ其他ハ尋常肺ニハ特記スベキ異常ナシ
腹皮反射ハ不定ナレドモ多クハ左ハ尋常ニシテ右ニハ之ヲ見ルコ
トヲ得ズ腹部ヲ按壓スルニ異常ノ硬結又ハ壓痛アル部ナシト雖右
ニ卵巣痛アリ脊柱ヲ輕打スルニ胸椎ニ疼痛アリト稱スレドモソノ
位置ハ時々變化スル爲メ之ヲ決定スルコト能ハズ
上肢ヲ他動的ニ屈伸セシムルニ異常ナク又拒絕症狀強硬症狀等ヲ
見ズ上肢ニ於ケル深反射ハ左右略同等ナレドモ左ガ稍高キカニ思
ハル、コトアリ

右膝關節ハ他動的運動ノ際少シク抵抗ヲ感ズ左側ハ尋常膝蓋腱反
射ハ兩側共昂進スレドモ右側ニ於テ著シクアヒルス腱反射ハ左右
均等ナリ足趾反射ハ左ノ趾屈ヲ來シ足趾屈ヲ認メズ步行尋常ナリ
觸覺病覺位置等ニ異常ナクロトベルク氏徵候ナシ指、指、指、指、
鼻尖及足趾膝蓋觸試驗ハ拙ナリト雖失節ナシ要之被告ノ身體ニハ
鼻面ノ左側ニ輕キ麻痺ノ痕跡アリ瞳孔ノ對光反應、鈍、右膝
關節ハ他動的運動充分ナラズ膝蓋及アヒルス腱反射ハ著シク昂進
シ特ニ右側ニ於テ著シキ等ノ異常所見アリ即彼ガ神經系統ノ何レ
カニ異常アルモノナルベシト雖其位置ニ就テハ現今之ヲ確言スル
コト能ハズ

乙、記録摘要

予ハ検査ノ大要ヲ終了シタルヲ以テコ、ニ本件記録中ヨリ被告ノ
精神鑑定ニ必要ナル部ヲ摘要シ以テ前記被告自身ノ申立ト相對照
シテ鑑定資料トナサント欲ス
大正〇年〇月二十二日付參事人〇〇三代吉ノ申立ニ依レバ「私ノ
親族ニハ精神病者ハ一人モアリマセヌ」トアリ又同二十八日付同
人調書中ニハ「父ハ中氣ヲ斃テ居ル旨記載セリ其他一件記録中ニ
ハ被告ノ遺傳關係ニ付特記スベキ記載ヲ見ズ
被告ニ付ハ明治二十八年六月ニ生ル一件記録中ニハ彼ノ生活史ニ
就テ記載甚ダ少ク只其中最モ衆目ヲ惹クハ彼女ガ生來一人前ノ智
力ヲ有セザリシコトノ記述ナリ即實兄三代吉ハ「ふつハ元來ガ鈍
イ人間デアリマス」ト云ヒ(大正六年〇月二十八日同人調書中)且
三代吉ガ〇〇健治郎方ニふつノ醜婚ノ件ニ付談判ニ赴キ實際「健
治郎ハ不在其母ガ居リマシタガ母ノ申スニハドーモふつハ鈍イ
人間テ亭主ノ辨當モヨク出來ヌト云フ様ナ次第ガカラ貰フコトハ
出來ヌト云ヒマシタ云々」ト述ベ又「ふつハ如何様ニ鈍イカレト
ニ對シ「總ベテ何事ヲ申シテモ纏ツタコトヲ云ヘマセ」錢勘定デ
モサセマス」一錢若クハ二錢計リナラ勘定ハ出來マスガ色々ノ錢
ヲ取交ゼテ勘定ヲサセマス」ト補足セリ夫健治郎モ亦「ふつハ懶巧ノ女
カ」ノ間ニ「少シトロイ方デアリマス」(大正〇年〇月二十九日付
同人調書)ト答ヘ居リ又「姑〇〇〇〇ハ同日付調書中ニふつハ
大變愚鈍ナル女ニシテ同人ガふつヲ機屋ハかせくりニ連レテ行キ
何度教エテモ能ク判ラズ糸ヲ織キニ配ルニモ澤山アル所「持テ行
キ反テナイ處ハハ持ツテ行カヌト云フ有様ニテ織子カラハ氣ガ利
カナ過ギルヲ笑ハレ達ニソノ爲メクワ迄ガ織子トノ折合ガ惡クナ
リシト云フ程ニテふつハ誠ニトロイ人間ナリト答辨シ尙證人〇〇
朝吉モ亦同日付調書中ニふつハ人並ヨリ少シ足ヲヌヌ女ト見做シ居
レリ尙ふつ自身ノ申立ニヨルモ實母ノ名最初嫁入セシ家ノ姓及夫
ノ名ヲ知らズト云フニヨリテソノ大體ヲ察知スルコトヲ得ン

(大正〇年〇月二十二日付被告調書)被告ハ十日ノ見ル所只愚鈍ナ
ル人間ト云フノミニシテ精神病學上特ニ注意スベキ行動ヲナセシ
コトナク實兄三代吉ハ大正〇年〇月二十二日付聽取書中「ふつハ
今日造氣ノ變ニナツタ様ノコトハナイカ」ノ間ニ對シ「無論氣狂
デハアリマセンデスガ少シ人ノ宜シイ方デス殊ニ耳ガ遠イ爲メ尙
更少シ變ニ見エマス而シ之迄氣ガ變ダト云フ様ナコトハアリマセ
ンデシタ云々」ト答ヘ居レリ
此ノ如キ智力ヲ有スル被告ガ前後三回結婚ヲナセシト雖前二回ハ
遂ニ破綻ノ嘆ヲ見ルニ至リシハ理ノ當然ナリト云フベシ即チ大正
〇年三月頃同知立町大字西中ナル某ト結婚シ一月計リニシテ離
縁トナリ其後五月六日經テ同郡依佐美村大字牛城土ナル〇〇安五
郎ニ嫁シ茲ニテモ種々ノ紛擾ヲ醸セシ後本年二月頃亦々離縁トナ
リ生家ニ復歸後尙未ダ數日ヲ經ザルニ現今ノ夫〇〇市祐金町〇〇
健治郎ト内縁ヲ結ベリ然ルニふつハ安五郎方離縁ノ際已ニ妊娠三
ヶ月ナリシヲ以テ同家離縁ノ際生レタル子ハ〇〇家ニ引取ルカ或
ハ養育金ヲ附スルノ約定ヲナシ健治郎モ是等ノ事情ヲ知悉シタル
上結婚セルモノナリト云フ
斯クシテふつハ陸月ニ近ツキ本年八月二十日頃生家ニ歸リ九月二
日遂ニ男子ヲ分娩シ安市ト命名シ〇〇安五郎方ニ之ヲ通知シ且ツ
引取方等ヲ交渉セルニ兎角談判難ラザル中一方〇〇健治郎ノ母ハ
健治郎トふつトノ離縁ヲ書狀ヲ以テ通知セル爲メ實兄三代吉ハ健
治郎方ニ荷物引取ニ赴キシ所健治郎ハ子ハ不用ナルガふつトハ離
縁ヲ望ミシニ非ラズトテ又々鬧着ヲ惹起シ健治郎ハ九月二十日
ふつ方ニ至リシニふつハ我子ト離ル、ヲ忍ビザル爲メ結局健治郎ハ
若干ノ養育金付ニテふつ及安市ヲ貰フコトニナリ同日ふつ母子ヲ
伴ヒテ岡崎町ニ歸宅セリ
元來安市ハ孱弱ナル乳兒ニシテ實兄三代吉等ハ其生立ヌラモ困難
ナラント申シ居リシ位ヒナリシ然ルニ九月十五日頃蒲團ヲ被セズ
ニ寝セタル爲メ風ヲ引キクシヤ々々云ヒ居リ且乳ヲ口ヤ鼻ヨリ

戻シ特ニ二十日夜ハ數回眼ヲ覺シテ啼泣シ乳汁モヨク吸フコト能
ハザリシト然ルニ翌二十一日午前五時安市ハ冷クナリ居リシヲ以
テ如何ナル故ナラント姑クワ呼ビ來リ見テ實兄ニ死シテ居ル
故籍ノアル所ニ葬式ヲセヨト云ハレ知立町ノ生家ニ歸來シ死亡
診斷書ヲ得ントシテ醫師ニ至リ遂ニ至リ遂ニ至リ遂ニ至リ遂ニ至
レリ(調書參照)
然ルニ大正〇年九月二十二日付〇〇ふつ聽取書及同日付被告入調
書ニ於テハ被告ハ自己ガ先夫ノ子ヲ連レテ健治郎方ニ嫁付キニシ
付姑ヤ夫ニ氣兼シ且進所隣ハ外聞モ惡クナラント思ヒ二十日夜靜
マルニ付キ悲哀ノ情交々胸臆ニ浮ビ來リ生長日蔭者ト云ハレテ輕
蔑サル、ヲ考ヘ且ハ現在ノ立場ニ困シ遂ニ意ヲ決シテ二十一日未
明安市ニ乳ヲ吞マスル際乳房ニテ鼻口ヲ閉塞シ窒息死ニ至ラシメ
シト申立且ソノ犯行ヲナセル様ヲ演述スル所詳細ヲ極メタリ然ル
ニ越エテ九月二十九日ニ至リ第二回ノ調書中ニふつハ此等ノ事實
ヲ否定セリ今其一部ヲ摘録セン
二問、過日本職ニ對シ申立タコトハ相違ナイカ
答、相違アリマセヌ
三問、夫レデハ被告ガ自分ノ立場ニ困リ切迫ツマツテ子ノ鼻ヲ乳
房ヲ押ヘ殺シタモノニ違イナイカ
答、ソレニ相違アリマセヌ
四問、被告ハ過日子ヲ乳房ヲ押ヘテ居ルト子ガ眼ヲ潰リ首ヲ垂レ
タカラ其處ヘ寝セテ置キソレカラ御飯ヲ焚イテ行ツテ見ルト
冷クナツテ居ツタカラ夫ニ見セタト云フタガ間違デナイカ
答、相違ナカツタデアリマス私ガ眼ヲ覺マシテ見ルト子ノ頭
ガ冷クナツテ居リマシタカラ夫ヲ起シテ見テ實兄マシタ所夫
ハ姑ヲ呼ビニ行キマシタソレカラ私ハ御飯ヲ焚キニカ、ツタ
デアリマス
五問、其時健治郎ハ何ト申シタカ
答、健治郎ハ顔ハ冷イガ背中ガ暖イカラ未ダ息ガアルト云ヒ

マシタ

六問、被告ハ何ト思ツテオツタカ

答、私ハ夫ガ息ガアルト申シマシタカラ息ガアルノダロウト思フテオリマシタ

七問、其子ハ病氣ニ罹ツテオラナカウタカ

答、其子ハ誠ニ弱イ子デアリマシタ少シ風ヲ引イタ様子デクシツケシト申シテ居リマシタ

八問、其子ハ病氣デ死シタノデハナイカ

答、病氣デ死シタノカ其邊ハ實ハシツカリ分ラヌデアリマス九問、併シ被告ハ何ンデ死シタカ知ラヌコトハナカラウト思フガ如何

答、實ハ私ハ未ダ健治郎方ヘ戻リタイコトハナカウタノデ其子ハ病氣ニモ罹リ居リマシタカラ醫者ニモカケ又私モ祭リヲ済マセテカラ戻リ度イト思フテ居リマシタガ健治郎ガ迎ヒニ來テ離レマセヌノデ歸ツタノデアリマスガ其子ハ病氣デ死シタモノト思ヒマス併シ巡査ハ其子ニハ何モ病氣ハナイト云ヒマシタカラ私モ殺ス氣デ乳房ヲ押ヘタ譯デアリマセヌガ乳房ヲ押ヘテ殺シタト申シタノデアリマス

一〇問、併シ被告ハ過日本職ニ乳房ヲ押ヘテ殺シタト云フタガ如何

答、私ハ病氣デ死シタト思ヒマスガ巡査ガ病氣デナイト云ヒマスカラ乳房ヲ押ヘテ殺シタト云ヒマシタガ其處ハ誠ニ私モ辛ヒノデアリマス

中略

一七問、被告ハ罪ヲ免ル、目的デ申立ヲ變ヘルノデハナイカ

答、相デアリマセヌ私ハ殺ス氣デ致シタモノデアリマセヌ一八問、假リニ殺ス氣ハナカウタトシテモ乳房ヲ其子ノ鼻ヲ押ヘタコトハ違ヒナイカ

答、乳房ヲ鼻ヲ押ヘタコトモアリマセヌ併シ乳房ガ張ツテ居リマ

ナカリシト云フ同年亦或ニ種古ヲ止メ爾後家ニ在リテ百姓ノ手傳ヲナシ居リシガ始終兄嫁ト衝突シタルガ如シ其故ヲ被告ニ問ヘバ皆私ガ我儘ナカラデアリマス答フ蓋シ或ハ然リシナラント思ハル被告ガ此頃ヨリ衆人ニ愚鈍ナル人間トシテ取扱ハレタルコトハ已ニ(一)一件記録摘要ノ部ニ詳述セル所ナリ

二十一歳ノ時被告ハ姓不詳正吉ト云フ人ノ所ニ嫁セシモ居ルコト三ヶ月ニシテ同所ヲ離縁セラレ未ダ一ヶ月ヲ經過セザルニ〇〇安五郎ト結婚セリ茲ニテモ鈍イ人間トシテ取扱ハレ安五郎ハ彼女ヲ嫌ヒテ自宅ニ宿泊スルコト少ク終ニ同所ニ身ヲ隠スニ至レリ斯ル有様ニテハ迎モ同家ニ見込ナシトテ夫ハ本年正月離縁ト上生家ニ歸リシガ四五日ニシテ亦モヤ岡崎市祐金町〇〇健治郎ト内縁ヲ結ベリ然ルニ夫ハ先夫安五郎ノ胤ヲ宿シ居ルヲ以テ分後後ハ其子ヲ稻垣方ニ引取ルカ或ハ養育金ヲ支出スルカノ契約ヲナシ居リ山本モ之ヲ承知ノ上結婚セルモノナリ本年八月下旬被告ハ産ヲナス爲メ知立町ノ生家ニ歸リ間モナク九月二日男子ヲ分娩シテ安市ト命名シタルモ安市産中点つハ顔面神經ノ麻痺及半身不隨症ニ罹リ藥餌ニ親シ爲メ安市ハ生レタル時モ非常ニ小サキ子ニシテ九月十五日頃蒲團ヲ被セズニ寢セタル爲メ風氣ニテクシヤノ咳ヲナシ居リシ此間ニ於テ尙安市ノ處分問題進行シツ、アリテ安五郎方ニ種々談判セシモ工合ヨク談議ラズ彼是ル中斯夫〇〇健治郎ノ母ヨリ夫ツヲ離縁スベシトノ書狀來リシ故實兄三代吉ガ夫ツノ荷物ヲ引取リニ〇〇方ヘ行キシ所健治郎ハ子ハイラスガ親ハ離縁セヌト云ヒ又々談判困難トナリシモ結局安市ニ養育金ヲ附スルコトニシテ母子共健治郎方ニ引取ルコトナレリ

三、犯行

安市ガ前記ノ如キ状態ニ在リシヲ以テ夫ツハ其節岡崎行キテ全ク喜バザリシモ九月二十日健治郎ト共ニ祐金町ニ行キ同夜該宅ニテ寢ネシ所安市ハ數回目ヲ覺シ啼泣スレドモ乳モヨク吞マズ鼻ヤ

シタカラ幾分子ノ鼻ヲ自然ニ押ヘル機ニナリマシタ

一九問、サスレバ被告ハソノ子ガ何時息ヲ引取ツタカ知ラズニ居ツタカ

答、左様デアリマス併シ私モ最初ニ乳房ヲ押ヘテ殺シタト申シタノデアリマスカラ今ニナツテイクラ何ト申シテモ致方ガアリマセヌカラドイカ乳房ヲ押ヘテ殺シタト云フコトニシテ置イテ下サイ

(丙) 說明

前記ノ(甲)検査記録及(乙)記録摘要ヲ綜合シ被告ノ精神状態ヲ診定セントス

一、遺傳關係

被告及實兄三代吉ノ語ル所ニ依レバ被告ノ父ハ大酒家ニシテ現今中風ノ爲メ身體ノ自由ヲ失ヒ就床中ニテ實母ハ被告九歳ノ時ニ死亡セリト雖ソノ病症ハ詳ナラズ被告ノ同胞ハ九人アリシモ内ニ幼死セシモノ二、三人アルガ如シソノ他ノ詳細ニ至リテハ被告ノ談話ニヨルモ一件記録ニ徵スルモ之ヲ知ルコト能ハズ然レドモ被告ノ血族ニハ精神病者ナキガ如シ但シ被告ノ父ガ大酒家時代ニ生レタルモノナリト云ヘバ彼ハ幾分ソノ害ヲ受ケテ生レタルモノト見做スヲ至當トス

二、生活史及既往歴

被告ノ胎生時及出生時ノコトハ之ヲ知ルニ由ナレバ彼ハ幼ニシテ連レモナク一人遊ビヲナシ居リテ外ハ出ルコトモ少ク所謂獨立兒童ナリシガ如シ學業ハ尋常三年ニシテ癩癧セリト云フヲ以テ被告ニ其理由ヲ問ヘバ丁度其際實母死亡シ非常ニ悲嘆シ其極速ニ氣狂同機ニナリシ故ナリト答フ但シソノ時ノ状態ニ就テハ全く不明ナリ思フニ被告ハ此頃ヨリ尋常ノ兒童ニ在ラザリシナルベシ

癩癧後被告ハ何ノ爲スコトモナク家ニ在リテ其日ヲ送り十三歳ノ時初メテ刈谷町ヘ其縫ノ種古ニ行キ三年間毎日自宅ヨリ通ヒ居リタリ十五歳ニシテ初メテ月華園キノソレヨリ後月經ニハ大シタ異常

口ヨリ戻シタルコトアリ然ルニ二十一日午前五時頃安市ノ頭ガ冷クナリ居リシヲ以テ夫ツ起シ姑ヲ呼ビ來リテ見テ實ヒ始メテ安市ガ死亡シ居ルヲ確知シ知立町ニ歸リテ葬式ヲ營マンタルガ前後ノ事情ヨリ安市ノ死因ハ頗ル疑ハシキモノアリトテ遂ニ警察ニ拉致サル、ニ至リシモノナリト云フ一般ニ此ノ如キ癩癧ナル幼児ハ僅微ノ原因ニヨリ極メテ容易ニ窒息死スルモノナレバ假令安市ノ屍ニ剖見上望見急死ノ所見アリトスルモソノ判定ニ有力ナル據所ナシトスレバ之ニ犯罪ノ手が加ハリシヤ否ヤヲ決定スルハ非常ナル注意ヲ要スルモノトス況ンヤ安市ハ死直前ニ氣管枝炎若シクハ肺炎ノアルガ如キ徵候ヲ呈シ居リシニ於テオヤコレ是等ノ疾病ハ幼児ヲ俄然窒息死ニ至ラシムルコトアレバナリ

果然被告ハ九月二十二日ノ聽取書及調書ニ於テハ極メテ詳細ニ且確實ニ自己ノ境遇ヲ序シ然シテ後乳房ヲ以テ切迫ツマツテ安市ヲ壓殺セルコトヲ申立テ置キナガラ九月二十九日ニ至リテ第二回調書中ニ全ク之ヲ否定シタリ吾人ハソノ何レニ信ヲ措クベキヤ予ハ先ツ以テ彼ノ現在徵候ヲ詳述シ而シテ後此點ニ論及セントス

四、現在徵候

予ガ前後四回ノ検査ニ依リテ得タル現在徵候ハ左ノ如シ

イ、精神の徵候

指南力并ニ病識 被告ハ自己ノ現在ヲ知ラズ同胞ノ名前ヲモ完全ニ知ラザルモノアリ又父母同胞ノ年齢ニ至リテハソノ大約ヲモ答フルコト能ハズ彼ノ父ヲ三十歳ナリト云ヒ二十三歳ナル被告ノ父ガ三十歳ナルハ不合理ニシテ而モ被告ハ九人目ノ末子ニアラズヤト懇々説明シテ初メテ父ガ現今三十歳ニアラザルコトヲ知ルモ尙凡ソ何歳位ヒナルカラ確知スルコト能ハズ現今ノ年月日并檢者ノ何人ナルヤ了解スルコトヲ得ズ即チ時、所及人ニ對スル被告ノ指南力ハ甚ダ不明瞭ナルモノト云フベシ

被告ハ現今身體的ニハ何等ノ疾病ナク只腹ニ手帳ナイト云フノミ精神のニモ亦何等ノ病識ヲ有セザルモノ、如シ

領解及注意被告ニ種々ノ物品ヲ示シテ、品名及使用法ヲ問フニ極メテ簡單ナルモノニアリテ、返答容易ナルモ、稍難ナルモノニ至リテハ、應答困難ナルカ、或ハ全ク不能ナリ、又時テ甚ダ不當ナルハ、九歳ノ小兒モ敢テセザル如キ答辯ヲ與フルコトアリ例ヘバ、極メテ小ナル鼻毛切リ鉄ヲ以テ木鉄ト云フガ如キ之レナリ此際被告ノ舉動顔貌ヲ注視セルモ、出鱈目ヲ云フガ如キ様子モナシソノ他種々ノ繪畫ヲ示シテソノ畫意ヲ問フニ、畫中ノ個々ノ物體人物等ハ之ヲ知ルモ全體ノ畫意ニ至リテハ全ク領解スルコト能ハザルガ如シ即チ領會力ハ甚ダ低位ニ在リト云フベシ

被告ハ談話中モ周圍ニ起コレル事ニ注意ヲ向クルコトナク、諸種ノ簡單ナル繪畫中ニ在ル缺陷ヲ見出サシムルニ敏速ニ之ヲ發見スルコト能ハズ即チ被告ノ注意力モ亦甚ダ鈍キモノト云フベシ
記憶力及記銘力 被告ハ同胞ノ名前及兩親并ニ同胞ノ年齢、自己ノ生活史ノ大要、最初結婚シタル夫ノ姓名、安市出生ノ月日、御大典ノ月日、前日ノ檢査檢診日及昨日如何ニシテ暮シタル等何レモ之ヲ明答スルコト能ハズ即チ被告ノ記憶力及記銘力ハ甚ダ貧弱ナリト云ハザルベカラズ

計算力 被告ガ十以上ノ數ノ勘定出來ザルコトハ實見三代吉ノ申立ツル所ナルガ予ノ檢査ニ於テモ單ニ實物ヲ追次ニ數フルニハ凡ソ五十迄位ハ可能ナルモノノ加減乘法ニ至リテハ十以下ノ數ニテモ甚ダ困難ニシテ特ニ抽象的ノ數ニ於テ然ルガ如シ例ヘバ二ト三ト加ヘバ何程ト問フ時ハソノ加算困難ナルモ二錢ト三錢トヲ加フレバ如何ト問ヘバ比較的容易ニソノ答ヲ得ルガ如シ減乘除算ニ於テモ亦然リ例ヘバ二五ニテ除セヨト云ヘバ全ク答フルコト能ハザルモ二十錢持チ行キ一丁五錢ノ豆腐ヲ何丁買フコトヲ得ルヤトノ問ニ對シテハ比較的迅速ニ返答スルコトヲ得ルガ如キ之レナリ而シテ此等暗算ノ間彼ノ舉動ヲ視フニ毫モ真面目ノ態度ヲ失ハズ即チ當意即答ヲナシツ、アルニアラズ要之ニ被告ノ計算力ハ甚ダ低位ニ在リテ凡ソ就學當時ノ兒童ノソレニ比較ス

身體的ニハ顔面ノ左半側ニ輕キ麻痺ノ痕跡アリコトハ先年被告ガ顔面神經麻痺ヲ患ヒタル遺殘ナルベシソノ他瞳孔ノ對光反應、膝蓋及アヒルス腱反射ハ昂進シテ右側ニ著シキガ如キ被告ガ中樞神經系統ノ何レカニ何等ノ障礙アルベクハ半身不隨症ノ痕跡ト見ルベシト雖ソノ半身不隨症ガ腦出血、腦栓塞或ハソノ他何レノ疾病ニ起因セルヤ今日之ヲ知ルコト能ハズ尙一般ニ精神薄弱者ハ腦ニ或疾患ヲ有スルヲ普通トスルモノナルコトヲ附言ス

五、診 斷

檢診ニ依リテ知得セル所ヲ通覽スルニ、五つハ神經系統ニ多少ノ器質的變化アリト見ザルベカラズ而シテ精神のニハソノ各方面ニ於テ稍重キ薄弱ヲ示シ殊ニ一般智能ニ於テ甚ダ缺點ル所アリ日常直接ニ經驗セル具體的觀念ハ比較的存在セルニ拘ラズ此等觀念ヨリ其主要部分ヲ抽出シテ之ヲ綜合シ以テ一般の概念ヲ構成スルノ能力十分ナラズ換言スレバ觀念乃至概念構成ニ於テ著明ニ幼稚ニシテ其發育中絶ノ狀態ニ在リ感情ノ鈍感亦著シク周圍ニ對シテ自發的ニ適應スルノ能力ニ乏シ從テ高尚ナル情緒ノ完成ナク羞耻及道德的責任等ノ觀念ニ於テハ著明ニ貧弱ナリ
要之被告ハ稍強キ精神薄弱ノ狀態ニ陥リ居ルモノニシテ彼ノ精神世界ニ於テハ下等ナル感情例ヘバ生殖慾食慾等ハ比較的發達シ居ルニカ、ハラズ一般智能道德的觀念等ノ發育甚ダ低ク此等ハ八九歳ノ兒童ノソレニモ及バザルコトアリ然ラバ斯ノ如キ被告ノ精神薄弱狀態ハ先天性ノモノナルヤ將タ後天性ノモノナルヤト云フニ恐ラクハ先天性ノモノナランコレノ如キ精神の諸機能ノアラユル方面ニ於ケル薄弱狀態ハ一定ノ精神病或ハ腦病等ニ續發スルコト少クシテ先天的ニ來ルコト多ケレバナリ尙被告ノ實兄并知人等ガ口ヲ捕ヘテ彼女ヲ鈍イ人間ナリト云ヒ又被告ノ父ハ大酒家ニシテ且彼女ガ幼時ヨリ孤立兒童ナリシコトモ亦ソノ證左トナスコトヲ得ベシ抑モ先天的精神發育抑止ハ其程度甚ダ多クシテ下ハ殆んど睿智の機能ノ痕跡ダモ之ヲ認知スルコト能ハザルモノヨリシテ上

一般智能 亦甚ダ低位ニ在リ被告ハ假名スラモ完全ニ讀過スルコト能ハズ簡單ナル繪畫ノ畫意ヲ解スル能ハズ自己ハ少時ヨリ百姓名ニ生レナガラ報ヲ時キテヨリ白米ニナル迄ノ經過ヲ詳細ニ語ルコトヲ得ズ現行尋常小學讀本卷一ヲモ大半讀ムコト能ハズソノ他前記被告ノ領解力計算力及記憶力等ヲ併セ考フルニ被告ノ一般智能ハ甚ダ低位ニ在リテ凡ソ八九歳ノ尋常兒ノソレニ相當ス然レドモ彼ノ實地經驗シタルコトニ至リテハ之ニ比シ稍高キ智能ヲ有スルガ如キモ之トテモ決シテソノ智能ヲ利用シ得ベキ能力ナキガ如シ尙判斷力モ一般智能ニ相當シテ甚ダ低位ニ在ルコトハ檢査ノ部ニ於テ明カナリ

妄覺妄想 被告ハ如何ニ注意シテ檢スルモ妄覺妄想ヲ有セズ
觀念 被告ノ話ヲ振リニ依リ推考スルニ觀念聯合法ニ速進ナク却テ滯留シ居ルガ如シ但シ被告ノ智能餘リニ低キニ過キ充分ナル檢査ヲ施行スルコト能ハザリシヲ遺憾トス思考ノ方途ハ甚ダ小供ヲシキモノニシテ異常ナクソノ他思想ノ常同迂腐拒絕意思詞語ノ粘着強迫觀念等ハ之ヲ認メズト雖思想ノ散亂アリテ被告ノナセル少シク長キ談話ハソノ意ヲ解スルコト困難ナリ

感情 ハ甚ダ鈍感居リ獄中ニ在リ只端座シテ何ノ爲スコトモナクシテ別ニ退屈トモ思ハズ殺人事件ニテ入監シナガラ心配スル様モナクサリトテ心神爽快ナリトノ風ニモ見エズ苦悶ナク憤怒ナク又甚シキ感情ノ轉換モナク只茫然トシテ其日々々々送リツ、アルガ如シ
精神運動 トシテハ意志ノ亢進例ヘバ多辯、多動、不安、器物破壞等ナク却テ稍減退シ茫然トシテ消日スルコト多シ但シ誠實症、拒絕症等ナク意志ノ被影響性ニハ著變ナク強硬症狀反響症狀等ヲ見ズ
言語及手書 言語ハ小供様ナルノ他發育ニ著變ナク手書ハ甚ダ拙ナレドモ失節振頭等ヲ見ズ食慾及便通ニ異常ナシト云フ

六、犯時ノ精神狀態

ハ所謂精神健康人ニ近キモノニ至ル一般ニ之ヲ三大別シ具體的觀念ニ於テモ已ニ著明ニ缺點ヲ呈スルモノハ之ヲ白痴ト稱シ具體的觀念ノ蓄藏ハ可ナリニ之ヲ有スルモ抽象的觀念ニ著明ニ缺點アルモノハ之ヲ痴愚ト稱シ抽象的觀念ニ於テ多少ノ不完ヲ呈スルモノ即チ健康人ニ極メテ近接スルモノヲ之ヲ魯鈍ト云フ而シテ是等三階級ノ間ニハ漸次ノ移行形ヲ存スルモノニシテ之ヲ嚴調シ能ハザルハ云フ迄モナキコトナリ
被告五つノ精神薄弱ノ程度ヲ此區分ニ照ラスニ被告抽象觀念ハ甚シク不完ニシテ具體的觀念ニ於テモ亦缺點ル所アリ即チ彼女ハ痴愚ト白痴トノ間ニ位スルモノニシテ而モ何レカト云ヘバ寧ろ白痴ニ近キ位置ニ立テルモノト云フベシ

七、犯時ノ精神狀態

被告ハ現時白痴ニ近キ痴愚者ニシテ而モソガ先天的ノモノナリトセバ犯時ニ於テモ現今ノ狀態ト大差ナカリシナルベシ而モ犯時一時性ノ意識濁亂或ハ興奮狀態等ニ陥リ居ラザリシコトハ大正〇年〇月二十二日ニ聽取書及調書及同二十九日被告第二回訊問調書ノ記載ニ依リテ明カナリ然ラバ何ガ故ニ被告ハ前二回ノ訊問ニ於テハ明ニ安市ヲ乳房ニテ壓殺セシト申立テ且ソノ壓殺狀況ヲ述ブルニ詳細ヲ極メタルカト云フニ愚鈍ナル彼ハ將來ノ結果ヲ考慮スルコト能ハズ一時迷レニ司法官ノ取調ニ際シ「コイヤロウ」ト云ハルレバ「ハイ」ヲ以テ應ジタルモノナルベク感情鈍感シ道德的觀念少キ被告ハ二三ノ虛談ヲ其中ニ點綴シタルモノナルベシト思ハル予ノ檢査ノ際ニモ犯罪事件ニ付餘リ根柢ヲ葉掘シテ問詰ムレバ彼ハ如何ニモモウ協ハント云フ風ヲナシ「裁判所デ書イタモノ、通りニシテオイテオオレヤス」ト吐キ出ス様ニ答フルヲ常トセリ然ルニ九月二十九日ノ第二回訊問ニ於テ被告ハ飽クマデ問ヒ詰メラル、ヤ果然前二回ノ申立ヲ否定シ安市ハ知ラヌ間ニ死シテオロシト云フニ至レリ被告ノ如キ低位ニアル痴愚者ノ口供ノミニテハソノ何レヲ信ナリトモ確定スルコト能ハザレドモ被告ノ態度、被

ノ安市ヲ愛シ居リシ様子、安市ガ生前ヨリ幼稚ナル幼兒ニシテ而モ死直前風ヲ引キ乳汁ヲ口ヤ鼻ヨリ戻シ且下痢ヲナシ居リシ等ノ事情ヲ綜合シテ考察スルニ、九月二十九日ノ申立ヲ眞實ト思考スルヲ穩當トス

七、法律の觀察

被告ハ醫學的ニハ精神薄弱者ニシテ而モ極メテ低位ニアル痴愚者ナルコトハ已述ノ如シ然ラバコハ刑法ニ所謂心神喪失或ハ耗弱ノ何レニ相當スルカト云フニツノ鑑別困難ナリ刑法第四十條ニヨレバ瘖啞者ノ行爲ハソノ精神の發育不完ノ爲メ之ヲ罰セザルカ或ハソノ罪ヲ輕減シ同第四十一條ニ依レバ十四歳未満ノモノハ責任無能力トナセリ刑法ノ此精神ニ依レバ、如ク八九歳ノ小兒ニ

モソノ智能及バザル痴愚者ハ責任無能力者ト見做スヲ至當トス
丁、鑑定
上記検査及説明ノ理由ニ依リ左ノ如ク鑑定ス
一、被告ハ、大正〇年九月二十一日ニ於テモ現時ニ於テモ甚ダ低位ニ在ル痴愚者ニシテ法律上責任無能力者ト云フベク強イテ之ヲ刑法上ノ語ニ適用スレバ刑法第三十九條ニ所謂心神喪失者ト見做スヲ至當トス
此鑑定ハ大正〇年〇月八日着手
同年十一月〇〇日終了
鑑定人 醫師 小南 又一 郎 附

二、變質性精神病—變質者

本症ハ退行性精神病又ハ病的的精神狀態トモ云ヒ、身體及智力ノ發育ニ著シキ異常ナキモ、性格ノ或方面ニ於テ幼時ヨリ著明ナル偏倚ヲ來シ、社會或ハ仲間ヨリ變人、畸人トシテ除外セラレ、ヲ常トス。變質者ハ狹義ノ精神病者ト健康者トノ中間ニ位スルモノニシテ、或ハ之ヲ中間者又ハ低格者ト名ヅク、中間者ノ大部分ハソガ遺傳關係ヲ有スルモノニシテ、多クハ所謂變質徵候ヲ有ス、通常變質者ヲ分チテ神經質者、色慾異常者、體質性神經衰弱者、強迫觀念症者、體質性沈鬱者、同興奮者及病的性格者ニ區分ス。今此等ノ大體ニ就テ述ベシ。

(イ) 神經質者

又ハ偏倚者トモ云ヒ、智力ノ發育ニ不均等ヲ來スモノニシテ、例ヘバ詩歌、文學等ニハ巧ミナルモ毫モ數學的智識ナキモノ、或ハ或技術ニハ非常ニ秀テオモ、品行素行ノ少シモ修ラザルガ如キモノ等、所謂

變質性精神病

中間者

神經質者

天才肌ノ人ニ神經質者多ク、想像豐富、虛構ニ巧ニ、感情ハ平靜ナラズシテ烈シキ變換性ヲ示シ、意志強固ナラズシテ倦怠シ易ク、從テ行狀放肆、散漫ニシテ、恒常的生活ヲ營ミ難シ、常ニ感覺過敏、頭痛、食慾不振、睡眠障礙、色慾異常等ヲ訴ヘ、變質症狀ヲ有スルモノ多シ。
本病者ノ犯罪的行爲ハ輕キモノニテハ責任能力アリト云フベク、甚シキ變質者ニテハ心神耗弱者ト見ルヲ至當トス。

民法上ニハ患者ノ職業ト、疾病ノ程度ニヨリ、處分能力アルトキアリ、或ハ準禁治產トスベキ時アルモノナリ。

(ロ) 色慾異常者

變質者ノ外ニ、白痴、痴愚、或ハあるこほる中毒者、早發痴狂者ニモ、色慾異常ヲ來スコトアリ。自然ノ交接ヲ嫌ヒテ手淫ニ耽ルモノ、色慾甚シク昂進セルカ或ハ全ク之ナキモノ、猥リニ陰部ヲ異性ノ前ニ暴露シテ喜ブモノ、同性愛ヲ好ミ鶏姦ヲ快トスルモノ、苦痛ヲ加ヘ或ハ加ヘラレテ色慾的快感ヲ感ズルモノ殺人淫樂症者、異常ノ糞尿ヲ食ヒテ快トスルモノ、獸姦ヲナスモノ、或ハ屍體ヲ姦シテ色慾ヲ滿スモノ等ハ變質者ニ多キ事ハ己ニ前述セルガ如シ。

法醫學的ニハソノ行爲ノ動機ト、犯者ノ精神狀態トヲ探究シテ或ハ責任能力者トシ、或ハ心神喪失者トシ、又處分能力等ニ就テモソノ有無ヲ一概ニ論ズベカラズ。各個ノ場合ニ就テヨク探究スベシ。

(ハ) 體質性神經衰弱者

本病ハ精神過勞ニ依テ生ズル神經衰弱症ト殆ド同様ナル症狀ヲ生來性素質トセルモノナリ、而シテソノ

色慾異常者

體質性神經衰弱者

精神能力ハ甚ダ高等ニ達スルモノスラアリ、常ニ疲勞シ易ク、頭重、眩暈、睡眠障礙、生殖或ハ消化機能ノ障害ヲ訴ヘ、時トシテ妄覺ヲ來シ、多クハ感情冷酷ニシテ、自我心強シ、即チ本病ハ輕度ノ痴愚、破瓜病、躁鬱病或ハ麻痺狂ノ初期ト相類似セル點アリ、本病患者ノ大部分ハ、法律的ニハ責任能力及處分能力ヲ有スルモノナリトス。

(二) 強迫觀念症者

本病ハ多クハ生來性神經衰弱ト相伴ヒテ來リ、或事ニ遭遇スル時ハ、堪ヘ難キ苦悶ニ襲ハレ、而モ此苦悶カ不合理ニシテ笑フベキモノナルコトヲスラ自身ニ十分承知シ居リテ尙之ヨリ離脱スルコト能ハザルモノナリ。即チ臨場苦悶、閉鎖恐怖、暗黒恐怖、水淫、異性恐怖、疾病恐怖、鐵道恐怖及ビ恐怖苦悶等ノ如キヲ見、又是等ノ恐怖ニ附隨シテ一種ノ強迫行爲アルコトアリ、例ヘバ疑惑症、記名症、計算症、穿鑿症等ノ如キ之レナリ。此強迫行爲ノ著シキモノヲ名ヅケテ衝動性精神病ト云フ、コハ自己ノ犯行ヲ自制スルノ能ナク、強迫性放火、殺人、姦淫乃至罵詈等ヲナスモノニシテ、此強迫性衝動ノ起ルトキハ、如何ニシテモ之ヲ制禦スルコト能ハズシテ敢行シ、ソノ目的ヲ達スルヤ多大ノ慰藉安堵ヲ感ズルモノナリ、變質者ニ非ラズシテ強迫觀念或ハ行爲ヲ起スモノハ、早發痴狂、癲癩、ひすてり等ナリ。

今茲ニ強迫性衝動行爲ノ一、二例ヲ舉グレバ左ノ如シ。
放浪衝動、漫遊ノ念勃然トシテ起リ、旅費ヲ所持シテ家ヲ出デ、屢々數ヶ月ニ亘リテ所々ヲ放浪シ、旅費盡クルカ若クハ浮浪ノ生活ガ障礙ヲ受クルニ至リテ止ム。
放火、其動機ニ就テハ患者ハ明白ナル陳述ヲナス事能ハズ、衝動的ニ放火スルヲ以テ、連續シテ無意味ナ

強迫觀念者

衝動性精神病

放浪衝動

月經時萬引

殺傷衝動

ル放火ヲ爲スヲ例トス、殊ニ春機發動期ノ女子ニ於テ觀察セラル、事最モ多シ。

窃盜、無意義無目的ノ窃盜行爲ヲ爲スモノニシテ、殊ニ月經時妊娠時ノ女子ニ多シトス、窃取スル物品ハ盜者ニ取リテハ何等ノ價値ナキモノ多シ、例ヘバ用途モナキ衣服ヲ數多萬引シ、死藏スルガ如キ之レナリ、ソノ他病的濫買症ナルモノアリテ、無價値無意義ナル物品ヲ濫買シ、或ハ迷信ニ驅ラレテ無暗ニ物品ヲ蒐集貯藏スルモノアリ。

殺傷衝動ハ法醫學上甚ダ注意スベキモノニシテ、故ナク目的ナク無意義ニ、而モ突然ニ、殺人行爲ヲナスモノナリ。例ヘバ、子守女ガ自己ニ委託セラレタル小兒ヲ愛撫シツ、モ、不明ノ理由ノ下ニ、突然殺傷スルガ如キ多クハ此例ニ漏レズ。

法醫學的ニハ極メテ慎重ニ各個ノ場合ヲ鑑定スベシ、即チソノ行爲ノ原因、行爲間或ハソノ後ニ於ケル精神状態ヲ注意シテ診定シ、責任能力ノ有無ヲ決定スベシ、ソノ重症ナルモノニハ勿論責任能力ヲ問フ能ハズ、次デ民法上ニ於テハ處分能力者ナルカ或ハ準禁治產トナル場合多シ。

鑑定實例

鑑定書
大正〇年〇月〇日〇〇地方裁判所豫審廷ニ於テ豫審判事〇〇〇ハ

原籍
住所
平民奉助長男

〇〇文助

明治〇〇年〇月〇日生

第三編 法醫學的精神病學 二 變質性精神病變質者

ニ對スル殺人未遂被告事件ニ付左ノ事項ヲ鑑定スベキ旨ヲ予ニ命ゼリ
一、被告文助ハ大正〇年〇月廿七日午前四時頃、宅ニ於テ實弟文二ヲ斬リタル當時精神状態ニ異狀ナカリシヤ否ヤ
二、若シ異狀アリシモノトセバ心神弱ノ状態ニ在リシモノナルヤ又ハ心神喪失ノ状態ニアリシモノナルヤ尙ホ被告ノ前記傷害行爲ハ其精神障礙ニ起因シタルモノナルヤ否ヤ
三、被告文助ノ現時ノ精神状態ニ異常ナキヤ否ヤ若シ異狀アラバ

其程度如何

依テ予ハ同年九月五日及同年十月廿八日ノ二回〇〇監獄ニ出張シ親シク同人ヲ檢診シ本件記録ヲ參考シテ此ノ鑑定書ヲ作ル

一、既往歴

甲、遺傳關係

文助ノ父泰助ノ實母ノ娘〇〇〇〇ハ京都在住中今ヲ去ル十年前六十歳位ノ時財産ヲ失ヒタルヲ苦慮シ精神ニ異常ヲ來シ京都癲狂院ニ入院シ變死セリト云フ此他血族中ニ精神病者ノ存在ヲ聞カズ

父泰助ハ五十五歳ニシテ健在シ現時醫師ノ職ニ從事ス明治廿四年ノ交ヨリ債務ノ爲自棄ノ結果酒ニ耽ミ文助出生ノ頃ニモ暴飲甚シク其二、三歳ノ時ニ達ニ酒客癡妄病ニ罹ルニ至リ其幼少ノ際ニハ性行荒々些細ノコトニモ其子ヲ叱責スルコト甚シカリシガ後全治シテ〇〇ノ職ヲ奉ズルニ至リ次男文二ノ幼時ハ溫和ナリシト云フ母ウメハ四十九歳ニシテ健存ス二弟文二文三共ニ健ナリ(以上一件記録中……………参照)

乙、生活歴

文助ハ明治〇〇年九月廿六日〇〇縣〇〇市ニ生ル八歳ニシテ同地ノ師範學校附屬小學校ニ入りシガ間モナク父ト共ニ〇〇國ニ轉ジ居ルコト五ヶ月程ニシテ〇〇國〇〇ニ移リ茲ニ小學三、四年ヲ了セリ次テ同地ヲ去ル二、三里ノ杉木新ニ移リ後〇〇ニ行キ高等小學校三年ノ一學期迄通學セシガ母及弟ト共ニ〇〇市ニ來リ父ト別居シ〇〇市立第二高等小學ニ入り之ヲ終リテ〇〇府立第二中學校ノ入學試験ニ合格セシガ登校スルニ至ラズシテ一家ノ七尾ニ轉ズルト共ニ七尾中學校ニ轉校シ同校ニテ二學年終了ノ後〇〇府立第二中學校ニ戻リ大正〇〇年二十一歳ニシテ同校ヲ卒業セリ此際成績優

等ニシテ第〇高等學校ニ無試験ニ入學ヲ許可セラレ文助ハ物理或ハ數學ヲ志望セシモ便宜上工科ノ隣ビタリ

大正〇〇年中學五年ノ夏期休暇ノ時一家ノ播州明石ニ移リシヲ以テ同地ニ歸省中一日海水浴ヲ取りシニ腹痛下痢ヲ來シ始メハ粘液血便等ヲ見弱症劇烈ナリシガ次第ニ寛解セシモ全治ニ至ラズシテ爾來秘結下痢ノ變態スルヲ常トセリ然レ共中學五年ノ二、三學期共ニ登校シ業ヲ終ヘシガ第〇高等學校入學後ハ病勢増進シ倦怠甚シク記憶判斷ノ減弱ヲ感ジ一ヶ月程モ就學セシヨアリテ暫時登校セシガ遂ニ堪ル能ハズシテ休學ヲ決シ歸宅シ療養ニ力メタリ主治醫ハ此病症ノ結核症ナラザルヤヲ疑ヒ本年二月頃ビル氏及カガめツ氏試驗ヲ施セシニ輕度ノ反應ヲ呈セリト云フモ其後大阪赤十字病院ノ診斷スル所ニ依レバ結核症ニ非ラズト云フ而シテ自覺的ニ症狀依然タリシニ依リ猶休學ヲ續ケ居リシガ滿二年ニ互ルノ故ヲ以テ退學願ヲ提出スベキヲ命ゼラレ本年八月十八日其總評ヲ得タリ(以上一件記録……………参照)

文助ハ責任感良ニシテ一見陰險氣ト稱スベク而モ感激シ易キモ曾テ粗暴ノ舉ニ出デシコトナク物ニ執着スルコト強ク一旦感情ヲ害スルコトアレバ對手ヲ凝視スルコト久シキニ亘リ又事ヲ尋ムルニ當リテモ之ヲ追求シテ止マザルノ傾向アリ萬事ニ細心ニシテ故塔ナラズ又感情強ク學科トシテ昆蟲採集ヲ命ゼラル、モ之ヲ爲スニ忍ビズ又曾テ蛙ノ解剖ヲ見テ啼泣スルニ至レルコトアリト云フ嗜好トシテハ好シデ機械ヲ弄シ小細工ヲナシ唱歌ニ向フテハ特ニ趣味ヲ有シ中學ノ學課中物理數學ハ其最モ好ム所ニシテ成績ハ一般ニ優良ナリシト云フ(以上……………参照)

二、犯罪頭末

文助ハ父ト共ニ文二及文三ハ母ト共ニ臺所ニ蚊帳ヲ同ジクシ

同所ニ至リ入り來ルヤ鑑定人ニ向ヒ一體シ鑑定人ノ上ヘ昇リテト云フヤ自ラ椅子ヲ持チ段ヲ昇リテ腰ヲカケ後解帶シ始メシガ鑑定人ノ命ニ依リ再び之ヲ結ブ茲ニ於テ問診ヲ初ム

〇〇市ノドコ

ハア

イタツカ

廿三デス

明治何年生レデスカ

明治〇〇年九月

九月

廿六日生レデス

九月廿六日

ハア

ドコデ生レマシタ

〇〇縣〇〇市

何ト云フ町カ知リマセン

間イテオランカ

ハア

幾ツ迄〇〇市ニ居マシタカ

ハツ迄居マシタハツ迄居マシタケレドモアツチコツチヘ行ツテ山科ニ居タコトモアリマスシート所ニ居タト違ヒマスカラ

學校ニ遣入ツタカ〇〇デ

ハツノ年ニ〇〇市ノ師範ノ附屬ニ遣入マシタ

イタツマデ

遣入ツテカラ直ニ父ガ〇〇ノ方ニ行ツタノデ私モツイテ行キマ

テ寢床スルヲ常トセシガ大正〇〇年八月廿六日偶父泰助ハ業務ノ爲メ他行セシニ依リ同夜文助ハ文二ニ向ヒ奧六疊ニテ共ニ寢ルコトヲ勸メシニ文二ハ初メ之ヲ好マズトテ應ゼザリシガ母モ共ニ勸メシカバ文二ハ遂ニ從ヒ九時半頃ニ文助ニ先ンジテ寢ニ就ケリ

三、檢診記録

第一回檢診(大正〇〇年九月廿五日〇〇監獄拘留監訊問所ニテ)

能登ノ〇〇カ
ハア

ソコデ學校ニ行キマシタカ

ソコデハ二ヶ月バカリシカ居ランモンデスカラ學校ニ行カズニ
高岡ニ行ツテカラ

越後ノデスカ

アレハ越中デス

ソコデ學校ニ行ツタノデスカ

ハアソコデ三年生カ四年生迄居テ(杉木新)ト云フ高岡カラ二里
カ三里ノ所ニ變リマシタ

ドウカキマスカ

杉ノ木ノ杉ソレカラ木ソレカラ新ラシイト云フ字ダロウト思ヒ
マスコク知リマセン

ソレカラ

ソレカラ〇〇デ高等ノ三年ノ一學期迄ヤリマシタソレカラ〇〇
ニ來テ高等ヲ卒業シマシタ

ドコデス

〇〇市立第二高等小學校デス

ソレハドコデス

〇〇市高辻通り〇〇(ヤ、迷ヒツ、)西南角デス

小學校卒業迄ソコニ居マシタカ

ハア

ソレカラドウシマシタ

ソレカラソノ小學校ガスンデカラ〇〇第二中學校ニ試驗ヲ受
ケテ道入マシタ其時亦私ノ家ガ〇〇ニ變ツテ行キマシタカラ直

グニ家ニ歸リテ〇〇ノ中學校ニ轉學シマシタ
〇〇ノ中學ヲ卒業シマシタカ

二年終リマデ

ソレカラ

ソレカラ又〇〇ニ來テ第二中學校ヲ卒業シマシタ

幾歳ノ時ニ卒業シマシタカ

大正〇年廿一歳ノ年デス

ソレカラドウシマシタ

ソレカラ〇〇高ニ道入りマシタ九月カラ第一學期丈ケ居リマシタ

私ノ五年ノ時内ガ明石ニ變リマシタ家ニ歸リテ二日程タツテ海

ニ道入ツタラ腹痛ガ痛ンダノデソレデ近所ニ居ル醫師ニ見テ貰フ

テ治ツタガマダ一寸イ一寸イ腹痛ガ痛ミダシタリ下痢シタリスル

許リデシタ

ソレハ中學校ノ時ダネ

ソウデス五年ノ夏休デス

ソレカラ

ソレカラ二學期三學期モ少シ痛タンゲレドモホツテオイト醫

師ニカ、ランデモ治ルゲロウト思ツテ居マシタソレカラ〇〇高ニ

入學スルコトニキマツタノハ六月末デシタロウ其時一度醫師ニ

見テ貰ツタコトガアリマシタソノ時迄ハ腹痛ガ痛ンデ一寸イ、

下痢スル許リデシタガソレカラ體ガ辛度クナツテゴ、シタ

クナツタリスルモンデスカラ一月バカリ休ンデ居マシタ

何科ニ道入ツタノデスカ

工科……ソレカラ少シ暖カツタリ寒カツタリナンゾスルト身

體ガ辛度クナリテ工合ガ悪カツタンデス

此頃モ工合ハヨクナイカネ

ドウモヨクアリマセン結シテ五日モ六日モ出マセン氣張ツテモ
出マセンソレガ又ドウツト下ツタリシテ腹痛ガ痛ムノデス

ソウカ

前カラ腹ハ……ゴク少ナイ時ハ知リマセンガ前カラ結スル方

デ二三日モ出マセンソレカラアト下ル方デシタ海ニ道入ルノガ

嫌イデガタ、振ヘマスカ嫌ダツタノデスカ父ナンカ海ヘ道入

ル方ガヨイト云フノ道入リマシタ……ドウモ明石ノ水ハ冷

イデス七尾ノ方デスト暑イ時ニ一寸イ、道入ツタコトモアリ

マスガ明石ノ方ハドウモ冷イ様デス

冷イ

ハア

二部ニ道入ツテ何ヤロウト思ヒマシタ

始メニ二部ノ乙ニ道入ツテ物理デモヤロウト思ヒマシタガ甲ニ

道入ツテオレバ乙ニ代レルト動メテ呉レタ人ガアリマシタノデ

甲ノ方デスト電氣カ機械カ……私ハ甲ノ方ニ道入リマシ

テモアトデ物理ノ方カ何カニ代リタイト思フテ居マシタ

重ニ惡イノハ胸デスナア

私ノ惡イト思フハ胸デス、胸ガ惡クナツテカラ身體ガ辛度ウテ

寝タイト思フコトガアリマスコレバカリデナク身體ガ辛度クテ

讀ンダリ書イタリスルコトガドウモ惡ウナツタ様ニ思ヒマス

胸ガ惡ウナツテカラカ

ドウモ胸ガ惡ウナツテカラノ様デス

中學校デハ何ガ面白カッタカ學科デハ

一番面白ク思ツタノハ物理デスソレカラ數學ソレカラ唱歌ハ小

サイ時カラ好キデシタ小サイ時カラ唱歌カ機械ノ機ナモノガ此

二ツガ小サイ時カラ一番好キデシタ……此頃ハ覺エタリ考ヘ

タリスルコトガ出来ナクナリマシタソレカラ中學ノ一二年頃カ
ラ聲ガ出惡ク、ナリマシタソレデ體ニ之ハ普通デナイト思ヒマ

ス去年デシタカ一昨年デシタカ一昨年デシタ京都デ咽喉ヲ見テ

貰ヒマシタ別ニ何トモナイカラ仕機ガナイト云ハレマシタ聲

ガコウアーアー……(聲ヲナシ)トコウ出惡ク、ナリマレ

テ今氣張ツテ分ル様ニ話ソウトシテ居マスカラデスカ唱歌ナン

カ連モ歌ヘマセン

イツカラ茲ニ居マスカ

此監獄ニ

廿七日カラデス後月ノ

内カラ直ニ來マシタカ

廿七日朝ニ何シマシテ……(稍赤面シ)

朝ドウシマシタカ

朝其事故ヲ起シマシテソレカラ〇〇警察ニ行キマシテ日ノ暮レ

方茲ニ來マシタ

廿七日ノ朝デスネ

ハア

警察ニ自首シタノデスネ

ハアソウデス

ドウシタソレハ

……(首俯シ、暫時無言ノ後)ツイアンナコトヲシテシマフテ

(赤面シ長大息シ、稍小聲ニテ)

第ノ工合ハドウデス

何モ聞キマセン……ケレドモソノ朝警察デ聞イタ時ハ傷ハ極

淺イ

警察デ

警察デ巡查ノ方ニ聞イタ時ニ傷ハ極淺イト云ハレマシタ無論腹立紛レニナツタノデスケレドモソナニヒドクヤル積リデハアリマセンデシタソレド今頃ハ直ツテ居ルダロウト思フテ居マス始終仲ガ悪インデスカ弟ト

ズーツト前カラ仲ガ悪カッタデス(此時ヤ、キマリ悪ゲニ)……此間カラ一月程監房ニ居テ文二トアノ弟ト

文二トハドウカクカ
文二ト云フ字デ文二ト云ヒマス
君ハ文助ト云フノカ

ハア……ソレデ此方ニ居ルト何モ忘レテ居テ立ツテモ居テモタマラント云フ様ナコトハアリマセン

ソウスルトコ、ニ來テカラハ樂デスネ

ソウデスコ、ニ來テカラハ極樂ニ來テ居ル様デス監房ニ五人モ居テウヂヤ、話サレルニハ協ヒマセンカツタガオ蔭様デ今朝室ヲ代ヘテ頂キマシタ

ソレデ樂ダネ
ハアホンマニ極樂デス色々ノコトヲ考ヘマセンノデ本デモ讀ンデ居マスカ

ハア(書名ヲ逸ス)ト云フ本ヲ借シテ貰ヒマシタ此處ノ本カ

ハアソレカラ中學ノ同窓ノ友ガ(書名ヲ逸ス)ト云フ本ヲ入レテクレマシタノデ……(泣氣味トナリ)何かコウアンナコトヲシタ様ナ氣ガハツキリ判リマセン聞イテハ怒リ、シテ居ルヨリハナンボ樂ダカ分リマセン(尙泣ク)

外ノ兄弟トハ仲ガ宜シイデスネ

モウ一ツ下ノ

ア外ノト
マア別ニ悪イコトモアリマセン
ヨイコトモナイノカ

ツマリ九年前カラ心ガコウオカシクナリマシテ私ト文二ノ時ハア、デアツタノニ文二ト文三ノ時ハ
文三トハドウ書タカ

數字ノ三デス……ナンセソノコトバカリ考ヘテ腹立ツノデスカラ私ノ頭ガコウ何ガ別ラナタナツテ居マスソレデ仲ガ善イト云フテヨイカ悪イト云フテヨイカ分リマセン……(泣キ)ダン、後ニナツテ來ルト從テ早ク思ヒ出シテ

近頃ニナツテカラカ
ハア近頃ニナツテ早ク思ヒ出ス様ニナリマシテ……近所ノ遊ンデル子ヲ見テモ腹ガ立ツテ困リマス

ナゼソウ云フ風ニナツタノカ
其腹ノ立ツ様ニナツタ原因ハ此間警察ト豫審トデ大體申上ゲマシタ

アレデ大體デスカ
ハア其實例ヲ云ヒマセント一、二年前マデハ實例モ澤山知ツテ居マシテ思ヒ出シマシタガ近頃ハ腹ガ立ツテ、ヨク思ヒ出セマセン

イツ頃カラソナニ腹ガ立ツ様ニナリマシタカ
前ニ文二ノ時ハコウデアツタガ文二ト文三トノ時ハコウデアルト思ツテ腹ガ立ツ様ニナツタノハ大正一年夏休デス

其時ニドウシテデシタ
又御話シテモ宜シウ御座イマスガ御話シスルト思ヒ出シマシタ

イヤニナリマスカラ豫審デ御話シタノヲ御覽ニナツテ下サイ(泣キ長息ヲナスモ表情ニハ悲シキト稱スベキヨリ寧ろ殘念ノ色ヲ早ス)

宜シイソレデモ分ラン處ガアツタ時ニハ御氣ノ毒ダガ聞カンナラシ

ハア
ソレハイツ頃カラデス
二年許リ前カラデス

阿呆ラシイト思ハンカ
ソレハ阿呆ラシイト思ヒマスケレドモツマリソレガ思フテ來ルノデス……(途ニ稍苦悶ノ色表ハル)

ソノ日ハ喧嘩デモシタタメニ殊ニ癪癪ガ出タデスカ、其日ハ大シタコトハナカツタデス其一日前カ二日前ニ腹ガ立ツコトガ二ツ許リアリマシタ一ツハ何か今ハハツキリ覺エテ居リマセン

ガ一ツハ豫審デ御話シタコトデス
ソレハドウ云フコトデシタ

ソレハ其事ダケダツタラツマラン事デスケレドモ前カラノ事デ連絡シテル事デスカソレデ今カラデモ話セト云フコトデシタ

ラ御話シマスガ此間ハ忘れ様ニナツタノデ又思ヒ出スカラドウ豫審デ話シタノヲ御覽ニナツテ戴キタイノデス

其日ハ寢タムカ寝ンノカ
自分デハ寢ナカツタ積リデスケレドモ外カラハ寢タトカ……

ソレデ前ノ晩カラ考ヘテ居タノカ
ハア思ヒ出シテ腹ガ立ツタノデシタ

ソレデ殺シテヤロウト思ツタノカ
ソレハ初メカラ殺シテヤロウト思ツテマセン只腹ガ立ツテ腹ガ

立ツテ
ソレガナゼ腹ガ立タノカ
ソレデ三時頃ニ便所ヘ行ツテ出タ時ニ機ニ机上ニ小刀ガアツタモンデスカソレヲ持テ遣入りマシタ

其時ノコトヲ覺エテルカ
持テ行ツタハ知ツテ居マスケレドモドウスルト云フ覺ハアリマセン

便所ニ行タ時持ツタノカ歸リニ持ツタノカ
歸リニデスソレハ檢個ニシバラク立ツタノデス腹ガ立ツテ、ソレカラ持ツタノハ知ツテ居マスガナゼシタカハ覺エマセン

ソレデハソノ話ハ止メニシテ今ハ何モ考ヘナイカ
ソレハ何モ考ヘテ居マセン只ドウシテアナンナコトヲシタカ自分デモ人ヲ殺ス様ナ男デハナイト思ツタマスノデトシタハシダナイコトヲシマシタ(泣ク)

「コレデ宜シイ」ト云ヒタルニ立上リ一禮シテ去ラントスルニ當リ熱ハナイカ

熱ハ分リマセンガ
入院シタコトアルカ

ハア〇〇ノ府立病院ニ
何ト云フ先生ニ診テ貰フタ

工藤サンデスアル時ニハ卅八度位ニナルコトハアリマシタ
七度ノ下ニナルコトハナイカ

ワカリマセン……秘結スル時ハ行ツテ氣張ツテ見テモ出マセン出シタイトモ思ヒマセン

體格強大ナラズ一見婦女子ノ如キ觀ヲ早ス檢診中禮節ヨロシク靜肅ヲ守リ一般ニハ容貌活潑ナラザルモ檢診ノ前中己ノ經歷ヲ述

ブルニ當リ追想ヲ要スル際ニハ正當ナル表情起リ又後中ニ於テ犯罪及其動機ニ付物語ル際ニハ一般兀奮表ハレ又時々悲哀苦惱ノ殘念ノ色顯著ニ表ハル、ヲ見ル又著明ナル感情ノ異動ナキモ考慮ノ際顔面少シク潮紅ス

第二回檢診 十月廿八日

前同所ニテ檢診ス

ドウデス

此間カラ段々トイ、ヤウニ思ヒマス腹ノ工合ガヨウナイヤウデ十日モ便ガ出ナイノデ薬ヲ戴キマシテモ腹ガ痛カッタリ氣分ハドウデス

此頃ハ大分アノ色々毎日、腹ヲ立テンノ氣ガノンビリナツテヨイヤウデス

家ニ居ル時分ハ腹ガ立ツタノカ

ソレハモウ毎日、腹ガ立チマシテ(狼狽ノ笑ヲ洩シ、)休學シテカラハ始終家ニ居ルデシヨウ

マアソナモノデス

何日頃カラソナニ腹ガ立ツ様ニナツタネ

ソレハ今カラ九年前ニ私ガ十四デ文ニガ五ツテ魚津小學校カラ變ツテ母ト私ト文ニガ三ツ位デ其時カラデス

其時カラ續ケテ毎日ノ様ニ腹ガ立ツノカネ

ソレハ一通リ豫審列事サンニ話シタア、云フ譯デ別ニ續ケテ毎日ト云フ譯デハアリマセン記録ヲ……………

私ハ讀ンダ

ア、云フ譯デ私ガ目ノ黒イ内ハ何モ文ニト物云フコトイラント云フヤウナ譯デ

ソレデ

私ガ〇〇ニ居ル間デモ母ニ叱ツテタレト云フテモ私ガ大キイサカイト云フテ叱ツテタレト云フテモ居ルガ廿日モ續イタノデ……………大キイサカイト云ハレテハ私ハ分ツテ居ルガ私ノ居ル前デ一度文ニ叱ツテタレト云フテモ一度モシカツテタレト云フテ文ニハ段々私ヲ侮ルノデサウ云フコトガ廿日モ續キマシタガ其時ニ母ガ一度モ叱ツテタレ、バヨイノニ、ソレガ忘ラレタレノデ、ソレガ忘ラレタレヲヨイノダケレドモソレガ忘ラレタレノデ、レツケテ何モカモ腹ガ立ツテ仕方ガナイノデ其事ガ何度モ思ヒ出サレテ……………私ガ直接ニ文ニ指圖シテモヨロシイト云ハレタレヨイノデスケレドモソレモナラズ母モ叱ツテタレズソレデ私ハソレガ少シモ忘ラレズソレガノカンノデ私ガ〇〇ノ二中ノ入學試験ヲ受ケテ遺入ル二三日前位ニ母ガ七尾カラ……………私ガ〇〇ニ來ル時ハ魚津ニ居マシタガ……………七尾カラ來テ七尾ヘ二中カラ轉學シタノデ歸ツテカラ母モ私モ文ニモ同ジ家ニ居ルモノデスカラ同ジコトニナツタノデス

サウ云フ昔カラノコトヲ覚エテオトルカ

ソレハ何干アルカ何萬アルカ分ランケレドモ一々ノ悉シイコトハ一々ハ覺エマセンガマッリ私ガ文ニ直ニ云フタライカソ母ニ云フテモ叱ツテタレト云フテモソレハ大キクナツタラ辛抱シタラヨイノダケレドモトハ思フテハ居タノデスケレドモソレガ文ニガ文ニノ三ツ下デ始メ〇〇ノ叔母サンノ所ニ居タ時ハ文三ト文ニト丈ケハ喧嘩スルコトハナイガ段々大キイナツテ文三ト文ニト丈ケハ喧嘩デモシテモ其時ニハ文ニガ惡イコトシテ、モ文ニガ私ノ目ノ黒イ内ハ何モ云フタライカソト云フ譯ナラ私ハ何トモナイデスガ文ニノ時ハソナノコト云ハレズニ私ノ時ハ大キイモノハ辛抱セニヤイカソト云フノデス時ニハ文ニハ大キイ

カラ辛抱シタラヨイト云ハレルコトハナイデハナイガ多クハ文三ト文ニノ時ニハ文ニガ惡イト云ハレルノ前ノ私ト文ニトノ關係ト文三ト文ニトノ關係ヲ思ヒ較ベテ腹ガ立ツテ仕方ガナカツタノデス何事デモソウ云フ風ニ思ヘテ一寸シタコトデモサウ云フ様ナ様ニ思ヒマス……………(暫時中絶ノ後)大變寒イデス

此時十一時文助ハ戰慄ヲ呈スルヲ以テ増衣ノ爲メ一時退場シ十一時十一分再ビ入り來ル

宜シイカ

ヘイ

行ケサウカ

ヘイ

寒イカ

コレデ宜シウ御座リマス此間一ヶ月程前カラ何カ出來タノカ鼻ノ中ニ物ガ出來テソレカラ顔ノ(右頬ヲ指シ)ガ、ヒツクリスルコトガアル様デス……………二、三日前カラ氣分ガ惡イ様デス

熱ガアル様ニ思ハンカ

サア熱ガアル様ニモ思ヒマセン

時々家デハ氣ニ入ランコトガアルノデスナア

ツマリ私ガ大キイサカイト云ハレ自分デモ叱ルコトガ出來ズシテ腹ガ立ツンナコトガ仰山アツタケレドモ一ツ、ノ事柄ハ

二、三年前マデハヨク覺エテ居リマシタガ二三年此方ハ腹ガ立ツ方ガ先キニ立ツテ一ツ、ノコトハ忘レテシマヒマシタ一ツ

二ツハ判事サンニモ話シマシタ七尾ニ居ル間ニモ文ニガ惡口云フタリシタ時ニモ自分ニモ叱ラセズ私ガ前ヨリ思フテ様ニ

私ヲ侮ツテ惡口ヲ云フ様ニナリ文ニト私トノ間デドチラニシテ

モ私ガ叱ルコトガ出來ズソレガ一段落デ腹ノ立ツノガ止ミカケ

テ居タノニ文ニト文三ノ時ニハ私ノ目ノ黒イ内ニハト父ハ云ズドウ云フ譯カ文三ノ方ガヨケレ叱ラレル様デ大キイモノハ辛抱セイト云フノモ意味ガナイ様ニナツタ譯デ文ニト叱ラナイ爲メノコトノ様ニ思ハン腹ガ立ツシ私ガエラサウノヤウデスケドモ文ニニ私ガ物デモ教ヘヤウトスルトソナノコトヲセイデモヨイト云フ様ナ譯デ毎日、腹ノタ、ン日トテハアリマセンデシタ私ガ親切ナ心デ文ニ云フト叱ラレルシ文ニガ文三ヲ叱ツテモ何トモ云ハレズ立テモ居レン様ニナリマス

サウ云フ時ニハドウシマス

文ニガ文三ヲ確イ言葉デ叱ツテ居ルカラソナノコトナイ様ニ叱ツテ下サイト何遍云フテモ言ツテ呉レズソレデ腹ガ立ツノデス

是迄ハ袖ガ立ツト外ヘデモ出ルカ

タマラナクハナリマスガ外ヘ出テモ仕方ガナイカラジツトシテ居マス(稍兀奮シテ)

ソレナダネオ母サンガ例ノガ起ツテ居ルト御父サンニ云フタノハ

二人ノ人間ガ居ツテドウチカラト云フコトナシニ惡イコトヲシテル時ニ一方ノ人ガ黙ツテ聞イテオトル一方ガ話シテ居ル時ニ慣ル様ニ云ハレルト其時ニ云ハレタモノ丈ケガ腹ガ立チマス

此答ヲ引續キテ更ニ述アル所アリシモ其意ヲ解スルニ難カリシヲ以テ圖ヲ以テ説明セシメタルニ茲ニ甲乙二人アリ互ニ惡意ナク語ヲ交ハシ居ル際ニ第三者アリテ甲ノ發言中ノミ叱責スルコト反復

ストセバ第三者ニ惡意ナシトスルモ甲ハ遂ニ自己ノ叱責セラル、モノナラズヤトノ念ヲ起スモノニアラズヤトノ意アルヲ明ニシ此

甲ハ文助自身ニシテ乙ハ文ニニ當ルヲ附加セリ

コウ云フコトガ一日ニ何遍ト云フコトナシニ御飯ヲ食ベル時ニ

モアルサウスルト御飯ヲ食ベルコトハ日ニ三週アル其間ニモアルサウスルトドレ程アルカ分ラン様ニナル
サウ云フ時ニハ飯モ止メルカ

止メル様ナ元氣ハアリマセン(泣顔ヲ呈ス)殿ツタリ職ラレタリ
……ソレヤ(稍鎮靜ス)今デモ……此頃ハサウハツキリシマ
センガ二三年前マデハ何か大キナ音デモスルカ御父サンノ聲デ
モ聞エルト此邊ニ(頭部ヲサシ)御父サンノケンコツガ來ル様ニ
思ヘマス別ニ自分ガ惡イコトヲシテ居ランデモソナニ思ヘ
マス

サウ毎日アルカラ本モ讀メナクナルカ

ソレデ昔私ガ別ニオコルデナク當前ニ話シテモ私ガ怒ラレル文
二ト文三ト遊ンデ居ル時ニハ普通ノ子供デ別ニ大シタコトナシ
ニ一方ガスコイコトヲスルンデスケレドモソレヲ文三ガ文二ガ
餘計スコイコトヲスルンデスケレドモソレヲ文三ガ文二ガ
テ居ラレル様ナ工合デスカラ文二ガ文三ガスコイコトヲスル
云フト文三ガスコイコトヲスルンデスケレドモソレヲ文三ガ文二ガ
文二ガスコイコトヲシテモ親ハ別ニ何モ云ハナイ……ソレヲ
家デ本ヲ讀ンデ居ツテ文二ト文三トノ争トカ文二ガ文三ヲ叱ル
聲ナドガ聞エルト私ト文二トノ昔ノ工合ノコトノ實例ガ思ヒ出
サレテ來テ腹ガ立ツコトバカリニナツテ來テ途中デ本ヲ讀ンデ
ルコトモ切レテシマフテ後ハ腹ガ立ツコトバカリニナツテシマ
ヒマス……マア餘所ノ子ガ遊ンデルノヲ見テモドウシテモ
レヲ何心ナシニ見トツタラヨイト思ツテ爾ニ文二カ文三ヲ當
拵メテツイ思ヒ出シテ腹ガ立ツ様ニナリマスツマソウ云フ譯
ハ小サイ時カラノ關係デ文二バカリガ叱ラレソレガ始メノ
内ハ腹ガ立ツコトガ純粹デアツタノデスケレドモ純粹ニ文二ト私

ソレハ腹ノ立ツコト、關係ナイヤナイカ
サアソレガ文二ト私ノ時ト文二ト文三トノ關係ガ違フ様ナ工合
デ腹ガ立チマス
車ノコト、關係アルノカ

私ト文二トノヤウナ關係ガアル人ガアルトスルト腹ヲ立テハ
人ガアルカモ知レンサウ云フ風ニ道デ考ヘルト腹ガ立チ居ルソ
ンナコト考ヘル人ハ珍ラシイト思ヒマス私見タイニイロノ考
ヘル人ハナイデシヨウ

寒イカ
寒イト云フコトハアリマセンガ震ヘテ……
冷イナ
(手ヲ觸レ)

脈搏一分時百至以上ヲ算シ律稍ヤ不正ナリ
餘リ考ヘルト震ヘルコトガアルカ
私ノ考ヘト違フヤウナ時ハ震ヘル様ニ思ヒマス

今ハドウダ
幾分カ寒イノニモツテマス話ヲセントジツトシテ居ルト震ヘ
ルノモ止ム様ニ思ヒマス思フノモ關係スルデシヨウドナ時ニ
思ハズ居ルカト云フニ私ノ好キナ機械ノコト私ノ好キナ唱歌ノ
コト此ニツヤツタラ紛レマス(喜色アリ)

今云フ様ナ家ニ居ラズニ餘所ニ行テ道ヲ歩ク時ニハ右ヘ行クカ
左ヘ行クカ分ラン様ニナルコトハナイカ
道デハ別ニ迷フヤウナコトハアリマセンソレハマアアツチヘ行
カウカコツチヘ行カウカト思フコトモアリマス何ヲシテモ父ノ
コトダケデスケレドモ何シテモ父ノ爲メニシテモ私ニ惡意ガア
ル様ニ取ラレルコトモアリマスソナコトガヨウアルモンデス

文二ト文三トノ關係ガ腹ガ立ツコトニ交ザツテ來テソレデモ眞
ガ立ツ腹ガ立ツト思フトルトソレガシマヒニ文二丈ケガ得ヲシ
テルト頭ノ中テ變化シタヤウニ思ヒマス理屈トシテハ私ノ方ガ
理屈ガ立タン様ニナリマスガツマリ文二ガ得ヲスルト思フヤウ
ニナツテ來タノデス

ソレヲ見テ文二ガ馬鹿ニスル様ニ思フンダネ
ソレハ思フノデハナク實際デス中學ニ居ル時デモ惡口ヲ……
ソレハ誰デモアルコトデハナイカ

ソレハ誰デモアルケレドモソレ一ツデハナク昔カニノコト……
私モコンナニ監房ニ居テ腹ガ立ツコトカラ遠カツテ居ルト極樂
ヤト云フテ居ルト一處ニ居ル人ガ怒リマス

自分等ハコンナニ心配シテルニ樂ヤナド云フテ不都合ヤト云フ
テ憤リマス又外ニ居レバ子供デモ見ルシ又腹ガ立チマス今モ云
フ通り文二バカリガ得ヲシテ居ル様ニ變ツテ來ルト十四位ノ子
供ガ飯道ヲ上ル荷ガ重クテ荷ガ行カン私ガソレヲ押シテヤルト
スル辱腕ナレバ(自己ノ腕ヲ見テ)物ヲ擔フテ行クニハ迷惑ニナ
ルカ知ランガ荷車ナラ迷惑ニナランカラ押シテヤル押シテ貰フ
タ人ハ兎モ角途中テ行止マツタノガ私ガ押シタリヤケタカラ
別段ニ成リ立テンヤウガ考ヘテ見ルトアノ押シテ上ゲタ人ハ
喜ンデ居ルカ知ランガアノ人ノ難ヤ此世ノ中ニ居ルカ知ランア
ノ人ハ人ニ押シテ貰フテ得レタサウラタラ世ノ中ノ何處カデア
レガ得シタト云フテアノ人ノ難ガ怒ツテ居ルカモ知レンサウス
ルト喜ンダ人ヨリ憤ル方ガ分量ガ多イカ知ラン五ツノ喜ト十ノ
怒ヲシタト思フタ私ハ車ヲ押シテヤランヤウニナルト同ジ様ナ
モノデサウ云フ風ニ腹ガ立チマス

サカイニイツデモコツチナラコツチト云ハレルナラ氣分ガ樂デ
スケドモ五分カ十分前ニコウセイト云ハレテモ五分カ十分ニソ
レト違フタコトヲ云ハレル様ニナツテ腹ガ立チマス又ドナイニ
シテモ自分ガ憤ラレル譯ガナイニ怒ラレルト云フト自分ニ努
力シヨウト云フコトガナクナリマス御父サンニ怒ラレル方ニ丁
度オ父サンガアツチ云フタリコツチ云フタリシテ叱ラレルコト
ヲ公式ニシテアルヤウナデス、或人ガアツテ庭ヲ歩イテ居ル
飛石ガアル飛石ノ上ニ蜜柑ノ皮ガ落チテラソレ踏ンデ滑ツタ
ライカント思フテ始メ皮ヲ蹴ツテ傍ヘノケルニ、三歩行ク面シ
テアンナ處ニ置ケバ誰カ滑ツテ仆レテ飛石デ頭ヲ打ツタライカ
ント思フタ人ガアルソナ話ニヨク似テルナト思ヒマシタソレ
ハ自分ガシテ自分デシタノヤガ私ガシタトスレバ父ガ頭ヲ打ツ
ト云ハレル私ガドウシチモ一ツヤ二ツデナシニズーワトヨウソ
ンナコトガアル

蜜柑ノヤウナコトガ自分ニハナイカ
小サイ時カラ云ハレタンデ物ハ色々ニ考ヘラレルモノヤナア
ト云フ工合ニ自分デモ憤ラレタセイカ何カ自分デモカウシテモ
ト思フテモ決斷ガ出來ナイデ途ニハ考ヘガ難ランヤウニナルコ
トガアリマス

始終デハナイナ
ヘイ始終デハナイ御父サンニハドツチニシテモ怒ラレルガ自分
ニハ始終ト云フコトハナイ様デス……マア茲ニ來テ居テ極樂
ト云フハ文二ト文三トノコトハ怒ランガ父ト母トガ合ハンノデ
口デノ云合、ソレヨリ心デノ思合ト云フタ方ガヨイソレヲ見テ
モ何カ知ラン氣ガ難ニナル御母サンガ泣イタリ怒ツタリシテル
ノヲ見テモ私ハ氣持ガワルイ

昔カラカカ持悪ク思フノハ

今デモソウデス昔ハソコトヲシテ腹ヲ立テ、ハナラント思フテモ御母サンノ顔ヲ見ルトイツモ泣イタ機ナ顔ヲシテ居ヤハルシ(ト云ヒテ泣ク).....

體ノ工合ガヨクナツタラドウスル積リデシタ

ドウシヨウト云フテ餘リ考ヘル間モアリマセン今度ノ二、三日前ニ退學聽屈ケルト云フテ來タノデス.....別ニドウシヤウト思フタコトガアリマセン

體ガ苦ニナツタノハ

大正二年申頃ニ大正一年暑中休暇ニ〇〇ニ引越シテ來テ其夏カラ腹ガ立ツコトガアツテソレカラ工合ガ悪クテソレ迄ニハ寢スル氣ニナドナツタコトハナカッタガ其頃カラ寢テモシタイト云フヤウニ思フ機ニ身體ガダルクツテソレガ苦シク思フ始メデス其前カラ腹ガ下ルト力稀イトカハアツタノデスカ

學校ヲ止メルコトハ覺悟ヤツタノカナ

イーエツンナコトハナカツタノデス二ヶ年ノ休ムコトハアルト先生ニハ云ハレルシツマリ一年休學シアト一年ハ缺席デ行ケルト思フテ居タデス何セ體ガ辛度カツタシ工合ガ悪クツタカラ今カラ學校ヲ容ルスト云ハレテモ學校ヘハ行ケヨウトハ思ハンノデス

併シ少シハ落膽シタカ

ソレハドウモ少シハ.....ドウシテモコツチダケノ元氣ガヨクモナカツタノデソレ程ヒドクハ思ヒマセナシ.....私ガ始メテ御父サンデモア、アソコニ笑ハレルナト思フタノハ四ツカ五ツノ時デス大津ノ病院デ菓子ヲ喰ベテ居ラレマシテ變ナコトナニ(菓子ヲ弄スル手眞似ヲナシ)シテ食ベラレマスノヤナアト

網試験ニ於テ失節症ヲ認メズ皮膚知覺ニ異常ナシ然レドモソノ刺戟部位ヲ示スニ極端ニ正確ヲ期セントスルノ傾向アリ而シテ曰ク「觸ハラレルノハヨク觸ル様ニ思ヒマス氣色ガ悪イ様ニ思ヒマス」ト

檢診ノ終結ヲ告ゲタルニ辭シ去ルニ當リ禮節頗ル宜シ本日ハ寒氣及亢奮ノ爲メカ殊ニ檢診ノ始ニ於テ音聲ニ震顛ヲ帶ビ談話中時々聞ヘ前回ニ比シテ明晰ヲ缺ケリ

四、現在狀態

文助ハ畸形不具ナク身體各部ノ發育ヨク權衡ヲ保ツモ體格纖弱ニシテ體質強壯ナラズ一見婦女子ノ態アリ神經的徵候ニ於テ特ニ舉グベキノ障礙ヲ見ズ

時處ニ對スル指圖ヲ保有シ領解佳良ニシテ記憶記憶ニ缺クル所ナク即チ觀察作能ニ於テ缺陷ノ認ムベキモノナシ叙述ハ秩序ヲ保ツト難當ニ極度ノ正確ヲ期セント力ムルモノ、如ク簡明ナル能ハズシテ迂遠冗長ノ傾向ヲ呈シ好シク假設的推理ヲ行ヒ循環シテ盡キズ論斷ニ於テ確定的終結ヲ得ル能ハズ

感情界ニ於テハ一般ニソノ表徵活潑ト稱スベカラザルモ一旦覺醒セラル、アレバ感動甚強ク過去ノ不快ヲ追想シテハ或ハ呻吟シ或ハ激昂シ愉快ノ經驗ニ想到スレバ喜色面ニ滿チ恰モ眼前ニソノ光景ヲ有スルニ異ナラズ其他比較的些細ノコトニモ顔面潮紅ヲ呈シ易シ

應對ノ際ニハ禮節頗ル宜シク會テ異様ノ動作ヲ見ズ運動機ニアリテモ著明ノ亢奮ナク又抑止ナシ

生活歴ノ條下ニ述ベタル身體的病訴ハ今日モ之ヲ表示シ頑固ナル便秘ト下痢トノ交替アリテ時々腹痛ヲ感じ全身倦怠ヲ覺テ音聲腹嘶シ又記憶及判斷ノ減弱ヲ感ズト云フ然レドモ胸腹臟器ニ意義ア

聞キマシタリ何ゾト云フテ食ベル前ニカウシテ食ベルノヤナトト云ハレテ笑ハレタノガ始メテドスト(云ヒテ嬉シ氣ナル笑ヲ洩ラス)

脈搏百〇四至瞳孔ノ對光反應神速、此檢査ノ際眼瞼ヲ開カンガ爲メニ指ヲ觸ルレバ直ニ眼球ヲ上轉シ輕碎ヲ後方ニ引ク斯ク懼ル、ニ足ラサルヲ論スモ此運動依然トシテ反復ス眼球ノ運動自在ナリ軟蓋反射存在スルモ弱シ然レドモ同時ニ全身ノ縮小ヲ伴フ疎蓋障

おひれテ膝反射兩側共活潑ニ現ハル足趾反射ヲ檢スルニ反應活潑ニシテ全脚ヲ引クヲ見ル腹皮反射兩側共ニ存ス

胸部ニ在リテハ右側第四肋骨部ニ瘰癧アリ腹部ニ風腸ナク雷鳴ヲ觸レズ又緊張ナシ

今出タ後カ

此頃ニスレバ一番ヨイ時デス

イツ出タ

今朝ノ三時頃デス

海水ヘ入ル前カラ惡イナ

ソレハ人ヨリ結スルト云フ丈ケデス

腹カラ血ガ出ルト云フノカ

海水カラ出タ二、三日シテカラノ時デス

其外ニモ

以前ニモ出タコトハアリマス一寸

粘液ハ出マスナ

ソレハモウ一月モ

前ノ方ガ工合ガヨイカ腹ガ

ソレハ別ニ

心臓擴大ナク肺臟ニ在リテハ濁音ナク呼吸器ニ異常ナシ兩示指接ル異常ヲ診出セズ又音聲ニモ變化ナク記憶判斷ニ就イテハ已ニ述ベタル處ノ如シ

五、理由及説明

現在狀況ハ記述セル處ヲ綜合スルニ文ニ於テハ限畫セラレタル右來精神病ノ存在ナク唯印象感受性感傷性強ク穿鑿ヲ有スルヲ見ルノミ

抑穿鑿トハ事物ノ考察ニ當リ得タル結果ニ對シテ常ニ反對的可能ヲ假設シ爲メニ判定ニ動搖ヲ來タシ不確ノ感交起リ到底確定的決斷ニ到達スル能ハザルノ謂ニシテ精神無力症ノ基礎徵候ヲナスモノナリ文助ハ之ニ加フルニ強キ印象感受性ヲ有シ古キ經驗モ一且深キ感觸ヲ以テ受納セラレタルモノ、今日ニ在リテモ極メテ活潑ナル情調ヲ以テ追想セラレ恰モ當面ノ事象ト異ナルナキ活動性ヲ保有ス又感傷性度ニ過キテ強ク感情ノ發動アルニ當リテハ身體的表徵モ頗ル活動セリ

此等ハ皆所謂精神病質者ニ於テ遭遇スル徵候ナリ

今文助ガ此犯行ノ由來スル所ヲ案ズルニ其最幼時ノ家庭ハ平安ナラズシテ父〇助ハ飲酒ニ耽溺シ粗暴ノ所行多ク文助ハコレニ畏懼シ居タリ文二ノ生後ハ父ハ稍溫和トナリシガ文助ニ對シテハ尙温情ナク文二稍長ジテ文助ト遊戯スル頃ニ至リ偶爾人間ニ論争ノ生ズル場合ニハ其曲何レニアアルニモ關セズ父ハ常ニ文助ヲノミ叱責シ又文助ガ文二ニ物品ヲ破壊セラレテ之ヲ訴フルモ父ハ文助ニ對シ其年長ナルノ故ヲ以テ忍ブベキヲ命ジ進ンデハ文助ガ文二ニ事ヲ教ヘ又ハ命ズル際ニハ父ハ文助ニ向ヒ余ノ存命中ハ自身之ヲ教育スベキニ由リ汝ノ干渉ヲ許サズト嚴命シ文助ハ心中甚ク平カ

ナラザルモノアリキ後文助ガ母及弟等ト共ニ父ニ別レテ〇〇ニ住居スルニ當リ文二ニ非行アリシ際接テ父ヨリ直接ニ叱責スルヲ禁

ゼラレ居ルヲ以テ母ニ文ニ戒飾ヲ請フモ母モ年長ナレバ忍ブベシトテ之ニ應ズ斯ノ如キコトヲ反復スルヲ以テ文ニ漸次増長シテ兄ヲ殺シ至リ文助ハ益之ヲ快トセザルニ至レリ

次デ末弟文三ノ物心付ク頃ニ至リ文二ト争フコトアレバ父ハ其曲ノ文ニアルニ拘ラズ之ヲ叱責セズシテ多クハ文三ニ罪アリトナシ又文二ニ對シテ年長者ハ忍バザルベカラズト論セシコトナク文助ハ之ヲ見テ自己ト文二トノ間ニ於ケル關係ニ對比シ其均等ナラザルヲ怨ミ又年長者ハ忍バザルベカラズトノ言ハ其理由ヲ失フニ至レルヲ感シ父ハ自己ヲ惡ミ文二ヲ偏愛スルモノトナシ進ンデハ文二ノミヲ利益ヲ受クルモノト思料スルニ至レリ

而シテ途ニハ事ナキニモ思一タビ是等ノコトニ及ベバ常ニ憤怒ノ情襲ヒ來リ讀書等ノ際ニモ精神ノ集中ヲ妨ゲラレ家庭ニ在リテハ苦惱場ニルコトナク又外出ノ時モ途上同輩ノモノノ喧嘩スルヲ見ルモ想ハ忽チニ自己等家庭ニ於ケル狀況ニ及ビ憤慨ノ念ヲ起シ之ヲ忘レント欲スレバ却テ益此追想ニ苦メラレ曾テ一度モ平安ニ日ヲ送ルコトナシト云フ(以上一件記録……參照)

斯クノ如クシテ文助ハ此往事ヲ追憶シテ憤懣苦悶ノ内ニ大正〇年八月廿七日ノ兇行ヲ敢テスルニ至レリ
父ノ虐待ヨリ引イテ弟文二ニ對スル憤怒ノ情ハ假ニ彼ガ云フガ如ク事實の根據ヲ有スルモノトスルモ其顯現ノ文助ニ於テ斯ノ如キニ至リシハ其生來的印象感受性亢進ニ基クモノニシテ遂ニ家庭ニ於ケル刺戟ノミナラズ何等自己ト關係ナキ路傍ノ小兒ヲ見テモ之ニ想到スト云フガ如キハ其度已ニ正常ノ範圍ヲ逸脱スルモノト云フベク又文助第二回豫審訊問書ニ見ル如ク「ソノナコトハツマラヌカラ氣ヲ轉ジヨウト思ヒマシテモ思ハバ思フ程其事ヲ思ヒ出ス機ナ傾ニナツテ」ト云フハ此情ノ強迫的性狀ヲ疑ハシム可ク

信念ハアリマシタカラ醫者ヲ迎ヘネバナラヌト思フタガ平素ノ如クソウ痛切ニ惡イコトヲシタト云フ觀念ガナク云ハム人ノ使ニテモ行ク機ヲ觀念テ醫者ヘ行ツタノデアリマスガソレカラ漸次氣ガハツキリシテ惡事ヲ自覺シ自首ニ出タノデアリマス

凡ソ意識現象ニハ單ニ觀念若クハ感情ノ範圍ニ限局スルモノ、如キ觀ヲ呈スルモノアルモ必ず一定度ノ運動的因子ヲ包含スルモノニシテ此運動的要素ノ示現ノ必ズシモ毎常ナラザルハ是レ茲ニ之ニ反對スル抑制即チ反對動機ノ發生スルモノアレバナリ然リ而シテ觀念若クハ感情ニシテ活力ノ旺盛ナルモノニアリテハ其運動的因子ノ勢力モ其度ヲ増スベキハ數ノ然ラシムル所ニシテ甚シク容易ニ行爲トシテ表現セラル、ノ傾向ヲ有ス此時之レガ制禦ニ與カル反對動機モ亦共ニ其強度ヲ増大スベキモノソノ程度ニ於テ限リアルモノナレバ病的ニ亢進セル觀念又ハ感情ノ活動力ハ遂ニ此反對動機ノ抑壓壓伏凌駕シテ茲ニ行爲トナリテ出現スルモノナリ斯クノ如クシテ現出スル行爲ヲ稱シテ衝動性行爲ト云フ而シテ衝動性行爲ニ在リテハ其成立ノ經過上記ノ如キヲ以テ之ヲ客觀的ニ觀察スルモ又主觀的ニ内省スルモ之ニ目的觀念ノ何者ヲモ見出ス能ハザルモノナリ

今兇行前夜ニ於ケル文助ノ狀況ヲ見ルニ文助ハ上記ノ發情ニ苦ミ睡眠爲メニ犯サレ心中激越シ殆ンド身ノ置ク所ヲ知ラズ或ハ立チ或ハ座シ用ナキニ他室ヲ徘徊シ焦慮苦惱ノ極達ニ爲ス所ヲ知ラザルニ至リ臥床ニ入ルモ尙眠ル能ハズ之ニ苦シムコト數時ナリシト云フ以テ如何ニ苦惱ノ激甚ナリシカラ察知スベシ此間偶尿意ヲ催セシヲ以テ便行セシガ歸途尙苦惱去ラズ無心ニシテ小刀ヲ手ニシテ辱ニ近ヅキ呻吟嘆嗟之ヲ久ウシ遂ニ此苦惱ノ驅動スル處トナレリ而シテ先キニ引用セル告白ニ明カナルガ如ク此動作ニ目的ノ自

而シテ此憤怒發情其者ニヨル良心ノ苦惱ノ如何ニ深甚ナルカハ「コツチ(監獄)ニ居ルト何モ忘レテ居テ立ツテモ居テモタマラント云フ様ナコトハアリマセン茲ニ來テカラ極樂ヘ參ツテオル様デス」(檢診第一回)ト云ヒテ寧ロ監獄生活ヲ喜ブモノアルガ如キヲ見ルモ之ヲ察スルニ難カラズ

此等ノ諸點ヨリ考フレバ此憤怒發情ノ正常の心理ニ基クモノニ非ラズシテ病的性質ノモノタルヲ知ルベク此種ノ病的發情ハ文助ノ如キ精神病變質者ニ特有ナル示現ナリ

而シテ今文助ヲ驅ツテ此兇行ニ出デシメシ心理過程ヲ最モ明晰ニ説明スルモノハ文助第二回豫審訊問書ニ載スル常人ノ陳述ノ一節ナリ曰ハク「其時ノ意思ヲ先日モ御尋ネニナリマシタカラ考ヘテ見マスルケレドドウ過ツテ切リニ行ツタモノカ其心理ノ關係ガドウモハツキリ分ラヌノデアリマス別ニ斬リ殺シテヤロウト云フ程考ヘテ斬ツタ様ニモ思ヘマセンサレバトテ現ニ斬ツテ居ルノデアリマスカラ斬ル積リテ斬ツタモノ、ヤウニモ思ハレンシ致シマスガ其時ハ暫ラク蚊帳ノ内ニ座ツテ色々ナコトヲ思ヒ浮ベ腹ガ立ツテ耐エラレヌ様ニナツタ結果斬リニ行ツタコト丈覺エテオルノミデ目的ダトカ結果ダトカ云フ様ナコトハ何モ思ハズニシタコトデアリマスソレヲ切ツテカラモ茫トシテ居タノデ母ガ何カ云フテ居タコトハ記憶シテ居マスケレドモドウ云フタノデアツタカ其記憶ガアリマセンハツキリ覺エテオルコトハ醫者ヲ早ク迎ヘネバナラヌガ何處ヘ頼ミニ行ツタラヨイカト云ハレタ以後ノコトデアリマスソレデ母モ私モイッモ見テ貰フ小野寺ガヨカロウト云フテ疑衣ヲ着換ヘ早速小野寺方ヘ行キ怪我人ガ出來タカラ直來テ貰ヒタイト云フテ頼ミ置キ其歸リニ〇〇警察署ニ自首シテ出タノデアリマス醫者ニ行ク際ニハ傷ハ見届ケマセナンダケレド斬ツタト云フ

覺ナク又兇行後一定時間ハ尙之ニ對スル悔恨ノ念ヲ發セズ自己ノ行爲ナルノ感ヲ缺キ恰モ他人ノ行爲ニ對スル傍觀者ノ位置ニ在リシハ茲ニ一種ノ意識分離ヲ來セルモノト云フベク加フルニ兇行ノ直後ニハ周圍ニ對スル領解ニモ多少ノ不完アリシモノ、如ク爾後之ニ對スル追想ノ不充分ナルモノアルハ當時多少ノ意識ノ濁濁ヲ來シ居レルヲ示ス即チ此兇行ハ病的強迫ニ依ル憤怒發情ニ基キ意識分離ヲ伴ヒタル衝動性行爲ナリ

抑精神病變質者ノ特徵ハ寂靜界ノ障礙ニ非ラズシテ其障礙ノ專ラ感情及意思生活ニ現ハルニアルモノニシテ日常生活ニ於テ一定範圍内ニ在リテハ正常者ト撰テ異ニスルコトナキモノナレバ之ニ對スル刑法的評價ハ自ラ狹義精神病者ト其趣キヲ異ニス即チソノ行爲ニシテ病的現象ト交渉ナキ場合ニハ之ヲ健康者ト同一ニ論ズベク其行爲ノ病的現象ニ關係アル場合ニハ其干與ノ強度ニヨリ之ヲ刑法ノ分界ニ從テ二階段トナシ其強迫ノ絕對的ナルモノハ之ヲ心神喪失ノ驅動ノ比較的ナルモノハ之ヲ心神耗弱ヲ以テ論ズルヲ至當トスベシ

今文助ノ場合ヲ見ルニ其兇行ハ已ニ述ベシガ如ク不可抗的ナル強迫的發情ノ下ニ其自己ノ支配範圍ヲ逸脱シタル狀況中ニ起レルモノナレバ心神喪失者ノ行爲ヲ以テ論ズベキモノナリ

六、鑑定

- 一、被告文助ハ大正〇年八月廿七日午前四時〇自宅ニ於テソノ實弟文二ヲ斬リタル當時精神ニ異常アリタリ
- 二、當時心神喪失ノ狀況ニ在リタルモノニシテ被告ノ前記傷害ハ其精神障礙ニ基因スルモノナリ
- 三、被告文助ハ精神病變質者ニシテ其刑法上ノ評價ハ行爲ト病的現象トノ間ニ於ケル交渉ノ程度ニヨリ之ヲ定ム

右及鑑定候也

宿所

大正〇年十二月廿三日

鑑定人

今

村

新

吉岡

體質沈鬱者

コハ生來性神經衰弱者ノ一變型ニシテ、患者ハ萬事ヲ悲觀的消極的ニ解釋シ、自ラ求メテ苦悶憂慮シ、或ハ厭世觀ヲ起シ、或ハ自暴自棄トナリテ暴行ヲ働キ、鬱ヲ遣ラント試ム、一般ニ刺激性ニシテ睡眠障礙アルコト多シ、憂鬱病、躁鬱病ノ抑鬱期等ト區別スルヲ要ス。法律的ニハ多クハ責任能力者ナレドモ、時トシテ中間者トシテ取扱ハレ心神耗弱者ナルコトアリ。

(ホ) 體質性沈鬱者

(ハ) 體質性興奮者

體質性興奮者

コハ生來性素質ニ基キ、精神發育ノ偏頗ナルモノ多ク、亦能力缺損アリ、感情轉移シ意想奔逸ス、動作ハ浮薄陋劣ニシテ、節度規律ナク、放逸、遊蕩、怠惰、自恣ナリ、輕躁症等ト區別スベシ、法律的ニハ各個ノ場合ヲ注意シテ診定スベキモ、多クハ中間者トシテ取扱フ。

(ト) 病的性格者

病的性格者

之ニ屬スルモノハ亦生來性素質ニ基ク性格異常者ニシテ、一見精神及身體ニ異常ヲ認メザルモ、多少常規ヲ逸スル性格ヲ有シ、思想及行為ハ一方ニ偏倚シ、所謂中間者ニシテ、寧ロ精神の健者ニ近シト云フベシ病的性格者中ニハ、生來性犯罪者、意志薄弱者、病的虛言者、狂醉感濁者、偽好詐病者等アリ。

生來性犯罪者

生來性犯罪者ハ私生兒乃至酒客ノ子ニ多ク發見セラレ、腦皮質ニ於ケル慢性疾患ナリト云フ、一般ニ領解佳良ニシテ記憶障礙ナク、理解ヲ一見著變ナキガ如シト雖、熟慮ヲ缺キ目前ノ利益ニ眩惑セラレ、倫理

意志薄弱者

的的感情ハ著變ヲ呈シ、朋友ヲ苦メ動物ヲ虐待シ、同情ノ念少キヲ特徴トスルヲ以テ、一名悖徳狂トモ云フ即チ我性ハ次第ニ增長シ名譽心ナク、兩親同胞ヲ愛慕セザルヲ以テ、教育ハ何等ノ效果ヲ奏セズ、殺人強盜及竊盜等ノ反社會的行為ヲ常業トシ、犯罪ヲ好ム、身體的ニハ往々變質徵候ヲ有ス。

病的虛言者

意志薄弱者ハ又不安定者トモ云ヒ、意志軟弱ヲ以テ主徵トス、往々聰明ニシテ精細ナル觀察力ヲ有スレドモ、持續的勞作ヲ爲ス能ハズ、其知ル所表面的ニシテ缺陷ニ富ミ、記憶モ亦容易ナル代リニ之ヲ忘却スル事モ亦甚ダ容易ナリ、判斷ハ未熟ニシテ一方ニ偏シ、興味ハ野卑ニシテ感情ハ激動シ易ク、自己ノ利害以外ニ眼中亦他人ノ休戚ナシ、且ツ虛榮心ニ富ミ、外觀ヲ飾リ浪費ニ陥リ易シ、習慣性犯罪者ノ多クハ之ニシテ娼妓乞食浮浪者等トナル事多シ。

疑似訴訟病者

病的虛言者ハ想像力ニ富ミ、思想ノ缺陷ヲ主徵トス、領解ハ著シク迅速ニシテ、一見聰明ナルガ如シト雖、精細ニ觀察スル時ハ智識淺表ニシテ誤謬多ク、思考ノ方途ハ拙ニシテ判斷亦精確ナラズ、自己ノ經驗スル事ハ種々潤色セラレテ、其内容著シク變化シ來リ、遂ニ追想ノ實質失フニ至ル、而モ患者ハ虛構ノ快味ヲ感ズルヲ以テ特徴トス、即チ患者ハ明ニソガ虛構ナル事ヲ知リツ、興味ニ驅ラレテ談話ハ事實ヲ離ル、事遠ク、巧言人ヲ欺キ、遂ニ犯罪行為ニ陥ルモノナリ、氣分ハ樂天的ニシテ、此等ノ苦痛ナク、諧謔娛樂ニ耽リ、病穢ナク、却テソノ天賦及教育ヲ人ニ誇リ、舉動ハ巧ニシテ好奇心ニ富ミ、生活ハ贅澤ニシテ、金錢ヲ浪費ス、即チ詐偽取財等ヲ犯スニ適當ナリ。

疑似訴訟病者ハ真正訴訟病者ニ類似スレドモ、妄想ノ發來スルヲ以テ之ト鑑別スル事ヲ得、本病者ノ理解ハ中等ナルヲ常トスレドモ、時トシテ甚ダ良好ナルモノアリ、記憶ハ概シテ正確ナレドモ、感情ノ興奮

トハ知りマセヌ又勸四郎ノ叔父カ何カモ一人弟カ何カ四十近
イ人トコレハ何レモ發狂ト云フ程ノコトハアリマセヌガ二人
共世帯ガモテ又變質人デ堅田ニ住ンデイル云々

トアリ
三、此等被告自身ノ陳述及證人〇〇政男、〇〇忠七井ニ〇〇藤吉
ノ申立ヲ綜合スレバ被告ハ稍濃厚ナル精神病ノ遺傳關係ヲ有ス
ルモノト云フベク即チ父方ノ叔父〇〇庄太郎及母方ノ叔父ノ一
人ハ精神異常者ナリシガ如ク勸四郎ノ實弟榮治郎モ亦完全ナル
精神發育ヲ遂ゲシモノナラザルガ如シ

乙、既往歴

四、既往歴ニ就キ被告ノ予ニ語レル所左ノ如シ

子供ノ時カラ今迄ニ大シタ病氣ヲシタコトハアリマセンカ
若イ時分ニ心コリニ罹リマシタ中年ニナウテカラ痲痺困リマ
シタ私ノ惡イ癖ハ若イ時カラ酒ヲヤリマスト一升ガ二升デモ
仆レル迄ヤリトウトウ酒ノ上デ人ト喧嘩ヲヤリ酒ガサメテカ
ラコレハワルイコトヲシタト思ヒアト断リニ行カニヤナラ
ンコトガ度々アツタノデソレデ酒ヲ止メテシマヒマシタソ
他ニハ大シタ病氣ハ覺エマセヌ
子供ノ時分カラ氣分ニむらガナカッタカ
むらバカリデス死損ヒヲ何遍シカ分リマセヌ九歳ト十七歳
ニハ災難デ死ニカケマシタソシテマタ自殺シカケマシタ
ソレハドウ云フ時ニ
明治三十一年ニ大失敗ヲシテ
ドウ云フ失敗デス
米相場テ失敗シマシタソノ時ハ一ヶ月程ハ丸デ夢中デシタ
ソノ夢中トハドウナウツタノデス

人ガ金取リニデモ來ルト切ルナラ切レ取ルナラ取レト云フテ
一寸現ニトツタ丈ケデス皆目物ガ分ラナシト云フハナイヒキ
ツケタコトモナイ

ソノ時ドノ位ヒ損ヲシタカ

初メハ儲ケタデス最初ハ千圓ノ金ヲ持テ來テ三十一年ノ四
月ニハ僅カノ間ニ六七萬圓ニシマシタソノ時ハ神戸ノ諏訪山
ニ陣取ツテ天子様ノ様ナ氣デ意張ツテ居リマシタウチノ家内
モコレデ熱ニウカサレル位ノ有様デシタソノ中ニ西班牙トメ
キシコガ戰爭ヲ始メルト云フノデ又買ヒマシタ彼是スル中ニ
失敗ガ來テソノ上ニ京都ノ倉庫ガ燒ケテ酷イ目ニ遇ヒ泣キ面
ニ峰デ定期ガ下ル十二月ニナウテ精算シタラ貳萬圓許リ借金
ニナウテ親父ノモノニ手ヲツケニヤナラン様ニナリ切齒ツマ
ツテ自殺シヨウトシタノ家内ニ抑ヘラレテ止メマシタ何シ
口物ニ熱心ニナルト分ラン様ニナルト云フ性質分デシテ人ニ迷
惑ヲカケテ仕方ガナイ此所(監獄)ヘ御厄介ニナウテカラモ一
生懸命ニ禪學ヲヤリ坐禪ヲシテオリマシタ坊主ニデモナウツシ
マツタラ間違ヲシナイト思ヒマシタ
今迄仕事ガ出來スギテ我ナガラ愉快ト思フタコトハナイカ
ソリヤアリマストモ景氣ノヨイ時ハ車ノ先キ引キツ三人モツ
ケテ走ラシテ居テソレデモマダルケテ仕方ガナイト云フ位デ
ス榮屋町、新町新地ヲ一軒々々ニ飲ンデ歩イダコトモアリマ
ス私ノ景氣ノヨイ時ハ誰レデモ私ヲ見ルトオ前ハイツモ酒ヲ
呑ンデオル様ナ人ジヤト云ハレマシタ
ソリヤ何時ジヤ
金ガモウカルトイッデモデス
モウケナイ時ニ元氣ヨクナウツタコトハナイカ

分ケモノシニフイト嬉シクテタマランコトモアリマシタ
損セナイ時ニ馬鹿ニフサイダコトハナイカ
分ケモノシニ氣ガ風シルコトガアツテ何モセズニヘコンデ居
マス併シヤリ出スト何處迄モヤリマス
此頃ニナウツソウ云フ元氣ニナウタノデナイカ
若イ時分カラコト云フ元氣ノ男デス別ニ變リハアリマセン
ソウスト堅田カラ出テ來テ今迄米相場バカリヤツテ居ラレタ
カ
初メ魚屋ヲシテ京ヤ大阪ヘ通ツテオッタ次ニ米屋ヲナシ明治
十二年頃カラ肥料屋油屋ヲナシ其中デモ米屋ヲツマケテオ
ツテ三十一年失敗シマシタ
學業ハ
學校ハドチヤガチヤデシタガ詩書、大學、中庸、實語教等ヲヤ
リマシタ併シ算術ナドハ餘リヤリマセン
何時結婚サレタカ
明治二十年デシタ妻ハ祖母ノ家カラ來マシタ
今迄妻君トノ折合ハ
今度云フコトヲキカナカッタカラ離縁シタガ今迄ハ非常ニ折
合ハヨカッタ
子供ハ
十六歳ノ女子一人
女ノ子ナラアナタノコ、ニ居ラレルノヲ心配シテ居ラレルデア
ロウ
ハイ手紙ヲヨコシテオリマス(此時顔面甚ダ悲痛ヲ帶ブ)先
年大阪デ私ノ家内ガ胃腸病ヲ起シ喰ヘタモノヲスツカリモド
シテシマヒマシタ腹ガモンドリ返ツテ性根ガナイ位ヒニナリ

マシタカラ私ガ迎ニ行ツテ連レテ歸リマシテ升屋町ヘ小サテ
家ヲ一軒カリテ家内ヲ養生サセ娘モ學校ヲ止メサセテ家内ノ
介抱ヲサセマシタソレカラ百五十日モ休ンデ妻ノ病氣モ治ツ
タカラ女學校ヘ行ケト云フタケレドモコンナニ遅レテシマヒ
マシタカラト云フテ學校ヲ止メテ裁縫ニ通ツテオリマシタ
私ガコ、ヘ道入ツテ學問ノ大切ナモノジヤト云フコトヲ知リ
マシタ娘ガ學校ヲ止メテカラ丁度今日(五月十日)デ滿一年ニ
ナルカラ今日カラ行ケバ丁度ヨイト思フテ校長サンニ頼ンデ
見タイト思フテ居マスコウ云フコトノ分ツタノモコ、ヘ來タ
デス
五、尙被告ノ平素ノ行動ニ就キ大正〇年四月二十六日付第二回公
判始末書中

(1) 證人〇〇政男ノ申立ニ(前略)

一、勸四郎ガ明治三十二年頃失敗シテ堅田ヲ去ツタ時書置ヲ持
ツタリ又發狂シタト云フコトハ聞キマセヌ併シソノ當時餘程
精神ニ異常ガアツタノ力途中デ會ツテモ物モ云ハズ變質機子
ナノデ私ハ失敗ノ結果混亂シテ居ルモノト思ヒマシタガ私ハ
發狂シタモノトハ思ヒマセヌデシタ

(2) 證人〇〇忠七ノ申立(前略)

一、勸四郎ハ平素ヨリ逆上セル性質デ親族ノ人ニ出會テモ挨拶
モセヌ様ナ非常識ナコトガアリマスガ其失敗シタ時ニハ全デ
狂人ノ様ナコトヲ行ツテ親族ノモノモ氣狂ジヤト申シマシタ
ガ別ニ醫者ニ見セタコトハナク發狂ト云フ程ノコトハアリマ
センデシタ云々

(3) 〇〇藤吉ノ申立ハ

一、明治三十一年頃勸四郎ガ大津デ定期ヲシテ失敗シ貳萬圓許

リモ損シタト云フコトヲ聞キマシタガ其時私ハ米ヲ送ツテ居
リマシタノ其金ヲ勘四郎ノ方ニ請求ニ行キマシタ所勘四郎
ハ暴レ廻ツテ金ガ欲シケレバ首ナト騙ナト引ヅリ出シテ持ッ
テ行ケト申シ別ニ及物ヲ振リ廻ス様ナコトハアリマセナシ
ガ無茶ヲ云フテ仕方がナイノデ親族ノ人ニ話シタ所神戶カ
差押ヘテ受ケテ居リ本人ハ誰ガ來テモ無茶ヲ云フノ勘四郎
ガ拂ハネバ幾分デモ自分ノ方カラ拂フ故本人ノ氣ノ静マル迄
待テ矣ト申シマシタハ中略

一、勘四郎ハ大體少シ勝手ナコトヲ云フ人デ米ヲ十何俵買フテ
來テクレト申シマス故買フテ行ケト左様ナモノヲ注文シタコ
トハナイトカ何トカ云フテ少シ變ツタ人デ今デモ左様ナコト
ガアリマスカラ人々ガ「トシケツ」トカ「一分間」トカ線名ヲ付
ケテ本名ヲ呼ブ人ハアリマセヌ云々(中略)
トアリ

六、上記第四五項ニヨレバ被告勘四郎ハ生來健全ニシテ大シテ病
氣ニ罹リシコトナケレドモ九歳及十七歳ノ時水難ニテ死ニカケ
タコトアリ學業ハ彼ノ若年時代ノ常トシテ不充分チナルモ漢
書ハ相當ニ修メタルモノ、如シ若イ時分ヨリ氣むらニシテ酒癖
アシト人ト喧嘩シテ困ルコト度々アリシ故此頃ハ全ク禁酒シ居
レリト云フ明治三十一年四月ニハ僅カノ間ニ六七萬圓ノ金ヲモ
ウケタル爲メ喜ビノ餘リ恰モ天子様ニデモナツタ氣分トナリ居
リシ所商業上ノ失敗相踵イデ至リ同十二月ニハ約武萬圓許リノ
借金トナリシ爲メ失望落膽シ一ヶ月ホドボケテオリ遂ニ自殺ヲ
企テタルモ果サリキ時トシテ金ガ利カッタ時ニハ非常ニ陽氣
トナリ三人ノ先キ引キヨツケテ人力車ヲ乘廻ハシ柴屋町等ノ酒
樓ヲ一軒々々ニ飲ミ廻ハルコトアリ往々ニシテ譯ケモノナクムシ
セシメタルモノナリト

八、次ニ犯罪事實ニ付被告ノ予ニ語レル所ハ左ノ如シ
ドウシテ裁判ヲ受ケニヤナラン様ナコトガ出來タノデスカ
○サンノ選舉事務所ガ六、七ヶ所アツテ私方ハ○○派米友
會ノ選舉事務所デシタ何シロ運動員ガ深山アルコトデアアルカ
ラ顔モ分カラシカラ運動員皆ニ割符ガクバツテアツテ便利ヲ
計ツテオリマシタ

割符トハ

合ハスモノデ事務所カラ出シテ運動員ニ持タシテ置イテソ
レヲ持ツテオレバドコノ事務所デモ辨當ヲ喰ベサスル様ニシ
テアツタノデスソレヲ○○政治部ガ有効温泉デ酷刑ノ餘リ權
兵衛ヤナド踊ツタ序ニ餘ケ一ナツマラン事ヲ云フテ見セビラ
カシタモノジヤカラコトナコトニナリマシタ
魚久ノ小僧ガ密告シト云フテ魚久ハ談判ニ行ツタソウデスネ
ソノ翌朝デシタカ○○ガ一寸來テクレト云フノ一所ニ魚久
ヘ連レテ行カレマシタガ大將ガ留守デシタカラ主人ガ歸宅サ
レタラ直ニ私ノ事務所ヘ來ラレル様ニ話シテ置イテ歸リマシ
タ

魚久ノ小僧ヲ解雇シタノハドウ云フ譯ケデス
魚久ノ主人ガ留守ダツタカラ歸ロウトシテ居ルト○○ガソコ
ノ小僧ヲ捕ヘテコノ人ジヤノト云フカラドウシタノカトキ
クト此人ガ私ノ割符ノ事ニ尾端ヲツケテ○○ニ密告シタ人ジ
ヤ

ヨウニ面白クナリ或ハ鬱ギ込ムコトアリト云フ前シテ被告ハ二
十二三歳ノ時結婚シ一女ヲ學ゲ結婚後今日ニ至ルマデ家庭調
ナリ尙被告ガ平生常軌ヲ逸シタル人間ナルコトハ前記證人○○
政男、○○忠七、○○藤吉ノ申立ニ徵スルモ明ニシテ途中デ知
人ニ遇フテモ挨拶モセズ變ナ様子デアリ失敗シタル時ハ丸デソ
ノ度ヲ失ヒ暴レ廻リ人ガ金ノ催促ニ行ケバ首ナト騙ナト取テ行
ケナド言ヒ或ハ注文シタル米ヲ注文セヨト云フ如キ非常識ノコ
ト多カリシガ如シ故ニ人彼ヲ線名シテ「一分間」トカさんけつ
カ呼ベリト云フ

丙、犯罪事歴

七、大正〇年〇月十三日付○○警察署ニ於ケル○○正毅、○○久
吉、○○弘、○○勘四郎等ノ聴取書及同年同月十四日付○○區裁
判所檢事局ニ於ケル○○久吉、○○勘四郎聴取書及同十六日同
局ニ於ケル○○政治部聴取書同四月十九日被告○○勘四郎公判
始末書等ヲ綜合シテ被告ノ犯罪事歴ヲ略記スレバ左ノ如シ
大正〇年四月十四日午前十一時頃○○市橋本町有効温泉ニ於テ
衆議院議員候補者○○氏ノ運動員○○政治部ガ酷刑ノ餘リ○○
太治郎ト云フ名刺ニ○○勘四郎ノ印ヲ捺シタルモノヲ見セビ
ラカシテ曰ク之ハ調法ナモノデアル之サヘアレバ夜ノ十時過ギ
ニハ何處ノ飯屋或ハ料理屋ヘ行ツテモのみくひ勝手次第ナリ
ト云ヒオルフ仕出し屋○○久吉方雇人○○弘ガ聽キ不思議ナコ
トガアルモノナリト思ヒ翌十一日朝野野選選舉事務所ニ至リシ
序ニ同所ノ○○正毅ニ此事ヲ語り且有効温泉ニ行キ昨夜名刺ヲ
見セビラカセシ人ノ名ヲ聞訊シ之ヲ○○ニ傳ヘシニ同日午後六
時頃○○久吉方ヘ○○派ノ運動員被告○○勘四郎ト○○政治部
トノ二人來リナジツテ曰クオ前ノ所ノ小僧ハ怪シカラヌ奴デ○

ヤト云フタツレカラ事務所ヘ誰カ來テクレル様ニ頼ンデオイ
テカヘリマシタ後デ事務所ヘ番頭ガ來テクレマシタ
番頭ガ來テドウシマシタ

番頭ガ來タカラコレハオ前事務所ノ割符ジヤソレヲオ前ノ所
ノ丁稚ガエークライナコトヲ云フテ○○ニ密告シタソウダガ
怪シカラシテオ前ノ所ハ此所ヘモ辨當ヲ入レテオ前ノ所ニ
好意ヲ持テ貰ハナクテハコナラガ勢ヒソレ相當ノコトヲセニ
ヤナラント云フト番頭ハソレハ誠ニ濟マンコトヲシタト云フ
テ歸リマシタ小僧ノコトハ私等カラ何トモ云ヒマセシ
ソウスト魚久ノ小僧ヲ解雇シタノハ向フノ好意上カラデスカ
ハイソウデス私等決シテ強イタ譯デハアリマセシ

ソレカラマダ魚久ヘ運動承諾書ヲ以テ行ツタデシヨウ
ソノ晩(十一日)私ガ事務所廻リヲシテ居ツタ事務所ノモノ
ガ云フノニハ魚久ノ主人ガ來テ待ツテオツタガアナダガ餘リ
遅イモノダカラ○○サンニ宜シクアヤマツテクレト云フテオ
イテ歸ヘリマシタト云ヒマスカラア、ソウカト云フテ何ニモ
氣ニカケズニソノ晩ハソレデスミ十二日朝運動帳ヲ繰ツテ見
テコリヤ丸屋町ヘ少シ力ヲ入レニヤナラン丸屋町ニハ此所ノ
○○ノ選舉ニ石本ト云フ時ハ屋ガ骨折ツテクレタカラ今度モ
ソコヘ行カウト思ヒ運動承諾書ヲ懐ヘ入レテ石本ヘ行キヨ
ル途中丁度魚久ノ表ヲ通ツタモノダカラ一寸顔ヲ出シソレカ
ラ石本ヘ立チヨツテ運動ノ話ヲスマシ歸リ途ニ又魚久ノ門ヲ
通ルト魚久ノ主人ガアオ上リトス、メルカラソコノ離レ座
敷ヘ通りマシタルト主人ガ誠ニスマンコトヲ致シマシタト
云フカラ私ハ、云フコトハ主人ガ注意セント困ルト云フタ
ラ主人ハ私モ腹ガ立チマシタカラ小僧ヲイナシテシマイマシ

タト云フカラソナニマデセンデモヨイト云フテ話ヲシテオ
リマシタソレカラ私ガフト選舉承諾書ヲ懐カラ出シテ置イテ
アンタ所ハ辨當ヲ〇〇、〇〇、〇〇三人共入レテオルカト云フ
トハイト云フカラ私ハソレデハ西川派許リ頼ムコトハ出来ン
ト云フト魚久ハイエドウデ西川ニ入レルコトハロデスト云フカ
ラソレデハ承諾書ニ署名シテクレト云フト直ニ署名シテクレ
タノデス(刺戟サレテ手眞似身振ヲシテ話ス)

ソレガ此度ノ事件デスナ
ソリヤツマランコトデコウ云フカ、リ合ヒニナリマシタ
今思フト丸デマサレタ様ナモノデス
ドコデマサレタノデスカ

〇〇ノ警察デハ警察ヘハ晝ノ一時頃呼バレマシタ警察デ云
ハレルニハモウ魚久モ小僧モ調ベテアルカラソノ通りニ言ハ
ント十日モ二十日モ留メテオクゾト云ハレタソリヤ困ル二十
日迄ハ運動モセニヤナランシ貴重ナル一票モ投ゼニヤナラン
シ二十日カラアトナラ首ヲ取ラレテモヨイカラ堪忍シテオク
レ大體私ハ人ニ頼マレタコトナラ火ヘデモ飛ビ込ムト云フ性
デスドウソ二十日迄ハ一分間デモ大切ナ身體ジヤ堪忍シテオ
クレト云フトソナラ魚久ノ云フタ通りニシテオクガヨイカ
ト云ハレルカラハイドウデモソノ通りデヨロシイト云フテオ
ル中ニ記録ガ出来上ツテ讀ムサカイ開イテオレト云ハレタケ
レドモヨク分リマセシテシタソレデヨイカト云ハレルカラヨ
ロシイト云フト署名セヨトコトデシタカラ無我無中デ
自分ノ名ヲ書イテカヘリマシタソレガモトデコナトコトニナ
リマシタ馬鹿ナコトヲシタモノデス此度ノ選舉ニ就テ一番馬
鹿ヲ見タノハ〇〇サント私デス

十、指南力

アナタノ名ハ

〇〇勲四郎

オ年ハ

五十三歳

オ所ハ

〇〇市〇〇町七番地

ドウシテコ、ヘ來ラレタカ

分ラン何シニ來タノヤラ分ラン醫師ニ見テ貰フ爲メジャロウ

私ヲ何ト思ハル、カ

分リマセン

コ、ヘ來ラレタニハ理由ガアリマセウ

只コ、ヘ來イト云フノデ來タ

コ、ハドコデス

來タ時ニハ分ランナダガ直ニ裸ニシテ牢ヘホリコマレタソレ

丈ケノ外分ランナダソノ時裸デ踊ッタソウデス

今コ、ハ分リマシタカ

未決監ナルコトガ一日(五月十日)話分ツタ來タ時ハ悪ル
イコトヲシタコトハナイシ人ヲ殺シタコトハナイシナデコ
、ヘホリコマレタカ分ランナダ

〇〇サンハ何派デス
憲政會

〇〇サンハ

アノ人ハ政友會デス

ソウスルトオ上ニ手心ガアツタ譯ケデスナ

ソイツハ知リマセン大體私ハ米商デスカラ大阪へ行クト此度

ハシツカリヤラントイカンゼト同業者ガ云フカラドウシテト

聞クト此度政府派ヲ入レルト關稅ヲ引上ゲテ日本人ノ稅デチ

ヤンチヤンヲ肥ヤスト云フ支那探ヅヤカライカント云フカラ

コリヤ政府派ハイカンワイト固クナツテシマツテ〇〇サンノ

運動員ニナツタ譯デス

關稅ガ上ルトアナタガダハ餘程コタヘマスカ

ソノコトハ分リマセンガ何シロ日本人ノ油ヲチヤンノニ

吸ハセルト云フソレガ氣ニ入りマセンソノ馬鹿ナコトガア

ルモノカイト思フタ私ハ人ニ頼マレルト夢中ニナツテヤル性

デスコレガイキマセンナ

俵氣ガアルデスナ

(滿面笑ヲ含ミツ、)人ニ頼マレタラ火ニ飛ビコム位ヒハナン

デモナイデス選舉事務所ノ費用モ大分自腹ヲ切ツテ居マス事

務所ノ看板モ私ガ八十五錢デ自分デ買ツテ來テカケタ様ナ次

第デス

丁、現在徵候

天、精神的徵候

九、被告ガ檢診ヲ受クル爲メ檢者ノアル室ニ入り來ルヤ極メテ粗

略ナル挨拶ヲナシテ着座シ衣服ニ緊リナク不作法ナリ談話ヲ進

ムルヤ始終ニコノトシ餘リ長時間ニ亘ル時ハ往々ニシテ鼻血

今日ハ何日デスカ

大正〇年五月十七日(正)

何曜日カ

ソイツハ分ラン時間モ分ラン

天津ハコ、ヨリ何レノ方向ニ在ルヤ指デサシテゴラン

西方(正)

コノ御方ハ何ヲスル人

看守(正)

十一、前記第一、四項ニ於ケル問答及前項ノ指南力檢査ニ對スル

應答ヲ綜合スルニ被告ハ自己及祖父母、父母兄弟ノ名前年齢存

否等ヲ能ク答ヘ又彼ノ現存スル場所ノ何處ナルヤ現在ノ年月日

周圍ノ人ニ對スル考ヘ等ヲ略誤リナク知リ居レリ即チ彼ノ指南

力ハ殆ンド尋常ナリト思惟ス

十二、病識

身體ノ工合ハ

話ヲシテオルト温イクアツクアツトスル室ニ入ツタ様ナ氣ガ

スル胸ガドキツクコトガアリマス時々眼ガ見ニクイコトガア

リマス

氣分ハ

逆上セル丈ケデ機嫌ハ悪イコトハナイコ、ハ醫學ヲヤルニハ

ヨイ所ジヤ

コ、(監獄)ニ居テ何ト思ヒマス

家ニ居ルト勝手ヲスルガコ、ニ居ルトソウ云フコトハナイカ

ラ身體ノ爲メニハ結構ヤ

病氣ニカ、ツタ様ナ氣ガシマセンカ

逆上セルト物ガ分ラン様ニナルコレハ昔カラデス今ハ別ニ何

トモ思ヒマセン

即チ被告勸四郎ハ此等ノ問答ニヨルモソノ態度ニヨルモ自己ガ逆上スル以外何等病氣ニ罹リ居ラズト思惟セルガ如ク又實際病識ハ存在セザルガ如シ

十三、領解力、被告ハ種々ノ物品ヲ見テソノ品名及使用法ヲ知り又檢者ノナセル談話及簡單ナル質問ヲ正シク且速ニ了解シ相當ナル應答ヲナス但シ複雑ナル質問ニ對スル返答ハ左ノ如シ
次ノ文章ノ意味如何

曰ク淡路丸の沈没、曰ク我が艦運糧二隻撃沈、曰ク何、曰ク何ト何等種々の根柢なき説が流布された二十六日の株式界は大混亂を惹起し郵船、海上保険を初め海事に關係ある株式は暴落したこの奇怪なる風説は株式界の混亂に乗じて奇利を博せんとする者が企てたに相違ない(此文章ヲ一讀セシメ直ニソノ大體ノ意味ヲ演説セシム)

軍艦ガ二隻沈ンデ株式ガ暴落シタリ惹起トハ何ノコトデス奇利トハ何ノコトデスモウ一度見セテ下サイ(更ニ一圓讀過シテ)ドウモハッキリシタコトハ分リマセンナ分ラン分ラン

アナタハ株ヤ相場ノコトハ専門ジャナイカソソナコトハ分ランコトハアリマスマイ

米相場ノコトハヨク分ルガ株ノコトハ分リマセン(表情等ニヨルモ偽リヲ云フトモ見エズ)

左ノボンチ畫ノ意味ハ



外にくらべると出来の悪い玉だ

分リマセンカ一番下ハ粟デスカ人間ノ頭ニコンナトソギツタモノハアリマセンハ、アン日本ノ内閣ガ若シイ持テ内閣ノ經濟ガ持テント云フテ流イテイヤハルノジヤロウソウ云フコトハ餘リヨク分リマセンガ米相場ノコトナラチイタ分リマス(此時會心ノ笑ヲ漏ラシツ、)昨日(五月十七日)ノ話モ大阪ハ米ガ高イト云フ電報ガ來タカラナセ米ガ高イカト云フコトヲ電報デ聞キアワセタラ「朝鮮米暴騰、内地米從ツテ高イ正米強含」ト云フ返電ガ三時間目ニ來マシタ有難イモンデス

コ、デ商賣ヲシテオイデバスカ

毎日面會人ガアリマスマソレニ命ジテ先キニヤツテオツタコトノ後片付ヤラ銀行ノ預金ノ仕末ヤラシテ居リマス又娘モ女學

校ノ校長サンニ頼ンデ行ケル機ニナツタソウデスカラコレモ私ガコ、ヘ來タ得デス

次ノ各文句ヲ工合ヨク排列シテ一文章トナスベシ但シ一字ヲマシテモ減シテモイカナイ

問題

- (1) の、獨帝、材料、こ、答、獨帝の講和申込を材料とし、定期、して、講和、を、て定期米は一齊に暴落した米、暴落、一齊、は、に、申込、
- (2) 生徒、守る、は、行儀、先生は生徒よく行儀を守るよよい、の、先生、教へ、い教はな

(1)のノ字ガ二字餘リマス勸考ガアリマンカト云ヘバドウモ仕方ガオヘンナアト云フテ考ヘントモセズ)

被告ノ領解力ハ不平均ナル發達ヲナシ或一面ニ於テハ非常ニ能ク物事ヲ領解スルカト思ヘバ他ノ一面ニ於テハ恰モ小兒ノ如キ返答ヲ與フルコトアリ

十四、注意力、被告ハ檢診ヲナセル室ニ入り來レルモノアルモ多クハ無頓着ニシテ對話中彼ノ周圍ニ起レル事例ヘバ看守ノ交代窓外ニ見ユル人ノ去來時計ノ時鳴等ニモ不注意ナルコト多シ又一文章中ニ在ル一定ノ文字ニ傍柱ヲ附セシムルニ錯誤アリ例之次ノ文章ノ「の」ニ傍柱ヲ附スベシト云ヘバ先ツ「ヲ」ヲ附シ間違アルナラント云ヘバ次ニ「ヲ」ヲ附シ尙殘餘「の」ニハ三回目ノ注意ニヨリテ初メテ全部傍柱「ヲ」ヲ附シ終レリ

犬の力を利用の研ぎ屋、カリフォルニア州の或及物研ぎ屋は近來ナイフや鉄を研ぐのに犬の力を利用して砥石を廻轉させる事

にしてゐる即ち大きな輪の中に犬を入れ輪の廻轉によつて砥石が廻轉する様に綱で連絡して置くのであつて斯くする時は此の砥ぎ屋の犬は主人が自分を喜ばす爲めこんな仕掛をしてくれるものと思つて一生懸命に走らうとするように外見には見ゆるが實は主人の恩に對する奉公の念から犬は此の輪の中で走るのであつて其動く力によつて及物が研ぎ上げられるのであるとして此の犬は半時間の休眠を日中取る丈けで日一杯の勞働に堪へるものである

次ノ誤字ヲ訂正シテ御覽

問 題 解 答

近 江 近 江 島根縣 島根縣 大 坂 間違ナシト云フ)

被告ノ諸事ニ無頓着ニシテ注意力ノ散漫ナル事ハ上記ノ検査ニ依リテ略之ヲ推知スルヲ得ン

十五、記憶力、ヲ檢セン爲メ次ノ問答ヲナス

〇〇サンアナタハ何年何月何日生レデスカ

五十三デスカラ慶應元年六月八日

何時結婚セラレシカ

確カ二十年前一親爺ノ死ンダ年デシタカラ二十三、四ノ時

大津ニ引移ラレシハ

明治三十一年ニヤリソコナツテ明治三十二年ニ來マシタ

娘ノ生レタノハ

明治三十八年三月八日

アナタノイタクツノ時ノ子カ

此所ニ來ラレタノハ
 ドウジヤツタイナアトア、五月一日ニナル
 何故コ、ニ來ラレタ
 サツバリ分ラン二日餘リ夢中デシタ大學病院ノオ醫者サンニ
 見テ賈フ爲メダト云フテ來タ
 丁度一週間以前ニハ何處ニ何ヲシテオラレタカ
 桃山御陵參拜ニ行キマシタ今頃ハ乃木神社ニ參詣シテオツタ
 デシヨウ
 此正月ハ何處ニ居リシカ
 ソイツハ分ラン何シロ「一分サン」さんけつ「サント云フ線名
 ガアル位ヒジヤカラ直グ物ヲ忘レテ分ラン
 明治天皇ノ崩御ハイッデシタ
 アレハ六年前ノ八月二十六日ジヤ、計理部ヘ金ヲモラヒニ行
 ツテオツテ聞イタ
 今上陛下ノ御大典ハイッデシタ
 一昨年十月ドスジャロウ
 青島ノ陥落ハイッ
 ソイツハ分ラン—自分ノ利害ニ關係ノナイコトハ知ラン
 旅順ノ陥落シタ日ハイッ
 一月二日ジヤツタコイツハウレシクテ一人デオドレタ
 日清戰爭ハ
 明治二十七八年—日露戰爭ハ三十七八年私ハ此ノ時陸軍屋デ
 シタ大津ト伏見ヘ私ガ正米ヲ納メテ居リマシタ日清戰爭ノ時
 ハ大倉組ノ下働ヲシテ米ヤ麥ヲ大倉組ヘ納メテオツタ
 即チ第一、四項及本項ノ問答ニヨリテ見ルニ記憶ニ往々誤リア
 ルコトアリコトハ彼ノ注意力ガ不充分ナル爲メニ起因スルモノナ

ルベクツハ往々常人ニテモ有勝チノコトナレドモ常人ノソレニ
 比シ被告ノ記憶力ニハ不確ナル所多シト云フベシ
 十六、記録力、
 私ノ顔ヲ知ツテオルカ(五月十七日ノ話)
 分リマセン
 五月一日ニドウ云フコトガアリマシタカ
 公判ガアツテ今日カラオ醫師サンガキヤハルカラ見テ賈フガ
 ヨイト云フテツノ時京ノ御方ト裁判所ノ御方ト話ヲシテオラ
 レタガアトハドウナツタカ知ラン
 公判廷テ私ヲ見ナカッタカ
 見マセン何シロ向フヘ向ヒテ背申計リ見テオツタカラ分ラン
 昨日ノ天氣ハ
 好天氣デシタ併シ今日(五月十七日)ノ方ガ暖イ
 昨晚ノ夕飯ノ菜ハ
 ソイツハ分ラン
 今日晝飯ノサイハ
 肉カカシワカ分ラン肉ラシカウツタ肉ハ生レテカラ食ツタコト
 ガナイカラムカツキマシタ
 先回私ノ來リシハ何日
 五月ノ十日デシタナ(正)
 昨日ハ何ヲシテオリシヤ
 何ヤカヤデス而會モシタ〇〇ガ來タソノ外手紙ヲ出シ運動モ
 シタ木ヲ讀ンダリ寝タリ起キタリシタ
 即チ被告ノ記録力ハ記憶方ト共ニ不十分ノ點アルヲ現レズ
 十七、計算力、ヲ檢セン爲メ次ノ暗算ヲ試ム

問題	解答	所要時間
2×4	8	2秒
4×6	24	2秒
13×12	不能算ナラバ(156.2分)	
3+4	7	1秒
17+32	49	1分半
25+44	69	45秒
13-5	8	3秒
53-16	39	1分
84-25	59	1分10秒
32+4	不能	
四、八何ト云ヒマスカ		
三十二、ア、ハジヤジヤ		
56+8	7	25秒
次ニ筆算及應用算ヲ試マシムソノ筆算ノ運算ガ一種特有ナルハ		
注目ニ値ス		
19287×327ノ積如何		
(1) 19287 7 49 56 14 63 7 3 3	(2) 19287 2 14 16 184 2	38574 135009 38574 57861 6306849
(3) 19287 3 21 24 3 3	(4) 135009 38574 57861 6306849	(一) 38574

鶏ガ五十本、鵝ハ百本—ア、違フ違フ(四分經過也)此度ハ出
 來タ—鶏ガ四十疋デ鵝ガ十疋ジヤソレデ足ノ數ガ百二十本
 ニナル
 ドウシテヤリマシタ
 日ノソウナランカソウナランカト云フナツテ見ヨウル
 中ニソウナリマシタ(愉快ソウニ笑ヒオトル)
 算盤ナラ中々上手デス(得意満面)
 此等ノ問答ニ依リテ見レバ被告ノ計算力ハ常人ニ比シ稍劣レル
 モノアルガ知シ
 十八、一般智能、領解力、記憶力、記録力、及計算力等ニ何等カノ
 變化アレバ巴ニソノ智能ノ程度ヲ略々察知スルコトヲ得ト雖尙
 念ノ爲メ一般智能ヲ檢セン爲メ次ノ問答ヲナス
 一年ハ何週間アルヤ
 一年ハ三百六十五日デヤカラ—一週ハ七日ト……五十二週間
 ト一日春夏秋冬ハ一ケ年中ドノ月ナルカ
 新デ云ハバ春ハ一、二、三月夏ハ四、五、六月秋ハ七、八、九月、
 冬ハ十、十一、十二月
 豊臣秀吉トハ如何ナル人カ
 ソリヤ好キチヤツタカラヨク知ツテオリマセ—尾張ノ愛知
 郡中村カラ芽ヲ出シ—十八史略ニハ詳シク書イテアルガ—松
 下嘉平治ノ所デ胸丸ノ鐘ヲ六兩デ賈ヒニ行キ盛ンダト云フ譯
 ジヤナイガソノ金ヲ返サナカウツタソレカラ矢ばきノ橋デネテ
 オルト……
 モウヨロシイ—ソウナラ東郷大將トハ
 コレハアナタ海軍大將ジヤ日露戰爭デばるちつく艦隊ヲヤツ
 ツケタ人ジヤ

第三編 法醫學的精神病學 二 變質性精神病變質者

東京ノ人口ハ

分ラン一京都ノ二倍ハ大阪、大阪ノ二倍ハ東京ト云フコトハ知ツテオトル何シロ大キイカラ當テガツカン

大津ノ人口ハ
知ラン併シ有權者ガ七百四十八人アルト云フコトハ知ツテオトルソノ有權者ハザツト五十人ニ一人當ジヤト云フコトモキイタ

ソナラツレカラ大津ノ人口ヲ勘定シテゴラン
八百ノ五十倍ト見ルト先ツ四萬人デスカナ

日本ノ最高山ハ
富士山

マダ外ニナイカ滿洲ヤ臺灣ニ
アレハ日本ト云フテモ本當ノ日本ジヤナイカラ知ラン

日本ノ最大川ハ
矢はぎ橋ノカ、ツタ川、名ハ知ラン

大猫馬豚ト云フ様ナ人間ノ家ニ飼フテアルモノヲ何ト云フカ
獸類

何宗ヲ信ジテオルカ
禪宗、十代時分カラ峨山和尚ガスキジヤ

日本ニ在ル宗旨ハ
釋迦宗ジヤ之レガ色々ニ分レテオトル一禪宗、天台、眞宗、淨土等ジヤ

聖德太子トハ如何ナル人カ
佛ガ好キジヤサカイ陸下ノ御位ヲモ斷ハツテ佛法ニ歸依セラレタ

盆トハ如何ナル意味ノモノカ

慈悲トハ如何
ツマリ積善ノ家ニ餘慶アリジヤソレデ蔵ノ内ノ財ハ盡クル時アリ心ノ内ノ財ハ盡クルコトナシト云フテアル

幸福トハ如何
しあはせト云フテエイコトジヤソノ外ニ云ヒ様ハナイ

世ノ中デ一番キレーナモノハ
天ノ雷イ澄ミ流ツテオトルコレ程きれいなモノハナイ天ニハ汚ラハシイコトハ少シモナイ

惡事ヲスルト謂スル意味如何
惡イコトヲスルト謂フ法律デ叱ル心ヲ改メサセル爲メダ

子供ト人形トノ區別如何
寢テオツタラ分ラン起キテオツタラ動クト動カシテ分ル

儉約ト吝嗇トノ區別如何
儉約ハ我が方慎シムコトヤ吝嗇ハ物ヲ吝ムコトジヤ

尙被告ト而會人トノ談話ヲ別室ニ在リテ窺ニ之ヲ窺ミ聞キセルニ彼ガ商賣上及家事上ニ就テナセル談話ハ詳細明瞭ニシテ卷モ常人ト異ルコトナシ

米ガ暴騰シタ相デスナ
此前任目ノ號外デ講和申込ト云フノガ出マシタキアレダ賣ツテ損ヲシマシタアレヲ持テ居ルト六千圓位ヒハ利ケテ居マシタニナア

ナゼソナニ暴騰シタノデシヨウ
今コンナ所ニ居ルト材料ガナイカラ分ラン相場ヲスルニ材料ジヤナンジヤカヂヤト云フテオツテハ買ハメセンナ自分ノ見込一ツデ買フンガ上デス一度手ヲ打ツタラ損ニナラウト首ニナラウト違約センガ私等ノ意氣デス

盆ト云フノハ供養ヲヤル日デス商人デ云ヤ營文拂ジヤツマ
リ押シ廣メルト三界万零ジヤ

三界万零トハ如何ナルコトデス
三界トハ天界地界人間ハ天ヲ戴キ地ヲ踏ンデオトルソ
コデ陰陽ガ生ズル三界赤心アレバソレデヨイト今迄思フテ
居ツタガコ、(靈覺)ハ來テ見テ初メテ三界皆金ジヤト云フコ
トヲ知ツタ金ガナイトイカン私モ金ガ少シアルオ藤デ監獄デ
禪學ヲヤツテかしわガタベテオラレル金ガナイト首ガナイト
同ジヤソノ人間ハ生アルモノハ必ズ滅スジヤ人間ガナクナリ
ヤ三界モ分ラン様ニナルソコデ三界万零ジヤ

何故ニ納稅ノ義務アルヤ
オ上デ取ツテ又色々ノコトニ使ヒナサルソレ丈ケノコトデ體
ヨリ出デタルモノハ體ニカヘルデ皆又私等ノ懐ヘモドリマス
即チコトヤツテ監獄デ樂ヲシテオトルモ自分等ノ納メタ稅ノオ
藤ジヤ

何故ニ徵兵義務アルヤ
國ノ爲メデス一國ニ兵隊ガナケリヤ無茶苦茶ニナツテシマヒ
マス

紙幣ノ意味如何
金貨ノ代リジヤ一日本銀行デ出シテオ
紙幣ガヤケテナクナツタ時ニハ誰ガモウケルカ
ソイツハ分ラン

君ニ忠ナラザルベカラザル所以如何
日本ト云フ國ハ天皇陛下ガアツテ立ツテ行クノヤモシ國ニド
ウト云フ事ガアレバ私等ハ身ヲステ、飛ンデ行クソイツハコ
チラノオ箱ジヤ

金ナントモノハアンタガタニハ何ンデモナイネ
ヘエ今日課デモ明日ハ一二萬手ニ入ルト云フ職業デス金ヤナ
ソノニハ風托シマセン (意氣揚々タルモノアリ)

此等ノ問答ニ依リテ見レバ被告ノ一般智能ハ缺陷性ニシテ或方
面ニハ非常ニ高尚或ハ詳細ナル答ヲナスカト思ヘバ或方面ニハ
恰モ十二、三歳ノ小兒ノ如キ答ヲナス概シテ云ヘバ被告ノ一般
智能ハ常人ノソレニ比シ稍劣レルガ如ク彼ノ態度表情等又之ニ
比適ス

十九、觀念、被告ノ話シ振リニ依リ觀念聯合ノ狀況ヲ窺フニソノ
途端、促進、意思奔逸、錯亂同等ヲ見ズト難談話ハ稍迂遠冗
長ナリソノ他強迫觀念、當意即答症新語作成症等ヲ見ズ試ニ被
告ニ一定ノ刺戟語ヲ與ヘ直ニソレヨリ聯想スル言語(反應語)ヲ
發言セシムルニ左ノ如シ

刺戟語	反應語	刺戟語ヲ與ヘテ反應語ヲ得ル迄ノ時間
白紙	紙	1 秒
青紙	天	2 秒
厚紙	分ラン	10 秒
丸紙	茶碗	2 秒
尖ル	きびしよノ口	3 秒
連イ	飛行機	2 秒
軟イ	綿	5 秒
痛イ	タ、カレル	2 秒
湯ク	喋ル	5 秒
臭イ	パン	2 秒
甘イ	砂糖	2 秒
廣イ	天地	1 秒

遅イ	分ラン	10
静カ	義經ノ妾	2
つるつる	じゆんさい	2
冷イ	水	1
低イ	井戸	2
美イ	天	5
らんぶ	明ルイ	3
頭	冷ヤ	3
指	ドウモナイ	5
家	住ヒ	2
田舎	山奥	1
馬	かける	2
毛蟲	痛イ	3
娘	女子	4
百姓	米	2
兵隊	國	3
醫者	身體	1
花	口ノ上	2
紅葉	木	2
夜	晩	1
今	ナイ	1
悲ミ	分ラン	2
眠リ	瘦レ	5
死	分ラン	2
健康	たつしや	2

二十、妄覺妄想、

オルカト云へバ三人ドスト云フカラ三人トハ誰カモウ一人オ
ルカト云へバひげガ来テオルソレト一所ニ寢テオルト云ヒマ
ス

ひげトハ何ノコトデス
行者ノひげデスひげト一所ニ寢ルカト云フタラ平氣デハイト
云ヒオルカラ男女七歳ニシテ席ヲ同ジウセズト云フテオルジ
ヤナイカオ前ハ三十年ノ操ヲ一朝ニシテ反古ニスルカト云ヒ
マシタケレドモ一向キ、メハナクひげサンガ水ヲアビテ神ニ
祈ツテアナタノ早ク歸ルノヲ待ツテオルナンテ云ヒマスカラ
ムカツ腹ガ立ツテ仕方ガナイカラ、醜態シマシタ(此時面會人
アルト云フ話ヲキ、テ)女房ナラ會ハント云フテ下サイ(ト甚
ダ不興氣ノ顔付ヲナシオル)

〇〇町ノ留守ハ誰ガシテオルノデス
妻ノ弟ノ重吉ト玉藻前ガ入ツテオリマス
玉藻前トハ何ンデス

女デスコレハヒドイ女デス〇〇キリト云フ奴デス此女ハ神戸
ト高島デニツ大キナ身代ヲ取ツテ来タバケモノデス始メ
〇〇重吉ガ日露戦争ノ時ニ後備デ大津へ来テオリマシタソノ
時此女トヘバリ付イテシマツテ後備カラ歸ツテモ仲々離レマ
セヌ阪本町ハ重吉トコイツガ居リ本妻ハ堅田ニ居ルト云フ始
末デスソノ申ニ重吉ガ伏見へ行キマシタガ此玉藻前ノ狐ガツ
イテ行キマシタツマランコトジヤカラ別レヨト云ヒマシタケ
レドモ重吉ガ云フニハコチラガ分レタクテモ向フガ分レント
云フテ困ツテオリマシタソレドトウ、八百圓出シテ分レテ
来タ所亦間モナクツイテ来マシタひげモ此女ハ大變イカン女
ダト云フテオリマス云フ女ト重吉ト阪本町ニ居ルト云フ

身分ハドシナモノデス
平民ノ先祖ハ平家ノ落武者デ一ノ谷ノ合戦ニ柳田ノ庄ニ逃ゲ
テ来テ漁師ヲシテオツタモノダソウデス
素性ハ
餘リヨロシクツイ切腹シタリ氣ガ違ツテ死ヌ様ナ人間ガアル
位デス皆物ニ凝ル性コレヲ直ス藥ハアリマスマイカ
經歷ハ
明治三十一年ニハ失敗シテモウダメト歸メテ付ケテ書置キマ
デシマシタ併シ妻ニ止メラレテ止メタ明治四十三年ニハ伏見
ノ騎兵隊ニ納米ヲシテ居リマシタガ或時納米ノ際主計ガ米ヲ
手探シテ見テ砂ガアルカライカント云フテハネラレマシタ
二回目ニハ更ニ精製シテ此度通ラニヤ西野文太郎ノ二ノ舞ヲ
シテヤロウト思フテ短刀ヲ懐へ入レテ行キマシタガ幸ヒ益團
長ガ廻ツテコレラレテ「コリヤヨイ米ジヤナア」ト云ハレタノ
デ主計ガイヤナ顔ヲシテオツタニカ、ハラズ通リマシタソノ
時ハモウ一寸ノ處デシタ
人ニ輕蔑サレテ腹ノ立ツタコトハナイカ
始終腹ノ立ツコトガ多イ此度モ案内ヲ離別スル積ジヤ
何ゼ、妻君ハ家デ心配シテオラレルジヤロウ
イエ中々エークライナコトヲシテオル私ハコ、へ假住居ヲシ
テオリ阪本町ノ本宅ハ留守ニナルカラ升屋町ノ別宅ヲ引キ拂
ツテ阪本町へ来テオレト云フテオクニ云フコトヲキ、オラン
印判ハドウシタト云へバ升屋町ニ置イテアルト云フ阪本町へ
歸ツテオレト五六回モ云フテオルノニ云フコトヲ一寸モキカ
ン阪本町ノ電話ハオ上ノモノデ大切ナモンジヤナイカト云フ
ト晝ハ阪本町ニ居テ夜ハ升屋町へカヘルト云フカラ誰ト疑テ

コトデス危イカラコノ間郵便局へ頼ンデ電話モ封ジテシマヒ
マシタ

仇ヲ返サニヤナラン人ハナイカ

ナイ明治三十一年ニハ職業上ノ邪冤ヲセラレタ之レハ商賣仇
デアルカラアトハ光風露月デス、此度ハ魚久ヲ買ヒ被ツタマ
デス

無禮ナコトヲスル人ハナイカ

コ、へ道入ルナリ裸ニシ無禮ナコトヲセラレタソノ外ハナイ
怖イコトハアリマセンカ

ナニモナイ惡イコトヲシタ覺エガナイカラ

誇ルニ足ルベキコトナイカ

自慢スル程ノかいしガアリマセン一ニ頼マレタラ一心ニ
赤心コメテヤルノガ私ノ性デス

心配ニナルコトナイカ

娘モ女學校へ道入ツタサウジヤシモウ心配ハアリマセン
以上ノ問答ニ依リテ見ルニ被告ハ判断力及智力不充ナル爲メ
妄想類似ノコトヲ云フト雖實際ハ妄覺妄想ヲ有セザルガ如シ

二十一、感情、

コ、へ来テカラドウデス

マアドチラカト云へバ愉快ノ方デスナ〇〇モウカヘルト云ハ
レルケレドモコ、ハキマリガヨクテ身體ノ爲メニヨイ

腹ハ立チマセンカ

案内ト重吉トノ仕末ニハ前申シタ通り腹ガ立チマシタモウニ
人共絶交シマシタソノ外ニハナンニモナイ

面會人ニ會ヒタル時ノ心地ハ

何トモナイ御苦勞サンデシタト云フ計リデス

娘ニアヒタイコトハアリマセンカ

娘ニハ會ヒタイ先日モ娘ガ膳所ノ方ヘ向ヒテ毎日泣イテオ
ト云フテヨコシタカラ何ニモ心配スルナ身ノ明リハ直ニ立ツ
父ハ丸ノ内番外地テ禪學ヲ修メテオルト云フテヤツタ

被告ノ感情ハ稍多幸症ナリ家内親戚ガ非常ニ心配シ居ルニモ係
ラズ自己ハ未決監内ニ在リナガラ禪學ヲヤルニ都合ヨクドテラ
カト云ヘバ愉快ナリ萬事自家中心ニシテ面會人ニ會ヒテモ別
何トモナイト云フガ如キ又顔面ノ表情モ常ニコトシテ彼ノ
云フ所ト一致スルガ如キノ證ナリ

二十二、意志運動、予ノ診察時ニハ意志發動力ノ増進セル徵候、

(健舌、濫書、多業、放物物品破損等)并ニソノ反對症(無氣力
茫然無爲等)等ヲ認メズ且意志被影響性ノ亢進(模倣運動、反
響症狀、常同症狀奇症狀等)又ハソノ反對ノ徵候(拒絕症狀
及緘默症)等無ク表情運動ニモ記スベキノ異常ヲ認メズ但シ五
月一日初メテ入監ノ節ハ屋外ニテ裸トナリ亂舞セシト云フモコ
ハ一時性ノ興奮ニヨレルモノナルベク余ハ之ヲ實見セザルヲ以
テソガ如何ナル性質ノモノナルヤヲ斷言スルコト能ハズ

二十三、言語ハ明瞭ニシテ發音ニ異常ナク緩急其度ヲ得用語文章
等ニ特記スベキ異常ナシ手書ニモ亂雜誤謬遺失等ヲ認メズ
食慾尋常ニシテ便通ニ異常ナシト云フ

地、身體的徵候

二十四、被告ノ身體ヲ檢スルニ體格大體重十七貫二百四十匁營養
真、皮下脂肪層及筋肉ノ發育佳其皮色一般ニ淡赤色ヲ帶フ外視
シ得ベキ粘膜亦血色ニ富ム

頭首ハ左右略均等ニシテ輕打スルモ特ニ疼痛ヲ訴フル部ナク顔
面モ亦左右均等ニシテ顔面神經ノ諸枝ニ麻痺又ハ痙攣及壓痛ナ

隨分喧嘩シタルコトアリシト云フ爲メニ近來ハ全ク酒ヲ用ヒサ
ルモ米相場ヲ業トシ金ヲ利ケタ時ハ非常ナル元氣ニテ恰モ天子
様ニナツタルガ如ク思ヒ或ハ大津ノ酒樓ヲ一軒々々ニ飲ミ廻ハ
ルコトアリ反之失敗シタル時ハ甚シク落膽憂鬱シ自殺ヲ企テシ
コトアラリ往々ニシテ分ケモナク無上ニ面白クナリ或ハ鬱鬱
込込コトアリト云フ此ノ如ク被告ガ常軌ヲ逸シタル人間ナルコト
ハ公判廷ニ於テ證人等モ之ヲ申立テ居レリ(記録第四五六項參
照)此遺傳歴及既往歴ヲ眞トスレバ彼ハ定期性躁鬱狂ニ罹リ居
レル疑ヒアリト云フベシ

二十八、抑一般ニ定期性躁鬱狂者ニ於テハ多クハ躁病狀態ト鬱病
狀態ト相交代シテ來ルモノニシテ發作期間以外ハ精神ノニハ普
通ナルヲ當トス而シテ躁病發作ノ輕度ナル時ハ注意散漫ニシテ
領解力障礙アリ病識缺乏シ加フルニ自家意識亢進意思奔逸等ア
リ感情爽快ナリト雖小ナル刺激ニ興奮シ易ク作樂促進等アレド
モ智力ノ犯サル、コト少シ甚シキ發作ノ場合ニハ意識濁濁シ指
南力不確トナリ妄想ヲ來シ喚暴至ラザルナキコトアリ反之鬱病
發作ノ際ハ不眠ニシテ苦悶ヲ訴ヘ悲觀シ考慮及精神運動抑止領
解障礙等アリテソノ極途ニ自殺ヲ企ツルニ至ルコトアラリ
即チ被告ノ既往歴ト此躁鬱病症候ノ一般の記載トヲ比較スレバ
相類似スル所アレドモ予ハ被告ニ於テソノ發作ヲ實見セザレバ
ソガ既往歴ノミヲ以テ被告ハ躁鬱病者ナリト決定スルコト能ハ
ズ

二十九、讞テ彼ノ精神の現在徵候ヲ見ルニ被告ハ甚ダ不法ニシ
テ衣服ニ緊リナシト雖表情ノ錯出等ヲ認メズ(記録第九項參照
以下之ニ做ヒ括弧内ニハ參照項ヲ記入ス)指南力殆んど尋常(第
十、十一項)病識ナク(第十二項)領解力ハ不平均ナル發達ヲナ

ク眼球ノ運動尋常瞳孔ハ左ハ圓形右少ク不正圓形左右同大ニ
シテ調節機能尋常對光反應微ニ鈍少シク遠視ナレドモ視野ニ異
常ナシ舌ヲ伸出セシムルニ直ニシテ自若被リ振動ナシ齒列不整
ニシテ快損アリ懸壺垂ハ直ニシテ發音ノ際ヨク鼻上ス硬口蓋及
咽頭反射尋常兩耳ニ異常ナク聽力亦尋常ナリ

二十五、胸廓尋常肺ニ打診聽診上異常ナク脈搏正シク一分時約八
十乃至九十至ヲ算ス心臟濁音界、異常ナク心音清明ナリ體溫ハ
多ク三十六度八分内外ヲ示ス

脊柱ニハ異常ノ彎曲ナク腹部ニ異常ノ硬結壓痛ヲ見出サズ
筋ノ粗大尋常四肢ヲ他動的ニ屈伸セシムルニ抵抗ナク指一指
指鼻尖、足趾關節節接觸試驗ハ拙ナリト雖失調ナシ
觸覺痛覺、位置神ニ異常ナクろんるる氏徵候ナシ

二十六、上肢ニ於ケル深反射、左右均等ニシテ昂進シ、腹皮反射左
右均等ニシテ尋常、膝蓋反射あひれす膝反射左右均等ナレド
モ昂進シ足趾反射ハ趾ノ屈屈ヲモスト雖稍疼痛ヲ訴フ足現樂ヲ
認メズ

要之被告ノ身體的ニハ瞳孔ノ對光反應稍鈍ナルノ他精神病學上
特記スベキ異常ヲ見出サズ

中、說明

二十七、被告ノ父方及母方ノ叔父各一人ハ精神異常者ナリシガ如
ク弟モ亦完全ナル精神發育ヲ遂ケシモノニ非ラザルガ如シ要之
被告ハ稍濃厚ナル精神病ノ遺傳關係ヲ有スルモノト云フベシ
(記録第一乃至三項參照)

被告ハ生來健全ニシテ九歳及十七歳ノ時水腫ニシテ瀕死セント
シタルコトアルモ大シタ病氣ニ罹リシコトナク學校教育ハ甚ダ
不十分ナリ壯年時代ヨリ氣むらノ性ニテ酒癖アシク活ノ上ニテ

シ或一面ニ於テハ非常ニ能ク物事ヲ領解スルカト思ヘバ他面ニ
於テハ恰モ小兒ノ如キ返答ヲナスコトアリ(第十三項)注意力散
漫ニシテ(第十四項)記憶力及記銘力(第十五、十六項)共ニ十分
ナラズ計算力劣弱(第十七項)一般智能亦缺陷性ニシテ或方面ニ
ハ非常ニ高尙或ハ詳細ナル答ヲナスカト思ヘバ他面ニハ恰モ十
二三歳ノ小兒ノ如キ答ヲナシ概シテ常人ニ比シ一般智能ニ缺タ
ル所アリ(第十八項)且觀念聯合法ニハ特記スベキ異常ナク(第
十九項)又妄想ヲ證明セズ(第二十項)次デ感情ハ多幸性ニシ
テ自己ハ未決監ニ在リナガラ番外地ニ在リテ禪學ヲ修メツ、ア
リ計ラザル得ヲシタリト稱シ自家意識強ク始終ニコト笑ヒ
ツ、アリ(第二十一項)意志發動力ニハ特記スベキ異常ナク(第
二十二項)言語ハ明瞭ニシテ發音ニ異常ヲ認メズ手書尋常食慾
便通尋常亦然リ(第二十三項)身體的ニハ瞳孔ノ對光反應稍鈍ナル
ノ他精神病學上特記スベキ異常ナシ(第二十四乃至二十五項)要
之被告ハ現今ノ狀態ハ精神能力不平均ニシテ缺陷性性格ヲ有ス
ルモノナリト云フベシ

三十、然ラバ被告現今ノ狀態ハ前記(第二十九項)ノ躁鬱狂ト關係
アルモノナルカ或ハ麻痺性痴呆ノ初期(被告ガ餘リ無頓着ニシ
テ多幸性氣分ヲ有シ且瞳孔ニ稍異常アル爲メ)ナルカ或ハ生來
性ノモノナルカ換言スレバ被告ノ此ノ如キ精神狀態ハ先天性ノ
モノナルカ或ハ後天性ノモノナルカト云フニ予ハ彼ノ現在徵候
ニ徴シテソハ先天性ノモノナラント思料ス被告自身若イ時分カ
ラコウ云フ風ノ男デ近頃ニナツテ別ニ變ツタ譯デハアリマセン
ト云ヘル如キモノノ一體ナリ即チ被告ハ通常云フ所ノ精神病者
ト云フ程ノモノナラザレドモサリトテ健康者ニアラズ一種ノ精
神變質者ナリト云フベシ

夫レ精神變質者ハ極メテ些細ノ原因ニ依リ不充ナル知識或ハ領解力ノ爲メ不安ヲ感ジ或ハ自己ヲ忘レテ歡喜シ衝動的ニ諸種ノ行爲ヲナスモノナリ被告ノ躁鬱状態ノ發來ガ多クハ彼ノ米相揚ニ關スル運不運ニ相一致シテ現出セルハ之レガ爲メナルベシ

三十一、被告ガ生來性精神變質者ナリトスレバ犯時(四月十一、二日)ニ於ケル彼ノ精神状態如何ト云フニ現今ノソレト大差ナカリシコトハ彼ガ犯行ノ経路及ソノ當時〇〇警察署并ニ同區裁判所ニ於ケル申立ノ(大正四年四月十三、四日付右兩所ニ於ケル被告聽取書)條理整然トシテ毫モ精神異常者ノ如キ言動ナキヲ見テモ之ヲ察知スルコトヲ得ン

下鑑定

上記説明ノ如キ理由ナルニ依リ左ノ如ク鑑定ス

三、ひすてり

ひすてりハ全身性及性格的ノ生來性疾疾ニシテ、ソノ發現ハ諸種ノ身體的症狀ノミナラズ、其性格ノ表ハル、所必ズ其病徵ヲ共伴シ、其行動ニ特異性ヲ帶バシムルモノナリトス。病因トシテハ遺傳ニ因ルモノ多ク、且外傷、生殖器病、精神の感動、境遇ノ激變等ニヨリ誘起サル、ヲ常トス、女子ハ一般ニ男子ヨリモ本病ニ犯サレ易ク東洋人ハ歐米人ニ比シ罹病スルコト多キガ如シ。

重症ひすてり患者ノ身體的障礙トシテハ、不眠、麻痺、歩行或ハ起立不能、卵巢痛、食思缺乏、嘔吐、失語、半身性乃至島狀感覺脫失、視野縮少、ひすてり球、痙攣等アリ、精神的ニハ重ニ感情界異常ヲ視、氣分轉換シ易ク、自己感情亢進シ、虚飾ニ耽リ、珍奇ヲ逐ヒ、人ノ注意ヲ引カントシ、心氣性トナリ、疾病ヲ誇張ス、意思薄弱ニシテ、暗示ヲ被リ易ク、他人ノ迷惑等ヲ敢テ意トセズ。

ひすてり性痙攣發作

ひすてり性痙攣狀態

ひすてり性痙攣發作アルヤ、癲癇ノ如ク急激ニ來ラズ、通常癲癇様痙攣發作期、ひすてり性狂亂期、感動的動作期及譫妄期相亞イデ來リ、遂ニひすてり性精神異常状態ニ移行スルコトアリ、ひすてり發作ノ際ニハ意識錯亂シ、苦悶、不安、叫喚、啼泣、亂暴、幻視、夢視、譫妄等ヲ來シ、時トシテ昏迷状態ニ陥ル發作後ニハ發作前、中、後、ノコトヲ追想シ得ザルガ通常ナレドモ、往々ソノ當時半夢中ニ經驗セシコトヲ眞ノ事實ナリト信ジ、之ニ基キテ妄想ヲ發シ、犯罪行爲ヲナシテ自ら不正ナルコトヲ知ラザルモノアリ、又發作中ニ他人ニ強姦セラレタリナド誣告スルモノアリ。

ひすてり性朦朧狀態ハ、痙攣發作ノ前後ニ或ハ全ク獨立的ニ來リ、比較的烈シキ意識濁濁ヲ伴ヒ、了解不良、指南力喪失、聯想障礙ヲ呈スルコトアリ、予ハひすてり性朦朧狀態中ニ夫ノ妻ヲ傷害シ覺醒後全ク之ヲ知ラザリシ一例ヲ見タリ、ソノ他ひすてり性性格異常者ニハ、一時性ニ發揚状態、抑鬱状態、睡眠發作、夢中遊行、人格變換、二重人格、病的虚言、自殺企圖、伴狂等ヲ見ル。

ひすてりト鑑別スベキハ躁鬱病、早發癲癇及麻痺狂ノ初期トス、然レドモひすてり患者ニハ所謂ひすてり性特徴アルヲ以テ、容易ニ之ヲ鑑別スルコトヲ得ルモノナリ。次ニひすてり患者ト中間者トノ鑑別甚ダ困難ニシテ癲癇性朦朧狀態トひすてり性ノソレトハ稍相類似スレドモ前者ハ怒リ易クシテ行爲ハ斷片的ナルニ、後者ハ暗示性ニシテ行爲ニ多クハ系統アルニ因リ鑑別スルコトヲ得。

法醫學的ニ見ルトキハ伴狂者ハひすてり性精神異常者ニ多ク又事實無根ノ誣告ヲナシ、或ハ朦朧狀態ニ乘シテ竊盜放火或ハ殺人等ヲナスモノアリ、一般ニ云ヘバひすてり患者ノ朦朧状態、譫妄状態、大發作時昏迷或ハ睡眠状態ノ間ニ於ケル犯行ハ責任無能力ト見做スベキモノ多ケレドモ、場合ニヨリテハ輕減責任

能力ノミニ過ギザルコトアリ、又民法上ニハ多クハ處分能力ヲ有スルモノナレドモ、鑑定者ハ須ラク各個ノ場合ニヨリテヨリ探究シ、情狀ヲ考ヘ合セテ鑑定ヲ下スベシ。

四、外傷性ひすてり

本病ハ又恐怖性神經症、或ハ外傷性神經症ト稱ス、コハ強劇ナル外傷性感動、例ヘバ列車或ハ電車ノ衝突、墜落、汽船ノ顛覆、沈没等ニ起因シテ、ひすてり性症狀ヲ惹起スルモノニシテ、勿論其際受ケタル衝動ニヨリ腦脊髓振盪ヲ起シ、之ニ依テ精神錯亂、興奮、麻痺狂樣或ハ癲癇樣症狀ヲ發シ、或ハ神經衰弱樣若シクハひすてり樣トナリ、抑鬱、苦悶、作業力減退、疲勞亢進、強迫觀念、心氣症、睡眠障害、食慾缺乏、感覺異常、視野縮少、心悸亢進、運動障礙アリ、コレ多クハ變質者ガ偶々外傷等ノ恐怖ニヨリ、本病ヲ精神的ニ作成スルモノニシテ、自己ニハ實際癲癇病セリト信ズルモノナレドモ、時トシテ患者ハ外傷後、伴狂ヲナシ、又ハ誇張ノ談話ヲナスニ依リ、注意シテソノ眞偽ヲ鑑別スベキナリ。予ハ一學友ニ毆打セラレテ本病ニ罹レリト稱シ、損害賠償ノ訴訟ヲ提起セル患者ヲ見テ、ソノ症狀ノ誇張セラレ居ルヲ觀破シ訴訟ヲナスノ不利益ヲ論シ和解セシメタル事アリ。

本病者ガ稀ニ殺人放火等ヲナシ、刑法上ノ問題ニ上リ來ルモノナルガ、多クハ心神耗弱者トシテ取扱ハル。却テ民法或ハ工場法上ノ問題トナリ、損害賠償或ハ慰勞金ヲ出來ル丈ク多ク取得セントシテ、詐病ヲナスモノ多シ、此詐病ヲ觀破スルニハ一定ノ病院ニ入院セシメテ絶エズ觀察スルヲ宜シトス。

五、癲癇

本病モ亦多ク精神病の遺傳關係ヲ有スル家系ニ出現シ、既ニ幼時ニ於テ發現スルモノ大部分ヲ占メ、誘

癲癇

因トシテハ外傷、傳染病、精神的感動、酒精濫用等ヲ數フルコトヲ得ベク、身體的ニモ種々ノ變質徵候ヲ有シ、所謂癲癇性顔貌ヲ呈スルモノ少ナカラズ。

本病ニ特有ナルハ所謂癲癇發作ヲ來スニ在リ、然レドモ本病者ハ此發作ニ關聯シ、又發作ニ何等ノ關係ナクシテ、一種ノ精神異常ヲ呈スルモノ多シ、固有ナル癲癇發作ノ際ニハ先ヅ一定ノ前驅症狀ヲ來シ、之ニ次デ俄然意識ヲ亡失シテ昏倒シ、全身ノ強直性或ハ間代性痙攣ヲ起シ、鬮牙唾液分泌咬傷等ヲ來スモノ多シ、此際瞳孔ハ開大シ、痙攣ノ對光及調節反應ヲ失フ、發作後ハ暫時昏睡ニ陥ルモノナリ、時トシテハ單ニ身體ノ一部ニ於ケル痙攣發作、眩暈及一時性ノ虛心等ヲ來スニ止マリ、上記ノ如キ定型性ノ發作ヲ來サザルコトアリ、或ハ全ク身體的ニ何等痙攣ナク、精神的意識朦朧狀態ヲ來スコトアリ、之ヲ精神性癲癇ト云フ、然レドモ此模型的癲癇發作ト精神性癲癇トノ間ニハ、數多ノ移行狀態アルモノナリ。

精神性癲癇

精神性癲癇發作、或ハ朦朧乃至夢幻昏迷狀態間ニハ、指南力犯サレ、妄想妄覺ヲ生ジ、記憶記銘ノ障礙アリ、行爲ハ全ク夢中ナルヲ常トスレドモ、時トシテ系統的ノ運動ヲナシ、一見有意的ニ見ユルコトアレドモ、之レ全ク妄覺ニ起因スルモノナリ、即チ純精神的ノ發作ニ於テハ、平素ノ制止作用ヲ失ヒ、猥褻、放火、竊盜、殺人等ヲ犯スモノアリ、又ハソノ感情發揚シ、叫喚暴行スルコトアリ、尙癲癇病者ハ次ノ如キ奇行ヲ有ス。

(イ) 夢中遊行、患者ハ突然夜半起キ上リ、無意識的ニ點火開扉、屋上徘徊等ヲナシ、此間ニ時トシテ秩序

アル犯罪ヲ行ヒ、而モ醒覺後ハ夢遊中ノ行爲ヲ毫モ追想スルコト能ハザルモノナリ。

(ロ) 癲癇性昏迷、意識溷濁數日間持續シ茫然トシテ、拒絶症狀強硬症狀アリ、無識ノ間ニ衝動性ニ種々ノ

夢中遊行

癲癇性昏迷

行爲ヲナスモノナリ。

苦悶性癡妄狀

(ハ)苦悶性癡妄狀態、突然ニ發病シ、指南力ヲ失ヒ、妄覺妄想ヲ來シ、苦悶甚シク暴行ヲ伴フ、時トシテ妄覺妄想ニ驅ラレテ殺人ヲ敢テスルコトアリ。

悟性癡妄

(ニ)悟性癡妄、意識溷濁甚シカラズ、一見常人ノ如シト雖、了解記憶等ノ作用ニ障礙アリ、妄覺妄想ヲ有シ爲メニ猥褻、竊盜、放火等ノ犯罪ヲナスコトアリ。

著明ナル意識溷濁ヲ伴ハザル發作ニ於テハ、發作性不機嫌、内性苦悶、消魂大悅、宗教性誇大妄想等ヲ來シ、發作間ニハ多少理性侵犯セラル、モノトス。

癩癩性精神薄弱

一般ニ癩癩病者ニ在テハ發作ナキ時ニ於テモ、所謂癩癩性精神薄弱ヲ示シ、談話ハ語路一律、迂遠冗長ニシテ、宗教心ニ富ミ、神佛ヲ尊信スルコト熱烈、感情ハ機嫌ヲ損ジ易ク、平素ヨリ爭論ヲ好ミ、些細ノコトニ憤怒シテ暴行ヲ働クコトアリ、一面ニハ剛情ナレドモ他面ニハ敬虔ニシテ綿密細心ナルモノアリ、自我心強キヲ常トス。

癩癩性飲酒不堪

癩癩者ニハ飲酒不堪ナルモノ多ク、少量ノ酒ヲ用ユレバ忽チ重キ意識溷濁、憤怒性興奮ニ陥リ、或ハ酒類ノ強迫的濫用ヲナシ、財産ヲ傾倒シテモ飽クコトヲ知ラズ、ソノ結果朦朧狀態ニ陥リ、騷擾、暴行、徘徊等ヲナスコトアリ、之ヲ暴飲症ト云フ。予ハ暴飲症ノ爲メ數ヶ月健忘ニ陥レル患者ヲ見タリ。

暴飲症

癩癩患者ニハソノ變質徵候ノ外ニ、頻回ナル痙攣發作ノ遺跡トシテ、癍痕、齒ノ缺損、火傷、舌傷、溢血、瞳孔ノ不同等ヲ見ルコト多シ。本症ト鑑別ヲ要スルハひすてり發作トス、然レドモ意識溷濁ノ深度、痙攣ノ特質、瞳孔ノ反射、舌ノ咬傷ノ有無等ニ依リテ、比較的容易ニ鑑別スルコトヲ得ベシ。

本病患者ノ法律的關係ハ頗ル重大ナリ、即チ癩癩性意識薄弱、或ハソノ興奮性憤怒性ナルニ起因シ、竊盜、詐欺、暴行猥褻、放火、傷害、脱走等ヲナシ、殊ニ朦朧狀態ニ在テハ、無意味ノ徘徊、動機ナキ大暴行ヲナシ、慘絶ナル殺人行爲等ヲナスコトアリ、特ニ注意スベキハ輕度ノ發作、即虛心、病的發作、不機嫌等ニ基ケル犯行ナリトス、コハ無意識狀態ニ於テ尙且整然タル算數、書記、音樂等ヲナシ、而モ自ら記憶セザルコト多ク、從テ此間ニナセル犯行モ自覺セザルコト多キガ故ニ、司法官ノ注意ヲ喚起スルコト能ハズ、専門醫ト雖ドモ一、二回ノ診察ニテハ此ガ判定ニ苦ムコトアリ。

癩癩發作、朦朧狀態、精神的發作等ノ間ニ於ケル行爲ハ責任無能力ニシテ、發作時以外ニ於テモソガ爲メノ精神薄弱、癩癩性異常性格ニ基ケル行爲ハ心神耗弱ヲ以テ論ズベキモノトス、民法上ニ於テモ癩癩者ニシテ妄想或ハ健忘症ヲ有スルモノ、發作頻回ナルモノ、及暴飲者等ハ處分能力ナキモノトスルヲ穩當トス。

實例、癩癩性朦朧狀態 十四人斬

檢案書

大正〇年〇〇月〇〇日〇〇地方裁判所檢事〇〇〇〇ハ××××殺人被告事件ニ付當時警署監獄在監中ナル××××ノ犯時及現時ニ於ケル精神狀態ヲ檢案スベキ旨ヲ同廳檢査延ニ於テ予ニ命ゼリ依テ〇月〇日警署監獄病監ニ於テ××××ノ心身狀態ヲ檢診シ且一件記録ヲ査閱シノ結果ニ依リ此檢案書ヲ作ル

〇〇縣〇〇郡〇〇村大字〇〇番地不詳

魚商 ××××

第三編 法醫學的精神病學 五類 癩

甲、事 歷

右××ハ大正〇年〇〇月〇〇日俄ニ精神ニ異狀ヲ來シ午後三時二十分ヨリ同四時十分迄ノ間ニ〇〇村通路二里許ノ間ニ於テ魚籠鐵或ハ棒ヲ以テ自己ノ妻及ビ老若男女十二三名ニ重傷ヲ預ハセ内二名ハ生命危篤ニシテ其他ハ輕傷ナリ尙同人ニ毆打セラレタルモノハ百名以上ニ上ルト云フ(〇〇分署長ヨリノ電話報告ニ依ル)

乙、記録摘要

××ガ此ノ如キ暴行ヲ敢テスルニ至リシ原因ニ付吾人が先ツ以テ知ラント欲スル所ハ犯人××ガ犯行前如何ナル精神の狀況ニアリ

貳拾四錢ヲ賣リ下龍華ノ金神サンヘ行キマシタ金神サンノ家デ私ハギ一杯ヲ金神サンニ供ヘ同家ノ主人ニ拜ンデ賈ヒマシタ主人ハ私ノ胸ヤ腹ヤ頸筋等ヲ撫デ此處ハ痛クナイカトカ尋ネ神酒ヲ私ノ顔ニ吹キカケクレマシタ

私が妻ニ歸ロウト申シタ處妻ハ歸ロウト云ハズ尙私ガ先キニギキヲ金神サンニ供ヘタ時ニ主人ハ妻ノ腹ノ邊ヲ手テ觸レ探リ居リ様子ガ怪シク今又私ガ歸ラウト申シテモ妻ガ歸ロウト云ハズノデ之ハ必ズ妻ト同家ノ主人トガ怪シイ關係ガアルト思ヒ腹ガ立チ私ハ金神サンノ入口デ魚ノ籠ヲ以テ妻ノ頭ノ右ノ邊ヲ毆リマシタ處妻ハ聲ヲ上ゲテ家ノ内ヘ遁入ツタノデ私ハ外ヘ出ルト同家ノ前デ狐ガ二疋大根ヤ薯ノ葉ノ様ナモノヲ洗フテ居ル様ニ見エマシタ故持ツテ居ツタ籠デドノ邊カ覺エマセヌガ毆グルト聲ヲ上ゲテ下ヘ落チマシタスルト家ノ内ガラ又狐ガ來タ様ニ見エタノデ籠デ毆リマシタ

夫レヨリ其棒ヲ以テ下ヘ下ガツテ來ルト家ガ皆地蔵サンノ家根ニ見エ道ニ狐ガ居ル様ニ見エマシタ故夫レヲ棒デ毆グリ少レ下ガルト向フノ方カラ阪本ノ辰ト云フモノガ上ガツテ來ルノニ出遭ヒ同人ガ私ノ持ツテ居ル棒ヲ奪ヒ取ツタノデ私ハソノ儘走ツテ下ルト畑ノ中ニ一人ノ男ガ居ツタ様ニ見エマシタ故其男ノ傍迄行ツテ「コラ」ト云フト其男ガ頭ヲ上ゲタノデ手テ同人ノ頭ヲ毆グルト鐵ヲ放ツテ逃ゲテ行ツテ仕舞マツタ故其鐵ヲ拾ヒ持チ又走ツテ下リマスト途中デ宮サンノ裏迄來ルト石ノ地蔵サンガ

道ニ二ツアリマシタ故鐵デゴンゴントイワスト倒レタノデ後ヲ振り返ヘルト矢張地蔵サンガ二ツ倒レテ居リマシタ夫レカラ矢張走ツテ下ル途中多クノ狐ガ居ル様ニ見エタノデソレヲ鐵デ毆リマシタ所狐デアツタカ人デアツタガ忘レマシタガ私ノ持ツテ居ル鐵ヲ奪ヒ取ツタノデ私ハ一旦宅ヘ歸リ一錢ノ菓子ニツ食ヒ水ヲ呑ンダ處氣ガ付イケ今迄毆ツタノハ多勢ノ人デアロコトガ判リ駐在所ヘ自首スル積リデヤツテ來タ所駐在所ノ手前ノ所デ二十四五人ノ人ニ縛ラレタノデアリマス

問、其方ハ其方宅ヨリ駐在所迄ノ間デ子供三人及老母一人ヲ手ニテ毆リ居ルニアラズヤ

答、毆ツタコトハ覺エテ居リマスソレモ石ノ地蔵サンニ見エタノデ毆ツタノデアリマス

問、其方ハ已ニ宅ニテ氣ガ付キナガラ自首スル途中デ再ビ石ノ地蔵ニ人ガ見エルノハ理屈ガ合ハヌデナイカ

答、ソレハ判リマセヌ

問、此等ノ品ニ見覺エアルヤ

答、此時押收ニ係ル鐵ノ柄、鐵ノ籠ノ破片及魚ノ籠ヲ示ス

問、私ガ狐ヤ石ノ地蔵ト思ヒ毆ツタ時ニ用ヒタ鐵ノ柄ヤ鐵ノ籠ハ只今御示シノモノニ相違アリマセン尤モ魚ノ籠ハ私ガ毆ツタ爲メニ破レタ様ニ思ヒマスガ結局魚ノ籠ト云フノハ御示シノ様ナモノデ其破片ハ私ガナグツタ爲メニ壞レタ籠ノ破片ト思ヒマス

問、其方ガ人ヲ石地蔵ヤ狐ト思ヒ毆ツタノハドースル考ヘデアツタカ

答、毆ツテ死ネバ仕方ガナイシ死ナヌ時ハ其儘能ヒト思ヒ居リマシタ

問、其方ガ妻ヲ毆ツタ時ノ考ヘハ如何

答、同様ナ考ヘデ毆ツタノデアリマス

問、其方ハ今取調ベテ居ル本職ノ顔ガ狐カ石地蔵ニ見エルカ

答、左様ニハ見エマセヌ人間ニ見エマス

問、其方ハ實際人ト知りツ、鐵ヤ棒ヲ以テ毆ツタノデハナイカ

答、人トハ見エマセナンダ

問、誰レカ、其方ニ鐵ヤ棒デ毆レト教エタカ

答、誰ニモ教ヘテ賈ヒマセヌ

問、然ラバ其方ハ如何ナル理由ニテ狐ヤ石地蔵ヲ毆ラテバナラヌノカ

答、何モ判リマセヌ

問、其方ハ多數ノモノヲ毆リ傷ヲ負ハセタコトハ惡イコトハハ思ハヌカ

答、惡イト云フコトハ判ツテ居リマスガ詮方ガアリマセヌ

問、其方ハ是迄病氣ニ罹ツタコトガアルカ

答、アリマス胃病ヤ腸病ニ罹ツタコトガアリマス昨年十二月癲癩ニ罹リ今迄四五回モ罹リマシタ

問、其方ノ兩親兄弟親族等ニ腦病ニ罹ツタリ又ハ發狂シタリ又用ヘ陥リ死ンダリ頭ヲ縊ツテ死ンダ様ナ人ガアルカ

答、左様ナ人ハ唯モアリマセヌ

問、(犯人×××署名、正常)

尙被告ガ犯行當時ノ狀況ヲ確實ニスル爲メ多數ノ被害者中ソノ云フ所犯人ノ精神狀態鑑定ニ參考トナルベキ部分二三ヲ摘要スレバ左ノ如シ但シソレ等ノ調書ハ皆大正六年十二月七日付ナルヲ以テ各部ニ於テ一々之ヲ附記セズ

〇〇〇〇〇(當二十五年)ノ申立

前略

私ガエツボージト云フ如即チ本日現場ヲ申シタ所デ仕事ヲシテ居リマシタ所一人ノ見知ラヌ男ガ上カラ下ノ方ヘ道路ヲ走ツテ來マシタガマサカ私ノ傍ヘ來ルト思ヒマセナンダ故俯シテ仕事ヲシテ居ルト其男ハ不意ニ道カラ畑ヲ横切ツテ私ノ居ル場所カラ一間程ノ處ヘ來テ「コラスコ」ハツテヤロカト申シ手ヲ振り上ゲタノデ私ハ怖ロシサノ餘リ持ツテ居ツタ鐵ヲ其場ヘ放ツテ下手ノ方ヘ逃ゲマシタ處其男ハ鐵ヲ持チ下ノ方ヘ走ツテ行キマシタ云々

〇〇〇〇〇申立ニ 前略

昨日午後三時半頃家デ飯ヲ摂リ居ルト一人ノ男ガ私方ヘ走ツテ來テ附ケテ吳レ狐ヤ狸ノ様ナ奴バカリジヤト云フテ來マシタ故ニ私ハ何ヲ云フテ居ルノカト云フト其男ハ家ノ入口ニ置イテアツタ魚ヲ捕ル細ヲ以テ之ヲ伏セテヤルト云ヒ居リマシタガ不意ニ其網捨テ夫デ同ジク家ノ入口ニ在ツタ棒ヲ持ツテ其儘下ノ方ヘ逃ゲテ仕舞マシタ其後一時間モ經過セヌ内ニ何處ノ人カ判ラヌ前トハ違フタ男ガ私方ノ鐵ノ柄ヲ持チ家ノ前ヲ通ツタノデアリマス云々

〇〇〇〇〇申立ニ 前略

午後四時頃同家デ島村ト一所ニ門前ヘ出マシタ處東ノ方ニ一人ノ婆サンガ仆レテ居ツタノデ「エライ事ジヤナア」ト云フテ居ルト鐵ヲカダゲテ居ツタ一人ノ男ガ突然島村ノ頭ヲナグリオノレモカト云フテ私ニモ毆ツテ來タノデ私ハ左ノ手デ止メマシタガ思ハズ仆レ鐵ノ柄ヲ握リマシタガ其男ハ其柄ヲ私ノ手ヨリ奪ヒ傍ニ居ツタ〇〇〇〇ノ頭ヲ毆ツタノデ私ハ直ニ圖子ノ方ヘ逃

ゲテ仕舞マシタ其後ノ事ハ知リマセヌ云々

〇〇〇〇ノ申立ニ

私ト×××トハ極親密ナ間柄デアリマスガ菓子代拾錢ノ借リガアルノ昨午午後三時半頃拾錢ヲ持チ××方ヘ支拂ニ行ツタ所留守デアツタノテ歸リ今宿ノ四ツ角ノ菓子屋テ遊ンデ居リマスト×××ガ上ノ方カラ蹴ヲカタゲテ平氣デ歩イテ東ノ方ヘ行クノ私ハ××ニ對シ何處ヘ行クノカト尋テト散髪ニ行クノダト云フヲ私モ一所ニ行カウト云フテ共ニ東ノ方ヘ下リ私ハ〇〇ノ門デ〇〇今日ハト挨拶ヲシテ居リマシタ其間ニ××ハ五六間先キニ行ツテオリマシタスルト四ツ角カラ〇〇〇〇ト云フ友人ガ〇〇ト呼ビマシタノテ其方ヲ向クト「ドスン」ト音ガシタノテ東ノ方ヲ見ルト一人ノ婆サンガ倒レテ居リ××ハ「ヲ捧ゲテ平氣ヲ少シ東ノ方ヘ行キ又再ビ西向テ來マシタガ私ハ婆サンガ倒レテ居ルノニ××ガ助ケヌハオカシイト思ヒ居ル内××ハ不意ニ〇〇ノ門前デ〇〇ノ頭ヲ「コン」ト蹴リマシタ私ハコレハ××ガ〇〇ニ何カ遺恨デモアルカト思ヒ居ルト今度ハ其傍ニ居ツタ〇〇ノ頭ヲ「コン」ト蹴リマシタ故之ハ〇〇ト〇〇トガ二人寄ツテ××ニ恨ヲ抱カレテ居ルノカ思ヒ居ルト今度ハ不意ニ××ハ私ノ頭ヲ蹴リマシタ故之ハ氣ガ違フテ居ルノデアロウト思ヒ其場ヲ逃ゲ〇〇ト醫者ノ宅ヘ行キマシタ云々

〇〇〇ノ申立ニ

前略

テ昨年十二月ヨリ癩癩ニ罹リ今日迄ニ四回癩癩ノ發作アリシト云フ然ルニ本月五日夜川魚選リ分ケ中生ノ鱈魚ヲ口中ニ入レテ「ニタツト」笑ヒ或ハ常ニナク小供ノ相手ニナリ八釜敷云ヘセタリナドシ彼ノ妻ニ精神上變テナイカト疑ハレ居リシガ翌六日ニ至リ彼ノ奇行ハ益々甚シク妻ガ氣ガ違フテ居ル故人ガ後ノ指ヲ指シテ商賣ガ出來ヌト云ヒテ商賣先キヨリ歸リ來リ妻ガ勸メテ彼ヲ再ビ商賣ニ出シヤリタルニ今回ハ自分ガ氣ガ違フテ居ルト云フテ展リ來リ如何ニモ變ナル故妻ハ同日午後彼ヲ伴ヒテ下龍華ノ金神サンノ祈禱ヲ乞ヒシニ××ハ此祈禱師ト妻トノ關係ガ怪シト突然怒リ出シ妻ヲ魚籠ニテ毆打シ直ニ家ノ外ニ走出テ門前ニアリタル其家ノ妻ト娘トヲ同ジク魚籠ニテナグリ該地方ノ村道ニ、二里ノ間ニ於テ鐵、棒等ヲ以テ出會スル人毎ニ何等理由モナク怨恨モナキニ毆グリ飛バシ途ニ十二、三人ノ重傷ヲ負ハセ内二人ハ遂ニソノ創傷ノ爲メニ死亡スルニ至リシト云フ××ガ暴行ノ翌日檢事ノ訊問ニ對シ比較的明瞭ナル返答ヲナシ自己ノ氏名年齢職業生活史ノ大要等ハ正答スルコトヲ得タリ而シテ彼ガ暴行ノ原因ヲ尋テラレ、ヤ彼ハ人ガ狐ヤ石地藏ニ見エタル爲メ何等ノ理由モナキニ「コン」ト頭ヲ毆グリタルモノナリト答ヘ又證人即チ多クノ被害者等ガ暴行當時ノ狀況ヲ檢事ニ申立タル所ヲ見ルモ實際××ハソノ當時精神ニ異狀ヲ來シ居リ理由モナク人ヲ毆グリ廻ハリ或所ニテハ狐ヲフセル様子ナドヲナシ全クソノ行動常軌ヲ逸シ居リタルモノ、如シ

浮腫ヲ丸メテ居リマス不意ニ後ロカラ頭ニ何カ當ツタ様デアリマシタガ其儘覺エヌ様ニナリ氣ガ付クト亭主ニ呼バレテ居リ私ハ其場所ニ坐シ居リ頭カラ血ガ出テ血ハ地面ノ上ニ澤山流レテ居ツタノデス云々

〇〇〇ノ申立ニ

前略

昨日午後四時頃宅テ帳合ヲシテ居ルト〇〇〇ト云フ人ガ來テオ前所ノオ母サンヲ毆テ居ル人ガアルト云フテクレタノデ私ハ直ニ戸外ヘ飛ンデ出テ見ルト四ツ角ノ一寸東ヘ入ツタ所ニ一人ノ婆サンガ手供ヲ買フテ居リ其場ヨリ三尺程離レタ東手ニ×××ガ立チオリマシタ私ハ××ガ毆ツタト云フコトモ知りマセズ又手ニ蹴ヲ持テ居リシコトモ氣付キマセナンダ故誰ガコンナコトヲシタカト云ヒナガラ見ルト私ノ母デナク〇〇〇ト云フ婆サンデアリマシタガ私ガ俯イテ居ル時××ハ不意ニ私ヲ毆リニ來タノテ其瞬間左手テ受ケ止メタ所毆テ私ヲ毆リ私ハ其肺ノ金ノ方ヲ左ノ脇ニ抱ヘ蹴ヲ奪ヒ取ラウトシ××ハ柄ノ方ヲ以テ放ツマイト争ヒ居ル中私ハ其蹴ヲ奪取ツテ仕舞ヒマシタ其際××ハ私ノ顔ヲ見テ右膝ヲツカ知ラナシト三回聲申シ居リマシタ右膝ト云フノハ私方ノ商號デアリマス

丙、說明

昏迷狀態ニ陥リ妄想妄覺及幻覺ヲ發シ自己ヲ忘レ周圍ヲ意識スルコト能ハザルガ故ニ彼ノ妄想妄覺及幻覺等ノ命ズルガ儘ニ行爲シ種々ノ無目的ナル行爲或ハ恐ロシキ犯罪ヲ敢テシ而シテ此ノ精神發作鎮靜乃至覺醒後ハ發作中ノ行爲ハ僅ニ記憶スルアリ或ハ全ク之ヲ知ラザルモノアリ本件ニ於ケル被告ガ十二月五日以後ノ行爲及六日暴行ノ跡ヲ探グルニ此癩癩性精神病ガ發作ノ癩癩狀狀態ト一致スル所アルヲ思ハシム

果シテ被告ハ捕ヘラレテ翌七日午後八時頃密監獄ニ入監スルヤ夕食中モ止メタト云フカト思ヘバ又食ヒ少シク食ヒシカト思ヘバ又止メタト云ヒ途ニ一合二勺ノ麥飯ヲ食ヒ終リシガ其舉動如何ニモ變ニシテ食事中彼ハ看守ニ語リテ曰ク喧嘩シテ入レラレタノヤト云ヒ衣服モ自分で着換フルコト能ハズ人手ヲ借りテ之ヲ果シタリト云フカクシテ彼ハ拘留監獄ニ至リ「今晚ハ」ト云ヒナガラ監房ニ入り「オレハ今夜コ、ニ寢ルノカ」ト云ヒ毫モ監獄ニ來リシガ如キ態度ナカリシト云フ

十二月八日ハ殆ンド食事ヲ取ラズ同日夜十時半頃ヨリ甚シキ痙攣ヲ起シ左半身ヲ引キツケ殆ンド五分間毎ニ痙攣發作アリテ甚ダ危險ナリシ故病監ニ移轉セシメラレタリ病監ニ入りシ後ハ痙攣ハ起ラヌ様ニナリシモ朦朧トシテ自己及周圍ヲ辨ゼズアノ痛イアノ痛イト云フ言語ヲ繰リ返ヘシ居ルノミニテ多クハ現タトシテ眠リ只一回「私ハ何時コ、(來タ)ト問ヒシコトアリシト云フ

丁、予ノ檢診

予ガ十二月十日午後二時××ヲ該病監ニテ檢診セル大要ヲ述ブレバ被告ハ檢者ガ入り行ケル際左側臥ニテ小便ヲナシツ、アリシガ尿ヲ便器中ニ排泄スル様ニ努力シツ、アルガ如キモ往々ニシテ尿ヲ病床上ニ洩ラセリ時々アト嗟聲ヲ發ス××サント呼ベド返答

ナク顔面茫然トシテ多クハ閉目シツ、アレドモ時トシテ眼ヲ開ケ
バ視線定ラズ眼球ヲ無意味ニ廻轉セシメツ、アリ

問 X×サン(大聲ニテ呼ベバ僅ニ眼ヲ開キ)

答

ドウヤ身體ノ工合ハ

ハ一

ドウヤ身體ノ工合ハ

ア一

ドウヤ身體ノ工合ハ

ハ一

ドウヤ(ト大聲叱咤スレバ)

ア一痛イア一痛イ
(ト泣キ出ス)

呼吸ハ正整ニシテ時々顔面ヲシカメ瞳孔ハ大ニシテ左ハ六耗徑右
ハ四耗徑對光反應銳敏時々光ニ關係ナク忽チニシテ開大シ忽チニ
シテ縮小スルコトアリ體溫三十六度二分、脈搏ハ一分時約七十二
至整ニシテ強拒絶症狀及強梗症狀ナシ兩上肢ニ於ケル深反射ハ左
右同等ナレドモ稍昂進セリ

X×サン(大聲ニテ)

ハ一何ジャア一

此時突然ソウダソウダトノ譚語ヲ放チ振笑ヲナス胸部ノ衣服ヲ開

ケバ「アリス、マシ」ト云フ

(舌ヲ出ス)

X×サン舌ヲ出シタ舌ヲ(大聲ニテ)

(舌ヲ引キコム)

ヨシヨシ(大聲ニテ)

(舌ヲ引キコム)

舌ニハ震顫ナク直、心尖ニ於ケル第一音ハ不純、大動脈口音ハ昂
進スルノ他心臓ハ力強ク肺ニ特記スベキ異常ヲ見出サズ腹皮反射
及提睾筋反射ハ見ルコトヲ得ズ膝蓋反射ハ左ヨリ右ガ昂進シ右
膝關節ハ他動的ニ稍抵抗アリアヒレス腱反射ハ左右均等ニシテ尋

實例、癲癇性精神薄弱者 詐偽及誣告

予ハ癲癇病者ニシテ貨幣偽造、切手偽造、郵便貯金欺取、誣告等
ヲナシ再三監獄ニ繋ガル、モ敢テ改悔ノ情ナキモノヲ鑑定シタル

コトアリ而シテ彼ノ犯罪ハ常ニ癲癇發作ノ前後ニ起ルモノナルコ
トニ氣付キタリ

大正〇年〇〇月〇〇日

同年同月十六日終了

宿 所

鑑定人 醫師 小南又一郎

常足蹠反射ハ先ヅ足ノ背屈ヲ來シ次デ趾ノ蹠屈ヲ來ス外陰部ヲ開
ケバ自ラ之ヲ隠サントシ頭部ヲ輕打スルモ特ニ痛サウニ見ユル所
ナシ頭形尋常ニシテ顔面モ亦左右均等ナリ其他身體ニ特記スベキ
異常ナシ尙當日被告ノ狀況ハ精細ナル検査ヲユルサマルヲ以テ之
ヲ他日ニ譲リシニ被告ハ翌十一日繼續的癲癇發作ノ爲メ午後一時
途ニ死亡セリトノ報告ニ接シ爾後ノ検査ヲ爲シ能ハザルニ至レリ
上記ノ記録摘要、予ガ説明及病症ノ經過ヲ綜合スレバ被告ハ十二
月五、六日頃ヨリ癲癇性精神病發作ニ罹リ居リシモノニシテ彼ノ
犯行ハ其ノ爲ニ起レル安覺ニ驅ラレ自己及周圍ヲ辨別スルコト能
ハズシテ敢行サレタルモノニシテ十二月八日警署監獄ニ於ケル甚
シキ癲癇性癲癇發作ノ前驅トシテ此ノ如キ癲癇性癲癇狀態ニ陥リ
タルモノナルベク十二月十日子ガ検査シタル當時ハカ、ル大發作
後ノ昏迷狀態ナリシナルベシ而シテ此ノ如キ癲癇性癲癇及昏迷狀
態ハ刑法第三十九條ニ所謂心神喪失ノ狀況ニアルモノナリ

戊、檢 案

上記ノ説明及検査ノ結果ニ依リ左ノ如ク檢案ス

一、被告X×ハ犯罪時及予ノ検査時ニ於テハ刑法第三十九條ニ所謂
心神喪失ノ狀況ニ在リシモノト認ム

此檢案ハ大正〇年〇〇月十日着手

同年同月十六日終了

六、躁 鬱 病

甲、躁揚狀態ニテハ一般ニ感情爽快、聯想促進、多動、興奮ヲ來シ、ソノ程度ニ應ジ之ヲ輕躁病、躁暴病、
及譫妄性躁揚病ノ三種ニ分類ス。

(イ)、輕躁病ニ於テハ意識濁濁ナク、理解記憶亦佳良ナリト雖、觀念進行ノ統一亂レ、注意轉移シ意想奔
逸ス、妄想アルコトハ稀ナレドモ、自己誇張甚シク、誇大的言動ヲナシ、多業、多辨、放蕩、淫逸、亂酒、
荒亡ニ流レ易ク、色慾亢進ス。

(ロ)、躁暴病ハ多少ノ意識濁濁アリ、意想散亂シ、安覺妄想顯著ニシテ、ソノ内容ハ誇大的或ハ被害的ナ
リ。

即チ跳舞、絶叫、破衣、拍手、物品破壊乃至狂暴行爲ヲナス。

(ハ)、譫妄性躁揚病ニテハ意識濁濁甚シク、指南力喪失シ、安覺妄想豐富ニシテ、舉止一般ニ錯亂シ、身
體のニモ亦不眠、食思亢進、癲癇發作、心悸亢進等アリ。

乙、抑鬱狀態ニ於テハ一般ニ不快感情、聯想意志ノ制止及舉動遲鈍ヲ主徴トス、抑鬱程度ニ應ジ、之ヲ輕
度、昏迷性乃至妄想性抑鬱狀態ニ分類ス。

(イ)、輕度抑鬱狀態ニテハ、タ、精神活動ノ制止ヲ示スニ止マリ、安覺妄想ナク、意識ノ障礙ナシ、氣分
ハ不快沈鬱ニシテ、萬事ニ興味ヲ失ヒ、快々トシテ樂マズ、不快ノ裡ニ消光ス。

(ロ)、昏迷性抑鬱狀態ニテハ指南力ヲ失ヒ、感情發動セズ、全ク昏迷狀トナリ、タ、茫然褥中ニ横臥ス。

(ハ)、妄想性抑鬱狀態最モ重症ナルモノニシテ、上記諸症ノ外ニ追跡、罪業、心氣性ノ妄想ヲ加へ、幻視

躁鬱病

輕躁病

躁暴病

譫妄性躁揚病

輕度抑鬱狀態

昏迷性抑鬱狀

妄想性抑鬱狀

幻聴ヲ有スルコト多ク、感情ハ絶意失望ニ陥リ、痛嘆ノ極自殺ヲ企ツルモノアリ
時トシテ躁揚状態ト抑鬱状態ト相混合シテ來ルコトアリ、即チ無爲性躁揚病、躁揚病性昏迷等之レナリ
上記ノ相反セル躁揚、抑鬱ノ二状態ハ各自獨立ノ病型ヲ作ルモノニ非ラズシテ、互ニ相連關シ、循環性ニ
反復發現スルコトアリ、或ハ躁揚状態ノミ長クシテ抑鬱状態ノ短キコトアリ、或ハ一方ノミ來リテ他方ノ
顯レザルコトアリ。

本病ノ輕度ナルモノハ往々變質者、ひすてり患者、或ハ神經衰弱者ト誤ラル、コトアリ、抑鬱ノ甚シキ
モノハ痴呆者ト思ハレ、又發揚ノ状態ニ在ルモノハ、緊張病、癲癇性興奮或ハ酒客譫妄ト誤ラル、コトア
リ注意スベシ。

本病者ハ興奮ノ初期ニ於テハ輕忽ナル濫買、契約、物品贈與、企業等ヲナシ、躁揚状態ニテハ漂泊流浪
シ喧騒、暴行等ヲ行フ、又色情亢進ノ爲メ、猥褻行爲、強姦淫賣等ヲ働キ、或ハ無謀ノ舉ニ出デ、大暴行
ヲナスモノアリ、抑鬱期ニテハ自殺、殺兒或ハ放火等ヲ行ヒテ苦悶ヲ洩ラサントス、即チ法律的ニハ重症
者ハ心神喪失ヲ以テ論スベキモ、發作以外ノ時ハ平常ナレバ責任能力者ナリ、民法上ニテハ輕度ナルモノ
ハ禁治産ノ必要ナシ、但疾病數年ニ亘リ精神弛廢シ、恢復ノ望ミナキモノニ在リテハ、處分能力ヲ奪フモ
良シト雖、發作數年ニシテ後尙通常ノ精神状態ニ復シタルモノモアレバ注意スベシ。

七、ばらのいあ—偏執狂

本病ガ獨立シタル病型トシテ存在スルモノナルヤ否ヤハ、尙學者間ノ爭點トナリ未ダ決定スルニ至ラズ、
寧ロ、妄想性痴呆者ノ智識ガ比較的犯サレザルモノナリトノ説ヲナスモノ多シ、然レドモ從來ノ慣習ニ從

ばらのいあ

ヒ、茲ニ之ヲ他ノ疾病ヨリ分離シテ述ベント欲ス。

本病者ハ執拗ニシテ系統アル妄想ヲ有スルヲ以テ主徴トナス、患者ハ意識、清明ニシテ思慮整頓シ、記
憶亦佳良ニシテ、痴呆ニ陥ルコト晩シ、發病後永ク理性明確、學識亦相應ナル發達ヲ遂グレドモ、執拗ナ
ル妄想城府ハ牢固トシテ拔ク能ハズ、爲メニ常軌ヲ逸セル行動、衝動性動作ヲモ敢テシ、一度他人ガ此妄
想ヲ破壞セントスレバ、大ニ憤怒シテ之ガ防衛ノ策ヲ取ル、ソノ系統的妄想ノ種類ハ、被害的或ハ誇大的
ナリ、時トシテ嫉妬妄想ヲ起シテ自己ノ配偶ヲ虐待シ、些細ノ原因ニ因テ傷害行爲ヲナスコトアリ、病識
ナク一見狂者ノ如ク見エザルヲ常トス。

妄想城府

好訴病者

本病者ニシテソノ妄想ハ被害性ニシテ、絶エズ自己ノ權限ヲ侵略セラル、ガ如ク考へ訴訟ヲ起シ、訴訟
ニ破ルレバ他人ガ自己ヲ陥レ、或ハ自己ノ辯護士ガ敵ニ好意ヲ表シ、相通ズルモノナリト邪推シ、一意專
心ソノ訴訟ノ爲メニ財ヲ投ジ、勞ヲ吝マズ遂ニ自己ノ財産ヲ消耗シ盡シテ怨ミズ、ソノ疾病ノ永キ間ニ漸
次痴呆ニ陥ルモノアリ。之ヲ好訴病者ト云フ。

本病ハ妄想性痴呆トハ同病ナリト見做サル、位ヒナレバ、ソノ鑑別時トシテ殆ンド不可能ナリ、麻痺性
痴呆ノ初期トハ身體的症候ニテ區別シ、中酒性或ハ癲癇性妄想トハ、ソノ病狀ニヨリテ自ラ差アリ、僞好
詐病者トノ鑑別ハ既ニ記述セルガ如シ。

本病者ノ重キモノハ全ク妄想ニ支配サレテ行動スルガ故ニ、一見狂者ノ如ク見エザルモ、心神喪失ヲ以
テ論ズベク、輕キモノハ心神耗弱者ナリ、民法上ニテハ多クハ心神耗弱ノ常況ニアルモノト見做スヲ適當
トス、蓋シ本病者ハ妄想以外ノ事ニハ全ク常人ト異ナラザルコト多クレバナリ、本病者ハ往々ソノ妄想ニ

早發癡狂

驅ラレテ反抵、詐欺、放火、殺人等ヲナスモノナリ。

八、早發癡狂

本病ハ青年期ニ發病シ、比較的急速ノ經過ヲ以テ痴呆ニ移行スルモノニシテ、ソノ原因ハ遺傳ニ關スルコト多ク、本病ニ罹ルモノハソノ初メヨリ強情、變屈或ハ不行跡ナルモノ多シ、本病ハ精神病者中最モ多キモノニシテ、多クノ精神病院ニ於ケル入院患者ノ約三分ノ一ヲ占ムト云フ。

早發癡狂患者ハ外觀上痴呆狀ヲ呈セルモノニテモ、指南力比較的良、幻覺錯覺ニ富ミ、就中幻聽多ク、考慮紊亂シ支離滅裂症ヲ呈シ、妄想ヲ來シソノ内容ハ心氣性、追跡性被害性乃至罪業性ニシテ、條理甚ダ奇異不合理ナルモ患者ハ之ヲ信ジテ疑ハズ、記憶障礙ハ少シ、本病者ニ於テ最モ注目スベキハ、感情ノ甚シキ鈍麻減退ナリ、患者ハ萬事ニ興味ヲ失ヒ、家族ニ對スル愛情モ冷却シ、花咲クモ鳥啼クモ亦ソノ心緒ヲ動カスニ足ラズ、遂ニハ甚シキ不關性ニ陥ルモノナリ、從テソノ行為モ亦意志ノ表示ヲ失ヒ、茫然、無爲ニソノ日ソノ日ヲ送ルコトヲ多シ。

時トシテ何等意志發動ニテ關係ナク、衝動性ニ種々ノ行為ヲナシ、暴行ヲ敢テスルコトアリ、ソノ他拒絶症、緘黙症、常同症、街奇症、強硬症狀及反響症狀等ハ本病者ニ屢發來スルモノナリ。本病者ノ精神的作用能力ハ常ニ著シキ病的障礙ヲ被リ、ソノ行為意匠凡テ錯亂奇警ヲ極メ、技巧ノ精緻等ハ再ビ之ヲ望ムベカラザルニ至ル、身體的ニハ著明ナル特徵ナシト雖、時トシテ痙攣發作、卒中樣發作、ひすてり樣發作アリ、ソノ他腱反射亢進、瞳孔散大、皮膚紋畫症、拒食暴食等ヲ見ルコトアリ。

本病ヲ通常ニ區分シテ、破瓜狂、緊張狂及妄想性痴呆トスト雖、各病型ノ間ニ明ニ限界アルニアラズ、

相互ニ相移行ス、更ニ類破瓜狂ヲ區別スルモノアレドモ、予ハ成ルベク簡明ナランコトヲ欲シ、前區別ニ從フ。今各病型ニ就テ略述セン。

破瓜狂

(イ) 破瓜狂、最モ慢性ニ發病シ妄想稀ニ、興奮、昏迷等ノ著シキ症狀少ク、不知不識ノ間ニ漸次痴呆ニ陥ルモノヲ云フト雖、時トシテ幻覺并ニ心氣性、追跡乃至被害性幻想ヲ惹起シ、幻聽幻視幻觸之ニ次ギ考慮發聲考慮現形亦稀ナラズ、從テ患者ハ苦悶性トナリ、恐怖不機嫌、憤怒、爽快、色情興奮相亞イデ至レドモ遂ニ不關性トナル。動作ハ一般ニ因循不整ナレドモ、街奇的行動アリ、荒淫、破壞、亂酒徘徊、浮浪、自殺、暴行乃至放火等ノ犯罪ヲ行フ。

緊張狂

(ロ) 緊張狂、本病ノ初期ニ於テハソノ症狀全ク破瓜狂ト同一ナレドモ病初ハ多少沈鬱ニシテソノ前驅期長ク、多數ノ妄想ノ發現アルヲ常トス而シテ奇行多ク、無爲茫乎トシテソノ日ヲ送り、突然徘徊無意味ノ訪問等ヲナシ、時トシテ毆打傷害、自殺企圖、放火等ノ犯罪ヲ敢テス、本病ノ特徵トスベキハ、所謂緊張性昏迷及興奮ニ陥ルニ在リ、此際ニハ緘黙、拒食、常同、街奇等ノ諸症狀ト共ニ、表情茫乎トシテ自發運動ヲナスコト少ク、強硬症狀及反響症狀アリ、唾液及兩便ノ始末惡ク不潔汚穢トナリ、而シテ突然衝動的動作ヲ行フ、此動作ハ無思慮街奇的ニシテ、外界ノ事情ヲ顧慮セズシテ盲動ス、言語モ亦街奇的錯亂性ニシテ、詞語新作、常同、反復等ヲナシ、不潔、不眠、食思不整、色慾亢進アリ、意識ハ少シク濁濁シ感情ハ漸次鈍麻ス、一般ニ本病ハ妄想多キ刺戟期、興奮昏迷期ヲ經過シ、ソノ大部分ハ痴呆ニ陥ルヲ常トス。予ハ本病者ガ神ノ命令ト信ジテ吳服店ヨリ幾多ノ反物ヲ取寄セ之ヲ轉賣セル一事件ヲ鑑定セル事アリ。

(八)妄想性痴狂、本病ハ前二病型ニ比シ、妄想妄覺ノ持續長期ニシテ且顯著痴呆トナル迄ノ經過比較的長キモノナリ、本病ヲ又次ノ三型ニ區分ス。

(一)幻覺性妄想性痴呆、初メ著シキ幻覺アリテ、之レヨリ妄想ヲ惹起スルモノナリ、即チ電氣光線等ニ依リテ身體ヲ迫害セラル、ナドノ所謂理學的被害妄想ヲ呈スルモノ多ク、又關係妄想ヲ有スルモノ少ナカラズ、行爲ハ凡テ衝動性ニシテ、何等ノ動機ナクシテ俄然暴行ヲナスコトアリ。

(二)妄想性痴呆、多クノ連續ナキ追跡妄想、誇大妄想ヲ有シ、幻覺ヲ伴フ、情緒ハ刺戟性トナリ、暴行ニ陥ル、輕度ノ衝動行爲、拒絶症狀及色情亢奮アリ。

(三)空想性妄想性痴呆、コハ主トシテ秩序アル妄想ヲ有シ、ソノ妄想ハ幻覺ノ影響ヲ受クルコト少シ、而シテソノ想像的架空のニシテ、全ク根據ナキコト多ク、些細ノ事實ニ重大ナル空想的意味ヲ附會シ、己レト關係アルガ如ク妄想シ或ハ被害ヲ恐レ、或ハ脅大ニ構フルヲ常トス、行爲ハ妄想ニ依テ支配セラレ時トシテ放火殺人等ヲナスコトアリ。

上述ノ如ク早發痴狂ニハ種々ノ病型アレドモ、之ヲ一々鑑別シテ診斷ヲ附スルハ困難ナルコト多キヲ以テ非常ニ定型の病徵ヲ呈セザル限リハ、早發痴呆ナル病名ノ下ニ一括シテ診定スルコトナリ居レリ。本病ノ初期ニ於テハ甚ダ屢々ひすてり或ハ神經衰弱ト誤認セララルト雖、感情ノ方面ヲ精査スレバソノ鑑別容易ナルベク、癲癩或ハ躁鬱狂トノ鑑別モ往々困難ナルコトアリ、麻痺性痴狂トハ身體的症狀ヲ精査スレバソノ鑑別容易ナリ、破瓜狂病者及輕度ノ痴呆者ニ在リテハ、特ニ犯罪ノ傾向多ク、浮浪者ノ中ニ本病者ヲ見出スコト往々ナリ、本病者ハ比較的理解力、指南力、智力等健全ナルニ係ハラズ、俄然衝動的或ハ衝動

性犯行ヲナスヲ以テ、伴狂者ト誤マルコト多シ、刑法上ヨリ見レバ本病者ノ行爲ハ多クハ心神喪失ノ裡ニ行ヒタルモノニシテ、民法上ニ處分能方アルモノハ少ナク、多クハ心神耗弱者若クハ心神喪失ノ常況ニ在ルモノトシテ處分サル、ヲ常トス。

實例—妄想性痴呆—放火

檢案書

大正〇年六月二十六日〇〇地方裁判所檢事〇〇〇〇ハ〇〇次郎放火被告事件ニ付同應檢事廷ニ於テ

一、犯時及現時ニ於ケル被告ノ精神狀態

ヲ檢案スベキ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ被告ガ現時入院中ナル京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院ニ於テ大正〇年七月一日十三日及二十四日ノ三回被告ノ心身狀態ヲ檢診シ同院ニ於ケル病床日誌及一件記録ヲ査閱シ彼是ヲ綜合シテ此鑑定書ヲ作ル

上、檢査記録

〇〇縣〇〇郡〇〇村大字志那

〇〇 浩 郎

三十五歳

甲、第一回檢査(大正〇年七月一日)

被告ガ診察室ニ入り來ルヤ粗雑ナルオ辭義ヲナシテ着座シ常人ニ比シ微笑スルコト多シト雖姿勢及着衣等ニ著變ナシ彼ハ談話ヲ進ムルヤ我ノ云フ所ヨク彼ニ通ズト雖彼ノ云フ所往々我ニ通ゼザルコトアリ之レ被告談話ノ理義減裂ニ歸スルコト多クケレバナリ

1、〇サンデスカ

ハイ

2、名ハ

忠治郎

3、年ハ

三十五歳

4、所ハ

〇〇縣〇〇郡〇〇田村大字志那

5、ドウシテコ、ニ來マシタカ

一寸私ハ氣ガ違フテ病院ニ來イト云ハレマシタ

6、今日ハ

七月一日デス

7、生年月日ハ

明治十六年正月二日デス

8、アナタノ家ノ昔ノコトヲ知ツテ居マスカ

昔ノコトハ聞イテアル丈ケノコトハ知ツテ居マス

9、祖父母ハ生キテ居マスカ

居マセン祖父ハ父ノ七歳ノ時ニ死ニマシタ

10、父ノ兄弟ハ

ナイ

11、母ノ兄弟ハ

三人アリマス

12、ソレハ皆壯健デスカ

ハイ

13、兩親ハ丈夫デスカ

父ハ老年デアキマセン私一人デ働キマス

14、コレ迄毎日アナタハ何ヲシテ居マシタカ

チヨツチヨト手傳ヲシテ居マシタ

15、家内ハアリマスカ

アリマセン一度結婚シテソレカラ氣ガ違ッタノデシタ

16、アナタノ子供ノ時ハ丈夫デシタカ

ヒドウ病氣ハセナカッタ儘ヲシタバカリデ其外ニハ熱デニ

三日寝タコトガアリマス

17、ひゑトカソノ他下ノ病氣ヲヤソタコトハアルカ

アリマセン

18、學校ハドノ位ヒ行キマシタ

五年迄行キマシタガ一年中半期ハウチノ手傳デシタ

19、成績ハドウデシタ

覺エガ惡フ御座イマシタ

20、學校ヲ卒業シテカラ何ヲシテ居ツタカ

ウチデ百姓ヲシテ居リマシタ

21、兵隊ニハ行カナカッタカ

行キマセン

22、ナゼ

知リマセン

23、ソノ後ハウチデ何ヲシテ居ツタカ

百姓ヲ熱心ニシテ居マシタ澤山ノ同胞デスカラ兄弟ハ九人アリマス

24、アナタハ長男カ

姉ガ先キデス

25、百姓ノ外ニ何カヤツタカ

百姓バカリシテ居マシタ外ニ氣ニ入ツタコトガ出来ナイカラ百姓ヲ憐梅ヨクシテ居マシタ

26、同胞九人ノ名ト年ヲ順番ニ言フテ御覽

姉ハ二十七歳イヤ三十七歳デス、次ハ私デ次ハ〇字ノ介二

十八歳、〇フサ二十六歳、次ハ〇音松二十五歳次ハ〇ヨキ

二十四歳、次ハ〇ツル十九歳、次ハ〇春道十三歳、次ハ〇

ユリ十一歳死ンダノガママアリマスガ恥カシイ程デ六人死

ニマシタ私ノ世話ニナツテ死ンダノモアリマス生レテ直ダ

死ンダノモアリマス

27、同胞ヤ親屬ニ氣ノ變ニナツタ人ハナイカ

アリマセン

二、此等ノ問答ノ間被告ハ診察室ニ出入スル看護婦等ニ注意ヲ拂

ヒ一時間毎ニ聞ユル時計時鳴或ハ會社ノ氣笛等ニ耳ヲソバダツ

ルコト多シト雖談話中被告ノ足ヲ踏ミ或ハ机ヲ打ツモ敢テ注意

ヲ向ケザルガ故ニ今何ヲシマシタト云ハベ足ヲ踏ミナサレタ机

ヲ打チナサレタト答フ

28、之(聴診器)ハナンドス

ソレハ先生ノ見ル道具

29、之(爪切)ハ

爪切

30、之(耳振キ)ハ

耳振キ

31、之(ヤサリ)ハ

ヤサリ

32、胸算ハ上手デスカ

一向ヤリマセンデ

33、25 X 3ハ

七十五(十二秒ノ後)デス

34、125 X 3ハ

六百(七秒)デス

35、17 X 3ハ

八十一デス(二十一秒)

36、ドウモ合ハン考ヘ直シテゴラン

五十一デス(九秒)

37、1917 X 3ハ

一向出来マセン(一分ノ後)

38、今一番初メニヤツタ數ハ何デシタカチ

一寸忘レマシタ

39、57 - 31ハ

二十六デス(十一秒)

40、25 X 8ハ

五十三デス

41、間違ヒナイデスカ

ハイ

42、前ニ出来ナイト云フタ勘定ハ何デシタカチ

2917 X 3ハシタ

43、算盤ハ

掛ケ算ハシマスガ割算ハムツカシイ

44、24 X 3ハ

第三編 法醫學的精神病學 八 早發癡狂

七デスナ(十三秒)

45、ソノナ馬鹿ナコトガアルモノカ

七デス 七デスナ

46、9 X 3ハ

三三ガ九デス六デス

47、九錢ヲ三人ニ分ケテヤルト

三錢デス

48、貳十七錢ヲ三人ニ分ケテヤルト

四錢デス 八錢デス

49、壹錢違フナ

九錢九厘ニナリマス(二十一秒)

50、話ハ變リマスガ御大典ノアツタノハイウデス

大正四年十一月デス

51、日ハ

知リマセン

52、明治天皇ノ崩御サレタノハ

明治四十五年九月デス

53、違イナイカチ

十月デスカイナア

54、日清戦争ノアツタノハ

明治二十七八年デス

55、日露戦争ハ

三十七八年

56、旅順ノ陥落ハ

八月デスカナア一シツカリ覺エマセマ

57、今年ハ明治ニスルト何年ヤ

六六七

- 明治五十年デス
- 58、紀元ニスルト
二千七百五十年デスカイナア！
- 59、昨日ノ天氣ハドウデシタ
朝ハ曇天ソレカラ觀山ニ雲ガカ、リマシタ
- 60、昨日ハドウシテ暮シタ
煙草ヲ十時ニ呼バレテ休ンデ晝飯ヲ呼バレテ三時頃愉快散
歩ニ出デ四時頃ニ菓子ヲ貰ヒマシタ七時ニ休ミマシタ
- 61、昨日ノ夕食ニハドンナ御馳走ヲ食フタ
葱ト魚デスナア！
- 62、今朝ハ
葱ノ汁デス
- 63、病院デハ退屈デスカ
退屈デス歩イタリ遊ビニ行ツタリシテ居リマス
- 64、ドウシテ入院シタ
氣ガ違フテ知ラン中ニ病院へ來イト云ハレテナア！
- 65、何かシタカ
嫁ヲ貰フテカラ自分ハ何トモナイガ人ガ氣違ヤ阿呆ヤト云
ヒマシテ合手ニシマセヌ
- 66、何か悪イコトヲシタノカ
私ガホントニシタノジヤナイ皆ガ私ヲ殺シテシマフト云フ
氣ガシタ私ハ澤山ノ神様ヲ信仰シテ居マスデソソナコトヲ
云フタカデアキマセンケレドモ
- 67、一ツノ神様ヲ信仰シテハ如何
色々ノコトヲ人ニ云フト價值ガナクナル私ノ信仰ヲ人ニ取
ラレル

- 68、信仰シテドウスル(話頭信仰問題ニ入ルヤ被告ノ顔面緊張シ
少シク紅色ヲ帯ビ流ル、ガ如ク談ズ)
今多クノ兄弟ガ丈夫デ暮シテ居ルガフット皆ガ私ヲ殺シテ
シマフ私ノ家ハ一代シカモテヌト云フコトガ私ノ頭ニ浮
ンデ來ル
- 私ノ親ガ七ツノ時カラ苦勞シテ居ルカラ私ハソノ爲メニ百
姓バカリシテオル夫レデ皆ガ私ヲ嫁ガル様ニシムケル嫁ヲ
持タセテ吳レト願フケレドモ氣違ヒ阿呆ト云フテ氣ヲ迷ハ
ス(被告ノ談話ハ少シ長キモノトナレバ條理一貫セズシテ
意義不明ノ所多シ)
- 69、嫁ノ名ハ何ト云ヒマシタ
〇〇ごめデス
- 70、嫁ハナゼ逃ケ歸ツタノ
コンナコトヲサレルトハ思ハナカッタ嫁マデガ世話人ノ房
次郎ト腹ヲ合セテ私ヲ氣ノ違フ様ニスルトデスコンナコト
ハ云ヘタコトデナイケレドモ(一寸後ヲ省ミテ低聲トナリ)
私ハ夜嫁ニ毒ヲ食ハサレマシタ朝起キテかやくめし(すし
ノコト)ヲ食フトハツト思ハレテ齒ガ鳴ツテ仕方ガナイ
- 71、毒ヲ食ハセタノハごめ一人カ
外ニ誰モ居マセヌカラごめ一人デス夫レカラ氣ガ違フテミ
めハ逃ゲテ仕舞マシタ
- 72、外ニ思當ルコトガナイカ
何モ知リマセヌ
- 73、〇其右衛門ト云フ家ヲ知ツテオルカ
一寸ヤリマシタアレハ私ガシタノデハナク神様ノ御告ヂヤ
リマシタごつちカ肥料ニセイト云フ聲ガシタノデソノコト

- ガ私ガ仕事ヲシテオル時ニ頭ノ中ニ寫リマスホントノ聲見
タ様ニハ聞エマセヌガフット私ノ頭ニ浮ビマス又私ヲ相續
人ニセヌト云フコトガ分リマスコレハ神様ノ力デ私ノ頭ニ
直グ分ルノデス
- 74、〇〇龜四郎ト云フ人ヲ知ツテオルカ
ドウモアリマセヌ一寸焦ゲタ丈デス
- 75、アノ放火モオ前カ
私デス
- 76、其右衛門ノ女房ト仲ガ善イダロウ
イーエ
- 77、イヤ姦通シテオルト言フ話ダゼ
若イ時ノ馴染デ其右衛門ノ女房ヲ十七歳ノ時カラヤツテオ
ル
- 78、其右衛門ヲ殺シ家ヲ焼キ拂フテシマオト思ハナカッタカ
ソソナコトハナイ
- 79、亭主ガアル女ニナゼ姦通シタソソナコトヲスルト其右衛門
ハ怒ラヌカ
- 80、姦通シテモヨイト向フノ母親ガ顔付デ知ラセル
ソソナ顔ヲスル
- 81、ナニシロ娘ニモ言フテアルト見エ
見ラレタコトガナイカラドウモナイ
- 82、モウ一軒火ヲ放ケタロー
〇〇藤助ノ家ヲヤリマシタ
- 83、ドウ云フ積リデ
皆ガ私ノ家ヲ食フテシマフヤツテシマヘト信仰ノ力デ私ノ

- 頭ニ浮ビマシタカラ放火シタノデス
- 84、火ヲツケルノハソレ丈ケノ理由カ
知ラセガアリマシタヤリマス百姓ノ仕事デモ知ラセガア
リマスレバ直グ解リマス
- 85、神様ガ惡イコトヲ教ヘルカ
ナンニセー村ノ者ガ私ノ家ヲ食フテシマフト言フノダカラ
私ガヨク氣張ツテ米ヲ澤山取ルカラ皆ノ者ガ憎ム私ガ牛ヲ
連レテ行クト村ノ人ガ横へ向イテ私ノ氣ノひがむ様ニスル
- 86、ソソナ村ヲ焼キ拂フテシマフ積リカ
ソソナコトハナイケレドモ皆ガ私ノ家ヲ食フテシマフ、女
房モ邪覽シテ持セヌト言フ始末デスカラ……アナタデモ信
仰シテ御覽直グ分リマスカラ女房ヲ取りタイト働イテオル
ノニ女房ハ取ラセヌト邪覽ヲシクサルカ……シメニ一ツ
焼イテヤロウト思ツタノデス
- 87、私ハオ前ノ村デ開イテ來タガ誰モソソナコトヲスル奴ハナイ
ソウダゼ
イヤ實際デス私ハ人中ニ出デ、ドウコト云フ人間デナイ
カラ皆ガ阿呆ト云ヒオリマス
- 88、龜サンノ家ニ火ヲツケタノハ何日ソウシテドウ云フ風ニシテ
ツケタノカ
五月デスナ日ハ知リマセン黨ヲ以テ行ツケマシタツマド
ノ口ヘデスツケタラ近所ヲ見ズニ逃ゲマシタ見ラレタラ私
ガ皆ニ赤イ顔ヲセニヤナランノデ見付ケラレヌ様ニ逃ゲタ
燃ユル所マデヤレト云フ御告ヂアリマスケレドモ私ハ度胸
ガナイカラソソナニハヤリマセヌ
- 89、其右衛門ノ所ハドウシテツケタ

- 90、藤藏サンノ所ハ
日ハ分リマセヌ底ヘツケテ逃ゲマシタ
アレハ六月十八日デシタカイナトツケテシユートコチラニ
逃ゲマシタ
- 91、ソノ時村ノ人ハドウシテ居タ追カケラレテ呼バレハシナカッ
タカ
ヘイ私ハ知ラヌ顔ヲシテ居タ私ハ内ヘ歸ツテ子テ明ルクナ
ツテカラ藤助サンノ處ヘ行ツタノデス
- 92、マダ焼キタイ所ハナイカ
イエソソナ所ハアリマセヌ
- 93、警察デハ村中ヤイテシマフト云フタジヤナイカ
イーヤ皆ガ知ツテシマフト信仰ガ駄目ニナリマスカラモウ
ダメデス
- 94、オ前ハ人ノ家ヲ焼イテドウナルト思フテオ
氣ガ元ヘ戻ツタラ内ヘ歸フテスト道入ル
- 95、ソソナ悪ルイコトヲシテオイテ直ニ家ヘ歸レルト思フカ
私ハ心デシタノデナイカラ罪ハナイト思ヒマス
- 96、此病院デ一日ニ金ガ幾何イルカ
ヘイ三等デ八拾錢イリマス裁判ガツイタラ一日デモ早クイ
ナシテ貰イタイ
- 97、オ前ハ私ガ何シニ來タカ知ツテオ
私ノ心ヲ見ニ、申分ノアルカナイカ見ニ
- 98、甲分アレバ
治シテヤロウト思フテ來テ下サツタノデス
- 99、此病院ノ者ト思フカ
アナタハ院長サンデソコヲヲ試驗シテ廻ル人デス

- 100、早ク歸リタイカ
ヘイ
- 101、オ前氣ガドウカ
氣ガ迷フテオ
今氣ガ付イテ來タカ
- 102、一日デモ早クイナシテ貰イタイト念ジテ居マリ
牛ト馬トノ違ヒハ
馬ハ側ニヨレヌ大キイシ角ガナイ鼻グクリガナイ尾ハ長イ
牛ハソノ反對デス
- 104、茶碗ト土瓶トノ差ハ
土瓶ハ蓋ガアル茶碗ハ小サイ土瓶ハ口ガ小サク出ル所ガ小
イサイ茶碗ハ一口デス
- 105、池ト川トノ差ハ
川ハ土水、池ハ清水デス川ニハ魚ガ居ル
- 106、日本デ一番エライ人ハ
天皇陛下
- 107、近江デハ
知事一名ハ知ラヌ
- 108、乃木大將ハドンナ人
陸軍大將デスナア!
- 109、加藤清正公ハ
家ヲ焼キ亡ス人デスナ
- 110、岩見重太郎ハ
知リマセヌ
- 111、宮本武藏ハ
知リマセヌ

112、大星由良之介ハ

知リマセン

113、芝居ヲ見タコトハナイカ

私ノ所ハ舞臺ガナイカラ見タコトハアリマセン

114、日本ノ最高山ハ

富士山デス

115、日本ノ最大川ハ

知リマセヌ

116、最大湖ハ

近江ノエーニエー琵琶湖デス

117、村デ税ヲ納メルノハ何ニ使用スルノカ

天皇陛下ニ納メル金ト縣稅村稅デス

118、何ニ使用サル、カ

陸軍ヤ海軍ノ費用ヤ人民ヲ治メタリ並デナイ人ヲ養フタリ
シマス

119、兵隊ハ何ノ爲メニナルカ

國ノ爲メヤ天皇陛下ノ爲メ人民ガ取ラレヌ様ニ向フノ天
皇陛下カラ取ラレヌ様ニデスツマリ天皇陛下ノ差圖デス

120、次ニ私ノ云フ言葉ヲ聞イテ一番ニオ前ガ思ヒ出ス言葉ヲ云フ
テ御覽

刺戟語

電氣

時計

赤イ

白イ

神様

紙

人ヲ惱メル

小鳥

金

鉛筆

天

善

121、るりもはりもてらせばひかるト云フテ御覽

るりもはりもてらせばひかり

坊主ガ屏風ノ畫をかけた

（第一回ノ身體的検査ヲ行フ但シ身體的徵候ハ前後三回ノ檢
診ニ於テ大差ナキヲ以テ最後ニ一括シテ記スルコト、セリ）

乙、第二回検査（大正〇年七月十三日）

三、子ガ検査室ニ入ラントスルヤ廊下ニ於テ被告ニ出會セルモ恰
モ子ヲ知ラザルモノ、如ク挨拶モセズシテ検査室内ニ入りニコ
ニコシテ着座シ予ノ検査ヲ俟テリ

122、此ノ前ノ私ノ來タノハ何日デシタ

七月一日（正）

124、何ヲ聞キマシタカ

アナタノ方デ色々尋子デシタ

125、父方ノ祖父母ノ名ハ

知リマセン何シロ七歳ノ時ニ祖父母ガ亡クナラレタカラ

126、普通祖父ノ名ハ知ランモノハナイモノダカナア!

ア、忠左衛門

127、父方ノ祖母ノ名ハ

コリヤ知リマセン

128、母方ノ祖父ノ名ハ

氣ヲ惱マス

樂シミ

字ヲ書ク

地球

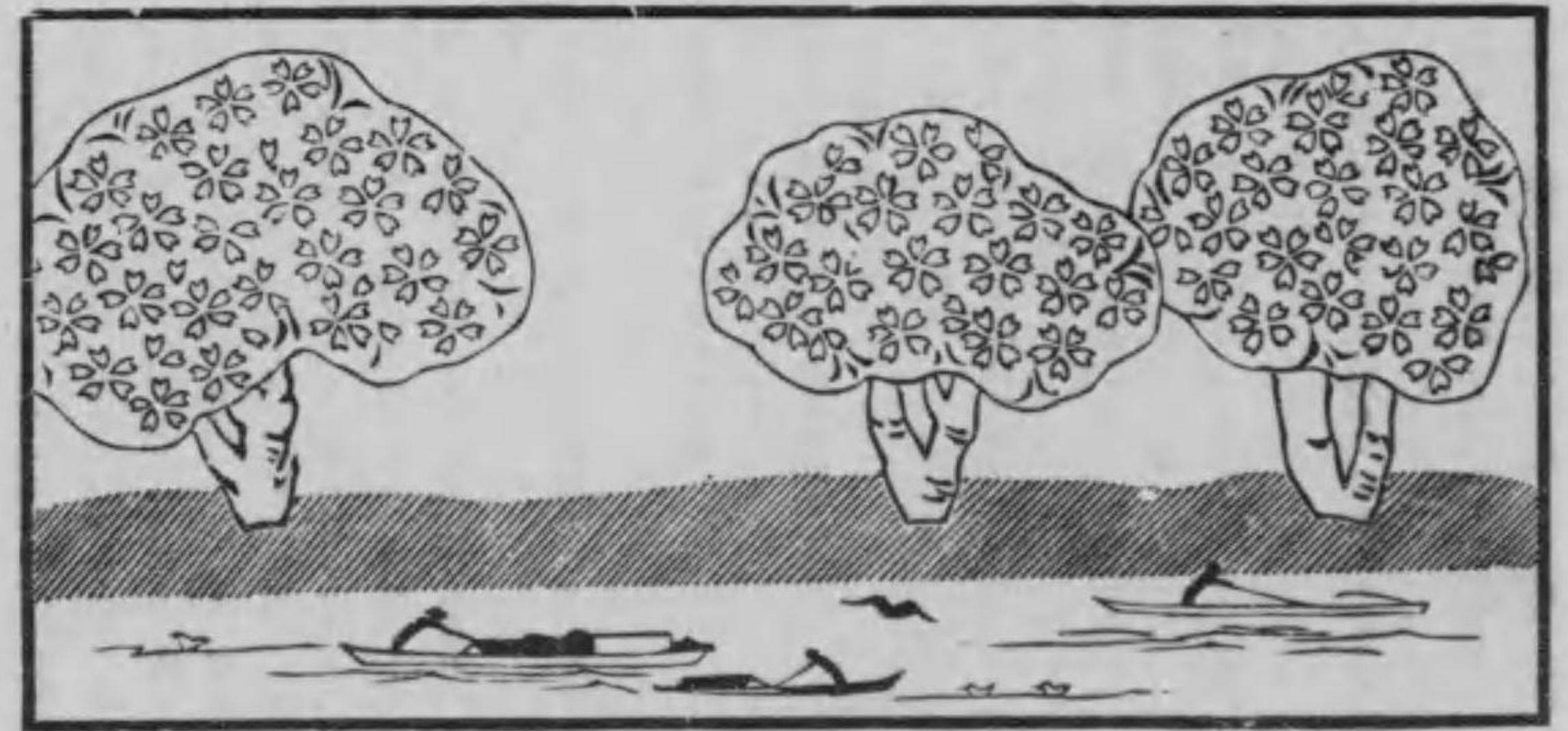
ヨイコトデスナア!

- 129、母方ノ祖母ノ名ハ
あきデス丈夫デス
- 130、母方ノ祖父ハ何デナクナラレタ
腹ノ病氣ノ腹ノぞうもくガ腐ツテ
- 131、父ノ名ハ
○捨松
- 132、丈夫カ
長イ病氣シテカラ身體ガ弱ク手傳イ位ヒ外出来マセン
- 133、氣ハ確カカ
長イコト藥ヲ吞ンデオル
- 134、○權松ト云フ人ハ
知リマセン
- 135、親族ニ氣ノ違フタ人ハナイカ
アリマセン私ガ一寸氣ガ迷フテ居マス
- 136、兩親ハ血族結婚ジヤナイカ
二代カ三代前ノ親族デス即チ曾孫同志ノ結婚デスナ昔ノモ
コガ生レテ來タヘ……三代四代スルト昔ノモノガ生レテ
來ル昔ガ向フテ來ル一家デモ三四代スルト又昔ニ戻リマス
私ハソウ云フコトヲ考ヘテ居マス三代スルトコロツト變リ
マスハ
- 138、同胞ノ内ニ子供ノアル人ガアルカ
アリマス
- 139、變ツタ人ハナイカ
男ガ三人アリマス皆丈夫デス

- 140、昨日ノ天氣ハドウデシタ
随分ヨカッタ
- 141、毎日病院デ何ヲシテ居マス
何モ用ハアリマセン將基ヲサシテ遊ンデ居マス
- 142、氣樂デスカ
面白クアリマセンナア！究屈デ仕方ガアリマセン外ニ出ラ
レンサカイ
- 143、内ノ人ハドウシテ居ルダロウ
金ハ心配センデモヨイト警察デ云ハレマシタ縣カラ出ルノ
デショウ！内カラ出ルナラ内カラデヨロシイ
- 144、内ニ金ハアルカ
アリマス
- 145、此間ハ貧乏ジヤタト言フジヤナイカ
百姓ジヤカラ取上ゲ子バ收穫ガナイカラ
- 146、一日ニアナタノ内デドノ位セ儲カルカ
詳細イ計算ハシマセンガ此處ニ居ルト飯代ガ一日ニ五拾錢
入りマス内デハソソナニ入りマセン
- 147、アナタノ内ノ財産ハ大抵ドノ位アリマス
一年ニ米三十五俵賣リマスソレト菜種トデ一年ノ生計ヲ立
テマス米一俵六圓トシテ一寸貳百圓菜種二石貳拾圓合セ
テ貳百貳拾圓アマリ
- 148、税金ハ一年ニドノ位イルカ
七拾圓デス
- 149、ソウスルト差引幾何ノコルカ
百參拾圓殘リマス
- 150、一日、八拾錢ノ入院料トシテ百參拾圓デ何日入院スルトガ

- 出来ルカ
百五十二日トひなかデス
- 151、ドウシテ計算シタノカ
八拾圓デ百日、八圓デ十日、五拾圓デ五十二日合セテ百五
十二日トひなかデス
- 152、一年ノ收入デ半年ノ入費ヲ支ヘカモタラアナタガソソナニ大
院シテ居ルト内ノ財産ガ減ズル筈デスネ
ヘイ私ガ居ナクナルト内ノモノガ働ケナイカラ心配デス今
日ナドハ田ヘ水モ引カナケレバナラス
- 153、鶴ト鶴ト合シテ頭數五十疋ニシテ足數ハ百二十本ナリト言フ
鶴鶴各幾疋ツ、ナルヤ
二十五疋デ、デス
- 154、ソソナラ鶴二十五疋鶴二十五疋足數ハ何本カ
五十本ト百本合セテ百五十本
- 155、問題ト合ハンデナイカ
ドウモ分リマセンナア！
- 156、此新聞紙ノ意味ハ
廿三日、日光方面ハ朝來ノ烈風にて寒氣甚し御嶽ノ一行ハ今
日最終日とて大に努めたれど鹿二頭を得たるに過ぎず、初日
より一週間の獲物鹿廿八頭、一行ハ廿四日午前十時廿分日光
發にて歸京すべし
(假名ヲ断片的ニ讀ミナガラ)禮式ガアツテ……ヘヘヘ
(ト笑フ)
- 157、モウ一度讀ンデ御覽
判断ハツキマセン
- 158、此畫ハ何ガ描イテアリマスカ

圖三十九第



159、時期ハ何時デス

160、土手ニ櫻ガ咲イテオリ大キナ川ガアツテ船ガ通ツテオルソレハドコデスカ

161、次ノ書ノ不足ヲ補フテ御覽
(但シ實線ハ検査ノ記セルモノ點線ハ被告ガ入レシモノナリ)

圖四十九第



162、六ヶ敷ナア一書イタコトガナイデ(ト言ヒナガラ記入ス)

163、此紙ニ書イテクレ(別紙ノ通り書ク)(別紙寫ス)

164、此書ニ何か曰クガアルカ
オ多福ハ福助デ仆レテモ鼻ヲ打タヌ
アナタハ馬鹿ニ効能アル書カ字ヲ知ランカ
アリマセヌ

166、此新聞ニアルノ字ノ傍註ヲ附シテ御覽

ニ一デルランド、ロウナルタム及ロイド汽船聯合の經營せる瓜哇領有線は同線開始以來頗る好況にして、歐洲戰亂勃發も比較的危險少く對米貿易に着眼し瓜哇米國間貿易艱難の結果母船船隻滿載の有様なるが、更に戰災の關係上今回パタビヤより長崎へ航し巴奈馬を経て紐育に達するの迂迴航路を執るに至りし爲め、パタビヤ地方の護謄、珊瑚、椰子油タビヲカ皮革等米國に仕向けられ、復航として鳥具、自動車食料品、電貨等を搭載し來るに至れり(松本バタバヤ領事報告)

167、マダ落チテオルノガアルヨ

168、モウ一度ヨク見テ御覽

169、次ノ誤字ヲ正シテ下サイ

170、次ノ各文句ヲ順序ヨク排列シテ意味ノヨク分ル様ニシテ下サイ

171、其右衛門ノ處ニ火ヲツケテ理由ハ

172、アレモドナラナト肥料ニセヨト心ニ浮ンダカラデス別ニ燒ク積リハアリマセンケレドモ

173、ソノコトハアリマセヌ、私ニ嫁ガナイカラ行ケト頭ニ浮ンダカラデス行キマシダガ甚右衛門ニハ見付ラレマセヌ

174、アノ女房ハ何トモ云ハナイカ

175、甚右衛門ト合性ガ惡イデ私ト馬ガ合ヒヤツバリヤルデスナ

176、〇〇離滅ノ家ヲ燒イタノハ如何ナル理由カ

177、アレモ裏家ヲヤレト頭ニ浮ンダカラヤツタノデス

178、何ンデソノコトガ頭ニ浮ンダ

179、信仰ガヒドイヤもめノ信仰デ分リマス私ノ親モアカメト云ツテ嫁ノ世話ヲシテクレマセヌヒドイ親デス

180、ソノナ馬鹿ゲタコトハアルモノカ頭ニ浮ンダカラデス先生木間デスゼ疑ヒヲカケタラ駄目デス

181、火ヲツケルト面白イカ

182、何故ソノコトヲシタ

183、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

184、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

185、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

186、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

187、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

188、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

189、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

190、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

191、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

192、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

193、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

194、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

195、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

196、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

197、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

198、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

199、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

200、私ガ嫁ガナイデ信仰シタラソノコトガ頭ニ浮ンダカラデス

- コレデヨク意味ガ分ルカラ訂正スル必要ガナイト云フテ數回誘導スルモ敢テ訂正セントセズ
- (2) 歸リ、病氣、早く、を、治して、たい
- 早く病氣を治して歸りたい
- 171、病氣ガ全快シタカラ迎ヒニ來テクレト云フ手紙ヲ書イテ御覽
(ハイト云ヒ考ヘ次ノ手紙ヲ書ク)
私は病、喜かいた候はやくきてくらされた候御まらオリ候
- 172、神様ニ上グル秘密ノ字ハナイカ
別ニアリマセンナア
- 173、先達モ聞イタガドウシテ火ヲ放ケタカ
ツケヨト心ニ浮ンダカラ付ケタデス
ドウシテ
- 174、夜寝テ居テモ眼ニ見ニ晝起キテ居テモ心ニ浮ビマス向フノ
方ニアラハレテケル
- 175、神様ガドンナ風ニアラハレルカ
……嫁ノ代リテヤレト云フ様ニ分カル、内ノ相續人ニ來タ
嫁ガ食フテシマフテ歸ツタカラヤレト云フ様ニ頭ニ浮ブカ
ラヤリマシタ
- 176、見エルト云フノハドンナ風ニ見エルカ
心ニ浮ブ丈ケデス
- 177、〇〇總二郎ト前ノ嫁ト何ノ關係ガアルカ
何モ關係ハアリマセヌ
- 178、只〇〇總二郎ノ家ヲ燒ケト浮ンダ丈ケカ
ヘイ、私ガ子が出來ン嫁ニ行ツテモアカント云フコトヲ白
井タカ云ヒフラシタカラデスナ

- 188、放火ヲシテモ警察デドウモセムカ
神様ノ御告ノ通りニシタカラ罪ヲキセタツテ駄目デス
- 189、罪ヲ被レバドウナルカ
コンナコトヲシテ遊ンデハ居ラレマセン
- 190、監獄ト云フ所ヲ知ツテオモカ知ツテ居ルナラドウシテソナ
コトヲスルカ
私ガ本氣デヤツタノト違ヒマス信仰デシタノハ自分デシタ
ノト違ヒマス
- 191、ソナナラ本氣デシタノト信仰デシタノトドウ違フ
惡心ガナイカラ違ヒマス
- 192、人カラ見テハソノ區別ハ分ラヌジヤナイカ
夫レハ神ノ精神ニアルノデスガ警察デ分ラヌデ監獄へ入ル
レバソレハ仕方ガアリマセヌ
- 193、嘘ヲ云フテオモルデハナイカ
私ハヤマシイコトガナイカラ警察へモ先キニ立ツテ行キマ
シタコンナコトヲ云フタラ私ノ信仰ガ無茶苦茶ニナツテシ
マヒマスナンニセー二度ヤケト云フ知ラセガアツタカラ焼
キマシタマダアレヲ殺セト云フ知ラセモアリマシタ
- 194、誰ヲ殺セト云フ知ラセガアツタカ
三人ヲ殺セト云フ知ラセガアリマシタ云フテシマイマス
人ガ怒リマスカラ云ハズニオイテ下サイ○○オサヘト隣リ
ノ○○與三郎ノ嫁ト○タメノ三人デス
- 195、オサエハイタク
十三カ、十四
- 196、○○ノ嫁ハ
二十一カイナア
- 197、タメハ

- 198、ソノ外ニモウ殺サウトシタモノハナイカ
夜私ノ寢床ノ傍ニ衣服ヲ着テ兄貴ト云フテ立テオモルモノガ
アル横向イテオウタカラヨク分ラヌガ内ノ親類カ○○万歳
ノ様デシタツレデ逃ゲ出シテ大分行ツテカラ捕ヘラレテド
コヤラニ寢テオウタノハ知ツテオモルガ私ガアカンサカイ親
ヤ親類ガ私ヲ殺サウトスル夫レデ私ノ寢テオモル所へ來テ聞
打ヲクラハセル積リデス
- 199、ソレハ何時頃カ
嫁ヲ買フテ直ゲデシタカラ四月頃デシタロウ
- 200、ドウシテソナナコトヲスルノダロ
兄弟ガ多イカラ嫁ヲ買ハセズニヤツテシマオト思フテ居
ルニ相違ナイ下ノ弟ニカ、ロウト思フテオモル
- 201、ホントニオモルノ寢所へ親類カ○○万歳ガ來タノカ
私ハコウカウタカラ様ニ飛ビ出シ逃ゲタラ叔父ガ捕ヘニ來
テソコニ三日バカリ寢テオウタ人ガ私ノ氣ノ迷フ様ニ迷フ
様ニシカケテ來ルノデス
- 202、ソノ時ノ病氣ハ何日位ヒデ治ツタカ
ソレカラ先キ外ニ行ツテモ人ガ私ニイヤガル様ニ仕向ケテ
來ル
- 203、ソレハ何時頃カ
大正四年四月デス
- 204、此頃アナタノ所ハ無線電信カ無線電話ハカ、ラヨカ
親ノ信仰デ十日ニハ治ツテ迎ヒニ行クト云フコトガ二三日
前ニ頭ニ浮ビマシタ
- 205、何カ自慢話ハナイカ
ナンニモアリマセヌ

206、悲シイコトハナイカ

コンナ所デ居喚ヲシテオウテハドウモナリマセヌ

(第二回ノ身體的検査ヲ行フ)

207、此頃ハ私ハ何時來マシタカ

忘レタ

208、ソナナラ何日程デシタ

十二、三日前デスナア

209、オ前ノオ父サン酒ヲ呑ムカ

酒デモアルト皆ノム毎晩二、三合宛ノミマス焼酎ハ一ヶ月
二升位ヒ入りマス

210、此頃色々ノ考ヘガフツト頭ヘ浮アト云ヒマシタガソノ工合ヲ
モウ一度話シテ下サイ

親ガ私ニ嫁ヲ買フト心配ヲセニヤナン他人ガ家内へ遣入
ツテクルコトデアルカラ心配ガ多クナルソシテ私ガヲトナ
シク黙ツテオモルモノダカラ私ヲナイモノニシテ弟ニカ、ロ
ウトスル村ノモノモ亦私ノ嫁ノ邪覺ヲスルソレデ私ノやも
めノ信仰心色々ナコトガ頭ニ浮ブ

211、色々ナコトハドンナコトジヤ

ソナナコトヲ話スト村ノ人ノ爲メニナラズ又私ノ信仰ノ價
値ガ下ルカラ話セマセン

212、イヤ私ハオ前ノ腹ノ中ニ思フテオモルコトヲ皆知ツテオモルカラ
話シテ見ヨウカ

ヘイドウゾ

213、オ前ガ話サナクツテモ分ツテオモルヨ

ソナナコトガ分ルモノデスカ神様ノ外ハ分ラン

214、ソナナラ云フテ見ヨウカオ前ガ火ヲツケタノハンノ家ニ怨ガ

アツテヤツタノジヤ頭ニフット浮ブナンテ嘘ジヤオ前ガ話サ
ニヤソノ怨ノ一々ヲコレカラオレガ皆村ノ人ニ話シテヤル

アナタハヒドイ心デスナ皆私ノ心ヲ讀ミマスナア(此時
忠太郎ノ顔面潮紅シ緊張シ來ル)思ヒ切ツテ話シマシヨウ

215、ソレガイ、オ前ノ心ガ頭ニ浮ブ様ニ私等モ考ヘテオモルト
オ前ノ心ガ皆分ルカラナア

私ノ兩隣ハ○其右衛門ト○○與三郎デス之レノ家屋敷ガ狭
イモノダカラ私ノ屋敷ノ廣イノヲ羨ンデドウカシテ私ノ家
ヲ取潰シテ自分ノ屋敷ヲ取廣ゲヨウトシテオモルソレデ相續
人ノ私ヲ苦シマセ嫁ノ邪覺モシ又子ガ出來ナイト云フテ私
ノ家系ヲ絶ヤソウト考ヘテオモルソレデソノ復讐ニ先デ○○

216、○其右衛門方ニ放火シタノハ
總治郎ノ家ニ放火シテ○家ニ延焼サセヨウトシマシタ

之ハ昔カラノ親族デ親父ガ幼イ時ニ親ヲ失フテ途方ニタレ
テオモルニ付ケ込ンデ○捨松ヲ勝手次第ニシオリ十九年間ト
云フモノハ私ノ家ノ田一町二反ト云フモノヲ作り取りニシ
オウタツレデソノ腹盡セニヤツテヤリマシタ

217、○○藤藏ノ家ニ放火シタノハ
アレモ嫁ノ邪覺ヲシタリ色々ナコトヲシテ私ヲ苦シマセル
カラデス

218、オ前ノ怨ミノアルモノ丈々焼ケト頭ヘ浮ブハオカシイジヤナ
イカ

ソリヤホンマニ浮ビマスー私ガオトナレクシテオモルト皆ガ
スキニ勝手次第ニシヨルカラデスーアナタハ嘘ジヤト云ハ
レ、バ仕方ガナイガソリヤホンマヤ

219、眞實ジヤト云フ證據ガアルカ
嫁迄ガ私ヲ殺サウトスルー私ノ精神ハ皆私ノ在所ノモノニ
分ツテオモル兄弟八十六人モアルソノ中二人ハオ母サンガ暗

220、アタノ村ニ又放火ガ四五回アツクソウダ
一寸モ知リマセナシトシテ、家ガ焼ケマシタ（驚キノ色明ナリ）ソレ見ナサイ私ガ付ケンカテ餘リ馬鹿ゲタコトヲシテ無實ノ者ヲ苦シメルト神様ノ手デオ付ケニナル
無實トハナンノコトデス

221、村ノ者ガ無實ノコトヲ云フテ私ノ嫁ヲ邪覽スルコトデス
オ前ハ今迄非常ニ愉快ニナリ又仕事ガ出来スギル様ノコトハナカッタカ
仕事ガ出来ルトウレシイ百姓ハ仕事ガイクラドモアルカラ出来過ギルナンテハ一寸モナイ

222、ソナノコトハナイガ大正四年五月、日ハ忘レタガ何時ニモナク村ノモノガ私ノ家ヘ出入スルノデヨク氣ヲ付ケテオルト私ヲヤツテシマヘト親爺ニ話シテオルクデ怖クテ仕方ガナイ寮所ヲ作ツテコ、ヘ寮ヨト云フタカラ子テオルト親爺カ誰カ刀ヲ持テ兄貴ト云フテ來テ居タノ家ヲ迷ダ出シテ叔父ニ捕ヘラレ叔父ノ家ニ四五日モ寮テ居テ家ヘカヘツテ來タガ叔父ノ家ニ居ツタ時分ノコトハ一寸モ分ラヌ今カラ考ヘテ見ルト嫁ノさめモ林ヤ宇野ノ廻ハシ者デ私ニ氣ヲ迷ハソウト來テ居タニ相違ナイ寮所デさめガクレタ藥ヲ吞ダラ齒ガ鳴リ出シテ氣ガ迷フテシマウタさめノ持つテ居ツタ白粉ノ中ヘ刃物ガ隠シテアルノヲ私ガ見付ケマシタソレカラさめガ離縁ニナル時ニ私ノ大切ナモノヲ引ケテ出タ可笑シイ書キ枕書キ此枕書ハ日露戰爭ノ時ニ兵隊ガ軍艦ニ

223、ソナノコトハナイガ大正四年五月、日ハ忘レタガ何時ニモナク村ノモノガ私ノ家ヘ出入スルノデヨク氣ヲ付ケテオルト私ヲヤツテシマヘト親爺ニ話シテオルクデ怖クテ仕方ガナイ寮所ヲ作ツテコ、ヘ寮ヨト云フタカラ子テオルト親爺カ誰カ刀ヲ持テ兄貴ト云フテ來テ居タノ家ヲ迷ダ出シテ叔父ニ捕ヘラレ叔父ノ家ニ四五日モ寮テ居テ家ヘカヘツテ來タガ叔父ノ家ニ居ツタ時分ノコトハ一寸モ分ラヌ今カラ考ヘテ見ルト嫁ノさめモ林ヤ宇野ノ廻ハシ者デ私ニ氣ヲ迷ハソウト來テ居タニ相違ナイ寮所デさめガクレタ藥ヲ吞ダラ齒ガ鳴リ出シテ氣ガ迷フテシマウタさめノ持つテ居ツタ白粉ノ中ヘ刃物ガ隠シテアルノヲ私ガ見付ケマシタソレカラさめガ離縁ニナル時ニ私ノ大切ナモノヲ引ケテ出タ可笑シイ書キ枕書キ此枕書ハ日露戰爭ノ時ニ兵隊ガ軍艦ニ

224、大切ナモノトハ何カ
可笑シイ書キ枕書キ此枕書ハ日露戰爭ノ時ニ兵隊ガ軍艦ニ

225、嫁ガナイカラ枕書ヲ見テ一人デ樂ンダノカ
（被告ハ怒氣顔面ニ顯ハレ）私ハ馬鹿デモソナノ生血ヲ絞ル様ノコトハ決シテシマセン、アレハ身體ニ非常ニ弱ルモノデ生血ヲ絞ルヨリマダ毒ニナリマヌさめハ私ノ留守ノ間ニ私ノ部屋デ引キカキマワシテ此枕書ヲ餘程人ニ見セタト見エテ人ガ私ノ部屋ヘ入り代リ立チ變リ入ツタ證據ガ見エマシタ親ガ澤山子ヲ作ツタカラ私モ助平ジヤト人ハ無實ノ罪ヲ被セマスガ私ハソナノ前ガ立タント人ニ私ハ〇〇カウタモノデスカラさめハ私ノ前ガ立タント人ニ云ヒ觸ラシソレデ子ガ出来ン駄目ヤト云フタソウデスソレデイツモ私ニ尻ヲ向ケテ寐テ〇〇コトモ極僅カデス何シロ嫁ニナツテ人身御供デ廻ハシ者ニナロウト云フデスカラ通常ノモノト違ヒマス

226、助平デナイ人ガ〇其右衛門ノ女房ト裏通シテオトルノハドウジヤ
アレハ私ニ女房ガナイカラ神様ノ御告デヤツテオトルノデ嫁ノ母親モヤツテモヨイト頼付テ知ラセマスカラ差支ハナイ
都合ノ惡イ所ニナルト神様ノ御告ゲニナルジヤナイカ
私ハ氣ガ少サクテ正直デスカラ神様ノ御告ゲ計リジヤナイアナタガヤレト云ヒナサレバ人殺デモ放火デモヤリマスソウナルト私ノ氣デヤツタノデナイカラ私ニ罪ハナイ
人殺シヤ放火ナドハヤツテ罪ニナランノカ

227、都合ノ惡イ所ニナルト神様ノ御告ゲニナルジヤナイカ
私ハ氣ガ少サクテ正直デスカラ神様ノ御告ゲ計リジヤナイアナタガヤレト云ヒナサレバ人殺デモ放火デモヤリマスソウナルト私ノ氣デヤツタノデナイカラ私ニ罪ハナイ

228、人殺シヤ放火ナドハヤツテ罪ニナランノカ
人間ト云フモノハ此世ニ五十年外生レテ來ン後世ニハ又生レテ來ルガ我ト私ト云フコトガ分ランアナタハ私ノ頭ヘ寫ルコトガ分リマセンガソレハ私ノ今迄ヤツタコトヲ見テ下ザレバ分ル世ノ中ノ事ハ夫婦シテ相談シテヤルト云フノガ當リ前ジヤノニ人ガ邪覽ヲシテ此年ニナル迄女房モナイト

シテ尋常、腹皮反射モ同様ニシテ皮膚紋蓋症者明、膝蓋反射尋常アレシス臍及足脛反射ハ見ルコトヲ得シ提舉筋反射尋常ロンベルグ氏症候ナク強硬症ヲ認メズ觸覺痛覺ニ異常ナシ指一指、指ノ鼻尖、足脛關節接觸試驗ニハ失節ナク尋常ナリ
六、被告ノ叔父〇〇十兵衛ノ語ル所ニ依レバ
忠治郎ハ自宅ニアリテ平生農ヲ業トシ居リ今同發病ノ原因ハ再婚不能ニ歸スルモノ、如シト云フ、忠治郎ノ父ハ酒客ニシテ毎夕五合位ヒヲ用ヒ遺傳關係系ニハ精神病者ナシ
忠治郎ガ生ル、時安産ニシテ兩親ノ膝下ニ撫育セラレ小兒期ハ健康、二歳ノ頃頭部ニ怪我シタルコトアリ平生小體ニシテ猜疑心深ク規律正シキ方ナリ學業ハ高等小學卒業シタレドモ成績不良ナリシ
七、大正四年五月陰氣トナリ仕事ヲ好マズ沈黙ヲ守リ不眠ナル此頃結婚セシモ二ヶ月ニシテ離婚シシノ後一ヶ月ニシテ素人眼ニテハ正常ノ人トナレリ然ルニ大正六年四月又々陰氣トナリ仕事ヲ好マズアラブラ其日ヲ送り居リシガ六月二日午前三時ニ至リ突然起キテ村内ニシヤベリノ家（〇〇忠治郎）ニ放火シ直ニ歸宅就床シ翌朝ニ至リ放火ノ細事ヲ記憶ス同月四日夜零時四十分再ビ或家（〇〇其右衛門）放火ヲナシ全焼セシム此時モ放火ノ細事ヲ記憶シ二日ヨリ四日ニ至リ晝間ニハ何等ノ變狀ヲ認メズ同十八日午前三時又々何等關係ナキ貧家（〇〇藤藏）方ニ放火セリ其理由ヲ正セバ神ガ放火セヨト命令スル爲メナリト答フ一般ニ友人及隣家等ノ新夫婦ヲ羨ム風アリト
八、被告ハ六月二十日ニ入院セリソノ當時岩倉病院醫員ノ診察ニヨレバ
年齡ハ
三十五歳
六七九

云フコトハ悲シイコトデス
此病院ヲ出テカラ内ヘ歸ツテ百姓ヲスル積リジヤガモシカイチト云フタラ何處カヘ行ツテ奉公スル積デス
229、放火ナドシテ罪モナニ歸レト思フカ
私ガ神ノ心ニ從ツテヤツタノダカラ罪ハナイト思フガ罪ヲ受ルニヤナランノナラ悲シイ私ノ心デセンコトダカラ
230、罪ヲ受ケタラドウナル
監獄ヘ行ク
231、頭ノ工合ハ
時々頭痛ガシ目ミスルコトガアリマス
（茲ニ於テ第三回ノ身體的検査ヲ行フ）

丁、身體的徵候
前後三回ノ身體的検査ノ結果ハ略相一致セルヲ以テ茲ニ一括シテ之ヲ記載ス即チ左ノ如シ
體格中等、營養良、皮下脂肪層及筋肉ノ發育亦之ニ適ス、外視シ得ベキ粘膜ニハ血量多シ
頭部ニハ黒毛密生シ輕打スルモ疼痛ヲ訴フル部ナク左耳上方ニシテ顛頂結節ノ前方ニY字形ノ癩痕アリ骨質ト瘰癧セズコハ小兒時代ニ受傷後生ゼルモノナリト云フ顔面ハ左右均等ニシテ顔面神經ノ諸枝ニ麻痺及痙攣ヲ認メズ兩眼尋常、眼球運動及視野ニ異常ナク眼球結膜ノ反射良、瞳孔ハ左、右同大圓形ニシテ尋常、大調節機能良對光反應常ノ如シ舌ヲ伸出セシムルニ直ニシテ震顫ナク咽頭ハ引赤シ咽頭及硬蓋反射ハ保持サレ懸壜垂ハ直ニシテ發聲ノ際良ク學上ス

五、脈搏ハ整ニシテ一分間八十乃至九十、胸壁尋常右肺尖ニ於テ呼吸稍延長セルノ他肺心ニ打聽診上異常ナシ腹部ヲ按壓スルニ異常ノ硬結或ハ疼痛アル部ヲ觸レズ脊面及四肢ニ特記スベキ異常ヲ認メズ腓腸筋ニ壓痛アリ上肢ニ於ケル深反射ハ左右均等ニ

第三編 法醫學的精神病學 八 早發癡狂

六七九

驚カスノデ私ハ氣ガ違ヒマシタ爲メニハ歸ツテ了ヒマシタ所
觀音サンノ御告デ世間ノ者ガ寄ツテニメライナシタノデア
世間ノ人ガオ前ノ身代ヲ皆食フテ了フ又觀音サンノ堂ガ壞レ
リ紙ガ破レタリシテオノニ村ノ者ハ放ツテオクノデ觀音サン
ガ怒ツテ家ヲ肥ニシテ了ヘト云フ御告ガアツタノデ私ハ火ヲ
ツケタノデアリマス

問、觀音サンノ御告ト云フハ如何ニシテ判ルノカ

答、夢デソウ云フ風ニ私ニ聞エルノデアリマス

問、尙其方ハ本月二日ノ夜〇〇龜治郎方ニ火ヲツケタカ

答、日ハ忘レマシタガ〇〇龜治郎方ニ火ヲツケタコトガアリマス
夫レモ私ガ寐テ居ルト神ノ御告デ〇〇龜治郎ノ北側ノヘコンダ
處ニ火ヲツケヨトノ御告ガアリマシタノデ其處ヘ行キマシタガ
其處ヘ火ヲ放ケルト知レルトイカヌト思ヒ龜治郎ノ兩側ノ戸ニ
其隣ノ甚右衛門ノ南側ノ軒ニ在ツタ藁ノチヨツボ一ツ(八把)ヲ
持テ行ツテ立テカケ矢張馬ノ首ノ横寸ヲ持參シテ火ヲツケテ歸
ツタ

問、尙其方ハ本月三日ノ夜ニハ〇〇甚右衛門方ニ放火シタカ

答、之モ日ハ忘レマシタガ〇〇甚右衛門ノ南ベリノ家ノ軒ニ藁ガ澤
山積ンデアリマシタ處ヘ矢張馬ノ首ノ横寸ヲ以テ火ヲツケ家ヘ
歸リマシタ

火ヲツケテ家ニ歸ツテウツウツシテ居ルト母親ガ甚右衛門方ガ
燒ケテ居ルト云フテ知ラシタノデ直グニ行クト家ガ燃エテ居リ
マシタノデ私ハ道具ヲ出シタリシテ手傳ツテヤリマシタガ家ハ
皆燒ケマシタ

問、其方ハ人ノ家ヲ燒イテ惡イト思ハスカ

答、惡イト思ヒマスガ神ノ御告デ甚右衛門ノ先祖ガ私ノ先祖ノ
財産ヲ取ツテ故其代リテ構ヘント云フ御告ガアリマスカラ燒イ
タノデアリ

問、其方ハ尙神ノ御告ガアレバ村ノ家ヲ燒ク積リカ

答、私ハ晝デモ仕事ヲシテ居ルト御告デ「ヤレト云ハレルノデア
リマスガ晝ハ人ニ替メラレルト思ヒヤリマセマセ更ニ神ノ御告
デ〇〇平吉ノ家モヤレト云フコトデアリマス故私ハ神ノ御告
ガアレバ火ヲツケル考ヘデアリマス

問、其方ガ是迄云フテオロコトハ殊更冗談ノコトヲ申シテ居ル
デナイカ

答、實際ノコトデアリマス人ニ斯様ナコトヲ云フト皆ガ氣違ヒト
云ヒマスガ之ガ實際ノコトデ折々死ンダ兄弟ガ兄ハ一人デ可愛
想ナト云フテクレマス

又夜フト眼ヲ開クト蚯蚓ヤ蛙ノ鳴聲デモ私ニハ能ク判ツテオリ
マス其鳴聲ハ私ニハ皆ガ寐テオロカ起キテ居ルカ見廻ハツテ來
イト云ハレマス

私ハ斯様ナコトヲ申スト値打ガナクナリ神ノ御告ガ段々薄クナ
ツテ來ルノデアリマス

トアリ即チ被告ハ犯行當時モ該病ニ罹リ居リ妄想ノ結果今回ノ犯
行ヲ致シタルモノナルコトハ殆ンド疑フノ餘地ナシ

(下) 檢 索

上記説明ノ理由ニ依リ左ノ如ク檢索ス

一、被告忠治郎ハ大正三四年頃ヨリ早發痴狂ナル精神病ニ罹リ居
リ該病ハ現今ニ於テモ尙繼續中ナリ

二、被告ハ現時(大正〇年六月二、四、十八日頃)ニ於テ刑法第三十
九條ニ所謂心神喪失ナリシト認ム
附記、被告ノ本病ハ一時輕快スルガ如キコトアルモ全治困難
ナル疾病ナルヲ以テ何時如何ナル所ニ反社會的行爲ヲナ
スヤモ計リ難キヲ附言ス

此檢案ハ大正〇年六月二十六日着手

同年七月 日終了

京都府愛宕郡田中村大溝二十一番地

鑑定人 醫師 小南又一郎 團

ばらふれに！

九、ばらふれに！

コハ從來早發痴呆或ハばらふれといわノ一部ニ編入サレシモノニシテ、早發性痴呆ニテ顯著ナラザリシ理解
作用ノ固有ナル變化ヲ特徴トシ、意志障礙及感情鈍麻ノ全然缺如スルカ若クハ痕跡的ナルモノヲ云フ。即
チ妄想性痴呆トシテ知ラレタル病型中智的障礙ヲ主トシ、行爲感情ノ固有ナル障礙ヲ有セザルモノヲばら
ふれに！ト見做シテ可ナリ、而シテ極メテ慢性的ニ來リ、漸次疑惑的刺戟的性格ヲ發露シ、遂ニ幻覺ヲ伴
フ被害妄想等現出スルモノヲ系統性ばらふれに！ト云ヒ、誇大乃至被害妄想ヲ主張トシ中等度ノ興奮來リ
幻視ヲ供ヒ從來慢性躁狂ト稱シタルモノヲ誇大性ばらふれに！ト云フ、ソノ他潤色性乃至想像性ばらふれ
に！ト區別スルモノアリ。

法醫學的ニハツノ輕症ナルモノハ心神耗弱者トスベク、中等症以上ノモノハ心神喪失者ト見做スベキモ
ノナリ。

十、微毒性精神障礙

(一)微毒性神經衰弱、本病ハ腦性梅毒ノ最モ初期ニ現ハレ、初メ輕度ノ神經衰弱ノ症狀ヲ呈シ、次デ昏濛
出話困難、一時性麻痺、感覺障礙、嘔吐、體温ノ上昇等ヲ來シ、精神的ニハ輕度ノ精神作爲力減退思考
困難、注意散漫、記憶減弱等ヲ見、氣分ハ刺戟性不滿ニシテ怯懦或ハ興奮シテ不從順トナリ特ニ注意ス
ベキハ夜間ニ於テ増悪スル頭痛ナリ。

(二)ゴム腫、腦内ニゴム腫發生スル時ハ頭腔内壓ノ増加ニヨリ意識ハ屢々犯サレ、昏濛無頓着乃至痴鈍ト
ナリ、身體的ニハ多種多樣ナル竈症狀、麻痺、搐搦、痙攣、感覺障礙等ヲ見ル。

微毒性精神障
礙
微毒性精神衰
弱

ゴム腫

(三) 微毒性疑似麻痺性痴呆、其症狀ハ後述スル眞性麻痺狂ト全ク同様ナレドモ、本症ハ後者ノ如ク死ノ轉歸ヲ取ル事少ク、眞性ノモノハソノ精神の症候深甚ニシテ一般のナルニ反シ、本病ハ精神ノ部分的障礙ガ不平均ニ發露スルヲ見ル、而シテ身體的ニハ假性ノモノハ竈症狀ヲ呈スルヲ常トスレドモ、眞性ノモノハ言語書字及瞳孔ニ於ケル障礙ヲ來スヲ見ル。尙假性ノモノハ腦脊髄液ノわつさーまん反應陰性ナルモ、眞性ノモノニハ陽性ナリ。

(四) 卒中性腦微毒、先ヅ頭痛記憶減弱ノ刺戟性感精神作爲力ノ減弱ヲ來シ、次イデ卒中發作ヲ起シ、ソノ結果半麻痺、足現象はんすきー現象ヲ見、多少ノ時日ノ後第二ノ發作ヲ來シ、斯ル間ニ痴鈍次第二加ハリ、領解困難判斷不能トナリ、一時性ノ興奮ヲ見ル事アリ、わつさーまん反應ハ血液ニヨリ陽性ナルモ腦脊髄液ニテハ多クハ陰性ナリ、豫後ハ概シテ不良ナルヲ常トス。

ソノ他微毒性癲癇乃至妄想性痴呆型梅毒等アリト雖、眞性ノソレトノ鑑別ハ血清學的診斷ニ依ルノ外ナケレバ、茲ニ之ヲ省略ス、尙遺傳梅毒トシテハ白痴乃至痴愚ノ型式ヲ取レルモノ多キニ付敢テ贅言ヲ費ササルベシ。

法醫學的ニハ微毒性精神障礙ノ初期、即チ輕度ノ神經衰弱ノ症候ヲ呈スル頃ハ勿論責任能力者乃至處分能力者ナルモ、疾病次第ニ進ミ來ルニ從ヒ、漸次心神耗弱者乃者喪失者トナルベシ。予ハ典型性梅毒性疑似麻痺者トシテ、一種ノ蒐集慾ニ驅ラレ、男子ナルニモ拘ハラズ京阪ノ有名ナル吳服店ニ於テ諸種ノ吳服類ヲ幾多ヲ萬引シ、而モ何等之ヲ使用スルニ非ラズ、竊取スルニ從ヒ家族ニモ之ヲ隱蔽シツ、我家ノ押入中ニ贓品ヲ死藏シ居ルヲ官憲ノ手ニ發見セラレ、拘引セラレタルモノ、精神狀態ヲ診査シ、ソ

ノ疾病ノ程度ニヨリ心神耗弱ヲ鑑定シ、後同犯人ガ刑ノ執行猶豫トナリシヲ聞ケリ。

十一、麻痺性痴狂

或ハ麻痺狂トモ云ヒ、本病者ハ統計上甚多數アルモノニシテ、多クハ遺傳關係ヲ有スルモノナレドモ、此素質ノ上ニ壯年時ニ得タル微毒ニ促サレテ發病スルモノ多キヲ以テ、大多數ハ中年以後本病ニ罹ルモノナリ。男子ノ罹病數ハ女子ノソレニ數倍ス、本病ハ精神病中身體的徵候最モ顯著ナルモノニシテ、視神經萎縮、視力減弱、瞳孔左右不同、對光反應消失、或ハ減退、瞳孔ノ形狀不正、眼球振盪、四肢ニ於ケルリよまぢす様疼痛、痛覺鈍麻等アリ、顔面神經力左右不同ニシテ、表情ハ茫乎トシテ痴鈍性ナリ、手指ニハ震顫ヲ見、筆蹟ハ震顫シ亂暴ニシテ字句ニ脫語ヲ來シ、ソノ他ろんべるぐ氏症候、膝蓋腱反射消失、共齋運動障害歩行失調アリ、言語障礙亦著シク、錯語、言語蹉躓、分節言語、油滑言語發音不明症等アリ、營養障害トシテハ發疹、耳血腫、褥瘡等ヲ見、血清及腦脊髄液中ニハわつさーまん反應陽性ニシテ、且後者ニハ蛋白含量及白血球數増加シ居ルヲ認ム。

本病經過中ニ麻痺性痴呆發作アリ、即チ癲癇様痙攣發作、或ハ卒中様失神發作ニ襲ハレ爲ニ死ニ至ルモノアリ。

精神の症候トシテハ、先ヅ理解力犯サレ、注意散漫トナリ、疲勞性亢進シ、記憶力、記憶力減退シ、判斷不良トナル、精神的能力ハ一般ニ鈍麻シ、氣分ハ概シテ冷淡不關性トナリ、初期ニ於テハ一時的ニ刺戟性ニシテ、些細ノコトニ憤怒シテ暴行ニ陥ルコト少ナカラズ、妄想ハ判斷不良ノ爲ニ起リ、ソノ種類ハ誇大、心氣、追跡、被害、憑依性ニシテ、内容ハ荒誕無稽、非理矛盾ニ富ミ、行爲ハ一般ニ無思慮ナルヲ常

トス、臨床的ニ本病ニ分チテ典型性、興奮性、痴鈍性及抑鬱性ノ四トス。

(イ)、典型性麻痺性癡狂、感情爽快ニシテ誇大妄想ヲ有シ、ソノ態度ハ尊大不遜ニテ非禮ヲ行ヒ、酒色ニ耽ルモノアリ、意識ハ多少濁濁シ、思想奔逸シ、行爲不安多業トナル。

(ロ)、興奮性麻痺性癡狂、猛烈ナル興奮ヲ呈シ、歌唱跳躍、誇大的妄想アリ、又時ニ苦悶ヲ示シ、自殺、自傷、狂暴、不潔ノ舉動ニ及ブコトアリ、時トシテ經過極メテ急速ニシテ劇烈ナル錯亂の興奮ヲ示スモノアリ、之ヲ飛奔性麻痺性癡狂ト云フ。

(ハ)、痴鈍性麻痺性癡狂、ハ麻痺狂中最モ多キモノニシテ、初期ヨリ已ニ痴鈍性ヲ示シ、一般ニ精神能力減退シ、意識濁濁、記憶不良、決斷薄弱、作業能力減退等ヲ呈シ、一時性ノ妄覺或ハ興奮ヲ伴フコトアリ。

(ニ)、抑鬱性麻痺性癡狂、抑鬱性乃至苦悶性ノ感情異常、罪業及追跡妄想ヲ有シ、追想不良意識濁濁ニ陥リ次テ漸次痴呆ニ陥ルモノナリ。

法律的關係トシテハ精神薄弱ニ起因スル竊盜、偽證、放火等ヲ爲シ、興奮ニ因ル酒精耽溺、風俗壞亂、強姦及傷害等ヲナス。刑法上本病者ハ多クハ心神喪失者ニシテ、民法上ニハ家財ノ濫費、無謀ナル投機等ヲナスコトアレバ禁治産處分ヲナスベキモノトス。

實例—麻痺性—四人斬

檢案書

大正〇年四月十七日〇〇地方裁判所檢事〇〇〇〇ハ〇〇孫太郎殺人被告事件ニ付同廳檢事廷ニ於テ

一、犯時及現時ニ於ケル被告ノ精神狀態ヲ檢案スベキ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ予ハ同廷ニ於テ一件記録ヲ精讀シ且同月十七日、二十日、五月一日、同十日ノ五回〇〇監獄ニ於テ被告孫太郎ノ心身

狀態ヲ檢診シ彼是ヲ綜合シソノ結果ニ依リ此鑑定書ヲ作ル

〇〇縣〇〇郡〇〇町字釜屋

〇〇孫太郎

五十三年

上、檢査記録

甲、遺傳歴

一、一件記録中ニハ被告ノ遺傳ニ關スル記載ヲ缺キ、又之ニ對スル被告ノ自陳モ後述スルガ如ク悉ク信用スルコト能ハズト雖數回ニ亘レル問診ニ於テ幾分信ヲ措クニ足ルモノヲ舉ゲレバ左ノ如シ此ノ被告トノ問答ハ皆後來診斷ノ補助トナルモノナルニ付冗長ヲ厭ハズ成ルベクソノマ、ニテ記載ス

孫太郎サンアナタノ生レタ所ハ

彦根ノハヅレノ新町—今ハ名ガ變ツテオレ

祖父母ハ丈夫カ

死ンダ、ヲラン

何病デ

私ハ遺傳デ若イ時分カラ家ニ居ランカラ知ラン

両親ノ名ハ

父ハ孫次、母ハすゑ

兩人共丈夫カ

父ハ二十年前ニナクナレタ母モソレカラ二年バカリシテ

ナクナリ兄弟モ皆死ンデシマツタ

ドフ云フ病氣デ死ンダ

父ハ小便ガ血ニナツテ死ンダアノ人ハ初メ高崎(?)ニ居テ

江州ノ日野ノ猫田ニ居タ

母ハドウ云フ病氣デ死ナレタ

弱ツテ死ナレタ

兄弟ハ何人

八人カ九人アツタケヨク知リマセンサイサイ時ニ死ンダノハ私ノ知ツテオレ丈ケデ三、四人ハアルソノ他ハ私ノ居ラン時ニ死ンダカラ知ラン
兄弟ノ名前ハ
孫次コレハ一番アトノ子デスソノ他ハ忘レタ
兄弟ノ生キテオレノハ
北海道ニ一人オレガ何ヲシテオレカ分ラン
オ前ノ親戚ニ氣ノ變ニナツタ人ハナイカ
知ラン
ホントニ知ランカ
知ラント云フタラ知ラン(怒氣顔面ニアラハル)
此等ノ問答ニ依リテ見ルニ被告ノ血族ニ精神病者或ハ變質者ノアリシヤ否ヤ之ヲ知ルコト能ハズト雖彼ノ同胞ニハ幼死セルモノ多キガ如シ

乙、既往歴及生活史

二、孫太郎サン生年月日ハ

慶應ガ三年アリソノ一番ニ生レテオレソウナリマセンカ

學校ハドノ位ヒヤツタカ

歳ヒヤツタカラ九歳カラ十二歳迄出テ止メタ

若イ小供ノ時ノコトヲ話シテゴラン

一番初メハ奉公シヤ私ハ親チニツイテ猫田ニ居タソレハ九

歳ノ時シヤ十二歳ノ時ニ暇ヲ貰フタ

ソレカラドウシタ

大津ノ店ニ使ハレ十四歳ノ時京都ニ行キ烏丸松原上ル所ノ

繪具屋ニ奉公シテ注文聞キヲシテ居ツタ

大津ト京都デハ何町ノ何ト云フ家ニ居ツタ

知ラン

ソコハ無事ニツトメタカ

九年間無事ニツトメタ

ソレカラ

ソレカラ自分二年程繪具屋ヲヤツテ止メテシマツタツレカラ横濱へ行ツタツコデ繪屋ヲシテオツタ

ドウシテ繪屋ヲ始メタカ

横濱デ遊ビマワツテオトル中ニ十日モ續ケテ毎日同ジ繪屋ヘ遊ビ食ヒニ行ツタツソノ中ニソノ繪屋ノ人ガコレラデ死ンデシマウタツコデソノ主人ガ云フニハウチニ今人ガナイカラ居ンカト云フテ聞カレタカラ早速ソコヘ遣入りマシタ

繪屋デドンナコトヲシテ居タカ

水ヲ汲ムノヤツコラ遊ビマワル中ニ金ハナクナルシ親分ニ頼マレテソノ家ノ出前持チニナツタツコニ四年程居ツタ拾五圓計リ借リガアツタカラ毎月壹圓宛カヘシテオツタツノ中ニかなやノ提燈屋ノ娘ヲ引ツカケテ親分ニ怒ラレテトウトウアヤマリニ行ツタ

繪屋ハツリヤヨイ家デシタセ

繪ハ賣レンデモ家ゴイカラ大丈夫デ大將ト二人デ大馬場ヲ家ノウシロニ作ツテヤツテオリマシタ

ソレカラ

ソレカラ忘レタコ、ヤン(監獄)デ知ツテオリハルジヤロウ私ハ眞直ナ男デ一軒デモ惡イコトヲシタコトハナイ皆聞キアハシテ下サイ

横濱ノ次ニハドコへ行ツタ

京カドコカ忘レタ大阪ヘモ行ツタガ横濱カラト……八日市へ行ツタ

イツ八日市へ行ツタ

ナンデモ私ノ三十二歳位ノ時ニ八日市ヘ來タ……二十一年八日市ニ居マシタ酒七ニ四年ト檢番ニ四年ト郵便局ニ三年居ツタ

八日市デ留間ハドウシテ止メタ

拾貳圓取ツテオツタノガ拾圓位ヒニシタカラ止メタツレカラ車ヲシバラク引イテオツテトウトウ郵便局ヘ遣入ツタ結婚シタノハ何歳

大分ニナル二十年ノ餘ニナル孫藏ノ死ニヨツタ年ジヤイアトハ分ラン

女房ヲイッ貰フタカ勘定シテ御覽

二十(エ)二十二年位ヒノモノジヤロウ

妻ノ名ハ

たきヤラたつヤラ別リマセン家ニ居ヨウオル洗濯ヤナニカシテオル、横着物デ仕方ガナイ四年程サワリヤセン邊ガアツタツテナイ様ナモノジヤ

子供ハ

一正モナイ

生マレンカ

コシラヘモ生ミセセン

梅毒ヲヤツタコトハアルカ

アリマス

イツヤツタ

ホシ若イ時何シロ十五歳位ヒノ時カラ極道ヲヤツタ娘ヲヤルをさんヲヤル、女郎ヲヤル、藝者ヲヤル後家ヲヤルツリヤユライモノデシタセツノ毒ガ廻ツタツノ毒ガ頭ヘ遣入ツタ

ソレニ違イナイ何シロ時々頭ガヤメテ仕方ガナイ

三、上記ノ問答ニ依リテ考フルニ被告ノ云フ所甚ダ茫然トシ、其眞偽ヲ判別スルコト困難ナリト雖數回ノ問答ニ依リテ得タル所ヲ綜合スルニ彼ノ生活史ニ於ケル一條ノ道程ヲ發見スルコトヲ得、即被告ハ幼時學問ヲ好マズ十二三歳ノ頃ヨリ大津及京都ニ於テ奉公ヲナシ繪具屋ノ業ヲ修得シ二三年程繪具屋ヲ營ミシレモ

月十五日解雇セラレ……トアルニ依リテモ亦之ヲ推知スルコトヲ得ン

丙、犯罪事歴

四、昨年末ヨリ被告ハ少シクボケタ氣味アリ、本年正月年賀狀誤配多カリシ爲メ免職トナリ爾來孫太郎ノ家ニ在リテ遊ビ食ヒヲナシ居リシ所妻タキハ常ニ彼ヲ口汚ク罵詈訛且虐待セリト云フ

大正〇年四月七日付〇〇警察署長ノ報告ニ依ルモ

妻タキハ強慾ノ性質ニテ加害者(孫太郎)集配人ヲ解雇セラレ後別ニ職業ナク居食ヒセルヲタキハ之ヲ責メ口論アリシガ昨夜モ同様罵詈訛タル模様ニテ之ヲ苦慮シ精神ニ異常ヲ來タシ

斯カル兇行ヲ演ズルニ至リタルモノト認メタリキ

トアリソノ大體ヲ察知スルヲ得ン

斯ノ如キ狀況ニアル被告ハ本年四月七日朝突然日本刀ヲ以テ妻

タキヲ殺害シ更ニ彼ノ家庭事情ニ對シ何等關係ナク又些ノ怨恨

ヲモ有セザル隣家數軒ニ闖入シ〇〇常吉、〇〇てつ、〇〇仁三

郎、〇〇初治郎、〇〇ア等ヲ毆打或ハ切傷シタル後取押ヘラ

レタルモノナリ被告ガ同日ノ行爲ニ對シ同年四月十七日ニ語

ル所ハ左ノ如シ

朝をたきヲナゼアンナコトヲシタ

をたきハコ、(監獄)ヘ來テオルカイヤ在所ヘインデオル管

ジヤアノ日女房ガ私ノ體ニ在ル金拾五圓ヲ無理ニ取り出シ

タカラ上リ口ニアツタ刀デたきヲサリトヤリオツタツウ

シテ直ニ近所ノモノヲバツバツツケタツレカラ何モ

知ラン何ダカ知ランガ醫師ヘモ行ツタ(緊リナク笑ヒオル)

ソレハ何日ジャツタカ

知ラン

をたきヲ刀デイクツツイタ

答、五ツ位ツイタ無茶苦茶ニヤツタ隣ノ奴等モヤルニハヤツタ

途ニ之ヲ廢業シ爾來數年間東京、横濱及其近傍ニ於テ極メテ放漫ナル墮落的生活ヲナシ次イデ亦モ大阪等關西ノ地ニ放浪シ三十二、三歳ノ頃〇〇縣八日市町ニ來リ不相變替間車夫ノ如キ泥水稼業ヲ營ミ居リシモ今ヨリ三三年程以前〇〇郵便局ノ配達夫トナリ忠實ニ勤務シ居リシ所近時誤配多キ爲メ本年一月ニ至リ免職セラレ、爾來今回ノ犯罪事件ニ至ル迄何事モセズ家ニ在リテ遊ビ食ヒヲナシ居リシモノナリ彼ハ正直ナル好人物ニシテ〇〇郵便局勤務中幾分ノ貯蓄ヲナシ之ヲ以テ一小長屋ヲ購入シ二三家族ノ借家人ヲ置キシガ此等ノ人ニモ氣受好カリシコトハ大正〇年四月七日付〇〇檢事署名證人〇〇〇〇調書中ニ問、〇〇孫太郎ハ平生ドンナ人物カ

答、平生ハ極トトナシ人間デアリマス是迄氣ノ狂フタ様ナ模様ハ少シモアリマセンデシタ云々トアリ

又、同日付證人〇〇てつ、同〇〇初治郎調書中ニモ略同意味ノ記載アリ尙同日付〇〇仁三郎調書中ニ

問、〇〇孫太郎ノ性ヲ知ツテオルカ

答、孫太郎ハ本年二月頃迄〇〇郵便局ノ集配人ヲシテ居リマシタ私モ同局ノ集配人ヲ六年程前カラ致シテ居リマスノデ

同人ハ能ク知ツテオリマス又孫太郎ト同ジ長屋ニ住ンデ居

リマシテ五ニ家中ノ事情モ知ツテオリマス私ノ見タ所デハ

孫太郎ハ極トトナシ人間デアリマス近頃少シボケタ氣味

ガアリ集配人ヲシテ居ツテモ時々誤配ヲヤルノデ到頭罷メ

ラレタ様ナ仕末デアリマス同人ノ妻ハ口喧シク人間モ惡イ

ノデ評判ナデアリマス

又同日付〇〇警察署長ノ報告書中ニ同人(孫太郎)ハ彦根町大

字二番ニ生レ今日ヨリ二十年前〇〇町ヘ來リ遊廓ノ常問ヲナ

シ明治三十九年頃ヨリ郵便局集配人ニ雇用セラレ爾來忠實ニ服

務中ノ所本年一月賀狀配達上誤リタルモノ多クアリシヲ以テ同

ニ違ヒナイコレハヒドイコトヲヤツタソレカラドウシタヤ
ラ分ラン……ア、駄目ジヤ監獄行キジヤト思フタ
ななきハ死ンデシマツタゼ

ソウデスカホーホーハアハアハア(面白ソウニ笑フ)

可愛ソウジヤナイカ
アンナ奴ハ死ンダ方がヨイヒドイ奴ジヤツタア、私ノ眼鏡
ガナイハ拾錢ト參拾錢ヲアイツガ盗ミヨツタ私ガ阿呆ジヤ
カラ

郵便局ノ奴等モ墨ヤラ何ヤラ盗ミヨオリマシタゼ私ノ辨
當ヲ小西ガ持テイキオツタカラコイツモヤツテヤレト思フ
タ

ヤツテヤレトハ

イエ訴ヘル積リデスコ私ハヲトナシイモノダ買フタモノハ
必ズ前ノ日ニ拂フテシマフ

前ノ日ニ拂フトハ

ウンキット先キニ拂フテシマフ(ト云ヒナガラ平然タリ)

〇〇當吉、〇〇てつ、〇〇仁三郎、〇〇ノブト云フ人ヲ知ツテ
オルカ

知ラントコノ奴ジヤイナ

丁、現在證據

天、精神の徴候

五、被告孫太郎が検査ノ前ニ來ルヤ或時ハ(四月十七日)挨拶モセ
ズシテ着座シ始終ニコニコト笑ヒ居リ顔面ニ緊リナク衣服モ亦
甚ダ亂雜ナリ或時(四月六日)ハ泣キナガラ着座シ港モ検査ノ前
ニ來リシ如キ態度ナク或時(五月一日)ハ阿々大笑シ、陰聲ヲ
露出シナガラ入り來リ「コンナニ少サイケレドモコレデ仲々力
ガオスズ女ヲ随分ヤリマシタ」ト云ヒナガラ着座モセズウロウ
ロトシ居ルコトアリ時トシテハ(五月十日)頭ヨリモ布ヲ被リ看

ツテ何モセン御飯ヲ頂ク丈ケダ

コ、ハ何町ジヤ

町ハ知ラン〇〇ニ違ヒナイ——ソレガ分ラン——〇〇ノコ
チラノ城ジヤ

今ハ何時ジヤ

二時頃(時計ヲ見テ)一時ジヤ(正)

此等及前記(第一項)父母同胞ノ存否ニ就テナセル問答ニ依リテ
見ルニ被告ノ指南力ハ甚ダ臆縮タルモノナリ

七、病識

身體ノ工合ハ
今日ハ一寸悪イガイツモハドウモナイ物が少シク云ヒニク
イカラ病氣ガツイテオルニ違ヒナイ

何故私ニ見テ貰フノカ

帳面ニツケテ——胸ヲ見テ貰フ——私ノ心ヲ見テ貰フ——
直ニ忘レテコマル

直ニ忘レテコマル

昨夜モツメダクテネラレナカウツタソリヤ不思議ジヤ
夜歌ヲ歌フタリ芝居ノ眞似ヲシテ騒グソウジヤナイカ

一寸モ覺エハナイ

氣違ヒノ眞似ヲシテオリヤセンカ
氣違ヒトハ何ンデス泣イテ計リ居リマス神様ノ名ヲ呼ブノ
モエライ今日ハ一寸モ物が喋レン(笑ヒナガラ語ル)

即チ被告自身ハ何カ病氣ニカ、ツタ如ク思ヒ居ルモ決シテ常人
ガ病苦ヲ訴フル如クナラズ要之明ナル病識ハ存在シ居ラズ

八、領解力、ヲ檢スル爲メ 被告ニ種々ノ品物或ハ繪畫ヲ見セテ
ソノ使用法或ハソノ意味ヲ問フニ

コレハ(耳掻キ) ハナモマキー耳掻キ
コレハ(爪切) 釘掻キ

護人ニ負ハレテ入り來リ「モウアカンアカン」ト云ヒツ、挨拶モ
セズ着座スルコトアリ彼ト談話ヲ交ユルヤ何時モ彼ハ直ニ幸福
ナル氣分ニ轉換シ恰モ小供ノ如ク笑ヒナガラ語ヲ進ムト語頭
直ニ他ニ移行シテ理義ヲ缺キ云フ所ノ主旨何處ニ存スルヤ不明
トナルコト多シ顔面ノ表出ハ常ニ多幸性ナリ予ノ診察初期ニ於
テ被告ハ恰モ程度ニ臆縮セル人ニ接スルガ如キ感ヲ起サシメシ
ガ日ヲ經ルニ從ヒ彼ノ態度ハ苦悶性色調ヲ帶アルニ至リヌ

六、指南力

姓名ハ

〇〇孫太郎

所ハ

今ハ〇〇町デス

今迄ノ仕事ハ

此頃郵便持チテ止メテチヨイチヨイ人ノ小使ヲシテ居ツタ
何歳デスカ

五十四歳

今日ハ何日

知リマセン寝テバカリ居ルカラ知リマセン人ト交際ヲセン
カラ何モ知ラン

コ、ハドコ

知ラン知ラン分ツタ城ジヤ眞劍ニボケテオル此頃ハ何ンデ
モ直ニ忘レテシマフ

私ハ何ヲスル人デスカ

サア！知リマセン私ハボケテオルカラ！何かツイテオルニ
違ヒナイ

コノ方ハ何ヲスル人カ(看守ヲ指シ)

一寸モ云フテクリヤハランカラ分ラン——巡查サンヤ、惡
ルイコトヲシタ人ヲ見テオル人ジヤ、大事ニシテ貰フテオ

コレハ(爪トギヤスリ) やすり

コレハ(懐中電燈) 火ヲトモスモノ

名ハ 知ラン

コレハ(小刀) 小刀

此机ノ長サハ(約三尺ノ机ヲサシ) 三尺

コレハ(鹿ノ糞) 鹿ラシイ

コレハ(孔雀ノ糞) 鳥ジヤ鷹ジヤ

コレハ(鳥ノ糞) からす

コレハ(鐵守ノ森ノ糞) 木バカリジヤア、鳥居モアル
木ト鳥居ソリヤナンジヤ 分ルモンカ(傲然タリ)

ソノ他検査ノナセル談話及質問ヲ漸ク解スルコトヲ得ルモ或ハ
長時ヲ要シ或ハ正答ヲ與フルコト能ハズ即チ被告ノ領解力ハ選
減セルモノト云フベシ

九、注意力、被告ハ検査中室内ニ入り來レルモノアルモ之ニ注意
ヲ向クルコト少ク對話中彼ノ周圍ニ起レルコト例之看守ノ交代
窓外ニ見エル人ノ去來、時計ノ時鳴等ニモ敢テ注意セズ又次ノ
談字ヲ正サシムルニ

瀨 賀 縣 鳥 賀 縣

正答スルコト能ハズソノ他尙注意力ヲ檢セン爲メ種々ノ試驗ヲ
試ミントセシモ被告ハ之ニ應ゼザルヲ以テ十分ナル検査ヲ行フ
能ハズト雖ソノ注意力ハ散漫ニシテ諸事ヲ輕々ニ看過スル傾キ
アリサレド未ダ人違ヲスルガ如キ程度ニハ達シ居ラズ

十、記憶力

日清戦争ハイウツジヤツタ
京都ニ居タ時分——十四歳カノ時——ソレハ大變ジヤツタ
ソレハ西南戦争ト違フカ
知ラン

支那トノ戦争ダヨ

知ラン

日露戦争ハイツ

分ラン……明治十五年

日露戦争ハイツ青島ヲ攻メタノジヤヨ

ハテモウ大分ニナル分ラン

今年ハ明治ニシタラ何年

私ハ五十三ジヤ

今ノ年號ハ何ジヤ

大正四年

出鱈目ヲ云フナ(ト叱リ付クレバ)

五年カイナト(平然タリ)

明治ハ何年デスンダ

存ジマセン——三十四年デスンダカイナ——今迄何モカモ知ツ

テオツタガ身體ダルイノデ何モカモ忘レタ——親ノ名モ忘レ

御大典ノアツタノハ

アリヤ四月カイナ——大正四年四月ジヤ

今年ノ正月ニハ何處ニ居タカ

家デ寝テオツタ何ニモ分ランアノ時カラヤラレテオツタ

此間答ト前記第一項(既往歴)ニ於ケル記載トヲ合セ考フレバ記

憶力ニハ著シキ障礙ヲ受ケテ追想ノ秩序的列ノ如キ全ク混亂シ

途ニ本年ノ大正何年ニ當レルカヲモ忘却セリ

十一、記銘力

此頃毎日何ヲシテオ

誠ニ結構ニ休マシテ貰フテオ立派ナ御飯ヲ頂戴シテソノ

間ニハネテオ

昨日ハ何ヲシテオツタ

昨日ハ何モセン部屋ヲ拂フタ丈ケヤ寝テオル計リジヤソリ

ヤ結構ヤ

一昨日ハ

同ジ事デス大分外ト様子ガ違ヒネテサヘ居タラ御機嫌ガヨ

イ

何時八日市カラコ、ヘ來タカ

アリヤ何日ジヤツタイナアノ日ハボケサセテ居ルカラ何ニ

モ分ラン

誰ト一所ニコ、ヘ來タカ

手ヲク、ラレテ來タガ誰ト來タカ分ラン警察カラ連レラレ

テ來タ手ガ痛クテ仕方ガナイ

今日ノ費ノ食事ノ菜ハ

菜葉トかんからかんや牛ヤラ何ヤラ分ラン食ヲ所ノナイモ

ノジヤソレヲ食フタラ身體ガ歪ンデシマツタ

昨晚ノ菜

味噌汁ハソリヤオイシイ御馳走ジヤツタ

ソノ他一定ノ文句ヲ云ヒキカセ置キ數分ニシテ反復セシメント

スルモ被告ハ之ニ努力スルノ意ナシト被告ノ記銘力ノ甚シク

減退セルコトハ前記ノ問答及種々ノ談話ニヨリテ之ヲ察知スル

コト容易ナリ

十二、妄想

孫太郎サン何カ不思議ナコトハナイカ

アリマセンハ

アナタノ身分ハ

士族、コンナモンジヤイ(傲然タル身振ヲナス)

ソナニヨイコトハナイケレドモ銀行ノ中川サント同ジデ

〇〇孫太郎ガ先祖ジヤ

經歷ハ

販賣ヒ、散財、ウマイモノ食フコトガ好キデ賭博モチヨツ

クラウヂマス

人ニ馬鹿ニサレタコトハナイカ

ソナナコトハアリマセンナ電報ヲ以テ山ノ中ヘ行ツタ時ニ

ハアツチヘ迷ヒコツチヘ迷ヒ一寸馬鹿ニサレマシタナ

誰ガ馬鹿ニシタ

郵便局ノ大將ジヤロウ薬ヲノマセテ馬鹿ニシタ多分コ、ヘ

道入ツテオルジヤロウ毒ヲ入レヨウオツタ私

ガ〇〇局カラ拾六圓貰フテ來タラカ、ガ懐(手ヲ入レテ

取リヨツタ

年賀狀ノ配達ヲ間違ヘタソウジヤナイカ

誰カ悪イコトヲシヨウオツタニ違イナイ郵便局デモ色々ノ

コトヲシヤガルノデイヤニナツタ

電報ヲ持テ行キヨウオツタ夜山ノ中デ路ガ分ラン機ニナ

ツテ同ジ路バカリ歩イテオツタ朝ニナツテ又行ツタ山ノ

頂上ノ方ヘ行ツテシマツタ誰カ毒ヲ食ハセテボケサセタニ

違イナイ皆ガ馬鹿ヤトカボケテオルトカ云フテ腹ガ立ツタ

カラオ上ヘ願フデヤツタ

願フタラドウシタ

コ、(監獄)ヘ二人遣入ツテオルソウシテコ、デモソイツ

ガ私ガネテオル中ニ錢ヲ別當ヲ取テ行キオ

コ、ヘ錢ヲ別當ガ持テ遣入レルカ

持テ遣入レン

ソナナドコデ

局デ局ノ奴ハヒドイコトヲシヨルオレヲ馬鹿ニシヨオ

ダオレヲ十分使ツテオイテ金ヲ參千圓カラ取ツテシマフタ

……大阪ノ局ヘ願ハニヤナラン

ア、大阪ノ局ヘ御禮ニ行カニヤナラン

ナンノ御禮ニ

年號ノ御禮ニ

年號ノ御禮ハ

十五年務メタ御褒美ヲ貰フタ勳章ガアルセ——十三年務メ

タラ拾五圓ト「メタル」ヲクレタソレ丈ケ貰フタモノガ外ニ

アルカイナ私ガ郵便袋一ツ取ラレタ時モアイツハ正直ジヤ

エライト云フテ罪ガナカツタ大阪カラ役人ガ來テ三四日探

サハツタソレデモ見付カラナカツタせ私ノ心イキガヨイカ

ラ罪ハナカツタ——汽車カラ落チタコトガアルケレドモ傷

ヲセナシタ之レモ正直ノ神様ノオ蔭ジヤ

コ、デハ神様ノオ蔭ハナイカ

コ、(カンゴク)ノ大將ハソリヤヒドイ二週外飯ヲ食ハセン

金ガモウ來テオラニヤナランノ一寸モ出シテクレン

東京ヘ行く

何シニ行く

天子ノ所ヘ行く

行ツテドウスル

金ヲクリヤハル筈ジヤ——誰カ來テオ

誰ガ

アツチノ東京ノ誰カ來テオ

京ヘ行く時ノ私ノ風ヲ見テ居テ下サイ一通リノ風デハイキ

ヤセン

ソナナ風デ行く

羽織トシヤツボ、コレヲ皆コシラヘル、大阪ヘ行カニヤナ

ラン、家ヲ一軒買ハニヤナランソリヤカナハ此位ヒノ

家ヲ死ナシラモウ一ツ立テルカラマア見テ居テオタレ

天子様ノ所ヘ何シニ行ク

十五年ノ褒美ヲ貰フタ禮ニ行クソシテ五百圓カ六百圓貰フ
テクル—金ガ貳圓程イル
ドウスル

天子ノ所ヘ行ク費用ジヤ—ソレカラトト北海道カラ亞
米利加ヘ行ク
アメリカヘ行ツテドウスル
アスコヘ行ツテ散財スル—皆ウチヘ來テ喜ブヨ

(以上、四月十七日及二十六日ノ妄想)

十三、オヂーサンオ前エライ人ダツウダナ
ウソオレ程ノ仕事ヲシタモノガ外ニアルカ一時間足ラズデ
人ヲ五六人モ切ツタモノガアルカイウチノ婆ガ海デ私ヲ
ボケサシタカラアイツヲヤツツケタツレカラ直ニ警察ヘカ
ケツケタ私ハコレコロノモノヲヤツツケタ十年程監獄ヘ繋
イデ下サレト云フタ—
コ、ヘドウシテ來タ
コツチヘ汽車カ舟デ送ラレタ毒デ眼ヲ無茶ニシテオルカラ
一寸モ分ランソリヤコワイ
コ、ヘ來テモコワイコトガアツタカ
二度食物ニ毒ガ通入ツテオツタソノ時ハ新ラシイ膳ヲ梳ヲ
使ハハルカラ分ル—其時ハ盛ニモドシテ又下痢シタ(ト
云ヒナガラ盛ニ睡ヲ着物ノ内ヘ吐キツ、アリ)

オイ何ニヲキタナイコトヲスル
コレ(睡)ハ非常ナキレ—ナ爲ニナルモンジヤ鼻汁デモア
タ方ノトコノトハ全ク違フ皆身體ニ塗ツテシマフト身體ニ
光澤ガ出テ丈夫ニナルコレ丈ケ長イコト居ツテ雪隠ヘ一度
モ行ツタコトハナイ小便バカリシテオルコンナ人間ガ外ニ
アルカイナ皆オ天子様ガコウシテ下サツタ

大便セズニ居ルナンテ神様ジヤナ

勿體ナイカラ遠クカラ見テ居テゴラン神様ニナルト云フコ
トハ十二三歳ノ頃京都ニ居ル時分カラ云ハレタ—ワソジ
ヤト思フタラ京都ヤ伏見ノ人ニ聞イテゴラン—伏見ノ舟ニ
乗ツテオツタ男ヤ女ガ澤山ソノ時乗ツテオツタソシテオ
前ハ立派ナ人ジヤ日本ニハタシナイ人ニナル、アナタハキ
ツト出世スルト云フタソシテ八十迄イキル喜ビナサイト云
フタソレデ大阪ヘ行ツタ

ソナナラ神様ノ子ジヤツタナ
マア見テ、下サイコ、一年モ立タン中ニ神様ニナル鳩ヲカ
ヘル—コンナ所ニ居ルナンテ馬鹿ナコトガ—アルモン
カマア見テ、下サイ私ハエライコトニナル乞食デモ一日ニ
二遍外飯ヲ食ハンナンテコトハアリマセンセ—コ、ノ大
將様ハ澤山口錢ヲ取テオツテ飯ハ二回外食ハセマセンセコ
、ノ大將ノ様ナモノハ外ニハアリマセンセ
コ、トハドコジヤ
コ、ウツテコ、ジヤガナ
何ソト云フ所ジヤ

ソナナコトハドウデモヨイ—(以上五月一日ニ語リシ所)

十四、女ハ好キカ
好キノ好キヤナイウツテ十萬人位ヤツタ産根ノ袋町カラ新
地ノ女郎ヲ皆ヤツタ
何歳位カラ道楽シタ
十人ニ二人位外キラン〇〇ト云フ人ハエライ人ジヤ今見
テ居テオクレ—エラクナラナンダラ此世ニ居ラン—此
世ニ居レバ八十八迄イキル
女郎買ト散財トドナラガスキヤ
兩方スキヤ

理ノ一貫スルモノナシ

十五、計算力

家ハイクラデ買フタ
五拾圓—井戸ニ參圓皆ソナデ六拾圓位カ、ツタジヤロウ
六拾圓計リテ家ガカヘルカ
ア、五百圓ジヤ五百圓ジヤ—
五圓ト七圓デ
拾貳圓(眞ニ)
拾貳圓ノ三倍ハ
參拾九圓
遠フセ
參拾六圓(一分廿粒)
參拾六圓ノ二倍ハ
六拾六圓
ソナナコトガアルモノカ
ア、七拾貳圓
拾壹圓ノ十一倍ハ
モウ分ランモウ分ラン
今一番初メニヤツタ勸定ハ
分ラン アキマセン
次ニ單ニ數字ヲ以テ暗算ナサシム

問	答	時間(秒)
3-1	2	10
8-3	5	10
13-5	12(8+3+1)	20
40-13	27	35
8-2	4	5
18-3	分ラン	35

ソナナラドウシテ散財スル

甘イモノズクシヤ—コ、ノ大將ハアレ丈ケノナリヲシテ
居ツテ馬鹿ナ人ジヤ十二時ニ飯ヲ食ハシテアスノアサヨウ
ヨウ食ハスト云フヒドイ人ヤ—御飯ハトツブリケレル今
日ハ一寸御飯ガスキタ
別品ヲ見セヨウカ

今日ハアカンアカン(此時睡ヲハキ身體ニヌリツ、アリ)
ドウシテソナナキタナイコトヲスル
コンナキレ—ナモノハナイコレヲアルト身體ニツヤガ出ル
アツタ金持チカ
大分アルジヤロウ家買ヤナンカデ
ドノ位ヒ十萬位ヒカ
ウン六百圓位ヒ
怖イコトカ恐ロシイコトハナイカ
ナイ(傲然タル態度)

心配ニナルコトハナイカ
ナニモナイ ○〇ガシタイ
コノ間ハセント云フタジヤナイカ
此頃ハ年ニ三番位外セン、東京デハ仰山シタ一萬ヤ二萬ジ
ヤナイ彦根ヤ横濱ヤ八日市デ大變ヤツタ餘程〇〇〇ハスキ
ジヤ金ヲモウケルト直チニ女ヲヤツタ—金ヲモウケルト
食物ニツカイアトハ皆女ニ入レタ(以上五月十日ノ談話)昨
夜ハ天ヘ昇ツタソウシテ海ノ上デ遊ンデ來タ此身體ガ二ツ
ニ分レルノモ明日ヤ皆見テオレ(前額ヲコスリナガラ)今ヨ
イ女ガ來ルハ—ア、エイ花ガ見エル

以上ノ談話及態度ニヨリテ見ルニ被告ハ明カナル妄想ヲ有セズ
ト雖甚ダ愚鈍ナル誇大妄想ヲ有シ而モソノ妄想ハ決シテ固着ス
ルコトナク日々一ヨリ他ニ轉換シ且各日ノ妄想ノ間ニハ毫モ條

50+10 5 5
18+6 5
81+9 十七秒ニシテ眼ガ廻ツテ出來ント云ヒ泣キ出ス
ソノ他尙數多ノ計算方ヲ試ミントシテ問題ヲ與フルモ時トシテ
ハ全ク解答セント努力スルコトナク時トシテハ計算不能ニシテ
正答ヲ得ルコト能ハザリキ要之被告ノ計算力ハ八、九歳位ヒノ
小兒ノ計算能力ニ比適スル程低下シ居ルヲ認ム
十六、智能ヲ檢セン爲メ次ノ問答ヲ試ム
十二支ヲ云フテ御覽
子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥
一年ハ何ケ月
十二月
一日ハ何時間
六時カラ六時迄十二時間
徳川家康トハドシナ人カ
チヨットモ知ラン
東郷大將トハ何ヲシタ人
知ラン新聞ヲ讀マンカラ知ランコレガ(口ヲ指シナガラ)云
ヘマセン
日本ノ主府ハ
東京
東京ノ人口ハ何程
ソリヤ澤山アル千ヤ二千ジヤナイ何シロ二里四方モアルカ
ヲ分ラン
日本ノ高山ノ名ハ
富士山
日本ノ大川ノ名ハ
關東ニハヨケーニナイマー愛知川ジヤナア

日本一ノ大川ジヤ
川ハ大阪ニモ京都ニモアル分ラン
犬猫馬牛等ハ總稱シテ何ト云フ
犬ハドコマデ行ツテモ犬ジヤ時ニハ赤ジヤトカ黒ジヤトカ
云フテオトルノモアルソノ外ハ知ラン
森ニアル木ノ名ヲ云フテ御覽
分ランナアソソナニヨケーニハアリマセン松、杉、萩、檜
モウジレデ堪忍シテ下サイ
オチーサン何宗ヲ信ジテオトル
門徒デスモウ南無阿彌陀佛ヨリ外ハヨウ云ハン
日本ニアル宗旨ノ名ヲ云フテ御覽
門徒、淨土、マダアル神道、本道、ア、苦シイモウ云ヘン一法
華天台
聖徳太子トハ如何ナル人カ
知ラン
親鸞上人トハ
モウ何モ知ラン南無阿彌陀佛ジヤ
盆トハ何ヲスル日カ
踊ヤ角力ヲシヨル此頃寺ヘ行クコトハナイカラ知ラン佛機
ノ世話ハカ、ガシテオトル
先帝ノ御名ハ
知ラン忘レタ、今上陛下ノチイサイ時ハ知ツテオトル
徵兵ハ何歳デ行ク
廿一歳一三年行ク
何デ兵隊ニ行カニヤナランカ
軍ヲスル爲メニ一喧嘩ガモトジヤコイツハ喧嘩ジヤ
ビニ何種類アルカ
壹圓、貳圓、五圓、壹錢、貳錢、五錢、拾錢、廿錢、五拾錢一壹圓

銀貨ハ昔アツタガ今ハナイソノ上ハ構ガ知ツテオトル一錢ハ
大抵キマツタモノダ
一斤トハ何匁
ソリヤ色々アル一斤ハ十三匁ノ時モアルシ十六匁ノ時モア
ル砂糖ノ一斤ハ百匁シヤ
一日一人ノ生活費
ヨケーイラン茄子ヤ大根ヲ食フテオトルカラヨケーイラン米ハ
六合位大シテイラン
ソソナラ二人家内一ヶ月ノ生活費ハ
七圓五拾錢位ヒデクラセタ私ノ小使ハ參團アテダ
税ハ何ノ爲メニ納メル
町内ノ費用ニ使フ町ノ宮サンノ費用ニモスル〇〇〇ハ澤山
金ノイル所ジヤ
何故親ニ孝行セニヤナランカ
ソリヤカイシヨガアリヤセニヤナラン私ハ親ノ金ヲダマシ
テ取ル計リジヤツタ減多ニ孝行ハセンカラ何故孝行ヲセニ
ヤナランカ知ラン兩親共死目ノ世話モセナンド
ソソナ馬鹿ナコトガアルカ
アリマストモ(平然タリ)
君ニ忠義ヲセニヤナランノハ
モウ拜マニヤ仕方ガナイ私ハコウ云フ薄馬鹿デ大變世話ヲ
カケルカラ忠義ヲセニヤナラン
慈善トハ如何ナルコトカ
(急ニ元氣ツキ)ソイツハ私ハ上手ダツセ可哀相ジヤ苦シソ
ウジヤト思ヤ誰ノ苦シム事モ同ジヤ自分ノ食フモノヲ食ハ
ナイデモクレテヤル
幸福トハ如何ナルコトカ
コチラサヘアソジヨスルノガ幸福デス局ニ居タ時ハ幸福デ

シタ着物色々ノモノヲ買フテ……
花ノ中デ何ガ一番キレイカ
牡丹ガ一番スキ其ノ次ギハ菊ジヤロウ
悪イコトヲスルト何故罰セラルカ
ソリヤイカン人ノ物ヲ黙ツテ取ルノハ一番イカン
人ヲ切ルノハ
ソリヤイカン私ハ毒ノ力デ人ヲ切ツタノヤ
判事トハ何ヲスル人カ
知ラン裁判トカ何トカ云フコトハソリヤ知ラン
十七、判断力
机ト椅子トハドウ違フ
エライ違ヒジヤ机ハ幅場ニ使フ蓋ジヤシ椅子ハコシヲカケ
ルノジヤ
牛ト馬トハドウ違フカ
馬ハ馬、牛ハ牛ダコロット違フ顔ガ違フ馬ハアホゾラデ牛
ハオトナシイ
ソレ丈ケカ
牛ニハ角ガアリ膝ガワレテオトル馬ハソソナコトハナイ
子供ト人形トハドウ違フ
ソリヤ分ルドレ丈ケ上手ニ作ツテアツタツテ人間ハ眼ガ動
クシ柔ラカイシ温イガ人形ハ固クツツメタイ
池ト川トハドウ違フカ
池ハ水ガ温イ川ハウメタイ
ソレ丈ケカ
分ラン
儉約ト奢養トハ違フカ
ギヨサン違フ儉約ニモ色々アルシ奢養ニモ色々アルカラ仲
々分ラン

諸種精神能力ノ低下ト共ニ被告ノ判斷力并ニ一般智能ハ亦甚シク減退シ居ルコトハ上記ノ問答ニヨリテ之ヲ推知スルコトヲ得

十八、感情

気分ハドウデス

ソナニワイルイコトハナイナントコトナシ悲シクナルコトガアル

此頃ハ愉快デスカ

今日(五月十日)ハ芝居見ニ行ケラ愉快ダ着物ヤ帽子ヤラ皆出来テ來タ自轉車ニ乗ツテ行クノヤ

コ、カラソナ所へ行ケルカ

行ケルモイケンモアルモンカ―寒イカラ火ヲ持テ來イ―皆コワイ顔シテ居ヤハル(ト云ヒナガラ毛布ニテ鼻ヲカム)

腹ガ立ツカ

ソナコトハナイガ齒イタクテ仕方ナイモウ拔ケル皆親切ニシテ下サルカ

ソラモウ皆親切ニシテ下サル―コ、へ來テカラ散髪ハヤラン、風呂ヘハ三回外行カン―一度モ遊ビニ出シヒドイコトジャ

コ、ハドコジャ

コ、カドコジャ知ラン何モ分ラン今日ハ聲ガ違フ自分ノ聲デナイ(ヘーンヘーン(大聲ヲ發ス))

意風ジャロウ

イヤ意風ジャナイ一日ニ一時間位ヒハシヤベリツケテヤ散歩シタイコトハナイカ

コ、へ來テカラ一間ノ道モ歩カシテケレンジャナイカ

るりもばりもてらせばてらす

豆らんぶト云フテ御覽

豆らんく

モウ一度

廿二、豆らんく(怒氣顔面ニ漲リ)〇〇〇三ツ中

廿二、手書ハ亂雜ニシテ誤脱アリ少シク震顛スルモ著シキ失調ヲ認メズ

食慾ハ通常ナリト云フ次ニ色慾ハ被告ガ常ニ猥褻ノ言語ヲ弄シツ、アルヲ見レバ幾分昂進セルニ非ラザルカ

地、身體的徴候

廿三、被告ノ身體ヲ精檢スルニ體格小、營養不良、皮色蒼白ニシテ前膊或ハ下腿ニ二、三ヶノ腫腫ヲ見ル頭首左右略均等ニシテ顛頂部ニハ毛髮薄ク輕打スルモ頭部ニハ伯處ニモ特ニ疼痛ヲ訴フル部ナシ顔面亦左右均等、顔面神經ノ諸枝ニ麻痺又ハ痙攣ナク

顔面筋一般ニ弛緩ス眼球ノ運動尋常、瞳孔ノ調節機能保持サルト雖瞳孔右ハ卵圓形左ハ圓形對光反應遲鈍、大サ尋常右眼ハ視力弱ク左眼ノ視力ハ尋常、視野ニハ變化ナシ舌ヲ伸出セシムルニ直ニシテ白苔ヲ被リ微ニ振盪アルコト多シ齒牙ハ缺損セルモノ多ク殘存セルモノモ動搖ス爲メニ齒痛ヲ訴フ懸垂ハ直ニシテ硬口蓋及咽頭反射著明ニ存在シ聽力ハ彼ノ年齢ニ比シテ尋常ナリ

廿四、胸廓、尋常、肺ニ打診聽診上異常ナク脈搏正一分時六十乃至七十至心臟濁音界ニ異常ナク心音清明ナリト雖大動脈口ニ於ケル第二音稍昂進ス脊柱ニ異常ノ彎曲ナク輕打スルモ疼痛ヲ訴フル部ナシ腹部ニ異常ノ硬結ナク著明ナル「リバー」ヲ認ム

筋ノ粗大尋常、四肢ヲ他動的ニ屈伸セシムルニ抵抗ナク指、指、指鼻尖、及足趾膝蓋接觸者ヲ行フニ舉動甚ダ急促ニシテ

歩クノハ樂シムカ
起キテ居ルバカリデ何モ運動ハセンコンナ殺生ナコトハナ

イ

患者ノ機嫌ハ甚ダ轉換シ易ク今迄多幸性ニ笑ヒツ、アリシカト思ヘバ忽チニシテ怒リ或ハ啼泣ス此ノ如ク興奮性ナル他面ニ感情ノ甚シク鈍麻シ家内及友人ニ對シ甚ダ冷淡ニシテ高尙ナル趣味ニ對スル快感等モ之レナキ如ク却テ自己ノ唾ヲ自體ニヨリ或ハ着用セル毛布ニテ鼻汁ヲカムガ如キ汚穢ナル所業ヲナシ平然タリ

十九、意志運動、予ノ診察セル際ニハ一回モ意志發動力ノ増進セル徴候ナカリシト雖入監當時ハ監房内ニ在リテ窓硝子ヲ破壊シ

放歌亂舞シタルコトアリシモ間モナク靜肅トナリシト云フ

現今ニテハ無氣力ニシテ茫然トシテ爲スコトモナク其日ヲ送ル事多シト雖時トシテ監房内ニ在リテ演劇ノ眞似ヲナシ居ルコト

アリト云フ次ニ意志被影響性ノ亢進(強梗性、機微運動、反響症狀、常同症狀奇症等)及拒絶症狀減狀等ナシ顔面ニ

ハ緊リナク往々ニシテ空漠タル表情ヲナスコトアリ

二十、觀念、被告ノ話シ振リニ依リ觀念聯合ノ狀況ヲ窺フニ若干

邊滯促進及意志奔逸等尋常同尋常ヲ認メズ談話ハ甚ダ冗長ニシテ

理義明瞭ナラズソノ他強迫觀念、當意即答症新語作製症等ヲ

發見スルコト能ハズト雖觀念ノ内容ハ甚ダ貧弱ナルヲ認ム

廿一、言語ハ多ク明瞭ナリト雖時トシテ發音ニ異常ヲ認メ時々唇音ノ發音不能ナルコトアリ但シ彼ノ用語等ニ特記スベキ異常ナ

るりもばりもてらせばひかるマト云フテ御覽
るりもひかるハひかる
モウ一度云フテ御覽

拙ナルモ失調震顛ヲ認メズ

觸覺尋常、痛覺稍鈍、位置等ニ異常ナクロンベルク氏徴候ナシ

上肢ニ於ケル深反射尋常、腹皮反射及膝蓋反射ハ左右均等ナ

リト雖昂進シアヒルス聽反射ハ左右均等ニシテ尋常足聽反射ハ

足趾ノ聽風ヲ來シ且疼痛ヲ訴フ足現象ヲ認メズ

中、說 明

被告ノ遺傳歴ニ付テハ殆ンド全ク之ヲ知ルコトヲ得ズ既往歴モ

亦甚茫乎タリト雖被告ハ幼時學問ヲ好マズ十二三歳ノ頃天津及

京都ニ於テ數年間奉公ヲナシ後二ヶ年程繪具屋ヲ營ミシモ何故

力之ヲ廢業シ爾來數年間東京橫濱及ソノ近傍ニ於テ極メテ放浪

ナル墮落的生活ヲナシ此間ニ梅毒ニ感染シタリ次イデ亦大阪

等關西ノ地ニ放浪シ卅二、三歳ノ頃〇〇縣〇〇町ニ來リ不相

變幫間車夫ノ如キ職業ヲ營ミ後〇〇郵便局ノ配達夫ニ雇用セラ

レ十三年間忠實ニ勤權シ居リシ所近時誤配多キ爲メ本年一月ニ

至リ免職セラレ爾後四月七日ニ於ケル今回ノ犯罪事件ニ至ル迄

爲スコトモナク家居シ居タルモノナリ

彼ハ平生正直ナル人物ニシテ郵便局ニ在リシ時他ノ同僚、及

近傍ノ人ニモ氣受ケヨカリシ(記録第三項參照)然ルニ本年四月

七日朝突然大シタ理由モナク日本刀ニテ妻ヲ重傷ヲ負ハセ

又何等怨恨ヲ有セザル近隣ノ人數人ヲ毆打シ或ハ負傷セシメタ

リ

上記ノ既往歴(記録第二項參照)及犯罪事歴(同上第四項參照)ニ

ヨルモ被告ガ當時常識ヲ逸シ居リシモノナルコトハ容易ニ判斷

スルコトヲ得ベク尙彼ノ精神の現在徴候ニヨレバ被告ノ檢者ニ

理義ヲ缺キ云フ所ノ主旨、全ク不明ナルコトアリ(第五項參照)加之指南力(第六項參照)不確、病識(亦第七項參照)明ナル能ハズ領解力(第八項參照)減少ノ爲メ應答ニ時間ヲ要シ注意力(第九項參照)亦極メテ散漫ナリ記憶力(第十項參照)ハ著シク障礙ヲ受ケ追想ノ歲時的序列ノ如キ混亂シ今年ノ大正何年ニ相當スルヤストラヲモ忘却セリ從テ記憶力(第十一項參照)ノ甚シク減退セルコトハ言フ俟タズ

次ニ明カナル妄覺ハ存在セザレドモ甚ダ愚鈍ナル恰モ小兒ノ如キ誇大妄想ヲ有シ(第十二乃至第十四項參照)而モ同一妄想ノ固着スルコトナク日々一ヨリ他ニ轉換シソノ間ニ毫モ條理ノ一貫スルモノナシ計算能力(第十五項參照)ハ甚ダ低下シ恰モ八歳ノ小兒ノソレニ相當シ判斷力及智力(記録第十六七項參照)亦頗ル貧弱ナリ感情(第十八項參照)甚シク鈍麻シ家内及友人ニ對シ甚ダ冷淡ニシテ高尚ナル趣味ニ對スル快感等毫モ之レナキガ如ク氣分モ亦非常ニ轉換シ易シ、意志(第十九項參照)モ時トシテソノ發動力昂進シテ放散亂舞意硝子ヲ破碎スル機ノコトアリト思ヘバ無氣力ニシテ茫然トシテソノ日ヲ送ルコト多シ但シ意志被影響性ノ亢進或ハソノ減退ヲ見ルコトナシ顔面ニハ緊リナク往々ニシテ空漠タル表情ヲ呈ス

觀念(第廿項參照)聯合法ニ異常ナシト雖觀念内容ハ甚ダ貧弱ナリ言語(第廿一項參照)ハ多クハ明瞭ナレドモ時トシテ發音異常ヲ認メ特ニ唇音ノ發音不能ナルコトアリ手書ハ亂雜ニシテ(第廿二項參照)誤脱アリ少シク震顛スルモ失調ヲ認メズ

上記ノ精神的現在徵候ニヨレバ被告ハ精神作用ノ殆ンド全部ニ著明ナル障害ヲ被レルモノニシテコハ腦髓ニ一定ノ器質性病變ノ存在スルニヨル即チ被告ハ精神病學上所謂典型性麻痺性痴呆ニ擬レルモノタルコトハ殆ンド疑ヲ容レズ尙彼ノ瞳孔ノ右ハ卵

圓形左ハ圓形ニシテ對光反應ノ遲鈍ナルコトハソノ徵候ノ一ナリ只被告在監中ニシテ彼ノ血清、腦脊液及尿ヲ検査シテ一層ソノ診斷ヲ確實ニセザリシコトヲ遺憾トス

然ラバ被告ノ初メテ本病ニ罹リシハ凡ソ何時頃ナリシカト云フニ已ニ本年一月頃ヨリボケテ來リ年賀狀ニ誤配多ク(第三項參照)又電報配達ノ爲山中ニ入りドウシテモ途ガ分ラザリシ等ノ事ヨリ考フルニ遲クトモ昨年末ヨリ本病ニ罹リ居リシモノ、如ク本年四月頃ニハ病勢ハ稍強度ニ進行シ居タルモノナルベシ故ニ彼ハ些細ノ原因ヨリ病的ニ甚シキ興奮ヲ來シ前後左右ノ區別ナク妻ニ重傷ヲ負ハセ又彼ノ興奮セル原因ト何等關係ナキ隣人數名ニ無謀ナル行爲ニ及ビシモノナラント想像サル

被告ガ犯時(四月七日)如何ナル精神狀態ニ在リ且如何ニ無思慮ナル行爲ヲナセシカハ次ノ記録摘要ニ依リテソノ大要ヲ推知スルヲ得

(記録摘要省略)

下、檢案

上記説明ノ如キ理由ナルニ依リ左ノ如ク檢案ス

一、被告ハ犯時麻痺性痴狂ト稱スル精神病ニ罹リ居リ該病ハ現今ニ於テモ尙繼續中ナリ

二、被告ハ犯時刑法第三十九條ニ所謂心神喪失ノ狀態ニ在リシモノナリト認ム

此檢案ハ大正〇年〇月〇〇日着手
同 五月〇日 終了
大正六年五月〇日

宿所 鑑定人 醫師 小南又一郎

鬱病めらんこ

十二、鬱病(めらんこり)

多ク五、六十歳ノ老年退行期ニ發スル苦痛性憂鬱病ニシテ、ソノ誘因トナルハ恐怖、愛子ノ死、いんふるわんざ及胃腸病等ナリトス、精神的ニハ苦痛鬱憂性トナリ、罪障、追跡乃至ひばこんどり性妄想ヲ發シ、ソノ發來ハ頗ル緩徐ニシテ、初メ神經衰弱の症候ヲ呈シ、患者ハ意氣鎮沈シ、苦悶涕泣シ、心痛、苦悶、疑惑等ノ陰鬱ナル念慮ヲ抱キ、病覺強ク存ス、時トシテ二三ノ妄覺現ハレ、惡魔、天使、巡查等來リ、己ヲ運ビ去ラント幻視シ、或ハ身體内部ニ聲アリテ、患者ニ自殺ヲ勸告シ、彼ヲ非難ス、然レドモ意識ハ一般ニ溷濁セズ、所在識ハ好良ニシテ、思考ノ方途ハ尋常ナリ。

比較的高年者ニ發スル鬱病ハソノ症候次第ニ重クナリ、遂ニハ頗ル悖理ニシテ奇異ナル妄想ヲ發シ、時トシテ虛無妄想ヲ見、最後ニ誇大妄想發現シ、妄覺モ亦多ク、意識ハ溷濁シ、考慮ハ錯亂ス、苦痛甚シキ時ハ患者ハ落付カズ暴行シ、往々甚シキ犯行ヲナス事アリ、之ヲ鬱病性暴動ト云フ、行爲ハ衝動的ニシテ屢自殺ヲ企ツ、予ハ鬱病性暴動ノ爲メ街上ニ於テ何等自己ト關係ナキ小學生十數人ヲ殺傷セル患者ヲ實見シタル事アリ。

法律的ニハ本病ノ輕キモノ心神耗弱者ニシテ、重キモノハ心神喪失者ヲ以テ擬スベキモノナリ。

十三、初老期被害妄想

初老期ニ於テ判斷衰弱シテ種々ナル被害妄想ヲ起シ、且感情ノ興奮セルヲ以テ主徵候トス、患者ハ明覺ニシテ所在識完全ナレドモ、先ツひばこんどり性觀念ヲ抱キ、漸次被害妄想發來ス、時トシテ妻ノ不誠實ヲ妄想シ、稀ニ妄覺アリ、判斷ハ衰弱スレドモ記憶ハ佳良ナリ、氣分ハ多ク抑鬱的ニシテ苦悶アリ、自己

鬱病性暴動

初老期被害妄想

感覺亢進ス。

本病ノ經過ハ緩徐ニシテ豫後ハ概シテ不良ナリ。

老耄性痴狂

十四、老耄性痴狂

本病ハ高齡者ニ於テ漸次特有ノ痴呆状態ニ陥ルモノニシテ、其症狀ハ理解遲鈍、判斷不良、考慮スルノ力ナク、茫乎トシテ不關性トナルヲ常トス、殊ニ甚シキ記憶障害、記憶不能ヲ來シ、幼時ノ記憶等ハ比較的明瞭ナルモ、現時ノコトハ一分間前ノコトヲモ忘却シ去ルコト多シ、而シテソノ談話ニ際シテハ、此等記憶ノ缺陷ヲ自製ノ空想ヲ以テ補填シ、且之ヲ真ノ追想ナリト信ズルモノ多シ、ソノ他心氣性乃至被害性妄想ヲ有シ、感情ハ利己的トナリ、頑固、剛情、自恣ニシテ、行爲ニ不安ヲ來シ、色慾ノ亢進スルコトアリ、身體的ニハ不眠、振顫、構音障礙、動脈硬化症等アリ、麻痺性痴呆ト鑑別スベシ。

法律的關係ヲ述ブレバ、初期ニ於テハ輕度ノ興奮ノ爲メ、風俗壞亂、少女強姦、竊盜等ヲナシ、又智力衰弱ニ起因スル詐僞或ハ偽證等ヲナスコトアリ、即チ刑法上ニハ心神喪失乃至耗弱ヲ以テ論ジ、民法上ニハ禁治產トスベキモノナリ。

傳染病性精神病

十五、傳染病性精神病

種々ノ急性傳染病、即チ腸室扶斯、天然痘、丹毒、まらりあ、流行性感胃、恐水病、舞蹈病等ニ在テハ其體温ノ急激ナル昂騰、或ハ毒素ノ作用ニ基キ、發熱中所謂熱性譫妄ヲ發シ、意識濁濁、妄想、興奮等ヲ見、時トシテ昏睡状態ニ陥ルモノアリ、ソノ他傳染病後ノ衰憊状態ニテモ、智力衰弱、感情減退、意識濁濁、妄想興奮等ノ症狀ヲ遺スモノアリ、此等ノ場合ニ於テ往々犯罪行爲ヲナスコトアリ、又婦人ニ於テハ

アメンチア

中毒性精神病

產褥ノ衰憊ニ因リテ、急性錯亂性精神病(あめんちあ)ヲ來シ、ソノ間ニ嬰兒殺ヲ行フコトアリ、此等ノ錯亂期間ハ刑法上所謂心神喪失ノ狀況ニアルモノナリ。

十六、中毒性精神病

醫療上ノ藥劑、或ハ食品中ノ毒物、乃至嗜好品ノ中毒ニ依リテ種々ノ精神病ヲ來スコトアリ、今ソノ中吾人ノ最モ多ク遭遇スルモノニ、三ヲ略述セム。

酒精中毒

(イ)、酒精中毒

酒精ノ飲用ニ依リテ來ル酩酊状態ハ、即一種ノ急性酒精中毒ニシテ、此際常人ニテハ爽快、多辨、多動トナリ、遂ニ睡眠乃至昏睡ニ陥ルノミナルガ、生來性變質者、ひすてり或ハ癲癇ノ素因アルモノニテハ僅少ノ酒精飲用ニ依リ、所謂飲酒不堪症ヲ呈シ、意外ノ精神の障礙ヲ來スモノニシテ、彼ノ病的酩酊状態トハ酩酊ノ爲メニ意識濁濁シ、無意味ナル興奮若クハ衝動的行爲ヲナスモノヲ云ヒ、暴飲症トハ時々不快遺ル瀾ナキ發作ニ驅ラレ酒盃ヲ手ニシテアラユル資産ヲ酒ニ代ヘ數日間鯨飲シテ止マズ、泥酔ノ極昏倒スルモ發作止マバ寧ろ酒ヲ厭ヒテ眞面目ニ仕事ニ従事スルモノヲ云フ、此等ノ種々ノ狀況ノ下ニ衝動的暴行、色情興奮ニ起因スル猥褻行爲、放火、傷害竊盜、強盜、詐欺等ヲ構フルモノ少ナカラズ。予ハ飲酒不堪症ノ爲メ全ク不知ノ間ニ殺人ヲ敢行セル一例及定期性暴飲症ノ爲メニ數回回家ニ放火セル例ヲ鑑定セル事アリ。

飲酒ヲ常癖トスルモノハ所謂慢性酒精中毒ニ陥ルコト多シ、慢性酒精中毒ニテハ、作業能力減退、疲勞性、亢進、判斷不良、記憶減弱ヲ來シ、其程度進ムニ從ヒ、被害性并ニ誇大性ノ妄想ヲ生ムコト少ナカラ

慢性酒精中毒

病的酩酊暴飲症

ズ、酒ニ對シテハ非常ニ意地汚クナリ、酒ノ爲メニハ道義ヲ失シ、恥辱ヲ買フモ意ニ介セズ、家族ニ對スル温情ヲ失ヒ、自己感情亢進シ、他人ノ利害ヲ顧ルコト少シ、酒ニ酔ヘル時ハ爽快ニシテ、諧謔ヲ弄シ樂メドモ、一度醒ムレバ不平不満、灼熱苦楚暫クモ靜座スルコト能ハザルガ如シ。

慢性酒精中毒者ニハ心臟ノ脂肪變性、肝臟硬化、腎臟萎縮等ヲ起シ、且ツ手及舌ニ於ケル震顫、上下肢ノ萎弱、知覺異常、陰萎等ヲ伴フ、ソノ他子孫ノ身體ニ恐ルベキ遺傳的素因ヲ與ヘ、其後繼者ニ精神病者、白痴等ヲ出スコト多シ、次ニ酒精中毒ニ基因スル精神異常ニ、特殊ノ型樣ヲ供フルモノアリ、今之ニ就テ略述セン。

酒客譫妄

一、酒客譫妄、本病ノ發生ハ四十歳前後ニ多ク、初メハ小ナル動物或ハ昆蟲類ガ蠢々トシテ眼前ニ躍動スル有様ヲ幻視スルモノ多ク、暗示ニ依リテ此幻視益々甚シクナリ、ソノ他幻聽ノ來ルコトアリト雖、患者ハ一般ニ此等幻覺ニ對シ平然タリ。

尙記銘力及指南力ニ障礙アリ、身體的ニハ振顫、睡眠不良、癲癇樣發作等アリ、行爲ハ不安ニシテ多辨饒舌トナル、時トシテ苦悶ノ爲メ、周圍ノモノニ反抗シ、暴行ヲ試ミ自殺企圖ヲナスコトアリ、此譫妄狀態ハ、凡ソ二、三日ニシテ經過消失スルモノナルガ、ソノ經過後譫妄時ノコトヲ追想シ得ザルヲ常トス。

こるさこふ氏精神病

二、こるさこふ氏精神病、本病ノ主徵ハ、著シキ記憶障礙、指南力喪失、及追想誤認トナス、往々一分間前ノ事スラ忘却シ、又錯誤セル追想ヲ以テ此缺陷ヲ填補ス、從テ虛談ニ陥ルモノ甚ダ多シ、身體的症狀トシテハ、酒精性神經炎著シ。

酒客幻覺性妄想病

三、酒客幻覺性妄想病、本病ニテハ意識犯サレズ、妄覺妄想ヲ主トスルモノニシテ、被害、乃至追跡妄想ヲ有ス、發病ノ期ハ多ク夜間ニシテ自己ヲ脅迫、罵詈スルガ如キ聲ヲ幻聽シ、苦悶ス、指南力及病識アリ、患者ハ此幻覺ノ爲メニ迫ラレテ、自殺或ハ逃走ヲナスコトアリ。

四、酒客嫉妬妄想、酒精中毒ニ基ク夫婦間ノ不和又ハ生殖機能ノ減弱ニ基ク色情的嫉妬妄想ヨリ、潔白ナル妻ニ不眞ノ行爲アリト妄想シ、妻ヲ虐待シ、暴行ヲ加ヘ、爭鬪傷害スルコトスラアリ、本患者ハ此妄想以外ニハ、全ク病的症狀ヲ認メザルモノニシテ、飲酒ヲ廢スレバソノ妄想モ漸次消退ス。

中酒性麻痺狂

五、中酒性麻痺狂、コハ中酒性ノ精神病ニシテ、麻痺狂ニ酷似スルモノヲ云フ、即主トシテ幻覺、記憶障礙、震顫、腱反射消失、運動失節、瞳孔強直等殆ンド眞ノ麻痺性痴狂ト同様ノ性狀ヲ呈スルモノナレドモ、眞ノ麻痺狂ニ必發スル言語蹉躓、多幸症等ノ症狀ヲ缺キ、又血清及腦脊髓液ハ異狀ナキヲ常トス。酒精飲用者ト犯罪トノ關係ハ極メテ密接ナルモノニシテ飲用者自己ガ犯罪者トナルノミナラズ、ソノ子孫ニモ反社會的乃至非社會的ノモノヲ多ク出シ、甚ダ寒心スベキモノナリ。

急性酩酊ノ際ニハ、侮辱、暴行、破壞猥褻行爲及竊盜等ヲナシ、慢性中毒者モ亦同様ノ犯罪ヲナス外、浮浪ノ徒ヲ出シ、又妄想ニ驅ラレテ殺人ヲナスコトアリ、刑法上ノ責任能力ニ對シテハ甚ダ種々ノ程度アリテ、一概ニハ論ジ難シト雖、高度ノ意識濁濁ニ基クモノハ、心神喪失者トナシ、中等度ノ酩酊、或ハ妄想ニ驅ラレザル慢性中毒者ノ行爲ハ、心神耗弱ヲ以テ論スベキモノトス、民法上ニ於テモ高度ナル中毒者ハソノ處分能力ヲ奪ヒ、輕キモノハ心神耗弱者モシクハ處分能力ヲ有スルモノトシテ取扱フベシ。

鑑定實例
明治四十一年十一月十七日〇〇地方裁判所豫審判事〇〇〇〇〇ハ

木〇利〇郎放火被告事件ニ付同廳豫審廷ニ於テ
一、明治四十〇年八月四日以降ニ於ケル被告ノ精神狀態
ヲ鑑定ス可キコトヲ予ニ命ゼリ依之先ツ本年ノ一件記録ヲ審閱シ
且明治四十〇年十二月五日廿四日同四〇〇〇年一月十七日廿五日卅
一日一月八日十七日、三月一日、八回〇〇監獄ニ於テ同人ノ身
狀態ヲ檢診シ彼是ヲ綜合シテコノ鑑定書ヲ作ル

本籍〇〇縣〇〇郡〇〇村千五百四十三番地
當時 〇〇監獄在監中
木〇利〇郎

廿九年
(明治廿六年四月生)

第一 既往歴

遺傳歴、主トシテ被告ノ口述ニ依リ巡査太〇貞〇助ノ復命書(明
治四十〇年十一月十六日付)實父彌〇郎ノ訊問調書(同年十一月
十七日付)ヲ參照ス故ニ文體亦コレニ順ズ
彌〇郎五十六歳ニシテ尙存命スルモ吃リ癩性ニシテ變遷易ク
顔面ノ(左?)半側痙攣シ唾ヲ垂ル、常癖アリ酒量ハ每晚一合乃至
五合元ハ一升位モ呑ミタリ同人ヨリ一聞及ベルニハ微毒ニ罹リ
シコトアリト
母、みきシ生來健全ナリシガ被告(長子)分娩後虛弱トナリ常ニ頭痛
胃痛等ヲ訴フ
父ノ同胞ハ二兄二姉一妹ニシテ一兄ハ廿二歳ノ頃肺患腦症ニテ死
亡、一人ハ胃弱、便秘頭痛等ノ持病アリ叔母二人モ亦頭痛持ニテ
内一人ハ現時聾者ナリ他ノ一人ハ熱病ニテ死亡セリ被告ノ從兄弟
ニ尙健病者聾者啞者各一人ヲ出セリ

母ニ二兄一弟三妹アリ何レモ癩性ニシテ一弟ハ胃弱ヲ患ニ時々
神シテ多辯トナリ不要ノ品物ヲ購入スルコトアリ他ハ偏屈ニシテ
頭痛持ナリ妹ノ一名ハ始終炎治ヲナシ一名ハ虛弱ニシテ或時熱病
性ニ罹リシガ爾來喫煙スレバ身體ノ運動自由ナラザルコトアリ
(驚愕癡癡?)他ノ一名ハ頭痛持ニシテ高度癡癡ナリ

母ノ從兄三人ノ精神病者ト一人ノ尙健病者アリ父側ノ祖父(彌
平)ハ胃弱ヲ患ヘ卒中ニ罹リ口角ハ一方ニ牽引セラレ性頑固ナリ
シソノ血族中ニモ卒中ニ罹リシモノ一名アリ(尙存命)又癩性ニ
テ絶エズ手ヲ運動セシムル癖アル者(既ニ死亡)アリタリ
父側ノ祖母ハ頭痛持ニテ往々物ヲ吐ク癖アリタリ(ソノ姪、そめ)
ハ狂症ニ罹リ明治二十一年八月廿九日死亡セリ)尙ソノ血族中ニ
半身不隨者二名アリ(生存)木人ノ遺孀者一名ノ精神異常ヲ呈セ
ルモノアリ祖母ノ姪ノ兄ハ腦膜炎ニテ死亡セリ

母側ノ祖父ハ偏屈ナリシガ十四年前劇性ノ頭痛起リ益々増勢シ
四日人事不省ノ狀態ニナリテ終ニ死亡セリ(太〇巡査ノ復命書ニ
ハ腦充血トアリ)コノ他ソノ血族中ニハ一名ノ卒中者ト一名ノ狂
者ヲ出セリ母側ノ祖母ハ産後一時頭痛アリシモ現時ハ健全ナルガ
如シ
被告ハ九人ノ同胞(被告ト共)アリシモ内五人死亡シ(其病症ハ
何レモ不明ナリ)今ヤ二弟一妹アルノミ長弟ハ一旦兵役ニ就キシ
モ慢性氣管枝カタルノ爲現役免除トナリ末弟ハ頭痛ト鼻閉ノ持病
アリ妹ニハ虛弱ノ他特記ス可キコトナシ
血族ニ於ケル精神病ノ系統ニ關スル實父彌〇郎ノ陳述ハ被告ソノ
レト相一致セズ何レガ眞ナルヤ予ハ之ヲ知ラズ因テ次ニコレヲ摘
記ス(明治四十三年十一月十七日彌〇郎豫審訊問調書參照)
參考人(彌〇郎)方ニハ精神病ノ系統ハナキヤ
答 私ノ母ノ實妹即チ母ノ兄ノ子ガ發狂シテ十五年程前死亡シ又

私ノ妻ノ母ノ姪及妻ノ弟ノ子ガ各一人發狂シテ三年程前死亡シ
マシタガ凡ソ十四五年氣違テ居リマシテ三十幾ツカテ死シタ
デアリマス尙私ノ母ノ父ノ姪ハ癩性ニシテ父ノ姉ノ子ガ今年五十
歳程ニ成リマスガ二十歳位ノ年ニ氣違テ成テ其儘存命テ居リマ
ス此ノ外ニ私ノ親族ヲ氣違ニ成タ者ハアリマセズ
被告ノ生活史、被告ノ予ニ言フ所ニ依レバ被告ハ兎唇アリシ爲實
子ナルニモ係ハラズ被告ヲ他家(母ノ里)ヨリ貰ヒ受ケタルモノナ
リト云ヒ叔父ガ之ヲ否認スレバ自分(被告)ニハ益々疑ヲ生ジ平常
ノ舉動モ亦左様ニ思ハレ要スルニ他ノ同胞ニ比シ何トナク繼子扱
ニサル、ガ如ク感じ不愉快ノコト多ク現時ニ於テモソノ心念尙未
ダ全ク去ラズ小學校ニ於テモ兎唇ノ爲學友ヨリ輕蔑セラレタリ是
レガ爲ニ多少身ヲ持崩シ酒色ニ耽ケリシコトアリ且從來物事ニ感
ジ易キ方ニシテ芝居ヲ觀、小説ヲ讀ミテ往々落涙スルコトアリ學
業ハ尋常小學校ヲ卒ヘソレヨリ一兩年間補習科ニ入り尙別ニ多少
ノ漢籍ヲ修メタリ在學中讀書習字歴史等ヲ好ミ理科算術等ハ嫌ニ
シテ不得意ナリシ又體操ニハ眩暈頭痛等ノ爲往々缺席セリ、ソノ
後ハ父ノ商業(金物及賣商)ヲ手傳シモ實物庫ニ入レバ異様ノ臭氣
アリ又人ニ金錢ノ談判ヲ手酷スルコトガ可愛想ナリシ故實業ノ方
ニハ全ク關係セザリシ
前陳ノ如ク他ノ同胞ニ比シ自分ハ繼子扱ニナル、ヲ以テ何トナク
面白カラズト思ヒ居リシガ十五六歳ノ頃頭痛(左側偏頭痛)咳嗽、
心悸亢進、癩性等ノ爲醫療ヲ受ケシコトアリソノ後ニ至リ不滿放
蕩ノ結果十七八歳ノ頃無斷家出シテ京都ニ赴キ或金物屋ニ奉公セ
シモ間モナク癩病ノ爲京都府立癩病院ニ入院受療セリ即チ一方ニ
ハ兎唇及包莖ノ手術ヲ受ケ(其際全身癩癡ノ爲非常ニ恐懼ノ念ヲ
懷ク是ガ爲爾來腦ガ惡クナリ物忘れスル様ニナレリ)一方ニハ第
二期梅毒ト診斷セラレ脊髓ニ故障アリトテ電氣療法ヲ受ケ且石膏

縛帶ヲ用ヒシコトアリ又ソノ頃他ノ病院ニ於テ胃痛ノ爲「モルヒ
ネ」ノ皮下注射ヲ受ケ後ニハ自分テ注射スル様ニナリ日々三四回
モ注射セザレバ身體ニ倦怠ヲ覺ヘタリ(コノ「モルヒネ」注射ハ半
年許繼續セリ)
退院後歸村シ二十歳頃迄父母ノ許ニ在リシモ既述ノ如ク何トナク
繼子扱ニセラル、様ニ思ハレ腹ガ立チ目モ眩ム様ニ覺ヘタル故不
滿ニ堪ヘズ臺灣臺北ニ同郷者吳服店ヲ開キ居ルヲ幸ニ親戚ノ止メ
ルヲモ開入レズ無理ニ渡臺シ該商店ニ奉公シ又自ラ進物品ヲ行商
セリ右臺灣滯在中劇性ノ「マラリヤ」ニ罹レリ二年許滯在ノ後家族
ノ勸告ニ因リ再ビ歸村シ間モナク結婚セルモ妻ハ半年許ニテ死亡
セリ而シテソノ死亡ノ後ニモ自分ノ意ニ落チザルコトアリタリ即
チ同人(妻)ノ石碑ヲ自家ノ墓地ニ立テズ實家ノ墓地ニ建テシヲ以
テ不思議ニ思ヒ居リシモ父母ハ勿論親族ノ者迄満足シ居レリ尙被
告ハソノ當時ニ於ケル不思議ノ模様ヲ詳記シテ曰ク
よ以(妻)死去ノ節父ヨリ進メラレ水浴シ冷水浴タ、ル衣服ヲ着タ
ル儘歸宅セリ即チコノ年十月十九日夜隣村ニ芝居興行アリ「これ」
ノ實父及ビ親友五六名相携ヘテ見物歸途〇〇村山月樓(料理屋)
ニテ飲酒ノ上(尙芝居ノ中ニテモ飲酒セリ)二十日午前二時頃歸
宅就寢シ午前八時頃起床セルニ
前夜過飲セシヨリ頭痛其數未ダ酒氣モ去ヨズ手前所有ノ山林迄草
類既ニ發生シアルヤ否ヲ見ル爲メニ宅ヲ出デ、行シ事ハ少シ記憶
セリ山ニ行ク道中モ初メノ程ハ多少記憶シ居リシガ何時ノ程ニカ
何處トモ分ラズ父ヨリ顔ニ入浴ヲ進メラレテ入浴シタル所冷氣ヲ
感じ上浴シ暫時睡眠セシモ目醒メテ山ニテ眠リ居リタル事
ヲ覺ヘ不審ノ儘歸宅セリ
コノ後父母他行ヲ背ゼザリシモ大阪ニ赴キテ一年許或ハ石版業店
ニ奉公シ或ハ砲兵工廠ノ書記ニ雇ハレタルコトアリシガ其頃弟ガ

朝鮮ニ赴キテ以テ自分モ非常ニ同地ニ行キ度ナリ國元ヨリ金ヲ取寄セ終ニ親族ニ相談ノ上後ヨリ渡航シ九州ノ人國友某ト合資シ料理店ヲ開キシモ同人ニ欺カレテ失敗シソレヨリ賣藥ヲ行商シ一年程滞在セシガ明治四十二年十二月弟ガ徵兵入營ノ爲歸國セルニ依リ被告モ共ニ歸來シ爾來引續キ在郷セリ右朝鮮滞在申氣ガ體スルト「モルヒネ」ヲ用ヒタルニ氣分爽快ナリ之ヲ用ヒザレバ「フ」ラ「」スル様ニ感ジ中年許モソノ服用ヲ持續セリト

酒量被告ハ元好シ飲酒スル程ニハアラザリシモ僅ノコトニテ立腹シ飲酒シテ益々立腹スル様ニナリ殆ド每晚飲酒セリ其量一度ニ二三合乃至七八合ナリシ

上記セル被告ノ生活史ハ被告自ラノ口述ニ係ルモノナリコレニ付被告ノ父彌〇郎ハ四十二年十一月十七日豫審廷ニ於テ左ノ如ク陳述セリ

問 今日マデ利〇郎ハ大患ニ罹リシ様ノ事ハナカリシカ

答 十五年春頃ニ家事ヲ手傳ハシテモ大儀ガツテゴ「ト」仕事ヲ少シスルト寢轉シテ居ルノ時醫師ニ診テ貰ツタラ神經病ト云フ人モアリ肺病ト云フ人モアリマシテ療養サセ其年ノ七八月頃ニ夏ク成リマレタ十七年ノ六月ニ京都金物商ニ奉公ニ出シマシタラ半年モ経タヌ内ニ脊髓病ニ罹リ二月程入院シテ直ニ亦連レテ戻リ家事ヲ手傳ハシテ置キ二十一年ニ成テ臺灣ニ二年程行テ居ツテ亦歸リ夫レヨリ今日マデ別ニ病シタラ云フ事ハアリマセ

問 尙利〇郎ハ酒ヲ嗜ムヤ

答 酒ハ好ナ方デ一週ニ五合位ハ飲ミマス宅デモ大概每晚一合カ一合半位飲マシ置キマシタ

犯 罪 行 爲

一件記録ニ依レバ被告ハ明治四十三年八月四日居村喜〇彌〇廿二

日植〇仙〇、十月廿日谷〇五郎、同三十一日谷〇作〇門、十一月八日上〇佐〇郎同十二日川〇信〇方ニ何レモ飲酒ノ上放火セルモノナリ

犯罪行爲ニ對スル被告ノ自陳

何分餘程時ガ経タノト後デ如何ナル必要ガ起ルナドノコトハ當時毫モ意ニ介セザリシヲ以テ喜〇彌〇他五人ノ家宅ニ火事アリタル當夜何處デ酒ヲ呑ミソレヨリドノ道ヲ經テ其際如何ナル人ニ出遭ヒ又何時頃ニ歸宅セルヤ等ハ今ヤ多ク之ヲ記憶セズ尙ソノ苦悶恐懼妄覺強迫觀念等ヲ有セル覺ナク只川〇信〇方ニ火事アリシ當夜山月樓ニテ飲酒シテ谷〇作〇門方ニテ煙草ヲ買ヒタルコトノミハ未ダ之ヲ記憶スト又、被告ハ喜〇彌〇他五名ニ對シ放火ス可キ怨恨ナク火事ニ紛レ何カ窃取セントセルニモアラズ消防ニ手傳ヒ飲食物ノ振舞ヲ受クルヲ喜ブニモ非ズ人ノ騷擾狼狽スルヲ見テ面白半分ニ放火セルニモアラズ簡言スレバ喜〇等ノ家ニ放火ス可キ由因ヲ有セズ又放火セル記憶ナシト云フ但被告ハ殊ニ飲酒ノ上或ル行動ヲナシ後ニ至リ全ク記憶セザルコトアレバ記憶ニ存セザルヲ以テ自分ガ放火セルモノニアラズト斷言スルコト能ハズト例之或時被告ハ北〇某方ニ至リ極死セント云ヒタルヲ以テ北〇ヨリ急テ被告ノ兩親ニ通報セル由ナルモ被告ハ毫モ之ヲ記憶セザリシ又或ル時ハ某家(但自分ヨリ眼ノ内ナリ)ニ至リソノ家人ニ向ヒ「予ハ當家ノ娘ト結婚スル爲當人ト親シク熟談致シ度ニ付早ク屋外ニ避ケ去ラシ」ト云ヒタル由ナルモコレ亦記憶セズ且同女ヲ戀愛スル等ノ心ハ更ニコレナカリシ

故有體ニ自白スル方被告ノ爲ニ利益ナリト説諭訓戒セラレタルヲ以テ不得止一時ソノ儘ニナシ置キタリ又豫審廷ニ於ケル訊問ハ簡短ニシテ充分辯明スルノ邊ナカリシト

第二、現在徴候

身體的徴候

體格營養共ニ中等ノ一男子皮色稍ヤ蒼白姿勢尋常時々不眠便秘ヲ訴フ頭首ノ大サ周圍五五・五仙迷徑徑、一八・〇仙迷徑徑一五・〇仙迷徑徑短頸ニ屬ス頭皮ニ癩痕無ク輕打スルニ顛頂左前部稍ヤ過敏ナリ顔面左右兩半同形ニシテ顔面ニ麻痺痙攣ナク眼窩ノ下縁ヲ試壓スルニ微痛アリ(殊ニ左側)眼動及視力ニ障礙ナク瞳孔中等大ニシテ對光反應アリ上唇ノ左側不正線狀ノ癩痕アリ(兎唇手術ノ痕跡ナリ)舌ヲ伸出セシムルニ直ニシテ振顛ナシ齒列稍ヤ不整數個ノ齧齒アリ口蓋弓ニ麻痺ナク咽頭反射如ク構音ニ障礙ヲ認メズ耳形、聽力共ニ尋常、肺臟ニハ理學的診斷上記ス可キノ異常ナク心尖搏動、左第五肋間ニシテ乳嚙線ヨリ内方約一・五仙迷ノ所ニアリ心臟ノ濁音異常大三尖瓣ノ第一音進腹腔ノ臟器ニハ特記ス可キノ著變ナシ脊柱ニハ異常ノ彎曲ナク輕打スルニ胸椎ノ下部腰椎ノ中部ニ微痛アリ知覺(觸覺・位置神)運動ニ變徵ナク腹反射如クシ骨膜及膝蓋反射常態提舉筋反射亢進ス

精神的徴候

被告ガ檢者ノ前ニ着座シ診察室ヲ去ルヤ相當ノ挨拶ヲナシ又診察中モ敬テ禮ヲ亂ス等ノコトナシ

一、指南力ノ如何ヲ檢スル爲被告ノ氏名職業年齡住所居所目下ノ年月ト入監ト月日父母同胞ノ存在知己ノ姓名等ヲ尋ルニ其應答何レモ正確ナリ

二、領解力及注意力ハ被告ハ檢者ノ發問ヲ正シク解シテコレニ相

第三編 法醫學的精神病學 十六 中毒性精神病

當ナル應答舉動ヲナシ又閉目ノ上諸種ノ物品ヲ試觸セシムルモノノ品質、形狀、物品ヲ確答スルコトヲ得、一二ノ誤字アル文章ヲ示セバ直ニソノ誤字ヲ發見シテ之ヲ訂正シ或ハ談話中急ニ話柄ヲ他方ニ轉ズレバ彼亦コレニ適合ス

三、記憶力、往時ノコトニ就テモ近時ノコトニ就テモ記憶力ハ先ヅ尋常ナリ例之彼ノ年齡學歷彼ガ往年京都ニ奉公セシコト其際癩病入院セルコト其後臺灣朝鮮等ニ渡航セルコト其滞在期并ニ滞在ニ於ケル出來事ノ概略又近時ノ來狀及其內容或ハ來訪者前回ノ檢診時ニ於テ命セラレタル事柄等皆彼ノ記憶ニ存ス只今回ノ犯罪行爲ニ就テハ後ニ至リ如何ナルコトガ必要トナルヤ當時勿論之ヲ思量セザリシト日數ノ既ニ餘程經過セル爲其當時果シテ何處ニ在リ何ヲナシテ居リシヤハ一々確言スルコト能ハズト雖放火セル覺ハ更ニナシト云フ

四、妄覺妄想現時ニ於テモ犯時ニ於テモソノ存在ヲ認ム可キ據ナシ

五、觀念、觀念聯合及ビソノ速度モ亦尋常ニシテ汗遺冗長症、支離滅裂症常同症又聯想ノ滯滯或ハ促進強迫觀念ノ存在ヲ認メズ又或ル事歴ヲ順序ヲ追テ口述セシムルニ敢テ常人ト異ナル所ナシ六、計算力、加減乘除及ビ分數丈ケヲ修得セリト云フ被告ノ計算力ヲ斷スルニハ普通ノ四則位ハ別ニ誤算ナシ故ニ先ツ教育程度ヲ相當ナリト思ハル

七、感情、顏貌舉止、談話ノ調子等ニ依レバ被告ノ感情ハ別段、沈、悲哀性或ハ爽快樂觀性ナルコトナク感情興奮性ニモ亦著變ナシト雖彼ノ感情、寧、轉換シ易キ方ニシテ認ム可キノ原因ナクシテ談話中間々流涕シ或ハ笑聲ヲ漏スコトアリ

八、行爲ニハ不靜、多業、走躍衣類裂脫又ソノ反射徴候ヲ見ズ尙

強硬症狀反響症狀常同症狀拒絶症狀等意思被影響性が増進或ハ
減退セルノ微標ナシ

第三、說 明

一、上來記述セル現在微候ニ依レバ現時被告ノ精神狀態ニ彼ヲ精
神病者ナリト認ム可キ據ナシ然共彼ガ極メテ濃厚ナル遺傳ヲ有
スルコトハ彼ノ血族ニ數多ノ精神病者乃至神經系ノ患者(癩性
頭痛、卒中痙縮者等)ヲ出セルコトニ依リ明ナリ又彼自身
ノ神經系モ強健ナラザリシコトハ屢々醫藥ヲ要シ殊ニ脊髓病頭
痛、不眠症等ニ罹リシコト氣分ノ轉換シ易カリシト僻根性ノ絶
エザリシコト諸所ヲ流浪セルコト等ノ既往歴ニ徴シ充分之ヲ推
知スルコトヲ得而シテ被告自ラ及父獨〇郎ノ陳述ニ依レバ飲酒
ノ量モ決シテ僅少ナラズ加フルニ一度ハ微毒ニ罹レルガ如シ
二、犯罪當時ニ於ケル被告ノ精神狀態ニ異常ナカリシヤ否ヲ追究
スルニ之ヲ一件記録ニ徴スルモ被告ガ檢者ノ問診ニ對シ答
フル所ニ依ルモ被告犯時持續性ノ精神病ニ罹リ居レルコトノ根
據ハ之レナシト雖顯ル疑シキハ急性酒精中毒ノ一種タル病的酩
酊ナリトス病的酩酊トハ酒精飲用ニ對スル反應(即チ酩酊)ガ常
人ト異ナリ顯ル劇烈ニシテ妄想(殊ニ被害性妄想)衝動性
行爲(多クハ暴行)色情興奮、原因不明ナル恐懼、憤怒、指南
力ノ障礙殊ニ甚シキ意識混濁等ノ諸微候ヲ呈シ是レガ爲ニ不可
制止ノ犯行種々ナル暴行自殺企圖放火等ノ危險行爲或ハ色情興
奮、陰部暴露等風教紊亂ノ行爲ヲ爲スモノヲ謂フ而シテ是等
ノ症狀ハ酒精ソノモノ、作用殊ニ其量ニ直接關係アルモノニア
ラズシテ、寧ロ常人ノ體質如何ニ因ルモノナリ今一件記録ニ依
テ之ヲ按ズルニ上掲ノ諸症狀ガ具備セルコトハ之ヲ證明スルコ
ト能ハズ然共一面利〇郎ハ前項ニ說述ノ如キ遺傳及體質即チ本

症ニ罹リ易キ素因ヲ有シノ犯行ハ何レモ飲酒後ニ爲セシコト
被告ガ明治四十三年十一月十三日水〇警察署ニ於テ陳述セル所
ニ依ルモ犯行當時多少意識、混濁セルコトハ之ヲ想像スルヲ得
(四十二年十一月十二日付被告陳述取書參照)殊ニ被告ガ檢者
ニ語ル所ニ依レバ上掲ノ如ク犯罪行爲ニ關スル記憶ハ全クコレ
無キコト一面ニハ病的酩酊ノ微候ハ毎回必ラズ上述ノ如ク顯著
ナルモノニアラズ加之往々極メテ速ニ(數分間)過行シ從テ傍人
ノ之ヲ觀察スルノ違ナキコト等ヨリ考フレバ若シ被告本件ノ眞
正ナル被告人ナリトセバ記憶缺損ノ他ニ確證ヲ證明スルコト能
ハザルノミヲ以テ被告犯時病的酩酊者ナリシコトヲ否認スルコ
トヲ得ズ況ヤ記録〇〇丁第十六ノ記事ニ「從來私ハ酒ガ少シ過
ギマス他人ノ家テ寢テ仕舞フコトモアリマスカラ今回ノハ都
合能ク六回共宅へ來テ寢テ居リマシタ其歸リ掛ケニハ普通料理
屋ヨリ直ニ宅へ歸ル機ナ氣持ノ能イコトハアリマセナシト
アリ又彼ハ先年妻ノ死亡ノ當日前夜多量ニ飲酒セシ末其時ノ爲
山ニ登リ知ラマ間ニ水中ニ墜リ衣服ヲ浸濕シテ初メテ醒覺セル
等ノ事實アルニ於テオヤ要之被告ガ犯時病的酩酊ノ狀態ニアラ
ザリシコトハ之ヲ斷定スルコトヲ得ズ

第四、鑑 定

上記ノ如キ理由ナルヲ以テ左ノ如ク鑑定ス
一、現時被告ノ精神狀態ニ異常ヲ檢出セズ
二、犯時被告ハ或病的酩酊ノ狀態ニアリシナラント推測ス少ク
モ彼ハコノ狀態ニ罹リ易キ素因ヲ有セシモノニシテ今日ト雖尙
之ヲ有スルモノナリ

此ノ鑑定ハ明治四十三年十一月十七日着手
同 四十三年三月九日 日結了
同 四十三年三月十日

警 岡 本 藥 松 岡

(ロ)、もるひね中毒

本病ハ神經痛、齒痛、りようまぢす、喘息、胃潰瘍等ヲ有スルモノガ、ソノ劇痛ヲ療セシガ爲メ、もる
ひね注射ヲ頻回繰リ返ヘスニヨリ、遂ニ中毒ヲ來セルモノ多ク、時トシテハ一日ニ二、三瓦以上ヲ用ユル
コトアリ、本中毒ハもるひねノ手ニ入り易キ醫師又ハ藥商ニ於テ最モ屢見ル所ナリ。

本中毒者ハもるひねノ効アル間ハ爽快ヲ覺ユレドモ、之ヨリ醒ムルヤ茫乎トシテ苦悶不安ヲ感ジ、不快、
快惱、遺ル方ナク、遂ニ萬難ヲ犯シテ、再度ノもるひね注射ヲ繰リ返ヘスモノニシテ、精神ノ作業能力一
般ニ減弱シ、殊ニ記憶力ノ犯サル、コト最モ甚シ、睡眠ハ多ク阻害セラレ、時々幻視ヲ來シ、之ニ加フル
ニ運動失節、振顫、言語障礙、複視等アリ、營養一般ニ不良トナル。

本中毒者ハ不正ノ告白及不注意或怠慢ノ爲メ事故ヲ起シ、或ハもるひねヲ得ントシテ處方箋等ノ偽造、
竊盜、詐欺ヲ行フニ至ルモノアリ。本患者ノ甚シキ幻覺或ハ興奮ニ基ケル行爲ハ、心神喪失ナルベキモ、
ソノ他ノ場合ハ事宜ニ從ヒ、或ハ輕減責任能力者トナシ、又ハ責任能力者トナスベシ。

(ハ)、こかいん中毒

コハもるひねノ代用品トシテこかいんヲ用ヒタル時ニ起ルモノニシテ、ソノ急性中毒ハ酩酊様ノ好氣分
ヲ誘導スルモ、其後宿醉頗ル不快ナルヲ以テ、重ネテこかいんヲ用ヒテ之ヲ免レントシ、遂ニ慢性中毒ニ
陥ルモノナリ。

慢性こかいん中毒ノ症狀ハ、神經過敏、意想奔逸、精神作業能力失墜、記憶不良、意志減弱、刺戟性ト
ナリ、營養不良ニ陥ル、時トシテ俄ニ幻覺ヲ生ジ、或ハ蠅昆蟲等ノ小蟲ガ群集シテ襲來スル様ヲ見、或ハ

電氣ヲカケラレ、針ニテ刺サル、ガ如ク感スルモノアリ、背理的嫉妬妄想亦稀ナラズ、之ヲこかいん妄覺病ト云フ。

こかいん中毒者ハ其道義心變性ノ爲メ、粗暴ノ行爲ヲナシ詐欺等ヲナスコトアリ、こかいん妄想病ニ基ク行爲ハ責任無能力ナルベキモ、其他ノ場合ニ於テハ全然責任無能力ト云フベカラズ、民法上ニ於テモ略同様ナリ。

十七、監獄精神病

監獄精神病ニ自ラ二種アリ、一ハ監獄外ニテモ屢々遭遇スル精神病ナルモ、逮捕監禁等ガ重ナル心因トナリ己ニ素因アルモノハ發病スル早發痴呆、躁鬱病、麻痺狂、若クハ癲癩等ニシテ、他ハ監獄外ニ於テハ決シテ發生セザルカ、若シクハ略之ト同様ナル疾病ヲ見ルモ、監獄外ニ於テ極メテ稀ニ遭遇スルモノナリ。此後者ハ眞性ノ監獄精神病ト云ヒ、以下之ニ就キ略述セン。

眞性監獄精神病ノ原因トナルモノハ、自由ノ束縛、將來ニ對スル苦悶刑罰ノ苦悶、恥辱及後悔ノ感等ヲ數フベシト雖、時トシテ常習性犯罪者ハ、正反對ノ心理状態ヲ示シ、生活ノ苦悶ヨリハ却テ獄内ヲ喜ブモノアレドモ、通常ハ入獄ナルモノハ吾人ニ甚シキ精神的打撃ヲ與ヘ、以テ急性興奮乃至錯亂ノ状態ヲ呈シ來ル事アリ。

監獄精神病ニ陥レル患者ハ、意識濁濁ノ下ニ強烈ナル苦悶性興奮状態ヲ發シ、無意味ナル突進、叫喚、自傷等ヲナシ、或ハ反之恐怖戰慄シテ萎縮シ、抵抗ノ元氣ナキモノアリ、患者ハ時トシテ自己ハ罪ヲ犯シタル事ナシ、現今監獄ニ在ルニアラズト稱シ、刑罰及之ト關連セル事實ヲ全ク忘却シ居ル事アリ、之ヲ

驅除現象ト云フ、即チ刑罰ニ對スル觀念ガ全ク驅逐シ去ラレタルヲ意味ス。

長期ニ亘レル體刑ヲ受ケタルモノニシテ、放免ノ日甚ダ遠ク、家族及朋友間ノ情味失ヒ、日々ノ思想及行爲ハ強壓ノ下ニ同一徑路ヲ通過セザルベカラザル様餘儀ナクセラレ、食餌ハ單一ニシテ運動ハ缺乏シ、空氣光線ニ乏シキ等ノ諸種ノ原因ニ依リ、其人ノ個性ハ全ク變化シ、時トシテ妄覺ヲ發シ、被害妄想ヲ見、多年在監ノ結果トシテ、神經衰弱様候ヲ呈シタル後、其舉動著シク變化シ、拒食、無爲ニシテ往々自殺ヲ企ツ、時トシテ幻視幼聽、幻觸幻味アリ、意識ハ多クハ清明ナルモ、強烈ナル興奮時ハ濁濁スル事アリ、感情界ニハ緊張アリ絶望落膽懊惱ノ内ニ消光ス、ソノ經過ハ多ク數週ヨリ數ヶ月ニ亘リ、ソノ原因ヲ去レバ一部ハ治癒スト雖、全治ハ困難ニシテ、再ビ收監セラレバ嘗テ終熄シタル諸症ノ再燃スル事屢々アリ。

如上ノ病症ハ結合シテ無罪妄想發生シ、無罪ノ判決ヲ受ケタリト思惟シ、或ハ監督者ノ命ヲ用キズ物品ヲ破壊シ、就役ヲ拒ミ、食ヲ絶チ長文ノ書類ヲ認メ、自己ノ無罪ナル所以ヲ述べ、收監ヲ無法ナリト妄想スル事アリ、ソノ他終身懲役ニ處セラレタル罪囚中ニハ、初老期恩赦妄想ノ來ル事アリテ、患者ハ夜毎ニ恩赦ノ聲ヲ聞キ、相當ノ業務ニ附ケリト信ズ、次ニ固執妄想ナルモノアリ宛然ヒすてり一朦朧状態トナル。

法律的ニハ監獄精神病ノ重篤ナルモノハ心神喪失ヲ以テ論ズベキモノニシテ、勿論刑ノ施行ヲ中止セザルベカラズ。

十八、神經衰弱

本病ハ心身ノ過勞ニヨリテ來ル神經性疲憊ナリ、即チ患者ノ注意ハ減弱シ散漫トナリ、物事ヲ失念シ易ク、疲勞ノ感甚ダ強ク、作業困難ヲ感シ、職業ニ從フ快味ヲ失ヒ、氣分ハ變調シテ不機嫌刺戟性トナリ、悲觀興奮シ易ク、健全時ニ於テ齒牙ニ掛ケザリシ些細ノ事ヨリ甚シキ不機嫌ヲ醸シ、過激ナル言行トナリ不安苦悶相踵イデ發來ス、身體的ニハ頭部壓重ノ感アリ、頭痛偏頭痛ヲ訴ヘ、或ハ眩暈ヲ起シ、視野朦朧トナリ、全身遠和肩胞部ノ緊張、顔面筋ノ搐搦、手振舌及眼瞼ノ震顫、腱反射ノ亢進等アリ、ソノ他心悸亢進、發汗過多、熱感、打勝難キ睡眠等ノ來ル事アリ。

法律的ニハ多クハ責任能力者ナレドモ、時トシテ心神耗弱者、極メテ稀有ニ心神喪失者ナル事アリ。

十九、期待性精神病

期待ナル心的現象ハ漸次精神内界ノ緊張ヲ高メ、遂ニ一過性ノ妄覺ヲ起シ、或ハ種々ナル運動性不安ヲ誘發ス、特ニ期待シツ、アル事ニシテ不安ナランカ、之ニ相當スル觀念ハ痛苦ニシテ、遂ニ一種ノ精神障礙ヲ惹起ス、期待性精神病之ナリ、例ヘバ不眠ヲ恐レテ就床スレバ果シテ不眠來リ、否ラザル際ニハ安眠スル事ヲ得、歩行困難ヲ恐レツ、散步ニ出デントスレバ徒歩不能トナリ、而モ屋内ニテハ歩行平氣ナルガ如キ、書齋ヲ恐レテ寫字ヲ始ムレバ果シテ書齋來リ、筆ヲ持テ變ユルモ何等ノ効果ナキガ如キ此例ナリ。患者ノ意識ハ正明ニシテ、氣分ニ變換ナク、何等カ幸福ナル經驗ニヨリ自ラ恢復スルヲ常トス。

二十、感傳性精神病

本病ハ精神異常者ノ精神の影響ヲ受ケテ發現スルモノニシテ、例ヘバ或女學校ノ一女生ガひすてり性搐搦ヲ有セシ爲メ、之ガ全級ニ感傳セシガ如キソノ著明ナル例ナリ特ニひすてり性向ヲ有スル人、或ハ低能

ナルモノニ此感傳性甚ダ多キモノナリ、而シテ最モ感傳シ易キハ迷信的妄想、被害乃至誇大妄想及憑依妄想等ナリトス。

精神健全者ニ見ル諸種ノ流行、犯罪ノ方法、自殺ノ仕方等ニモ亦一種ノ精神の感傳アリ、尙群集心理ニ注意ヲ要スル際ハ、特ニ此精神の感傳ハ忽ニスベカラザルモノニシテ、大正七年ニ於ケル米騒動ガ、新聞紙ノ報導ニ依リテ全國各地ニ感傳セシ狀況ヲ見バ、思半バニ過グルモノアラン。

第四編 生命保險醫學

(一)、生命保險ト醫師

保險トハ偶然ナル一定事故ノ發生ニ依リテ生ズル結果ヲ、多數ニ分配スルノ趣旨ヲ有スルモノニシテ、例ヘバ多數ノ人ガ家屋ノ燒失、船舶ノ沈沒、或ハ死亡ノ如キ或事故ニ遭遇セントスル虞ヲ有スル場合ニ於テ、其多數ノ人ガ各少許ノ出捐ヲナシ、其中實際一部少數ノ人ガ果シテ其事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ、其多數ノ人ヨリ蒐集シタル金員ヲ此少數ノ人ニ分配シ、之ニヨリテ事故ニ遭遇シタル人ノ危險ヲ救フ事ヲ得ルガ如キ、即チ保險本來ノ性質ナリ、此意味ニ於テ保險事業ハ一種ノ公益ヲ基礎トスル社會的事業ニシテ、國家自身之ヲ經營シ、或ハ個人モシクハ會社ニソノ經營ヲ免許スル所以ナリ、又前ニ述ブル生命保險ノ如キハ又資本貯蓄ト密接ナル關係ヲ有スルモノニシテ、個人的方面ヨリ之ヲ觀レバ、些少ノ金錢ヲ時々蓄積シテ、之ヲ利殖シ、或時期ニ至リテ一定金額ノ資本ヲ取得スルヲ得ルニ至ルモノニシテ、例ヘバ養老保險ノ如キハ壯年勤勉ノ金資ヲ積立テ、以テ老後ノ扶養ニ宛テ、終身保險ノ如キハ自己ノ生存中蓄積シタ

ル金財ニヨリ遺族ニ一定ノ資本ヲ與ヘ、以テ路頭ニ迷フ如キ事ナカラシム、即チ生命保險契約ハ一旦之ヲ締結スル時ハ、長期ニ亘リテ保險料支拂ノ義務ヲ負擔スルモノナレバ、人情ノ弱點ニ對シ一種ノ強制貯蓄タルノ効果アリ、之ヲ國家經濟上ヨリ見レバ、零碎ナル資本ヲ集メテ國家ノ發達ニ必要ナル有利ノ事業ニ投ズルノ大資本ヲ構成スル機關トナルモノナリ。

商法第四百二十七條 生命保險契約ハ當事者ノ一方ガ相手方又ハ

第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フコトヲ約シ相手方ガ之

ニ其報酬ヲ與フコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ズ

第四百二十八條 保險金額ヲ受取ルベキモノハ被保險者、其相續

人又ハ親族ナルコトヲ要ス

保險契約ニ依リテ生ジタル權利ハ被保險者ノ親族ニ限リ之ヲ讓

リ受クルコトヲ得

保險金額ヲ受取ルベキモノガ死亡シタル時又ハ被保險者ト保險

金額ヲ受取ルベキ者トノ親族關係ガ止ミタル時ハ保險契約者ハ

更ニ保險金額ヲ受取ルベキモノヲ定メ又被保險者ノ爲メニ積立

テタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

保險契約者ガ前項ニ定メタル權利ヲ行ハズシテ死亡シタル時ハ

被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルベキモノトス

第四百二十九條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者ガ惡意

又ハ重大ナル過失ニ依リ重要ナル事實ヲ告ゲズ又ハ重要ナル事

項ニ付不實ノコトヲ告ゲタル時ハ其契約ハ無効トス但シ保險者

ガ事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルヲ得ベカリシトキハ此限ニ在ラズ

第四百三十條 生命保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ゲタル事

項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一、保險契約ノ種類

二、被保險者ノ氏名

三、保險金額ヲ受取ルベキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名及

其者ト被保險者トノ親族關係

第四百三十一條 左ノ場合ニ於テ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ

任ゼズ

一、被保險者ガ自殺決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ依リテ

死亡シタル時

二、保險金額ヲ受取ルベキモノガ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致

シタル時但其者ガ保險金額ノ一部ヲ受取ルベキ場合ニ於テ

ハ保險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ル、コトヲ得ズ

前項第一號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立タル

金額ヲ拂戻スルコトヲ要ス

第四百三十二條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルベキモノガ被

保險者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク被保險者ニ

對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要セズ

第四百三十三條 第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十

九條乃至第四百一條第四百三條第一項、第四百五條乃至第四百

七條、第四百十條、第四百十一條、第四百十七條及第四百十八

條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス

第三百九十五條、第四百七條、第四百十條及第四百

十一條ノ場合ニ於テ保險者ガ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セザ

ル時ハ被保險者ノ爲メニ積立シタル金額ヲ拂戻スルコトヲ要ス

即チ我商法第四百廿七條ニヨレバ、生命保險トハ人ノ生死ニ關シテ一定ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ報酬ヲ得テ約束スルモノナル事明ナリ、而シテ此文言中生死ナル文字ノ意義ニ就テハ、商法學者間ニ於ケル意見一致セザルモ、通常人ノ生死ニ關スル事故ヲ、人ノ生存及死亡ニ關スル事故ナリト解釋スルヲ普通トス、然ラバ生命保險ナル文字中ニ死亡保險、生存保險(養老保險、徵兵保險)及生命年金ノ三者ヲ含有スルニ至ルベキハ埋ノ當然ナリ。

夫レ保險事業本來ノ意義ヨリ云ヘバ、コハ利益ヲ主眼トスル個人モシクハ會社ニ其經營ヲ委スベキモノニ非ラズシテ、利益ヲ目的トセザル國家事業トナスベキヲ至當トス、之レ近年我國ニ於テモ國家ガ少額生命保險ヲ經營シ、郵便局ヲシテ其事務ヲ取扱ハシメツ、アル所以ナリ、モシ個人モシクハ會社ヲシテ保險事業ヲ取扱ハシムレバ、會社ハ被保險人ヲ撰擇シ、ソノ被保險人ノ間ニ起ル事故ヲ豫定シ、ソノ豫定表及經營費ヲ打算シ、以テ保險率乃至掛金ヲ計算シ、期間ヲ定メテ契約金額ニ從ヒ被保險人ヨリ之ヲ徵集シ、蒐集セル金員ハ一括シテ之ヲ有利ノ事業ニ融通シ置キ、或少數ノ人ニ事故發生シタル場合、ソノ契約金額ヲ拂渡スモノニシテ、會社ニ於ケル被保險人ノ撰擇巧妙ニシテ、事故ノ發生スルコト其豫定表ヨリ少數ナル時ハ、會社ノ利得トナリ、反之時ハ、會社ノ損害ヲ招來スルモノナリ、故ニ生命保險會社ノ損益ハ、被保險人實際ノ検査者ナル保險診査醫ノ技術品格ノ如何ニ關スル事多大ニシテ、被保險者採否ヲ決定スル會社直屬ノ保險主任醫ハ、單ニ机上ニ於テ診査報告書ヲ檢閲按配シ、保險醫學ノ一般ノ原則ニ從テ之ヲ爲スニ過ギザレバ、實際ノ診査醫ニシテ着實巧妙ナル報告書ヲ作ルニ非ラズンバ、幾多ノ經驗ニ富メル保險主任醫アリトモ、亦之ヲ如何センヤ、尙診査醫ニシテ保險事業ノ眞意義ヲ知り、聊カニテモ社會事業ニ眼ヲ放

ツトセンカ、會社ノ利害ト自己ノ社會的觀察トノ間ニ於ケル交渉頗ル微妙ニシテ、時トシテハ隨分困難ナル立場ニ陥ル事アラン。

生命保險醫學ノ定義

二、生命保險醫學ノ定義

茲ニ於テ吾人ハ生命保險醫學ノ如何ナルモノナルカヲ知ル必要アリ、即チ斯學ハ生命保險學ノ一分科ニシテ、専ラ生命保險ニ於ケル被保險人ノ醫學的撰擇ニ關スル事項ヲ研究スル學問ヲ云ヒ、コハ多數ノ申込人ノ共有スル危險ノ種類ニ從テ之ヲ分類シ、其中ヨリ不良ナル死亡率ヲ有スルモノヲ除外シ、佳良ナル死亡率ヲ有スルモノヲ採容スルノ方針ヲ研究スルモノニシテ、此目的ノ爲メニ次ノ事項ニ注意スルノ必要アリ。

(イ)撰擇制度ノ改善、保險會社ニテハ各地方ニ診査醫、中央部ニ主任醫ヲ置キ、診査醫ハ保險申込人ヲ檢査シテ、ソノ遺傳關係、既往症、現時ノ狀態ヲ診査報告書ニ記入シ、之ヲ會社ニアル主任醫ニ送致スレバ、主任醫ハソレヲ彼ノ經驗ニ照ラシ、ソノ申込ノ採否ヲ決定スルモノナルガ、往々ニシテ保險申込人、診査醫乃至主任醫ノ間ニ、保險勸誘員若クハ代理人ナルモノアリテ、醫師ノ撰擇ヲ制肘スル事アリ此四者間ノ關係ヲ現時ノ儘ニ放置スル時ハ、保險申込人ノ醫學的採擇ノ自由ヲ失フ事アリ、即チ撰擇制度研究ノ必要ハ茲ニ於テカ起ル。

(ロ)統計的研究、生命保險醫學ニ於テハ、統計學的研究ニ最モ重キヲ置キ、普通生命保險學ノ教ユル所ノ一般の統計ト、自己ノ會社ニヨリテ作成セラレタル地方的特殊の統計トヲ基礎トシテ、保險採擇ニ危險ナル團體ト安全ナル團體ヲ區分シ、前者ニ對シテハソノ申込ヲ拒否シ、後者ニ對シテハ進ンデ加入セシメ、以テ當該會社經營ノ危險ヲ避グ、之レ保險事業本來ノ意義ヨリ云ヘバ甚ダ不穩當ノ所置ナルモ、會社自身トシテハ蓋シ止ムヲ得ザルモノアラン。

(ハ)診査、コハ保險申込人ガ保險學上如何ナル危險ヲ有スルカヲ、ト知スル爲メ診査醫ガ申込人ニ對シ必要ナル問診及身體檢査ヲ行ヒ、診査報告書ヲ作成スル作業ニシテ、普通ノ臨床家ガ患者ヲ診察治療スルモノト聊カ其趣ヲ異ニス、何トナレバ、前者ニテハ成ルベク自己ノ家系乃至身體ニ於ケル缺點ヲ隱蔽シ以テ被保險者トナラン事ヲ望ムガ故ニ、詐稱乃至誇大ノ行ハル、アルニ反シ、後者ニテハ自己ノ疾病ガ成ルベク早ク治療セン事ヲ望ガ故ニ、醫師ノ診問ニ對シ先ヅ以テ詐稱誇大等ナキヲ普通トスレバナリ。

(ニ)決定、會社ニ在ル主任醫ハ診査醫ノ致セル診査報告書ニヨリ、保險申込人ノ年齢、性、職業、住地、習慣、財産狀態、遺傳、體質既往症及現症ヲ知り、之ニヨリテ保險ニ加入セシムルニ危險ナルモノト、然ラザルモノトニ分チ、申込採否ノ決定ヲ與フルモノニシテ、此際主任醫タルモノハ單ニ臨床的智識ノミナラズ、保險學上乃至統計學上ノ研究ノ應用ヲ怠ルベカラズ、之レ此領域ニ研究ノ餘地アル所以ナリ。

三、診査醫ノ任務

保險診査醫又ハ囑託醫ハ會社外ニ在リテ、會社ノ囑託ニヨリ自ラ保險申込人ヲ診査スル所ノ醫師ニシテ、ソノ任務ハ會社ニ在ル主任醫ガ自ラ診査スル能ハザル保險申込人ヲ、之ニ代ツテ精細ニ檢診シ、其結果ヲ

診査醫ノ任務

(一)、死亡ノ原因ガ自然的原因ニ依テ來レルヤ否ヤノ決定。
 (二)、死亡セル被保險者ガ保險契約ノ際ニ、其健康状態ニ關シテ告知セル事實ト、死因タル疾病トノ間ニ齟齬又ハ不正等ノ存在スル事ナキヤ否ヤノ決定。

生命保險醫學ニ於テ死亡ガ自然的原因ニ依テ起レルヤ否ヤヲ決定ストハ、死亡ガ自殺ニ非ラザルヤ否ヤヲ決定スルノ謂ナリ、凡テ自殺ナルモノハ契約締結後一定年限ヲ經過セルモノニ非ラザレバ、保險會社ハ之ニ對シテ保險金支拂ノ責ニ任ゼザルコト一般ノ慣習ナルヲ以テナリ、次ニ死亡セル被保險者ガ、保險契約ノ際ニ其健康状態ニ關シテ告知セル事實ト、死因タル疾病トノ間ニ齟齬、又ハ不正等ノ存在スル事ナキヤ否ヤヲ決定ストハ、告知事實ト死因タル疾病トノ關係ヲ決定スルノ謂ニシテ、即チ保險申込人ハ保險契約ノ際、自己ノ遺傳關係、既往症、乃至自己ノ現在感スル凡ベテノ事ヲ、細大漏サズ之ヲ會社ニ告知セザルベカラズ、之ヲ告知義務ト云フ、被保險人ガ此告知義務ヲ契約當時充分ニ盡シ居ラザリセバ、保險會社ハ商法四百二十九條ニ依リ、保險ノ解約ヲ爲シ得ルノ規定アリ。

五、保險ト死亡診斷書

保險用ノ死亡診斷書ハ生命保險會社ガ死亡調査ニ必要ナル材料ヲ得ン爲メニ、死亡セル被保險者ヲ診療セル醫師ヨリ保險金受取人ヲ經由シテ、其死亡ノ狀況ヲ會社ニ報告スル書類ニシテ、保險金受取人ガ被保險者ノ死亡ニヨリ消滅セル保險契約ニ對シテ、保險金ノ交付ヲ會社ニ請求スル場合ニハ、該保險金受取人ハ故被保險者ノ死亡證書ト共ニ、ソノ診療ニ從事シ或ハ死體檢案ニ携ハレル醫師ノ記載セル死亡ノ種類、原因及經過ヲ精細ニ報告セル書類ヲ會社ニ提出スベキ事ヲ規定セラレアルヲ以テナリ、即チ保險金受取人

告知義務

保險ト死亡診斷書

ハ醫師ノ死亡診斷書ナクシテハ、生命保險會社ニ對シ保險金ヲ請求シ能ハザルノミナラズ、尙又之ニ對スル訴訟ヲモ提起スル事不能ナリ、又醫師ニシテ生命保險會社ニ對シ一定ノ事項ヲ記載スル死亡診斷書ヲ作成スルモ、ソハ決シテ業務ノ秘密ヲ破レルモノニ非ラズ。
 保險ニ關スル死亡診斷書ハ、通常戶籍或ハ埋火葬許可ノ爲メニ使用スル死亡診斷書ト自ラ其意味ヲ異ニシ、保險會社ノ統計的研究ニ關シ重大ナル意味ヲ有スルモノナレバ、之ヲ作成スル醫師ハ其意ヲ體シ、所見ヲ詳細且正確ニ記載セザルベカラズ、其書式ニ關シテハ各會社ニヨリ多少ノ相違アリ、今一、二例ヲ舉グレバ左ノ如シ。

補遺	死亡ノ場所	發病ノ場所	死亡年月日	初診年月日	發病年月日	爾後ノ經過	初診時ノ徵候	遺傳及既往症	病名	姓名		職業	生年月日	配偶	住所	主治醫氏	名團
										姓	名						
右之通死亡致候條相違無之候也																	
大正 年 月 日																	

死亡證明書

○府○縣○村○番戶士族農

何 某

生年月日

一病名 急性腦膜炎

二生前症候 ○月○日頭痛、發熱アリ、翌朝少シク輕快ヲ覺エシモ同夕再び劇甚ナル發作アリ、二兩日輕重相續交セシガ昨夜遂ニ全身ニ劇シキ痙攣ヲ起シ人事不省ニ陥リ、次デ鬼籍ニ入レリ。

三死亡ノ原因 腦ノ一部ニ血栓ヲ生ジタル爲ナラン

四經過 發病ヨリ死ニ至ルマデ全經過四日ヲ算ス

五死亡ノ年月日 大正○年○月○日午前○時

六死亡ノ場所 ○府○郡○村○番戶

右拙者施治中ノ患者ニ有之候處前記ノ疾病ニ依テ死亡セリ、此段證明候也

年 月 日

醫師 氏 所 名 印

○生命保險會社取締役御中

六、生命保險醫學ノ統計的研究

生命保險ニ於ケル醫學の選擇ハ、保險申込人中ノ弱體者乃至罹病者ヲ拒否シ、強體者ヲ加入セシムルヲ原則トスレドモ、漸次生命保險醫學ノ統計的研究進歩スルニ供ヒ、是等弱體者或ハ罹病者ヲ一定ノ條件ノ

下ニ加入セシムルヲ得ルニ至レリ、然レドモコハ尙研究ノ道程ニ在リ、爾後諸種ノ統計ニヨリテ之ヲ確實セザルベカラズ、即チ生命保險ハ死亡統計ヲ基礎トシテ發達セルモノナレバ、生命保險醫學モ亦統計的研究ヲ以テソノ主眼トセザルベカラズ。

生命保險醫學ノ研究方法ハ主トシテ觀察法ニシテ、事物ヲ有リノ儘ノ狀態ニテ検査觀察シ、其中ヨリ眞理ヲ發見スルニ在リ、換言スレバ、コハ統計學的研究ニ外ナラズ、故ニ其研究ノ基礎モ、亦、統計學上ノ原則タル大數法則ニ據ラザルベカラズ、即チ一定ノ範圍内ニ在ル大數ヲ觀察スル時ハ、其中ニ在ル整然タル法則ヲ歸納的ニ發見スルコトヲ得ルモノニシテ、ソノ爲メニハ觀察ハ同性質又ハ同種類ノ現象ノ全體ニ就テ同時ニ行ヒ、且成ルベク大數ヲ取扱ハザルベカラズ、而シテ大數觀察ヲ完全ニ行フニハ、必要ナル事項ヲ充分蒐集網羅シ、之ヲ分類シ、同一單位ニ改算シ、排列シ、其平均乃至比例ヲ算出シ、以テ實地ニ應用スルモノニシテ、ソノ基礎トナルベキ統計材料ハ正確ニシテ、而モ分類亦明白ナルヲ期セザルベカラズ。

生命保險醫學ノ統計的研究中、最モ大切ナルモノハ死亡統計ニシテ、通例死亡率ハ生存者千人ニ對スル死亡ノ割合ヲ以テスルヲ常トシ、各死亡率ヲ比較スル場合ニハ、必ズ其年齡ヲ顧慮シ、モシ保險契約者アル時ハ、統計的研究ヲ行フ準備トシテ、毎カカゴト作リ、之ニ申込書、告知書及診查報告書中ヨリ必要ナル事項ヲ摘記シ、之ヲ適當ニ分類貯藏シ置キ、次デ被保險者中死亡セルモノアル時ハ、更ニ其カゴニ死亡診斷書ヨリ死因、死亡時期等ノ必要事項ヲ記入シ、貯藏シ置キ、此カゴガ夥シキ大數トナルニ及ンデ、之ヲ適當ニ按排スレバ、之ニ由テ必要ナル統計的研究ヲ行フヲ得ベシ。

死亡表ハ又死亡生殘表或ハ生殘表トモ云ヒ、生命保險醫學中最モ大切ナルモノニシテ、多數ノ人類ニ於テ種々ナル年齢ニ於ケル死亡ガ、一定ノ整然タル法則、即チ死亡法則ヲ有スルモノナル事ヲ表示スルモノナリ、而シテ之ヲ作製スルニ要スル材料ハ左ノ如キモノナリ。

- 或一定ノ領域内ニ於ケル
 - (イ) 滿一歳ヨリ九十九歳ニ至ルマデノ各年齢者ノ數、
 - (ロ) 各年齢者中一年内ニ死亡シタルモノ、數、
 - (ハ) 各年齢ヨリ一年中ニ脱出シタルモノ、數、
 - (ニ) 各年齢ヘ一年中ニ進入シタルモノ、數、
- 此等ノ材料ハ國家ノ統計報告又ハ生命保險會社ノ統計ヨリ得ラル、モノニシテ、前者ヲ國民的死亡表ト云ヒ、後者ハ會社の死亡表ト云フ。

死亡表中吾人ハ多クハ平均余命ナル文字ヲ見出スモノナルガ、コハ或年齢ノ一大多數ヲ取り、ソノ人々ガ其年齢以後ニ於テ享受スベキ壽命ヲ平均シタルモノニシテ、之ヲ各個人ニ適用スベクモアラザレドモ、生命保險醫學上ノミナラズ、普通民法上ノ損害賠償、或ハ災害醫學上ノ保險金乃至扶助金等ヲ計算スル場合、被害者ガ後來何程生存スルモノナルカヲ豫測スル際、之ヲ決定スルニ他ノ方法ナキヲ以テ、此平均余命ヲ以テ損害賠償計算ニ使用スルノ場合ナキニ非ラズ。

今一、二ノ死亡表ヲ例示スレバ左ノ如シ、但シ表中死亡近眞率トハ全數ト死亡數トノ比ニシテ、生殘近

眞率トハ、全數ト生殘數トノ比ナリ。

英國ニ於ケル生命保險會社(十七會社)ニヨリ作成セラレタル死亡表。

年齢	生殘數	死亡數	近眞率	生殘平均餘命	平均餘命
十 歳	100,000	6,670	0.0667	73.33	73.33
十一 歳	99,330	6,670	0.0670	72.67	72.67
十二 歳	98,660	6,670	0.0674	72.00	72.00
十三 歳	98,000	6,670	0.0678	71.33	71.33
十四 歳	97,330	6,670	0.0682	70.67	70.67
十五 歳	96,660	6,670	0.0686	70.00	70.00
十六 歳	96,000	6,670	0.0690	69.33	69.33
十七 歳	95,330	6,670	0.0694	68.67	68.67
十八 歳	94,660	6,670	0.0698	68.00	68.00
十九 歳	94,000	6,670	0.0702	67.33	67.33
二十 歳	93,330	6,670	0.0706	66.67	66.67
二十一 歳	92,660	6,670	0.0710	66.00	66.00
二十二 歳	92,000	6,670	0.0714	65.33	65.33
二十三 歳	91,330	6,670	0.0718	64.67	64.67
二十四 歳	90,660	6,670	0.0722	64.00	64.00
二十五 歳	90,000	6,670	0.0726	63.33	63.33
二十六 歳	89,330	6,670	0.0730	62.67	62.67
二十七 歳	88,660	6,670	0.0734	62.00	62.00
二十八 歳	88,000	6,670	0.0738	61.33	61.33
二十九 歳	87,330	6,670	0.0742	60.67	60.67
三十 歳	86,660	6,670	0.0746	60.00	60.00
三十一 歳	86,000	6,670	0.0750	59.33	59.33

死亡表(日本)

Table with columns: 年齢 (Age), 生残数 (Survivors), 死亡数 (Deaths), 死亡率 (Mortality Rate), 死亡表 (Death Table), 死亡生残表 (Survivors at Death), 生残表及平均餘命 (Survivors and Average Life Expectancy). Includes data for ages 10-20 and a section for '次ニ日本ニ於ケル生命保險會社(三會社)死亡表ヲ示セバ左ノ如シ(高田氏ニヨル)'.

Table with columns: 年齢 (Age), 生残数 (Survivors), 死亡数 (Deaths), 死亡率 (Mortality Rate), 死亡表 (Death Table), 死亡生残表 (Survivors at Death), 生残表及平均餘命 (Survivors and Average Life Expectancy). Includes data for ages 10-20 and a section for '第四編 生命保險醫學'.

第四編 生命保險醫學

七 死亡表

死亡生殘表 生殘表及平均餘命

七三三

(以下略之)

十六歲	九五・〇一二	一・〇八九	〇・一四六	四十二歲	七三・一八三	七三四	〇・一〇〇三
十七歲	九三・九二三	一・一〇一	〇・一七二	四十三歲	七二・四一九	七三六	〇・一〇一六
十八歲	九二・八二二	一・〇八二	〇・一六六	四十四歲	七一・七一三	七三七	〇・一〇二八
十九歲	九一・七四〇	一・〇四二	〇・一三六	四十五歲	七〇・九七六	七四五	〇・一〇五〇
二十歲	九〇・六九八	九八八	〇・一〇八九	四十六歲	七〇・二三一	七五七	〇・一〇七八
二十一歲	八九・七一〇	九三九	〇・一〇四七	四十七歲	六九・四七四	七七五	〇・一一一六
二十二歲	八八・七七二	八九七	〇・一〇一〇	四十八歲	六八・六九九	七九九	〇・一一六三
二十三歲	八七・八七四	八七〇	〇・〇九九〇	四十九歲	六七・九〇〇	八三一	〇・一二二四
二十四歲	八七・〇〇四	八五五	〇・〇九八三	五十歲	六七・〇六九	八七〇	〇・一二九七
二十五歲	八六・一四九	八五一	〇・〇九八八	五十一歲	六六・一九九	九一二	〇・一三七八
二十六歲	八五・二九八	八四六	〇・〇九九二	五十二歲	六五・二八七	九五六	〇・一四六四
二十七歲	八四・四五二	八三六	〇・〇九九〇	五十三歲	六四・三三一	一・〇〇二	〇・一五五八
二十八歲	八三・六一六	八一八	〇・〇九九七	五十四歲	六三・三二九	一・〇五〇	〇・一六五八
二十九歲	八二・七九八	七九七	〇・〇九九三	五十五歲	六二・二七九	一・〇九八	〇・一七六三
三十歲	八二・〇〇一	七七二	〇・〇九四一	五十六歲	六一・一八一	一・一四五	〇・一八七二
三十一歲	八一・二二九	七五二	〇・〇九二六	五十七歲	六〇・〇三六	一・一九五	〇・一九九〇
三十二歲	八〇・四七七	七三六	〇・〇九一五	五十八歲	五八・八四一	一・二五一	〇・二一二六
三十三歲	七九・七四一	七二六	〇・〇九一〇	五十九歲	五七・五九〇	一・三〇九	〇・二二七三
三十四歲	七九・〇一五	七二三	〇・〇九一五	六十歲	五六・二八一	一・三七六	〇・二四四五
三十五歲	七八・二九二	七二一	〇・〇九二一	六十一歲	五四・九〇五	一・四四九	〇・二六三九
三十六歲	七七・五七一	七二三	〇・〇九三二	六十二歲	五三・四五六	一・五三二	〇・二八六六
三十七歲	七六・八四八	七三〇	〇・〇九五〇	六十三歲	五二・九二四	一・六二六	〇・三一三〇
三十八歲	七六・一一八	七三〇	〇・〇九五九	六十四歲	五一・九二九	一・七二九	〇・三三三七
三十九歲	七五・三八八	七三五	〇・〇九七五	六十五歲	五〇・二九九	一・八三五	〇・三七七八
四十歲	七四・六五三	七三五	〇・〇九八五	六十六歲	四八・五七〇	一・九五九	〇・四一九二
四十一歲	七三・九一八	七三五	〇・〇九九四	六十七歲	四六・七三五	二・〇六三	〇・四六〇七

豫定死亡數
實際死亡數

六十八歲	四二・七一三	二・一六四	〇・五〇六六	七十二歲	三三・六二四	二・三八三	〇・七〇八七
六十九歲	四〇・五四九	二・二四八	〇・五五四四	七十三歲	三一・二四一	二・三八五	〇・七六三四
七十歲	三八・三〇一	二・三一六	〇・六〇四七	七十四歲	二八・八五六	二・三七五	〇・八二三一
七十一歲	三五・九八五	二・三六一	〇・六九六一	七十五歲	二六・四八一	二・三五〇	〇・八八七四

此等ノ死亡表ニヨリテ生命保險會社ガ計算豫測セル死亡數ヲ豫定死亡數ト云ヒ、被保險者ノ實際ノ死亡ニ依リ保險ヲ支拂フ數ヲ實際死亡數トシ、實際死亡數ヨリ豫定死亡數多キ時ハ死亡不足ト云ヒ、之ニ反スル時ハ死亡超過ト稱ス、死亡不足ナルハ醫學的撰擇ノ効著明ナルガ故ニシテ、死亡超過ハ之ニ反シ醫學的撰擇粗糲ナルガ爲メニシテ會社經營ヲ不安ナラシム、平均餘命モ亦前述ノ如ク保險契約ニ甚ダ大切ナルモノニシテ、今日日本人ノ平均餘命ニ完全平均命ヲ日本帝國第三十六統計年鑑及高田氏生命保險醫學ニヨリテ、表示スレバ左ノ如シ。

完全平均餘命

第三十六統計年鑑		英國十七		日本三會社	
年齡	完全平均餘命	男	女	表(男子)	
〇歲	四・五	四・六	四・七	四・八	四・九
一歲	五・一	五・二	五・三	五・四	五・五
二歲	五・九	五・九	五・九	五・九	五・九
三歲	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三
四歲	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇
五歲	五・七	五・七	五・七	五・七	五・七
六歲	五・六	五・六	五・六	五・六	五・六
七歲	五・三	五・三	五・三	五・三	五・三
八歲	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇
九歲	四・六	四・六	四・六	四・六	四・六

第四編 生命保険醫學 死亡表 死亡生殘表 生殘表及平均餘命

二十三歲	三九.一六	四〇.〇〇	三九.〇〇	四十七歲	二七.七	二四.〇〇	三三.七
二十四歲	三八.五一	三九.〇〇	三六.六八	四十八歲	二七.〇〇	二四.〇〇	三三.〇〇
二十五歲	三七.八四	三八.七	三五.六八	四十九歲	二六.〇〇	二三.〇〇	三二.〇〇
二十六歲	三七.六	三八.七	三五.六八	五十歲	二五.〇〇	二二.〇〇	三一.〇〇
二十七歲	三七.四七	三八.六	三五.六	五十一歲	二四.〇〇	二一.〇〇	三〇.〇〇
二十八歲	三七.三	三八.五	三五.五	五十二歲	二三.〇〇	二〇.〇〇	二九.〇〇
二十九歲	三七.一	三八.四	三五.四	五十三歲	二二.〇〇	一九.〇〇	二八.〇〇
三十歲	三六.九	三八.三	三五.三	五十四歲	二一.〇〇	一八.〇〇	二七.〇〇
三十一歲	三六.八	三八.二	三五.二	五十五歲	二〇.〇〇	一七.〇〇	二六.〇〇
三十二歲	三六.七	三八.一	三五.一	五十六歲	一九.〇〇	一六.〇〇	二五.〇〇
三十三歲	三六.六	三八.〇	三五.〇	五十七歲	一八.〇〇	一五.〇〇	二四.〇〇
三十四歲	三六.五	三八.〇	三五.〇	五十八歲	一七.〇〇	一四.〇〇	二三.〇〇
三十五歲	三六.四	三八.〇	三五.〇	五十九歲	一六.〇〇	一三.〇〇	二二.〇〇
三十六歲	三六.三	三八.〇	三五.〇	六十歲	一五.〇〇	一二.〇〇	二一.〇〇
三十七歲	三六.二	三八.〇	三五.〇	六十一歲	一四.〇〇	一一.〇〇	二〇.〇〇
三十八歲	三六.一	三八.〇	三五.〇	六十二歲	一三.〇〇	一〇.〇〇	一九.〇〇
三十九歲	三六.〇	三八.〇	三五.〇	六十三歲	一二.〇〇	九.〇〇	一八.〇〇
四十歲	三五.九	三八.〇	三五.〇	六十四歲	一一.〇〇	八.〇〇	一七.〇〇
四十一歲	三五.八	三八.〇	三五.〇	六十五歲	一〇.〇〇	七.〇〇	一六.〇〇
四十二歲	三五.七	三八.〇	三五.〇	六十六歲	九.〇〇	六.〇〇	一五.〇〇
四十三歲	三五.六	三八.〇	三五.〇	六十七歲	八.〇〇	五.〇〇	一四.〇〇
四十四歲	三五.五	三八.〇	三五.〇	六十八歲	七.〇〇	四.〇〇	一三.〇〇
四十五歲	三五.四	三八.〇	三五.〇	六十九歲	六.〇〇	三.〇〇	一二.〇〇
四十六歲	三五.三	三八.〇	三五.〇	七十歲	五.〇〇	二.〇〇	一一.〇〇

年齡別死亡統計表

第一表 (以下ノ表ハ石岡氏ニヨル) 大正三年度全國死亡者年齡別死因統計表 男

年齡	全國本籍人口	死		原因		心臟の疾患	率
		結核	率	腦出血	率		
一〇—一五	二,八四九,七六八	二,〇〇六	〇.〇〇〇七〇	〇	五.〇	四四.〇	四〇.〇〇一六
一五—二〇	二,五〇五,一七四	六,七二一	〇.〇〇二六八	二	九.〇	四四.〇	四〇.〇〇〇三
二〇—二五	二,一七三,六六九	八,〇八二	〇.〇〇三七七	二	一五.〇	四四.〇	四〇.〇〇〇九
二五—三〇	一,九〇七,六六六	六,一九八	〇.〇〇三〇七	六	一〇.七	四四.〇	四〇.〇〇一四
三〇—三五	一,五九三,五五三	四,四六五	〇.〇〇二八三	一五	一〇.七	四四.〇	四〇.〇〇二〇
三五—四〇	一,八〇〇,四四一	三,六四五	〇.〇〇二〇一	三九	一〇.〇	四四.〇	四〇.〇〇二六
四〇—四五	一,四七〇,五八八	二,八六六	〇.〇〇一九四	七四	九.七	四四.〇	四〇.〇〇三二
四五—五〇	一,三六一,六六八	二,九七	〇.〇〇二二四	一五四	九.〇	四四.〇	四〇.〇〇三八
五〇—五五	一,〇九六,六三三	二,四二二	〇.〇〇二二三	二四	一六.五	四四.〇	四〇.〇〇四四
五五—六〇	一,〇五三,七七一	二,六六五	〇.〇〇二五三	三九	一六.五	四四.〇	四〇.〇〇五〇
六〇—六五	八五六,三三六	二,一五八	〇.〇〇二五二	三三	一六.五	四四.〇	四〇.〇〇五六
六五—七〇	六三三,七五八	一,四二二	〇.〇〇二三三	三三	一六.五	四四.〇	四〇.〇〇六二
七〇—七五	三八八,五四二	六五九	〇.〇〇一七〇	一九	一六.五	四四.〇	四〇.〇〇六八
七五—八〇	一八七,三六六	一三三	〇.〇〇〇一九	七	一六.五	四四.〇	四〇.〇〇七四
八〇—九〇	一四一,六四〇	九一	〇.〇〇〇六五	三	一六.五	四四.〇	四〇.〇〇八〇
計	二〇,三三六,八三二	四六,五〇〇	一八,二九四	三六,六六六	一三,六一四		

第四編 生命保険醫學 年齡別死因統計表
 第一表 大正三年度全國死亡者年齡別死因統計表

年 齡	男		女	
	死 率	死 數	死 率	死 數
一〇—一五	0.00014	400	0.00014	400
一五—二〇	0.00015	433	0.00015	433
二〇—二五	0.00017	467	0.00017	467
二五—三〇	0.00018	495	0.00018	495
三〇—三五	0.00020	531	0.00020	531
三五—四〇	0.00022	570	0.00022	570
四〇—四五	0.00024	612	0.00024	612
四五—五〇	0.00026	657	0.00026	657
五〇—五五	0.00028	705	0.00028	705
五五—六〇	0.00030	756	0.00030	756
六〇—六五	0.00032	810	0.00032	810
六五—七〇	0.00034	867	0.00034	867
七〇—七五	0.00037	933	0.00037	933
七五—八〇	0.00040	1,008	0.00040	1,008
八〇—九〇	0.00047	1,246	0.00047	1,246
計	0.00037	10,422	0.00037	10,422

第二表

大正三年度全國死亡者年齡別死因統計表

女

年 齡	全 國 本籍人口	死		因	
		率	數	率	數
一〇—一五	2,758,248	0.00019	520	0.00019	520
一五—二〇	2,476,670	0.00020	500	0.00020	500
二〇—二五	1,997,791	0.00024	480	0.00024	480
二五—三〇	1,951,401	0.00026	508	0.00026	508
三〇—三五	1,894,191	0.00029	549	0.00029	549
三五—四〇	1,745,533	0.00033	580	0.00033	580
四〇—四五	1,355,640	0.00038	515	0.00038	515
四五—五〇	1,291,051	0.00041	530	0.00041	530
五〇—五五	995,335	0.00047	468	0.00047	468
五五—六〇	873,744	0.00054	471	0.00054	471
六〇—六五	678,246	0.00063	428	0.00063	428
六五—七〇	498,755	0.00074	369	0.00074	369
七〇—七五	448,735	0.00085	381	0.00085	381
七五—八〇	339,461	0.00100	339	0.00100	339
八〇—九〇	186,019	0.00129	240	0.00129	240
計	19,932,043	0.00044	10,422	0.00044	10,422

第四編 生命保険醫學 年齡別死因統計表

第二表 大正三年度全國死亡者年齡別死因統計表

年 齡	死		因		疾 患 の		婦 人 病	率	
	率	數	率	數	率	數			
一〇—一五	0.00035	九七〇	0.00011	一〇八	0.00005	七	0.00007	〇	
一五—二〇	0.00035	八五五	0.00011	一〇三	0.00005	六	0.00004	〇	
二〇—二五	0.00033	六八四	0.00011	七五	0.00005	五	0.00004	〇	
二五—三〇	0.00035	四八七	0.00011	五三	0.00005	四	0.00004	〇	
三〇—三五	0.00030	三三三	0.00011	三三	0.00005	三	0.00004	〇	
三五—四〇	0.00020	二二二	0.00007	二二	0.00003	二	0.00002	〇	
四〇—四五	0.00019	一四四	0.00005	一四	0.00002	一	0.00001	〇	
四五—五〇	0.00019	一三三	0.00005	一三	0.00002	一	0.00001	〇	
五〇—五五	0.00015	一一一	0.00004	一一	0.00002	一	0.00001	〇	
五五—六〇	0.00015	一一一	0.00004	一一	0.00002	一	0.00001	〇	
六〇—六五	0.00013	一一一	0.00003	一一	0.00002	一	0.00001	〇	
六五—七〇	0.00011	一一一	0.00003	一一	0.00002	一	0.00001	〇	
七〇—七五	0.00007	一一一	0.00002	一一	0.00001	一	0.00001	〇	
七五—八〇	0.00005	一一一	0.00001	一一	0.00001	一	0.00001	〇	
八〇—九〇	0.00005	一一一	0.00001	一一	0.00001	一	0.00001	〇	
計	0.00045	五,五八一	0.00015	七,一六〇	0.00005	二七,九八四	0.00003	三六,一八三	0.00007

女

第三表 大正三年度全國死亡者年齡別死因統計表

男

年 齡	全 國 本籍人口	死		因		全 死 亡	率	
		率	數	率	數			
一〇—一五	二,八四九,七二八	0.00010	二,八四九	0.00003	九七〇	0.00003	〇	
一五—二〇	二,四七〇,七四四	0.00007	一,七二七	0.00002	七五〇	0.00002	〇	
二〇—二五	二,一七〇,七二八	0.00005	一,〇八七	0.00001	五三〇	0.00001	〇	
二五—三〇	一,九七〇,七二八	0.00004	九七〇	0.00001	四八七	0.00001	〇	
三〇—三五	一,八〇〇,七二八	0.00003	七二七	0.00001	三三三	0.00001	〇	
三五—四〇	一,七〇〇,七二八	0.00002	五三三	0.00001	二二二	0.00001	〇	
四〇—四五	一,六〇〇,七二八	0.00002	四八七	0.00001	一四四	0.00001	〇	
四五—五〇	一,五〇〇,七二八	0.00001	三三三	0.00001	一一一	0.00001	〇	
五〇—五五	一,四〇〇,七二八	0.00001	二二二	0.00001	一一一	0.00001	〇	
五五—六〇	一,三〇〇,七二八	0.00001	一一一	0.00001	一一一	0.00001	〇	
六〇—六五	一,二〇〇,七二八	0.00001	一一一	0.00001	一一一	0.00001	〇	
六五—七〇	一一〇〇,七二八	0.00001	一一一	0.00001	一一一	0.00001	〇	
七〇—七五	一〇〇〇,七二八	0.00001	一一一	0.00001	一一一	0.00001	〇	
七五—八〇	九〇〇,七二八	0.00001	一一一	0.00001	一一一	0.00001	〇	
八〇—九〇	八〇〇,七二八	0.00001	一一一	0.00001	一一一	0.00001	〇	
計	一〇,五八六,八三三	0.00045	五,五八一	0.00015	七,一六〇	0.00005	二七,九八四	0.00003

第四表

大正三年度全國死亡者年齡別死因統計表

年 齡	全 國	死 因				全 死 亡
		死 五 種	死 十 種	死 十 種 外	全 死 亡	
一〇—一五	二,七六,一四六	六,三〇〇	九,八〇六	二,七四〇	一三,五五六	
一五—二〇	二,四三六,七七〇	〇	一八,二九四	〇	一八,二九四	
二〇—二五	二,〇九九,七二九	〇	一六,八八八	〇	一六,八八八	
二五—三〇	一,九五,四〇〇	〇	一四,三六六	〇	一四,三六六	
三〇—三五	一,八四,一九一	〇	一三,四八八	〇	一三,四八八	
三五—四〇	一,七四,五二五	〇	一三,一八七	〇	一三,一八七	
四〇—四五	一,三五,六四〇	〇	一〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	
四五—五〇	一,九一,〇五一	〇	一〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	
五〇—五五	九,九五,三三三	〇	一〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	
五五—六〇	一,〇六,二四〇	〇	一〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	
六〇—六五	八,七三,七三三	〇	一〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	
六五—七〇	六,七八,一四六	〇	一〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	
七〇—七五	四,八七,七三三	〇	一〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	
七五—八〇	三,九,四六六	〇	一〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	
八〇—九〇	一,八六,〇九五	〇	一〇,〇〇〇	〇	一〇,〇〇〇	
計	一九,九五一,〇三三	一八三,一九六	三,八〇八	六,六一九六	三,八〇八	

女

第五表

大正四年度被保險者年齡別死因統計表

男

年 齡	經 過 契 約	死 因				疾 患 率
		結 核	死 率	痛 率	肺 癆 及 血 栓	
一〇—一五	三四,六八〇	三七	〇.〇〇一〇八	〇	〇.〇〇〇〇〇	
一五—二〇	一四八,四八三〇	四七一	〇.〇〇三二七	一	〇.〇〇〇〇一	
二〇—二五	二八三,〇六四〇	一,〇八九	〇.〇〇三六五	一	〇.〇〇〇〇四	
二五—三〇	四一六,九三八〇	一,三一九	〇.〇〇三二六	一六	〇.〇〇〇〇四	
三〇—三五	五七〇,天九五	一,三八七	〇.〇〇三三三	六〇	〇.〇〇〇〇一	
三五—四〇	六六一,四四五〇	一,四〇九	〇.〇〇三三三	二〇七	〇.〇〇〇〇一	
四〇—四五	六八五,六四三〇	一,四〇四	〇.〇〇三三三	三二〇	〇.〇〇〇〇〇	
四五—五〇	四五〇,四八三五	一,二二一	〇.〇〇三三三	五二五	〇.〇〇〇〇一	
五〇—五五	三七,七四七〇	七五六	〇.〇〇三三三	六三三	〇.〇〇〇〇一	
五五—六〇	一六六,七七七〇	四九五	〇.〇〇三三三	七四九	〇.〇〇〇〇一	
六〇—六五	一〇六,七四〇五	三三八	〇.〇〇三三三	五五六	〇.〇〇〇〇一	
六五—七〇	五一,三二九〇	二二九	〇.〇〇三三三	三五六	〇.〇〇〇〇一	
七〇—七五	二二,二九〇	四七	〇.〇〇三三三	一〇七	〇.〇〇〇〇一	
七五—八〇	六,五三六五	一〇	〇.〇〇三三三	三四	〇.〇〇〇〇一	
八〇—九〇	一,〇三三,五	一	〇.〇〇三三三	三	〇.〇〇〇〇一	
計	三,八五三,〇六五	九,八三三	〇.〇〇〇七	三,五四八	五,三九五	

第四編 生命保険醫學 年齡別死因統計表
 大正四年
 大正五年
 大正六年
 度被保險者年齡別死因統計表

年 齡	死				丙				男			
	腎臟炎	腦膜炎	肺膜炎	胃の疾患	腎臟炎	腦膜炎	肺膜炎	胃の疾患	腎臟炎	腦膜炎	肺膜炎	胃の疾患
一〇—一五	九	二〇	二〇	七	一五	二二	二二	七	七	二二	二二	七
一五—二〇	二二	六〇	七四	六〇	六〇	九〇	一三六	二二	二二	二二	二二	七
二〇—二五	六〇	一〇〇	一〇〇	九〇	九〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
二五—三〇	八四	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
三〇—三五	一三三	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
三五—四〇	二二五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
四〇—四五	二二五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
四五—五〇	三三八	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
五〇—五五	三三〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
五五—六〇	三二五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
六〇—六五	三三六	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
六五—七〇	一四四	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
七〇—七五	一六四	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
七五—八〇	四五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
八〇—九〇	一一	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一三六	一三六	二二	二二	二二	二二	七
計	二〇二〇	七四七	一、一〇六	四七七	一、一〇六	四七七	一、一〇六	四七七	一、一〇六	四七七	一、一〇六	四七七

第六表
 大正四年
 大正五年
 大正六年
 度被保險者年齡別死因統計表

年 齡	經過契約	死				丙				女			
		結核	肺	心臓の疾患	腎臟炎	結核	肺	心臓の疾患	腎臟炎	結核	肺	心臓の疾患	腎臟炎
一〇—一五	一一、四九・五	三	〇	〇	〇	三	〇	〇	〇	三	〇	〇	〇
一五—二〇	四三、七三・五	二八	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇	二八	〇	〇	〇
二〇—二五	八八、〇七・五	四四	〇	〇	〇	四四	〇	〇	〇	四四	〇	〇	〇
二五—三〇	一四七、四六・〇	六二	〇	〇	〇	六二	〇	〇	〇	六二	〇	〇	〇
三〇—三五	一九七、五四・〇	五九	〇	〇	〇	五九	〇	〇	〇	五九	〇	〇	〇
三五—四〇	二二一、九三・〇	四八	〇	〇	〇	四八	〇	〇	〇	四八	〇	〇	〇
四〇—四五	一〇〇、〇〇・五	三三	〇	〇	〇	三三	〇	〇	〇	三三	〇	〇	〇
四五—五〇	一四七、六六・〇	二九	〇	〇	〇	二九	〇	〇	〇	二九	〇	〇	〇
五〇—五五	一〇〇、〇〇・〇	一五	〇	〇	〇	一五	〇	〇	〇	一五	〇	〇	〇
五五—六〇	六四、三三・〇	一〇	〇	〇	〇	一〇	〇	〇	〇	一〇	〇	〇	〇
六〇—六五	八八、三三・五	九	〇	〇	〇	九	〇	〇	〇	九	〇	〇	〇
六五—七〇	二九、三三・〇	四	〇	〇	〇	四	〇	〇	〇	四	〇	〇	〇
七〇—七五	一五、一〇・五	二	〇	〇	〇	二	〇	〇	〇	二	〇	〇	〇
七五—八〇	五、五四・五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八〇—九〇	五、一〇・五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	一、〇一五、〇〇	三、四五八	一、一〇六	四七七	一、一〇六	四七七	一、一〇六	四七七	一、一〇六	四七七	一、一〇六	四七七	一、一〇六

第四編 生命保険醫學 年齡別死因統計表
 大正四年 大正五年 大正六年
 第六表 女 大正五年 度被保險者年齡別死因統計表

年 齡	死 因					計
	腦膜炎	腹膜炎	呼吸器病	胃腸の疾	婦人病	
一〇—一五	一〇	二二	一〇	一一	〇	四三
一五—二〇	一三	四一	六二	三三	〇	一四九
二〇—二五	一八	七〇	一〇六	四九	〇	二三四
二五—三〇	二七	一一一	一六八	五九	〇	三六五
三〇—三五	三九	一四二	二一八	七九	〇	四九八
三五—四〇	四六	一八五	二八八	九七	〇	六一六
四〇—四五	五三	二四〇	三六八	一三〇	〇	七九一
四五—五〇	六一	三二〇	四八八	一七五	〇	一〇〇四
五〇—五五	七〇	四一〇	六四〇	二二七	〇	一三〇七
五五—六〇	九〇	五二〇	八三〇	三〇〇	〇	一七四〇
六〇—六五	一三〇	七〇〇	一〇〇〇	四一〇	〇	二四四〇
六五—七〇	一八〇	九〇〇	一三〇〇	五四〇	〇	三三〇〇
七〇—七五	二四〇	一二〇〇	一七〇〇	七二〇	〇	四三六〇
七五—八〇	三二〇	一六〇〇	二二〇〇	九六〇	〇	五七〇〇
八〇—九〇	四〇〇	二〇〇〇	二八〇〇	一二〇〇	〇	七四〇〇
計	二八〇	六四五	一,一五六	一,一六一	九五	二,二〇六

第七表 大正四年 大正五年 大正六年
 男 大正五年 度被保險者年齡別死因統計表

年 齡	死 因					計
	五種死因	呼吸器病	九種死因	九種死因外	全死亡	
一〇—一五	五	一	一	一	一	一六
一五—二〇	七	二	二	二	二	一三
二〇—二五	一〇	三	三	三	三	一九
二五—三〇	一五	五	五	五	五	二八
三〇—三五	二〇	七	七	七	七	三七
三五—四〇	二八	一〇	一〇	一〇	一〇	四八
四〇—四五	三六	一三	一三	一三	一三	六二
四五—五〇	四六	一七	一七	一七	一七	八〇
五〇—五五	五八	二二	二二	二二	二二	一〇二
五五—六〇	七二	二八	二八	二八	二八	一三〇
六〇—六五	八八	三五	三五	三五	三五	一五三
六五—七〇	一〇六	四三	四三	四三	四三	一八九
七〇—七五	一三〇	五五	五五	五五	五五	二四〇
七五—八〇	一六〇	七〇	七〇	七〇	七〇	三〇〇
八〇—九〇	二〇〇	九〇	九〇	九〇	九〇	三九〇
計	三,八三〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇	六,一三〇

第四編 生命保險醫學 年齡別死因統計表
 第八表 大正四年 大正五年 大正六年 年度被保險者年齡別死因統計表
 女

年 齡	經過契約	死 因		死 因		死 因		全死亡	率
		死 因種	率	死 因種	率	死 因種	率		
一〇—一五	一一,四九・五	四	0.00035	八	0.00070	三	0.00027	一五	0.00132
一五—二〇	四三,七五・五	三〇	0.00069	二六	0.00059	五〇	0.00114	一〇六	0.00242
二〇—二五	八八,〇七・五	五九	0.00067	四四	0.00050	九〇	0.00102	一九三	0.00219
二五—三〇	一四七,四六・〇	七九	0.00054	八〇	0.00054	一六九	0.00114	三二八	0.00222
三〇—三五	一九,五四・〇	八九	0.00046	一〇九	0.00057	一九八	0.00120	三九七	0.00265
三五—四〇	二二,五五・〇	九七	0.00043	一〇五	0.00047	二〇二	0.00090	四〇四	0.00183
四〇—四五	一九,〇〇・五	八六	0.00045	七四	0.00039	一六〇	0.00084	三二〇	0.00169
四五—五〇	一四,三六・〇	八五	0.00060	七三	0.00051	一五八	0.00109	三一六	0.00220
五〇—五五	一〇,一五・〇	七九	0.00078	五九	0.00058	一三〇	0.00128	二六八	0.00264
五五—六〇	六,三四・〇	七六	0.00111	五五	0.00083	一三〇	0.00128	二六八	0.00264
六〇—六五	四,三三・五	七五	0.00136	四九	0.00112	一二〇	0.00136	二四四	0.00324
六五—七〇	二九,五二・〇	六九	0.00024	五五	0.00019	一〇〇	0.00034	一七四	0.00059
七〇—七五	一五,〇三・五	三七	0.00024	四三	0.00028	八〇	0.00053	一六〇	0.00106
七五—八〇	五,五五・五	二二	0.00040	二八	0.00046	五〇	0.00091	一〇〇	0.00182
八〇—九〇	九,〇一・五	一〇	0.00111	一〇	0.00111	二〇	0.00222	四〇	0.00444
計	一,〇一五,〇〇〇	八,七七一		七,九八八		一五,一四六		三〇,一三四	

診 査

八、診 査

生命保險會社ノ診査醫ハ醫學的診斷上ノ技術ニ卓越スルト共ニ、外交ニ長シ、眞摯着實ニシテ、觀察力ニ富ミ、容易ニ他人ノ誘惑或ハ詐偽ニ惑ハサル、ベカラズ。

保險申込人ヲ診査スル際ニハ醫師ハ先ヅ重要事項トシテ、申込人ガ經過セル既往症及遺傳關係ヲ精細ニ質問スベク、頓才奇智等ヲ以テ申込人ガ隠蔽セル事實ヲモ發見スルニ努力スベシ、次デ身體檢査ニ移行スベク、此際ニモ成ルベク申込人ノ惡感ヲ惹起セザル様ニ注意シツ、全身各臟器ヲ精細ニ檢診スルノ必要アリ、若シ夫レソノ檢査法ニ至リテハ、全ク臨床的醫學的診斷法ノ最善ヲ盡スベキハ言ヲ俟タズシテ明カナリ、而シテ、身體檢査ニ際シ特ニ生命保險醫學ニ於テ注意スベキ醫學的診斷法ナシ、斯クシテ尋問及檢診ヲ終ラバ、醫師ハソノ結果ヲ告知書及診査報告書ニ記載シ、保險申込人ト實際身體檢査ヲナシタル人ト同一人ナルヤ否ヤニ充分ナル注意ヲ拂ヒツ、報告書ノ末尾ニ綜合的意見ヲ記載シ、而シテ後之ヲ會社ニ送致スベシ。

診査報告書ノ記載ハ必ず自己ノ手ニヨリ明瞭ニシテ舉示ノ各項ニ漏レナク記入シ、削減加入セル部ニハ必ず捺印シ、且檢査ヲ行ヘル年月日及場所ノ記入ヲ怠ルベカラズ、尙診査ハ自己ト利益關係アルモノニ付テハ、之ヲ爲ササルヲヨシトス。

身體檢査ノ際診査醫ノ特ニ注意スベキハ被檢者ノ體質(羸瘦體、肥滿體、結核性體質、卒中質等)身長、體重、胸圍、浮腫、癍痕、淋巴腺、斑點、甲狀腺、血管硬化ノ有無、肺心ノ異常、呼吸數、腫瘍ノ有無、關節ノ狀態、尿及便ノ性状、精神及神經ノ異常等ナリトス。

診査報告書ノ記載

九、探否ノ決定

保險申込人探否ノ決定ハ主トシテ生命保險會社ニ於ケル主任醫ニ由テ行ハル、モノニシテ、何等ノ條件ナシニ加入セシムルモノヲ保險標準體ト云ヒ、何等カノ條件ヲ加フル時ハ保險サレ得ベキヲ、并ニ如何ナル條件ヲ加フルモ保險加入ヲ拒否スベキモノヲ標準下體ト稱ス、換言スレバ平均餘命以上ニ生存スルモノハ標準體ニシテ、此希望ナキモノハ標準下體ナリ、今茲ニ標準下體ナルモノ、如何ナルモノナルカヲ説明スレバ、標準體ナルモノハ自ラ言ヲ用キズシテ明カナラン。

標準下體ハ年齢、性、職業、住地、習慣、財産状態、遺傳、體質、既往症乃至現症ノ如何ニヨリテ決定スルモノニシテ、今之ヲ略述セントス。

(イ) 年齢、通常十五歳以下ノ幼年者ハ身體ノ發育未ダ十分ナラザル爲メ、外界ノ影響ヲ被リ易ク、從テソノ死亡率比較的多ク、六十歳以上ノモノモ亦老衰ノ爲メ死亡率多キヲ數フ、故ニ年齢ノミヨリ云フ時ハ、十五歳以下及六十歳以上ノモノハ標準下體ナリ、故ニ保險ヲ契約スル年齢ハ多ク十五歳乃至六十歳ニ至ルマデヲ通常トシ、此年齢間ニハ年ヲ加フル毎ニ平均餘命短縮スルヲ以テ、保険料ノ如キモ漸次年ニ從テ加重スルモノナリ。

(ロ) 性別、我國生命保險會社ノ調査ニヨレバ、四十歳迄ハ女子ノ死亡率ハ男子ノソレヨリモ高ク、ソレヨリ以後ハ男子ノ死亡率ハ女子ノソレヨリ高シ、女子ノ死亡率最高キハ十五歳乃至廿五歳ニシテ、外國ニ於ケル統計モ亦略之ニ一致ス、故ニ女子ノ十五歳乃至廿五歳迄ハ明ニ標準下體ナリ、之レ此間ニ妊娠及結核ガ最モ甚シク女子ヲ襲フガ故ナリ。

(ハ) 職業、統計上如何ナル職業ガ最モ多ク人ノ健康ヲ害シ、且平均餘命ヲ短縮セシムルカト云フニ、ソノ筆頭ニ醫業ヲ見出シ、學者技師等ノ如キハ最モ長壽ナル職業ニシテ、此點ヨリ云ヘバ醫師ハ保險醫學上最モ忌ムベキ標準下體ナリ、即チ疾病ノ傳染シ易キ職業、不衛生ナル職業、酒精ヲ亂用スル職業或ハ災害ノ頻發シ易キ職業ニ從事スルモノハ、標準下體ニ算入スルヲヨシトス。

(ニ) 住地、氣候及風土ハ往々死亡率増加ノ原因トナル事アリ、例ヘバ未開野蠻ナル地方、疫病ノ流行スル地方或ハ氣候不良ナル所ニ住ムモノハ、氣候温和ナル文明地方ノモノヨリモ生命ニ對スル危險多ク、即チ時トシテ標準下體ニ數ヘ込ムベキ必要ナル事アリ。

(ホ) 習慣、風俗及習慣モ亦大ニ死亡率ニ關係ヲ有スルモノニシテ、酒精ヲ亂用シ、或ハ喫烟ノ癖アルモノ乃至常ニ身體ヲ過勞スルモノハ、然ラザルモノニ比シ短命ナル事多シ、故ニ此等ノ習慣ヲ有スルモノハ、往々標準下體ト見做サル、事アリ。

(ヘ) 財産状態、貧富ノ差ガ生命ニ多大ノ影響ヲ及ボスモノナル事ハ、己ニ經濟學者及衛生學者ノ稱ヘシ所ニシテ、一般ニ貧者ハ富者ニ比スレバ死亡率多シ、之レ貧者ハ世路ノ艱難ニ遭遇スル事多キニモ拘ハラズ、營養ヲ補給スル事少ク、且一朝疾病ニ犯サルレバ、之ニ充分ナル手當ヲ加フル事スラ困難ナレバナリ。

(ト) 遺傳、惡性疾病ノ遺傳ヲ負ヘルモノハ、之ヲ負ハザルモノニ比シ死亡率多シ、故ニ前者ハ後者ニ比シ保險醫學上標準下體ニ入ル事多シ、例ヘバ一家族短命ノ遺傳ヲ負フモノハ多ク短命ニシテ、ソノ他結核、糖尿病、酒精中毒者、卒中、血管病、梅毒乃至精神病及神經病等ノ遺傳アルモノ亦然リ。

(子)體質、モ亦生命ノ長短ニ非常ナル影響ヲ及ボスモノナリ、餘リニ肥滿セルモノ、反之、餘リニ羸瘦セルモノ共ニ生命ニ對スル豫後不良ナリ、此等體質ヲ決定スル目的ニ諸種ノ計算式考案セラレ居ルモ、何レモ完全ナルモノト云フベカラズ、一般ニ身長一極ニ對シ體重何基瓦ニ當ルヤノ比例ヲ取リテ、ソノ體質ヲ決定スルノ基本トナス、我國ニテハ普通成人ニテ身長一極ニ對シ〇・二五〇乃至〇・四五基瓦アルモノヲ通常トシ、之ヨリ甚ダ大ナルハ肥滿體ニシテ、之ヨリ甚ダ小ナルハ羸瘦體ナリトス、今高田氏ノ改正セル普通體重範圍ヲ示セバ左ノ如シ。

身長(仙米)	一四〇	一四五	一五〇	一五五	一六〇	一六五	一七〇	一七五	一八〇
普通體重	最小	〇・二五	〇・二六	〇・二七	〇・二八	〇・二九	〇・三〇	〇・三一	〇・三二
	最大	〇・三五	〇・三六	〇・三七	〇・三八	〇・三九	〇・四〇	〇・四一	〇・四二
謝絕體重	以下	〇・二一	〇・二二	〇・二三	〇・二四	〇・二五	〇・二六	〇・二七	〇・二八
	以上	〇・四五	〇・四六	〇・四七	〇・四八	〇・四九	〇・五〇	〇・五一	〇・五二

身長一極ニ對スル基瓦

著明ナル肥滿體及羸瘦體ハ標準下體ナルハ言フ俟タズ、一般ニ云ヘバ肥滿體ハ老年者ニ危險ニシテ、羸瘦體ハ若年者ニ危險ナリ。故ニ若年者ノ肥滿及老年者ノ中等度ノ羸瘦ハ甚シク意ニ介スルノ必要ナシ。(リ)既往症ニ再發シ易キ疾患、或ハ續發症ヲ來シ易キ疾病ヲ有スルモノハ注意ヲ要ス、現症トシテ、或疾患ヲ要スルモノハ其程度ニヨリ保險標準下體ナル事ハ言フ俟タズ、但シ、コハ現在醫師檢診ノ手ヲ達セシムル事ヲ得ル範圍内ニアレバ、精細ナル檢診ヲ施シテ、ソノ撰擇ヲ爲サルベカラズ、現在症ノ内ヨリ如何ナルモノガ人ノ生命ヲ脅カシ、又如何ナル疾病ハ生命ヲ脅迫セザルカハ、臨床醫學ノ詳述スル所ナレバ茲ニ之ヲ再說セズ。

鑑定實例

十、鑑定實例

右記鑑定實例ハ診査醫及保險勸誘員ガ、虛偽ノ診査狀ヲ作成シ、保險ニ加入セシメタルガ、其年ナラズシテソノ被保險者死亡シタル爲メ、端ナクモ訴訟問題ヲ惹起シ、前記兩人ハ文書偽造行使及詐僞未遂罪ニ問ハレ、被保險者ノ死體ハ死後四ヶ月餘ニシテ發掘セラレ、肺結核ヲ有セシヤ否ヤ等ヲ鑑定セシメラレタル例ナリ。

本鑑定例ハ保險ニ關係アルモノニシテ、生前肺結核並ニ肋膜炎ニテ死亡セリト診斷セラレタルモノヲ、埋葬後約四ヶ月ノ後發掘シテ肺ヲ採集シ尙肋膜ノ肥厚等ヲ認ムル事ヲ得タルモノナリ。

鑑定書
大正〇年〇月〇日〇〇區裁判所判事神〇其〇ハ〇〇地方裁判所〇〇支部ノ依頼ニ係ル坪〇定〇浦〇文〇文書偽造行使詐僞未遂被告事件ニ付浦〇シユンノ肺臟(但シ明治四十四年六月十四日死亡シ埋葬シタルヲ大正〇年十月五日發掘採集セルモノナリト云フ)ヲ檢査シ左記ノ事項ヲ鑑定ス可キ旨ヲ同廳公判廷ニ於テテ予ニ命令セリ依テ四月二十八日ヨリ六月十日迄ノ間京都帝國大學醫科大學法醫學教室ニ於テ左ノ檢査ヲ施行セリ

- 鑑定事項
- 一、左右肺ノ各病症詳細原因
 - 二、若シ病症有之トセバ右ノ各病症ガ死亡前幾年月日頃ニ起リタルヤ
 - 三、右ノ各病症ガ身體生命ニ如何ナル影響ヲ與ヘタルヤソノ程度
 - 四、普通一般ノ視診、觸診、聽診ノ方法ニ依ル健康診査ニテ右病症ヲ知り得ラルルヤ發病後幾年月日頃ニシテ死亡前幾年月日頃

ナルヤ殊ニ明治四十四年三月二十八日頃ニハ右病症ガ如何ナル程度ニ進ミ居タルヤ詳細

- 第一、内眼の檢査
- 檢査材料ハ硝子瓶中ニ「アルコホル」ヲ以テ貯藏シテ開檢スレバ明ニ腐敗臭ヲ放ツ容器外ニ取出シテ之ヲ檢査スルニ
- 甲、右肺ハ約拇指頭大ノ小片ニシテ表面大部分ハ帶灰淡黑色ヲ、他ノ部分(肋膜面)ハ淡灰色ヲ呈シ試觸スルニ組織甚ク弛緩シ試ニ之ヲ切割スルニ内ニ空洞、異常ノ内容着色等ヲ見ズ
 - 乙、左肺ノ切片ハ右肺ヨリモ大ニシテ(約天保鏡大)扁平ナリ一面ハ淡灰白色ヲ呈シ堅緻ニシテ韃標ノ觀アリ(肋膜面)ソノ最モ厚キ所ハ殆ンド二、〇密速ヲ算シ他ノ一面切斷面ハ右肺ト同ジク帶灰淡黑色ニシテ淡灰白色ノ索狀物此處彼處ニ走行シ(結締織増殖)ソノ間ニ存スル肺組織ハ弛緩シ切割スルニ内ニ腐質大乃至大豆大ノ空洞數個存在シソノ壁面或ハ殆ンド平滑ナル所アリ

或ハ不平ニシテ著シク凹凸ヲ呈スル所アリ壁面ノ色モ亦一様ナラズシテ淡黒褐色ヲ呈スル部ト淡灰白色ヲ帶アル所アリ

第二、顯微鏡検査

甲、右肺

検査物件ノ一部ヲ採リ「ホルマリン」ヲ以テ固定シ「アルコホル」中ニ硬化脱水シ後チ法ノ如ク「ツエロイジン」溶液中ニ浸漸包埋シ「レヨリ」更ニ「アルコホル」ニ轉移硬化シ「ミク」ロトーム」ヲ以テ薄片ヲ作り或ハ之ニ「エオジン」ハマトキシリン」複染ヲ施シ或ハ「ワシグートン」氏ノ着色法ヲ行ヒタル標本ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ肺ノ基礎質タル堅緻ナル結締織性組織ノミヲ殘存シ小氣管枝肺胞ノ上皮ソノ他ノ肺實質組織ハ死後久シキヲ經タル爲全ク崩壞シテ之ヲ見ルコトヲ得ズ又遺殘セル組織ノ染色性モ極メテ弱シ從テ是等ノ組織ニ生前病的變化ガ存在セルヤ否ヤヲ推知スルコト能ハズ故ニソノ病名原因ハ無論之ヲ推測スルコトモ不能ナリソノ他到ル處數多ノ細菌存在スルハ腐敗ノ進行セル爲ナルベシ

乙、左肺

右肺ト同一方法ニ依リ作製セル顯微鏡的標本ヲ鏡檢スルニ先ツ檢者ノ眼ニ映ズルハ結締織(縱纖維)ノ増殖ト肺實質組織ノ減耗ニシテ視野大部分ハ之レガ爲右ノ結締織ニ依リテ占據セル小氣管枝肺胞ノ組織ノ染色性一般ニ弱キコト并ニ肺組織ノ遺殘セル部ニ於テモ上皮ハソノ他ノ肺實質組織ノ崩壞スルコトハ右肺ト異ナルコトナシコノ増殖セル結締織内ニハ此處彼處島狀ニ青ク染色セル物質ノ遺殘セルヲ視ル(ハマトキシリン、エオジン標本ニ於テ)然レドモ此物質ガ何物タルヤハ着色不鮮明ニシテ之ヲ鑑別スルコト能ハズ又壁面平滑ニシテ斯クノ如キ物質ヲ充塞セザル小洞内所々ニ散在スコレ組織間ニ腐敗瓦斯ノ發生セル爲ニ生ジタルモノナリ又

肉眼的ニ見タル空洞ノ壁面ヲ精視スルニ此處ニ小氣管枝肺胞ニ於テ上皮其他ノ實質ガ崩壞セルト同様ノ狀況ヲ發見スルガ故此部ニ如何ナル病變存在セルヤヲ知ルコト能ハズ從ツテ上掲ノ空洞ガ如何ナル原因ニ依リ形成セルモノナリヤハ之ヲ斷定スルコト能ハズ

第三、鑑定

甲、右肺ノ切片ニ對スル意見

一、右肺ノ組織ハ弛緩シ顯微鏡的ノ検査ニ依レバ結締織性ノ間質ノ殘存シテ小氣管枝肺胞ノ上皮ソノ他ノ肺實質組織ハ全ク崩壞シ組織ノ染色性一般ニ極メテ弱シト雖ドモ是等ノ現象ハ何レモ死後久シキヲ經タル爲ニ起リタル變化ニシテ而モ病的變化ノ通常存在スベキ肺胞小氣管枝等ノ上皮其他ノ肺實質組織ハ上記ノ如ク崩壞缺如スルガ故ニ生前病的變化ノ存在セルヤ否ハ之ヲ週知スルニ由ナシ況ヤソノ病名及原因オヤ

乙、左肺ノ切片ニ對スル意見

二、肉眼的検査ニ依ルモ又顯微鏡的ノ検査ノ所見ニ徴スルモ結締織ノ著シク増殖セルコト肺實質組織ノ減耗セルコト并ニ若干ノ空洞ノ存在スルコトハ疑ヲ容レズト雖ドモ小氣管枝肺胞ニ於テ上皮ソノ他ノ實質組織崩壞セルガ故ニ生前是等ノ組織中ニ如何ナル病的變化ガ存在セルカハ今日之ヲ推知スルコト能ハズ從テ結締織増殖ノ根源空洞形成ノ因由ハ之ヲ確定スルコト能ハズ即チ結締織ノ著シク増殖セルコト肺實質組織ノ減耗セルコト及若干ノ空洞ノ存在スルコト丈ハ確實ナリト雖ドモソノ因果シテ如何ナル病症ニ因由セルヤハ之ヲ云爲スルコト能ハズ然レドモソノ疾病ガ經久ノモノタルコトハ結締織増殖ノ高度ナルニ依テ之ヲ知ル

能ハズ況ンヤ同一病ニ於テモ其經過ニ遲速アルニ於テオヤ此鑑定ハ大正〇年十月二十三日着手

同 年十二月十七日結了

大正〇年十二月十九日

住所

醫師 岡本 榮 松園

検査物件ノ殘餘ハ之ヲ還送ス

第五編 災害醫學及災害保險 (甲) 緒論

災害醫學トハ業務上ノ過失或ハ災禍ニ依リ、傷害ヲ被リタルモノ、心身狀態ヲ攻究シ、ソノ傷害ノ程度及結果ヲ鑑定シ、ソレニ從テ損害賠償ヲナシ、或ハ相當ノ扶助金ヲ交附スルモノニ依ル所ヲ知ラシメ、又ハ労働保險或ハ共濟組合ノ組織アル所ニテハ、規定ノ保險金額乃至共濟金ヲ與フルモノニ規矩ヲ知ラシムル醫學ナリ。廣義ノ災害醫學ニ於テハ、尙傷害ノ治療法ヲモ祖述スト雖、法醫學ノ範圍内ニ於ケル狹義ノ災害醫學ニテハ、此ノ如キ事ハ外科學ノ領域ニ讓リ敢テ之ニ觸レズ。換言スレバ災害醫學トハ法醫學ノ損傷各論ト労働保險、傷害扶助、乃至職工補償法トヲ打テ一丸トナシタルモノナリ。故ニ一見スレバ法醫學乃至外科學ノ損傷各論ヲ知ラバ、別ニ災害醫學ナルモノヲ説クノ必要ナキガ如クナレドモ、再考スレバ我國ノ工場法、英國ノ職工補償法、或ハ獨乙ノ労働保險等各獨特ノ規定アリテ、損傷各論ヲ知レルノミニテハ其利用不充分ナル所多ケレバ、茲ニ編ヲ新ニシテ災害醫學ノ大要ヲ記載セン。

工場法

第九條 工業主ハ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ運轉中ノ機械若ハ動力傳導装置ノ危険ナル部分ノ掃除、注油、検査若ハ修繕ヲ爲サシメ又ハ運轉中ノ機械若ハ動力傳導装置ニ調整、調整ノ取附ケ若ハ取外シヲ爲サシメ其他危険ナル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

第十三條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場及附屬建築物並設備力危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 職工自己ノ重大ナル過失ニ依ラスシテ業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其遺族ヲ扶助スヘシ

工場法施行令

工場法施行令

第四條 職工業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工場主ハ當該職工ノ重大ナル過失ニ因ルコトヲ證明シタル場合ヲ除クノ外本章ノ規定ニ依リ扶助ヲナスベシ但シ扶助ヲ受ケベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタル時ハ工業主ハ扶助金額ヨリ其金額ヲ控除スルコトヲ得

第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付二分ノ一以上ノ扶助料ヲ支給スヘシ但シ其支給引續キ三月以上ニ達シタルトキハ

其ノ後ノ支給額ヲ賃金三分ノ一迄ニ減スルコトヲ得

第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治療シタル時ニ於テ左ノ各款ノ一ニ該當スル程度ノ身體障害ヲ存スルトキハ工業主ハ左ニ掲ケル區別ニ依リ扶助料ヲ支給スヘシ

一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ 賃金百七十日分以上

二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ 賃金百五十日分以上

三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康費ニ復スルコト能ハサルモノ又ハ女子ノ外視ニ醜狀ヲ殘シタルモノ 賃金百日分以上

四 身體ヲ傷害シ健康費ニ復スルコト能ハスト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ 賃金三十日分以上

第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族ニ賃金百七十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ拾圓以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第十五條 工業主ハ左ノ各款ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲ササルコトヲ得

一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ非ラス解雇前ニ又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二 扶助ヲ受ケテ治療シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、第七條各款ニ掲ケタル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

工場法施行規

工場法施行規則

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ検査セシムルコトヲ得

第八條 工業主ハ左ニ掲ケル疾病ニ罹レルモノヲシテ就業セシムルコトヲ得但シ第四號又ハ第五號ニ掲ケル疾病ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 精神病
- 二 癩、肺結核、喉頭結核
- 三 丹毒、再歸熱疹、流行性腦脊髄膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病
- 四 梅毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
- 五 膿漏性結膜炎、「トトラホーム」(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

夫レ工業ニ従事スル労働者ガ業務上災害ニ罹リ、或ハ其取扱フ藥品ニ依リテ中毒ヲ來シ、工場内ニ於ケル有毒瓦斯、粉塵、ソノ他不衛生ナル就業ノ方法ニ依リテ疾病ニ罹リ、或ハ健康ヲ傷害スルヲ未然ニ防止スルハ、人道上ヨリ云フモ又工業ノ發達ヨリ云フモ最モ緊要ノ事タリ、之レ我國ニ工場法、歐米各國ニ職工補償法、或ハ労働保險ノアル所以ナリ。

抑々工業ノ爲メニ労働者ガ被ル災害乃至健康障害ハ、如何ナル注意ヲ以テスルモ決シテ絶對的ニ之ヲ防止スル事能ハズ、茲ニ於テカソノ豫防施設ノ外、災害發生ノ事後ニ於ケル労働者ノ救済方法ヲ講ズルノ必要ヲ見ルニ至ル。

職工ガ業務ノ爲メ負傷シ、或ハ疾病ニ罹リタル際ニハ、工業主ヲシテソノ損害及費用ヲ扶助賠償セシム

ルモノト、保險制度ニ依リ平素ヨリ職工ヲ勞働保險ニ加入セシメ工業主ヲシテ其ノ料金ヲ負擔セシムルモノトノ二アリ、而シテソノ賠償ノ金額乃至保險金額等ハ、各國ノ法令ト傷害ノ程度トニ依リ夫々等差アリ前者ハ一定シテ動かカス事能ハザルモノナレドモ、傷害ノ程度ト結果ニ至リテハ、吾人醫師ノ鑑定ニヨリテ初メテ決定スルモノニシテ災害醫學ノ必要ニ於テカ起ル。

我國ノ工場法ハ其第十五條ニ於テ、「職工自己ノ重大ナル過失ニ依ラズシテ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル時ハ、工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ、本人又ハ其遺族ヲ扶助スベシ」と規定シタレドモ、職工ノ業務ニ起因セザル疾病并ニ失職等ニ就テハ尙未ダ何等ノ規定アルヲ見ズ。

工場法第十五條及施行令第四條ニ依リ、工業主ガ職工ヲ扶助スベキ義務ノ發生ニ必要ナル要件ヲ擧グレバ、

- 一、職工ガ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル事、
- 二、職工ハ重大ナル過失ナクシテ、ソガ發來シタル事、
- 三、工場或ハ附屬ノ寄宿舎等ニ於ケル不慮ノ災害乃至疾病ニ犯サレタル事、

若シ夫レ民法上ノ不法行為ニ依ル損害賠償ト、工場法ニ依ル扶助債務ト全ク別個ノモノナリトセンカ、特別ノ明文ナキ限り、時トシテ工場主ハ同一ノ損害ニ對シテ二重ノ賠償ヲ爲サルベカラザル事アラン、茲ニ於テ施行令第四條但シ書ヲ以テ、扶助ヲ受クベキモノ同一ノ原因ニ依リ損害賠償ヲ受ケタル時ハ、工業主ハソノ金額ヨリ扶助金額ヲ控除スル事ヲ得トノ規定ヲ設ケ、ソノ重復ヲ避ケタリ。

工場法ニヨレル扶助料ノ種類ハ療養、休業、遺族、葬祭、乃至集合扶助料ニ區別シ、ソノ等出法ハ工場

法施行令第六、八及十四條ノ規定ニ依ル。

ソノ他政府設立ノ工場、例ヘバ鐵道院、砲兵工廠、及煙草專賣局等ニ於ケル職工ノ傷害扶助料ハ、特ニ規定スル所アリ、夫レニヨリテ一定金額ヲ支給サル。

我國工場法ニ於ケル職工扶助法ト、英國ノ職工補償法ト、獨逸等ニ於ケル勞働保險法ト、何レガ勝レルカト云フニ、コハ容易ニ判斷スベカラザルモノアリ、英國ノ職工補償法ニ制定以來百年、ソノ規定ニ改善ニ改善ヲ重ネテ完成シタルモノナレバ、甚ダ充分ナルモノナルモ、ソノ施行ノ結果ニ至リテハ獨逸ノ勞働保險ニ一等ヲ輸スルノ憾ナキニシモアラズ、最新ニ規定セラレタル我國ノ工場法ハ、此等ノ利害得失ヲ考慮ノ内ニ導キタルモノナレバ、甚ダ完美セルガ如キモノナレドモ、尙萬遺算ナキヲ期シ難シ。

獨逸災害保險法ニテハ、常設職工年收ノ三分ノ二ヲ以テ全保險金額トシ、ソレヨリ以下ヲ部分的保險金額トセリ、後記ノ諸所ニ於テ、何%ノ保險金額ト云ヘルハ、全保險金額ヲ基本トシ、ソノ百分率ヲ示シタルモノナルコトヲ記憶セラレンコトヲ望ム、勿論此百分率ハ我工場法ノ扶助金給與ニ直ニ適用スルコト得ザルモ尙ソガ參考トナスコトヲ得ン。

本論

災害検査法

(乙) 本論

(イ) 災害検査法

災害ノ程度ヲ検査シ其ノ結果ヲ判定スルニハ、先ヅ工場法及之ニ關係アル法令ノ細目ヲ知悉セザルベカラズ、次デ最新醫學ノ智識ニヨリソノ災害ノ程度ト、將來ソガ職工ノ作業ニ及ボス影響ヲ査定シ、進ンデソノ職業ノ如何ナルモノカノ大體ヲ知ラザレバ、災害ト作業障害トノ關係ヲ明瞭ナラシムル能ハズ、故ニ

災害鑑定書記
載方

災害扶助ニ關係アル傷害ヲ鑑定スル場合ニハ常ニ是非共此三方面ニ注目セザルベカラズ。

扶助料乃至保険料ヲ請求スル職工ノ傷害ヲ検査鑑定スル場合ニハ、次ノ順序ニ從フヲ便利トス。

(一) 冒頭、検査、鑑定ヲ求メタル官署、命令官氏名、事件名、鑑定事項、検査ヲナセル月日、被検査者宿所氏名、年齢職業等ヲ記載ス。

(二) 被検査者ノ自陳。

(イ) 既往ニ於ケル重病傷害等

(ロ) 災害ノ發生ノ状況

(ハ) 災害後ノ経過

(三) 傍觀者證人參考人ノ陳述ヲ略述ス。

(四) 現症、検査ノ結果ヲ精密ニ記載ス、即傷害ノ記載、傷害前後ノ作業程度ノ比較、練習ニ依リテ作業減少ヲ除去シ得ルヤ否ヤ等。

(五) 説明、被告ノ自陳ト傷害ノ所見ト一致スルヤ否ヤ、工場法ノ規定ト傷害ノ程度ヲ比較シテ、ソノ程度ヲ鑑定スル事。

(六) 鑑定、前記検査ノ結果ト説明トヲ綜合シテ結論ヲ下ス事。

災害扶助料要求ノ被害者ヲ検査スル場合ニハ、検査ハ先ヅ彼ガ検査室ニ出入スル際、或ハ検査者ノ目前ニ在ル際ノ舉動ハ微細ニ至ルマデ注目視察スベシ、之レ往々ニシテ傷害ノ誇大或ハ詐稱ヲ偶然ノ舉動中ニ觀破スル事ヲ得ル場合アレバナリ、次ニ被検査者ノ傷害ヲ被リタル場所ノミナラズ、全身、内臟等ニモ異常或ハ

疾病ノ存在セザルヤ否ヤヲモ注意シテ検査スベシ。尙検査ノ際、醫師ハ今日ノ醫學發達ノ最高程度ノ方法ヲ利用シテ検査スルノ必要アリ、例ヘバレントゲン光線、或ハ寫眞等ヲ遺憾ナク應用スルガ如キ之レナリ、四肢ニ於ケル検査ノ際ノ如キハ、傷害ナキ方ノ手足ヲモ検査測定スベキ事ハ云フ迄モナキ事ナリ。

特ニ身體諸部ノ大サ長サ等ヲ測定スル際ニハ、必ず一定ノ據點ヲ明示スベシ、乃チ人身ニ於ケル一定ノ基點ヨリ基點迄ノ距離ノ平均値ハ解剖學ノ教フル所ナレバ、ソレニヨリテ測定部位ノ長短ガ尋常ナルヤ否ヤヲ決定スル事ヲ得ルモノナリ。此目的ノ爲メニハ器具トシテ要スルモノハ、(一)長サ及周長ヲ計ルニ用フル帶狀尺、(紐尺)(二)長サ及厚サヲ計ルニ要スル觸神計(骨盤驗測器)、(三)關節ノ運動ヲ知ルタメニ角度計等ナリ。

測定基點

今茲ニ參考ノ爲メ此等測定基點ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ。

(一) 長サノ測定法 測定基點、

(イ) 下肢、腸骨前上棘ヨリ腓骨外髁

(ロ) 大腿、腸骨前上棘或ハ大腿骨大轉子ノ上縁ヨリ膝關節外截痕

(ハ) 下腿、膝關節外截痕ヨリ腓骨外髁ニ至ル

(ニ) 上膊、肩胛骨烏喙突起或ハ上膊鈎狀突起ヨリ上膊骨外上髁ニ至ル

(ホ) 前膊、鷹嘴突起ヨリ尺骨莖狀突起ニ至ル

(二) 周長ノ測定法 一定セル肢位股勢ニテ上下肢ヲ測定スベシ。

纏尺ヲ當ツルニハ緩ナラズ又緊ナラザルヲ可トス、右腕ハ左腕ヨリモ一一二種太キモ、下肢ニ於テハ生理

的ニハ左右差ナシ、又測定位置ニヨリテ差アルヲ注意スベキナリ。

- (イ) 肩胛、腕下垂位ニテ腋窩ヨリ肩胛頂ヲ廻ル、
- (ロ) 上膊、腕下垂位或ハ肘關節ヲ直角ニ屈曲セル位置ニテ、三角筋ノ附着部或ハ二頭膊筋ノ中腹ニテ、
- (ハ) 前膊、水平ニ舉ゲタル位置或ハ肘關節ヲ直角ニ屈曲セル位置ニ於テ最モ太キ部或ハ上膊骨外上髁ノ下五—一〇浬ノ部

- (ニ) 拇指ヲ除キタル中手部、中手骨頭ノ高サニ於テ或ハ半傾斜位ニ於テ
- (ホ) 大腿、伸筋遅緩、背位ニテ臀皺襞部ニテ或ハ膝蓋骨上縁ヨリ一〇—一五—二〇浬上方ノ部ニテ
- (ヘ) 膝蓋關節、膝蓋骨ノ中部位或ハ關節突起ノ上部ニ於テ
- (ト) 下腿最モ太キ部位ニテ
- (チ) 足關節、踝關節ト踵ノ周圍
- (リ) 足、舟狀骨ト骰子骨トノ高サニ就テ

(三) 角度ノ測定法、眼分量ニテ測定スルコトハ不確實ナルハ言ヲ俟タズ、故ニ正確ナル角度計ヲ用ヒザルベカラズ。身體諸關節ノ可動角度亦略一定シ居リテ、概ネ左ノ如シ。

頭首ハソノ尋常ノ位置ヨリ各方向ニ約六十度廻轉シ、前方ニハ頤部ガ胸部ニ達スル迄、後方ニハ約三十度曲グル事ヲ得ルヲ通常トス、脊柱ハ前方ニハ九十度、後方ニハ三十度曲リ、四十五度ノ左右廻轉ヲナス。肩胛關節ハ前上方ニハ百六十五度、側方ニハ百二十五度、後方ニハ七十五度曲リ、外方及内方廻轉ニ約九十度ナリ。

運動角度

肘關節ノ可動範圍ハ百三十五乃至百四十度トス、前膊ノ内方及外方廻轉ハ各百八十度ナリ。

手關節ハ上方ニハ六十度、下方ニハ六十五度、側方ニハ四十五度曲ルヲ常トス。

掌指關節及指關節ノ中間節中第二乃至第五指ノ掌指關節ハ九十度、第一指關節ハ百二十五度、第二指關節ハ二十度、掌方ニ曲リ手背及側方ニハ通常曲ガラザルヲ常トス。

股關節ハ體軸ニ直角ノ位置ヨリ前方後方共四十五度曲リ、外方廻轉ハ六十度、内方廻轉ハ八十度、側方ニハ垂直ノ位置ヨリ内方ニ三十度、外方ニ四十五度曲ガルヲ通常トス。

膊關節ハ直角ノ位置ヨリ五十度曲ガル、足關節モ亦直角ノ位置ヨリ上方ニ二十度、下方ニ三十度曲ガリ内輪ハ三十度外輪四十度ナリ、ソノ他各關節ニ於ケル力ヲ計ル事必要ナル場合アレドモ、コハ各個人ニヨリ、或ハ同一人ニテモソノ左右ニヨリテ差アルモノナレバ、一概ニ論ズベカラズ。

傷害ノ誇大ト詐稱

(ロ) 傷害ノ誇大ト詐稱

傷害ノ誇大ト詐稱ヲ觀破スルハ甚ダ重要ナル事ニシテ、往々檢者ノ頓才ニヨリテ之ヲ發見スル事アリ、特ニ各關節ノ運動障礙ニ於テハ種々ノ手段ヲ用キ、尋常或ハ異常ノ體位ニ於テ、關節ノ運動範圍ヲ検査スベシ、例ヘバ

脊柱ノ運動ハ立位或ハ膝位ニテ檢シ、肩胛關節ハ立位ニ於テ全手ヲ舉ゲシメ、次デ急ニ之ヲ落下セシメ或ハ軀幹ヲ曲ケタル位置ヨリ急ニ正位ヲ復セシメ、肘關節ニ於テハ全腕ヲ下垂セシメ或ハ之ヲ身體ニ直角ニ舉上シツ、屈曲ヲ行ハシメ、股關節ニ於テハ仰臥位乃至腹位或ハ膝位ニテ脚ノ運動ヲナサシメテ検査シ膝關節ニ於テハ初メ仰臥位腹位ニテ檢シ、次デ急ニ直立セシメナドシテ検査シ、足關節ニ於テハ歩行時乃至

階段ヲ上下スル際ノ足部ノ運動ヲ注意スベシ。

傷害ノ結果ト
作業能力トノ
關係及練習

(ハ) 傷害ノ結果ト作業能力トノ關係及練習

人身ニ一定ノ傷害ヲ被レバ、其結果トシテ其作業能力ニ幾分ノ減退ヲ來スハ理ノ當然ナリ、今ソノ傷害ノ結果ト作業能力トノ關係ヲけりがー教授案ニヨリテ表示スレバ左ノ如シ。

けりがー案

身體傷害ニ關スル労働率減退ノ百分率

兩眼ヲ失ヒタル場合	一〇〇	一脚ヲ失ヒタル場合	五〇—七〇
兩腕ヲ失ヒタル場合	一〇〇	一足ヲ失ヒタル場合	五〇
兩手ヲ失ヒタル場合	一〇〇	右拇趾ヲ失ヒタル場合	〇—一五
兩脚ヲ失ヒタル場合	一〇〇	左拇趾ヲ失ヒタル場合	〇—一〇
兩足ヲ失ヒタル場合	一〇〇	二趾以上ヲ失ヒタル場合	一五—三〇
一手一脚ヲ失ヒタル場合	一〇〇	鼠蹊ヘルニア	一〇—二〇
一眼ヲ失ヒタル場合	二五—五〇	右環指ヲ失ヒタル場合	〇—二〇
一上膊以下ヲ失ヒタル場合	七〇—七五	右小指ヲ失ヒタル場合	〇—一五
右手掌ヲ失ヒタル場合	六〇—七五	左環指ヲ失ヒタル場合	〇—一〇
左手掌ヲ失ヒタル場合	五〇—六六	左中指ヲ失ヒタル場合	〇—二〇
右拇指ヲ失ヒタル場合	二五—三〇	左環指ヲ失ヒタル場合	〇—一五
右示指ヲ失ヒタル場合	一〇—二〇	左中指ヲ失ヒタル場合	〇—一〇
右中指ヲ失ヒタル場合	〇—二〇	左小指ヲ失ヒタル場合	〇—一五
二指以上ヲ失ヒタル場合	二五—五〇		

次ニ假令傷害ノ結果トシテ、一時ハ前表ノ如キ作業能力ノ減退ヲ來ス事アルモ、其後ノ練習ニヨリテ幾分之ヲ輕快スル事ヲ得ルモノニシテ、獨逸國ノ労働保險法ニヨレバ、ソノ練習ノ爲メノ作業能力増進率略一定シ居レドモ、コハンノ傷害ヲ被リタル人ノ個性、年齢及職業等ニ依リテ一般ニ論ズベカラザルモノア

外傷ト結核

(ニ) 外傷ト結核

リンノ大體ハ後出スル表ヲ一覽スベシ。

外傷ニ依リ潛在性結核ガ其局所ニ再ビ勢ヲ逞フシ、或ハ原發病竈ヨリ他ノ臟器ニ結核ヲ轉移又ハ傳播シ若クハ己ニ罹病シツ、アル結核ガ外傷ニヨリ其病勢ヲ増悪スル事アリ、コハ骨、關節、漿液囊、腱鞘、腹膜及墨丸等ニ於ケル結核症ニ於テヨク見ル事ナリ、時トシテ挫傷、捻轉、過勞、脱臼骨折等ニ依リ抵抗ヲ弱クシ、其局所ニ結核ノ發來スル事アリ、即チ外傷ニヨリテ結核ヲ成生セシムル事ハ甚ダ確カラシク、此際吾人ハ注意シテ確然タル外傷ガ其局所ニ作用セシヤ、外傷ト局所性結核ト相互ニ關係アルモノナリヤ否ヤ、外傷後何程ニシテ結核ヲ來セシヤ等ヲ鑑定スベキモノニシテ、結核ハ往々外傷後四乃至六週ヲ經過シテ局所ニ發生スル事アリ。

外傷ト腫瘍

(ホ) 外傷ト腫瘍

良性腫瘍ガ外傷ニ起因スル事ハ己ニ屢々經驗セラレタル所ナルモ、ソガ身體ニ惡影響ヲ及ボシ、或ハ作業障害ヲ來ス事少ケレバ、職工扶助或ハ労働保險ニ於テ問題トシテ取扱ハレタル事少シ、反之、惡性腫瘍ハ災害醫學上甚ダ興味ヲ有スルモノニシテ、ソガ職業上ノ慢性的刺戟、外傷或ハ其痕痕ニヨリ生スル事アルハ、己ニ學說ノ一定セル所ニシテ、ソハ先天性胚種ガ外傷ニヨリテ發育ヲ初メ得ル事アルガ故ニシテ、尙己ニ存在セル腫瘍ガ外傷ニヨリテ發育ヲ促進セラレ、或ハ良性ナルモノガ惡性ニ變性スル事アリ、ちーむ氏ニ依レバ、癌ノ二%、肉腫ノ五%ハ外傷ニ起因シテ發生シタルモノニシテ、コハ外傷後早クトモ四週、遅クトモ二年ニシテ發現シ來ルモノナリト云フ、外傷ト腫瘍トノ間ニ因果ノ關係アルヤ否ヤニ關シテハ、

次ノ諸點ヲ注意スルヲ要ス。

- 一、最初ノノ局所ニ實際腫瘍ノ存在セザル事ヲ確ムベシ。
- 二、其局所ニ腫瘍發生ニ適當ナル外傷ガ作用セシヤ否ヤヲ確ムベシ、過大ナル或ハ過小ナル外傷ハ腫瘍ヲ生成スルニハ不適當ナリ。
- 三、外傷ト腫瘍トガ一致シタル場所ニアル事。
- 四、腫瘍ノ發生ガ外傷後二年以内ニシテ、病勢増悪ガ五ヶ月以内ニ來リシ事。
- 五、外傷ト腫瘍トノソノ他ノ關係ヲ明ニスベシ。

(ハ) 皮膚ニ於ケル外傷性疾患

皮膚ニ於ケル外傷性疾患

皮膚ニ於テ最モ屢々遭遇スル業務上ノ疾患ハ、機械的、化學的、温熱的電氣的乃至炎衝性或ハ手術性ニ來レル癩痕ナリ、此癩痕ヲ鑑定スルニハ、ソノ一般性、即硬度、厚サ、緊張度、癒着ノ有無、色、疼痛等ヲ記載シ、次デソノ位置周圍ニアル臟器ノ名稱、方向等ヲ明ニスベシ、之レ同大ノ癩痕ニテモ、顔面ニアルモノト、背面ニアルモノトハ大ニ實際の意味ヲ異ニシ、或ハ周圍ニアル臟器ノ如何ニヨリテ、或癩痕ハ血液或ハ淋巴ノ循環ニ惡影響ヲ及ボシ、コレト同大同狀ノ他ノ癩痕ハ位置ノ關係上、毫モ此ノ如キ障害ヲ起ササルガ如キ場合アル事アレバナリ。

ソノ他災害或ハ工場内ノ中毒ニヨリテ、濕疹、皮膚缺損、穿孔火傷等ヲ來ス事アリ、例ヘバ重くろゝむ酸加里ノ粉末ヲ吸入スル事アリテソノ慢性中毒ヲ來シ、鼻隔ニ穿孔ヲ見、れんどげん光線ヲ使用スル人ハ手指等ニソノ火傷ヲ來スガ如キ、ソノ一例ニ過ギズ、又己ニ存在セル皮膚病ガ、同上ノ理由ニ依リテ甚シク

筋肉ニ於ケル外傷及ソノ結果

惡化スル事アリ、次ニ皮膚微毒ガ工場内ニテ職業ノ爲メ傳染スル事ハ甚ダ少シト雖、外傷ノ爲メ己ニ存在セル同疾患ニ惡影響ヲ及ボス事アルハ、己ニ實地家ノ屢々經驗セル所ナリ。

(ト) 筋肉ニ於ケル外傷及ソノ結果

骨或ハ關節ニ損傷ナクシテ、單ニ筋肉ノミヲ斷裂スル事ハ甚ダ稀有ナリ、挫傷ハ往々筋間或ハ筋内ノ出血ヲ供ヒ、從テ癩痕ヲ作り、變縮或ハ筋萎縮ヲ來ス事アリ、擴大ナル筋破裂ハ治療後大ナル運動障礙ヲ遺ス、慢性肩關節炎ノ際、輕度ノ外傷ニ依リテ二頭膊筋ノ外頭ニ皮下破裂ヲ見、外傷後相當ノ時間ヲ經テ該關節ノ作用障礙ヲ來ス事アリ。

筋肉ノ萎縮ハ其部ニ於ケル作用障礙アル有力ナル徵証ナリ、又時トシテ一度外傷ヲ被リタル筋肉ハ忽チニシテ石灰化ヲ顯出スル事アリ。

(チ) 腱及粘液囊ニ於ケル外傷

腱及粘液囊ニ於ケル外傷

時トシテ外傷ニヨリ腱ノ皮下斷絶ヲ來ス事アルモ、コハ外科手術ニヨリ殆ンド何等ノ障害ナク治療シ得ルモノナリ、モシ腱斷絶ニ際シ、充分ナル治療ヲ加ヘザレバ自動運動ハ困難乃至不可能トナルモ、他動的ニハ何レノ方向ニモ運動スル事ヲ得ルモノナリ、腱鞘ニ外傷アリ、而モ炎衝之ニ加ハル時ハ腱ハ壞疽ニ陥リ或ハ其部ニ大ナル運動障害ヲ來ス、軌轢性腱鞘炎ハ挫傷或ハ局部過働ノ後ニ屢發來スルモノニシテ、コハ住々漿液性炎衝ヲ起シ、次デ結核性ニ移行シ、大ナル作業障礙ヲ遺スモノナリ、又往々外傷ニヨリテ腱ノ脫位ヲ來ス事アルモ、コハ容易ニ整復スル事ヲ得ルヲ常トス。

粘液囊ニ於ケル水瘤ハ往々慢性炎衝ニ依リテ生ズルモ、時トシテ外傷後ノ出血ニ起因スル事アリ、其大

ナ、關節ト交通スルヤ否ヤ及續發時炎衝ノ有無及如何ニ依リテ、作業障礙ヲ來ス事アレバ、成ルベク外科的ニ速ニ切除スルヲ可トス、ソノ他外傷及粘液囊ニ、淋毒性或ハ結核性炎衝ヲ發來スル事アルハ注意スベキ事項ナリ。

外傷性骨疾患

(リ) 外傷性骨疾患

挫傷ニヨリテ來レル骨膜肥厚ハ通常何等ノ作業障害ヲ伴ハザルヲ常トス、骨ノ外傷性疾患中最モ注意ヲ要スベキハ、骨折及急性骨髓炎ナリトス、骨折ハ直達或ハ介達ノ外力ニ依リテ來レルモノニシテ、皮下骨折、複雑骨折、骨離裂、骨端離開等甚ダ種々ノ形トナリテ顯出ス、れんごげん光線ニテ檢スレバ容易ニソノ何レナルカヲ診斷スル事ヲ得ルモノナリ、而シテ治療ノ結果良好ナリシヤ否ヤハ、ソガ原形ニ整復セシヤ否ヤニ依ル、受傷ヨリ何程ニシテ治療スルカハ骨ノ種類ト治療方法年齢及各個人ノ健否如何ニ大ナル關係アリテ、ソハ己ニ損傷論ニ於テ詳述セリ、若シ治療後かる、す一尙柔軟ナル間ニ更ニ過勞ヲナス時ハ、局所ニ變形ヲ來シ、往々扁平足、骨彎曲等ノ原因トナル、骨折治療後ニ來ル障害ハ主觀的ニハ數年間氣候變移ノ際治療部ニ疼痛ヲ感ズル事ニシテ、客觀的ニハ血行或ハ淋巴循環ノ不充分ノ爲メ局所腫脹シ、運動障礙アリ、從テ其部ノ筋肉ノ萎縮ヲ來シ、變位短縮等ヲ見ル事アリ。

特發性骨折

複雑骨折ハ治療困難ニシテ、從テ永ク瘻管ヲ殘シ、皮下骨折ニテモ亦化膿スル事アリ、更ニ災害醫學ニ於テ最モ注意スベキハ、局所ノ炎衝或ハ腫瘍ノ爲メニ來ル特發性骨折ナリ、コハ往々外傷性骨折ト誤診セラレテ、訴訟上ノ問題トナル事アリ。

急性骨髓炎

一般ニ急性化膿性骨髓炎ノ約四分ノ一ハ外傷ニ起因スルモノニシテ、外傷多ク骨髓ノ抵抗低下シ、茲ニ

關節ニ於ケル外傷性疾患

外界ヨリ入り來レル化膿菌發育シ始メ、發病スルモノニシテ、打撲、挫傷、墜落、震盪等ノミナラズ、身體過勞スラモ本病發生ノ誘因トナルト云フ、本症ハ外傷後凡六七時間ニシテ發病スルヲ常トシ、時トシテハ二三週間後ニ於テ之ヲ見ル事アリ、故ニ外傷ト本病トノ關係ヲ確然ト明瞭ナラシムルハ甚ダ困難ナル事多シ。

(又) 關節ニ於ケル外傷性疾患

關節ニ於ケル外傷性疾患トシテハ、關節腔内ニ滲出物ヲ伴ヘル挫傷、靱帶ノ捻轉乃至傷害、脱臼、骨片ヲ離脱セル關節障害、乃至關節内骨折等ニシテ、ソノ傷害ノ輕重ニ從ヒ、關節ノ腫脹、滲出液形成關節囊ノ肥厚、靱帶ノ緩開、變形、作用障礙、萎縮強直等ヲ來スモノニシテ、極メテ輕微ノ傷害ト雖、關節腔ニ慢性疾患例ヘバ結核性、淋毒性、りようまち性或ハ梅毒性疾患ヲ誘發スル事アリ、然レドモ是等ノ詳細ハ外科學ノ論ズル所ナレバ茲ニ之ヲ詳説セズ。

各論

丙、各論

全身ノ振盪

一、全身ノ振盪

諸種ノ業務上ノ災害ニ依リ、身體ニ外視シ得ベキ著明ナル外傷ヲ作ラズシテ、全身ニ著シキ振盪ヲ與フル事アリ、カ、ル際内臟ニ破裂ヲ來シ居リ、而モ直ニ死ニ至ラザル時ハ往々全神経系統ニ獨特ナル變性ヲ來ス事アリ、之ヲ一般ニ外傷性神経病或ハ災害性神経衰弱症ト云フ、例之、己述セルれうるうゑいすばいんノ如キハ、鐵道列車ニ事故アリテ乗客ノ身體ニ強キ衝動ヲ與ヘ、爲メニ發來セル災害性神経衰弱症ノ一ツナリ。

外傷性神経病

時トシテ全身ニ強キ震盪ヲ受ケタル後、肺心ノ麻痺ト共ニ急ニ體力衰弱シ、しよつく様トナリ死亡スルカ、或ハ一時外見上恢復セルガ如ク見ユルモ、後ニ至リテ刺激性、憂鬱性トナリ、疲勞シ易ク、四肢ニ振顫ヲ來シ、眩暈ノ感、記憶力減弱、言語障礙等ヲ招來シ、遂ニ甚ダ複雑ナル神経症狀ヲ顯出スル事アリ。此ノ如キ疾病症狀ヲ呈スル時ハ、被害者ハ全ク職業ニ就ク能ハザルニ至リ、或ハ作業能力或程度迄遞減スル事アリ、然レドモ外傷性神経病ヲ診察鑑定スル場合ニハ、己述ノ如ク疾病ノ誇大或ハ詐稱ニ就テ、常ニ充分注意セザルベカラズ。

二、頭部ノ損傷

頭部ニ於ケル諸種ノ損傷ガ、職工ノ作業能力ヲ低下セシメ、或ハ彼ヲ全ク作業不能トナスハ言ヲ俟タズシテ明カナリ、但シ茲ニ注意スベキハ工場法ニ於ケル所謂業務上ノ損傷ノ意義ニシテ、普通災害ニヨリテ來レルひすてり、ひほこんごり等ヲモ其中ニ數ヘ込ムヲ以テ通例トスレドモ、災害ト斯ノ如キ精神的障礙トノ間ニ因果ノ關係ヲ附スルニハ、非常ナル注意ヲ要スベキモノトス、如何トナレバ一面ニハ災害神経病ハ己述ノ如ク甚ダ屢詐稱乃至誇大ヲ供ヒ、他面ニハ長時以前ニ外傷ヲ被リ、一定期間健全ニシテ、而シ其後外傷性神経病ヲ發來シタリトセバ、其間ニ於ケル因果ノ關係ヲ連絡セシムルハ甚ダ困難ナル事ナレバナリ。頭部損傷後ノ作業能力ニ關シテハ、精神衰弱ノ爲メ、或ハ運動障礙ニ依リ、多クハ精神的并ニ身體的作業不能ニ陥ルヲ常トス。

顔面ニ於ケル損傷ノ爲メ甚ダシキ畸形ヲ遺ス時ハ、作業能力ニ不利益ナル影響ヲ及ボスモノニシテ、特ニ女子并ニ若干ノ職工ヲ監督シ、或ハ指揮スルモノニ於テ然リトス、故ニ工場内ニ於テ顔面ニ業務上ノ傷害ヲ被リ、爲メニ畸形ヲ來シタル時ハ、作業能力ノ遞減ニ相當スル扶助金ヲ給與セザルベカラズ、例之、獨逸勞働保險法ノ例ヲ見ルニ、業務上ノ傷害ニヨリ著明ナル癩痕ヲ殘シ、爲メニ顔面左半側全部ニ亘リ畸形ヲ來シ、且左耳殼ニ變形ヲ來セル一職工ハ二十五%ノ保險金ヲ得、鼻尖ヲ失ヘル鐵道馬車ノ厩夫ハ十%ノ保險金ヲ得タリ、但シ齒牙ノ損傷ハ作業能力ニハ影響ナシト判決セラレタル事アリ。

三、眼球ノ損傷

眼球ニ傷害ヲ被リタル際ニハ先ヅ視力ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ研究セザルベカラズ、業務上重ニ眼ヲ使用スル職工ハ、通常ノ光度ノ下ニ障害ナキ明瞭ナル視力ト物品ノ形體色澤等ヲ確實ナル認識ヲ要スルノ必要アリ、作業能力ノ關係上、視力ヲ次ノ三作用ニ區別シテ論ズルヲ通常トス、即チ中心視力、視野ノ大サ及眼筋ノ作用(即チ立體視、距離ノ鑑別大サノ測定)之レナリ、例ヘバ中心視力及視野ニ於ケル障礙ハ全ク作業不能ヲ來ス事アレドモ、眼筋ノ麻痺ハ作業能力ニ多少ノ影響アルノミナリ、單眼視ニ於テハ中心視力ニハ差シタル障礙ナキモ、視野ハ著シク狭少トナリ、複眼視ト同等ノ視野ヲ得ントスルニハ、眼筋ノ多大ナル努力ヲ必要トス、故ニ雙眼視トナレルモノハ、複眼視ノモノニ比シ、甚ダ多クノ危険ニ曝露セルモノト云フベシ、之レ盲側ヨリ襲來セル危険ヲ認識シ、又ハ充分ニ避クル事能ハザルガ故ナリ。

サレバ視野ノ狭少ハ作業能力ニ永續的障礙ヲ與フルモノニシテ、單眼視ニテ立體視不能トナル際モ、亦作業能力ニ影響ナシト云フベカラズ、但シコハ多クハ一時的ノモノニシテ、最初ハ器具ヲ無器用ニ使用シ或ハ槌ヲ打テ外ヅス様ノ事アルモ、次第ニ練習ヲ積ムニ從ヒ、單眼ヲ以テ物品ノ距離大サ等ヲ正當ニ測定シ、作業能力ヲ恢復スルヲ得ル事アリ、例ヘバ傷害ノ爲メニ單眼視トナリ、練習二年ニシテ全ク傷害以前

ノ作業能率ヲ得タル例アルガ如キ之レナリ。

尙視力ハ職業ニヨリテソノ必要度ヲ異ニシ、例ヘバ機械工、時計修繕工及寫真師等ハ非常ニ精細ナル視力ヲ要シ、反之、土工或ハ坑夫等ハ左程鋭敏ナル視力ノ必要ナシ、故ニ視力障礙ノ爲メニ扶助金ヲ交附スル場合、常ニ其職業ニ大ナル注意ヲ拂ハザルベカラズ、又一眼ノ視力全喪失ハ他眼ノ健否ニ大ナル關係アリテ、ソガ健全ナル時ハ一般ニ作業能率凡ソ三分ノ一ニ低下スト云フ、但シ職業ニ依リテハ尙高率ニ見做サルベカラザル事アルハ前述ノ如シ。

眼筋ノ疾患ニ依リテ作業能力ニ幾何ノ影響ヲ費スハ、尙未ダ定説ナシ、唯ソノ職業ト犯サレタル眼筋ニ依リテ、個々ニ診定ヲ下スベキモノナリ、一眼ノ眼筋麻痺シ、爲メニ複視ヲ來シタル際ハ、一眼ハ職業上殆ンド其作用ヲ停止シタルト同様ナレバ、隻眼視ト見做シテ診定スベク、モシ兩眼共ニ眼筋麻痺ヲ來シタル際ニハ、視力ハ一眼ヲ除外シタルノミニシテハ不充分ニシテ、尙一眼ニ於ケル相當ノ努力ノ後、單眼視ヲ得ルモノナレバ、作業能率上更ニ重大ナル意味ヲ有スルモノニシテ、若干ノ練習ヲ加フレバ、ソノ障礙ノ幾分ヲ除去スル事ヲ得ルモノナリ。

業務上ノ傷害ニ依リテ兩眼全ク視力ヲ失ヒタル時ハ、云フ迄モナク全然作業能力ヲ失ヒタルモノナレバ百%ノ扶助金乃至保險金ヲ交附スベキモノトス。

聽器損傷

四、聽器損傷

聽器損傷ノ結果トシテ、災害醫學上ノ問題トナルハ、聽力ノ低下、耳漏、眩暈、耳鳴、頭痛及耳殼ニ於ケル畸形等ナリ、聽力低下ハ勞働者ニ對シ視力障害ノ如クソノ影響甚シカラズ、片耳ニ於ケル輕度ノ或ハ

中等度ノ聽力障礙ハ、一般ニ勞働能率ニハ影響ナシト見做サレタリ、但シ聽力ヲ必須トセル職業ニ對シテハ例外ナリ、例ヘバ鍛冶、機關ノ火夫等ニハ聽力障礙ハ左シタル害ナキモ、電話交換手、電信技手、信號手坑夫、監督等ノ如ク、大部分聽器ニヨリテ職業ヲ營爲スルモノニアリテハ、聽器ノ障礙ハ職業上非常ナル打撃ナルハ言フ俟タズ、兩耳ニ於ケル重大ナル聽力障害乃至全聾ハ、如何ナル職業ニ對シテモ障害アリ、通常勞働能率ノ約五十%低下スルモノナリト云フ、れぶ氏ニヨレハ、一側ニ於テ通常ノ聽力ヲ有スルモ、他側ニ於テ一米ヲ距リテ私語ヲ聞ク事ヲ得ザレバ、己ニ職業ニ支障ヲ來シ、一耳ノ強度ナル聽力障礙ニテハ十%、全聾ニテハ二十%ノ保險金ヲ支拂ヒ、眩暈耳鳴ニ對シテハ其十%ヲ扶助スベキモノナリトセリ、耳殼ノ畸形ハ聽力ニハ何等ノ影響ヲ及ボサルモノナリト云フ。

頸部損傷及脊柱損傷

五、頸部損傷及脊柱損傷

業務上前頸部ニ傷害ヲ受クル事ハ稀有ナルモ、此所ニハ生命上重要ナル神經ノ血管等走行スルヲ以テ、外傷ヲ受クルニ於テハ甚ダ危險ナル結果ヲ招來スルモノナリ、但シ被害者ガ死ニ至ラズシテ治療スル時ハ主トシテ大ナル癱瘓ヲ殊シ、顔面ヲ牽引スルノミナラズ、頭首ニ運動障礙ヲ來ス事アリ、モシ傷害ノ結果カ深部ニ達スル時ハ、往々ニシテ喉頭ヲ犯シ、發音障害ヲ來ス事アリ。

頸部強直ハ勞働者ニ對シテ其作業ノ能力ヲ低下セシムルモノニシテ、事情ニヨリテハ二十乃至五十%ノ保險金ヲ交附サル、事アリ、次ニ言語障礙ニ於テ他人ガ了解スル程度ノ私語ヲ發スル事ヲ得レバ、先ヅ作業ノ能力ニハ影響ナキモノニシテ、全ク發語シ能ハザル時ハ、或職業ニ對シテハ非常ニ重大ナル意味ヲ有スルモノナリ。

項部及脊面ニ於ケル傷害ハ多ク脊柱及脊髓ヲ損傷スルモノニシテ、挫傷、震盪、脱臼及骨折ヲ來シ、或ハ脊髓ヲ損傷シ、或ハ全ク否ラザル事アリ、其結果トシテ損傷サレタル脊髓ニ支配セラレタル部分ノ麻痺ヲ招來ス、例ヘバ、上肢、呼吸嚥下、直腸膀胱乃至下肢等ニ於ケル麻痺ヲ來ス、時トシテ受傷後脊柱ニ慢性炎衝ヲ發來シ、或ハ外傷性神經病ヲ起ス事アリ、此等ノ状態ヲ診定スル際ニハ、ソレト傷害トノ關係、疾病ノ程度及作業能力ニ及ボセル影響ヲ充分ニ考究シ、兩上肢或ハ下肢ノ全麻痺ハ全ク作業不能ヲ意味シ、局部麻痺ハソノ職業ト個々ノ状態ニヨリ鑑定スベシ。

脊髓膜内ニ於ケル出血ハ、時トシテ重荷ヲ擔フ際等ニ偶然發來スルモノニシテ、ソノ豫後ハ良好ナルヲ常トシ、最初麻痺症狀ヲ呈スル事アルモ、數週ニシテ治癒スルモノナリ。

一般ニ云ヘバ、脊髓ニ來レル損傷ハ數月ニシテ治癒ニ赴クモノナレドモ、完全治癒ハ殆ンド望ミ難キモノナリ、而シテ受傷後疾病ノ經過ガ慢性ナル程、ソノ豫後ハ良好ナルヲ普通トス。

た一ベすが外傷ニ起因シテ發病スルヤ否ヤニ對シテハ尙定説ナシ、次ニ脊柱ノ強直、軀幹ノ運動障礙ハ約五十%ノ作業能力低下ヲ來ス事アリト云フ。

六、胸部損傷

業務上ノ災害ニ於テ、最モ多ク遭遇スルモノハ胸部ニ於ケル鈍器損傷、即挫傷ナリ、肋骨々折ヲ伴ヒ或ハ伴ヘザル胸部ニ於ケル淺在性挫傷ハ、已ニ法醫學損傷各論ニ於テ記載セルヲ以テ茲ニ之ヲ省キ、茲ニハ胸部挫傷、胸筋疾患及ヒ心臟並膜病ニ就テ一言セン、而シテ是等ハ胸部ニ作用セル暴力ニヨリテノミナラズ、高所ヨリノ墜落ニヨレル胸廓ノ振盪、急激ニシテ而モ過度ナル筋力ノ使用等ニヨリテ來ル事アリ、故

胸部損傷

外傷性肺炎

ニ重大ナル心臟疾患ガ災害直後ノミナラズ、其後數日乃至數週ニシテ發來スル事アルヲ注意セザルベカラズ、故ニ災害後ノ心臟疾患ハ、嚴密ニ注意シテ診定スベキナリ、代償性心臟疾患ヲ有スルモノハ、坐位ニ於テハ尙作業ヲナス事ヲ得ルヲ以テ、ソノ勞働遞減率ハ凡ソ五十%ナリ。

又屢、肺及肋膜ノ疾患ガ災害ヲ基因トシテ發生スル事アリ、所謂外傷性肺炎ハソノ好例ニシテ、此際肺炎ガ必ズシモ暴力ノ襲來ノ場所ニ生ズルモノニ非ラズシテ、隨分遠隔ノ場所ニモ之ヲ生ズル事アリ、外傷ト肺炎トノ原因的關係ヲ闡明スルニハ、普通受傷直後ニ喀血アルヲ大ナル據點トスレドモ、べつける氏ニヨレバ胸部受傷後三日ニシテ肺炎ヲ起セバ、假令、喀血ヲ伴ハズトモ、一般ニソノ外傷ト肺炎トハ因果關係アルモノナリトスルヲ適當トスト云ヘリ、りつてん氏ニヨレバ、男子ニ來ル急性肺炎中四%餘ハ外傷性肺炎ニシテ、經過ハ甚ダ緩慢、發熱少キニ反シ、喀痰中ノ血液ハ比較的多シト云フ、而テコハ屢々肺結核ニ移行スル傾向ヲ有スルモノナリ、時トシテ肺ノミナラズ、肋膜ヲ犯シ外傷性肋膜炎ヲ招來スル事アリ。急性外傷性肺炎ニヨリテ來ル勞働能率ノ低下ハ凡ソ五十%ヲ普通トスト云フ。

七、腹部損傷

茲ニハ重ニ腹腔臟器ノ傷害ヲ供ヘル腹部挫傷ニ就テ述ベンニ、腹部ニ作用セル暴力ニ依リテ來レル内臟破裂及へるにあハ災害醫學ニ於テ最モ注意ヲ要スベキモノナリ、獨逸帝國保險局ニテハ「へるにあ素因」ヲ語ヲ使用シ居リ、コハへるにあヲ起シ易キ缺陷ヲ有スルモノニシテ、而モ尙へるにあヲ來シ居ラザルモノヲ云ヒ、「へるにあ發來」トハ實際へるにあヲ來セシモノヲ指示シ居レリ、へるにあ素因アル事ハ急ニ災禍ニヨリテへるにあガソノ素因ヲ辿リテ發來セシ事ヲ證明セルニアラザレバ、之ヲ決定スル事能ハズ、へ

腹部損傷

へるにあ素因

へるにあ發來